岐阜県文化財保護センター
調査報告書　第165集

柿　田　遺　跡　Ⅱ

２０２４
岐阜県文化財保護センター

柿田遺跡Ⅱ

2024

岐阜県文化財保護センター

C17地点（北から）

水辺の祭祀関連須恵器（C17地点・NR５）

序

柿田遺跡が所在する可児市柿田及び可児郡御嵩町顔戸は、清流可児川によって形成された沖積平野及び沖積平野の南側に展開する浅間丘陵地の扇状地上に位置します。この地は、古代には可児郡の役所があった郡家郷の比定地で、古代七道の一つである東山道が通じていたとされています。また、江戸時代には中山道が通り、交通の要衝として栄えました。

このたび、中日本高速道路株式会社名古屋支社岐阜工事事務所による東海環状自動車道土岐 JCT～美濃加茂 IC 間付加車線設置事業に伴い、柿田遺跡の発掘調査を実施しました。柿田遺跡は縄文時代から近現代にかけての長期間にわたって営まれた遺跡で、今回の発掘調査では、掘立柱建物、溝などを検出しました。また、古代の建築部材や下駄などの木製品や、須恵器や山茶碗をはじめとする土器など、当遺跡での暮らしぶりを窺うことのできる豊富な遺物が出土しました。本報告書が埋蔵文化財に対する認識を深めるとともに、当地の歴史研究の一助となれば幸いです。

最後となりましたが、発掘調査及び出土遺物の整理・報告書作成に当たりまして、御支援・御協力をいただきました関係諸機関並びに関係者各位、可児市教育委員会、地元地区の皆様に深く感謝申し上げます。

令和６年３月

岐阜県文化財保護センター
所長　岡田　知也

例　言

1　本書は、岐阜県可児市柿田及び可児郡御嵩町顔戸に所在する柿田遺跡（岐阜県遺跡番号 21214-08846）の発掘調査報告書である。

2　本調査は、東海環状自動車道土岐JCT～美濃加茂IC間付加車線設置事業に伴うもので、中日本高速道路株式会社名古屋支社岐阜工事事務所から岐阜県文化財保護センターが委託を受けた。発掘作業及び整理等作業は、岐阜県文化財保護センターが実施した。

3　林正憲独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所都域発掘調査部飛鳥・藤原地区考古第３研究室長の指導のもとに、発掘作業は令和３年度に、整理等作業は令和４年度に実施した。

4　発掘作業及び整理等作業の担当は、本書第１章第２節に一括掲載した。

5　本書の執筆及び編集は片桐由裕が行った。

6　発掘作業における現場管理、掘削、測量、景観写真撮影などの支援業務と、出土遺物の洗浄・注記は、株式会社島田組に委託して行った。整理等作業における作業管理、出土遺物の整理作業、挿図・写真図版作成などの支援業務は、橋本技術株式会社岐阜営業所に委託して行った。

7　遺物の写真撮影は、アートフォト右文に委託して行った。

8　漆塗膜分析は株式会社パレオ・ラボ、木製品の樹種同定は株式会社吉田生物研究所に委託して行い、第４章に掲載した。第４章第１節は片桐が執筆した。

9　発掘調査及び報告書の作成に当たって、次の方々や諸機関から御指導・御協力をいただいた。記して感謝の意を表する次第である（敬称略・五十音順）。

近藤大典、長江真和、長瀬治義、早野浩二、渡邉博人、
可児市文化スポーツ部文化財課

10　本文中の方位は座標北であり、座標は国土交通省告示の平面直角座標系第Ⅶ系を使用する。

11　土層の色調は、小山正忠・竹原秀雄 2015『新版標準土色帖』（日本色研事業株式会社）による。

12　調査記録及び出土遺物は、岐阜県文化財保護センターで保管している。

目　次

序
例言
第１章　調査の経過……1
　第１節　調査に至る経緯……1
　第２節　調査の方法と経過……3
第２章　遺跡の環境……7
　第１節　地理的環境……7
　第２節　歴史的環境……8
第３章　調査の成果……13
　第１節　基本層序……13
　第２節　時期区分……15
　第３節　遺構の概要……17
　第４節　遺物の概要……19
　第５節　Ｃ16・17 地点の遺構・遺物……24
　第６節　Ｃ18 地点の遺構・遺物……50
　第７節　Ｃ19 地点の遺構・遺物……58
　　遺構一覧表、遺物観察表、発掘区全域図・分割図
第４章　自然科学分析……114
　第１節　分析の概要と成果……114
　第２節　漆塗膜分析……115
　第３節　木製品の樹種同定……118
第５章　総括……127
　第１節　文字資料について……127
　第２節　土地利用の変遷……133
引用・参考文献……141
写真図版
報告書抄録

挿図目次

図１　遺跡位置図…… 1
図２　試掘・確認調査坑と発掘区 …… 2
図３　発掘区地区割図…… 3
図４　柿田遺跡周辺の地質概略図…… 7
図５　柿田遺跡周辺遺跡…… 10
図６　土層柱状図（西壁面）…… 14
図７　遺構分類模式図…… 18
図８　連歯下駄の分類…… 21
図９　曲物底板の分類…… 21
図10　柱材の分類…… 21
図11　柱根の分類…… 21
図12　杭の分類…… 22
図13　SP１遺構図…… 24
図14　SP２遺構図・出土遺物実測図…… 24
図15　NR１遺構図・出土遺物実測図…… 26
図16　NR２遺構図…… 27
図17　NR２出土遺物実測図（１）…… 28
図18　NR２出土遺物実測図（２）…… 29
図19　NR３遺構図（１）…… 30
図20　NR３遺構図（２）・遺物出土状況図…… 31
図21　NR３出土遺物実測図（１）…… 33
図22　NR３出土遺物実測図（２）…… 34
図23　NR３出土遺物実測図（３）…… 35
図24　NR５遺構図・木製品出土状況図…… 37
図25　NR５出土遺物実測図（１）…… 38
図26　NR５出土遺物実測図（２）…… 39
図27　NR５出土遺物実測図（３）…… 40
図28　NR５出土遺物実測図（４）…… 41
図29　NR５出土遺物実測図（５）…… 42
図30　Ⅲ層（遺物包含層）出土遺物実測図（１） 44
図31　Ⅲ層（遺物包含層）出土遺物実測図（２） 45
図32　Ⅲ層（遺物包含層）出土遺物実測図（３）、
　　Ⅰ層・Ⅱ層出土遺物実測図…… 46
図33　攪乱坑出土遺物実測図（１）…… 47
図34　攪乱坑出土遺物実測図（２）…… 48
図35　SB１出土遺物実測図 ……50
図36　SB１遺構図 ……51
図37　SD２・SR１・SR２遺構図 ……53
図38　SD２出土遺物実測図 ……54
図39　SK24・SK25遺構図 ……55
図40　Ⅲ層（遺物包含層）出土遺物実測図 ……56
図41　SD３出土遺物実測図 ……58
図42　SD３・SD４遺構図 ……59
図43　SD４出土遺物実測図 ……61
図44　SD６遺構図 ……63
図45　SD６出土遺物実測図 ……64
図46　SD７・SD８遺構図 ……66
図47　SD７出土遺物実測図（１） ……67
図48　SD７出土遺物実測図（２） ……68
図49　SD７出土遺物実測図（３） ……69
図50　SD８出土遺物実測図 ……70
図51　SD９遺構図・出土遺物実測図 ……71
図52　SK50遺構図 ……72
図53　SK51遺構図 ……73
図54　Ⅱ層等出土遺物実測図 ……74
図55　発掘区全域図　割付図 ……99
図56　発掘区全域図　分割図１ ……100
図57　発掘区全域図　分割図２ ……101
図58　発掘区全域図　分割図３ ……102
図59　発掘区全域図　分割図４ ……103
図60　発掘区全域図　分割図５ ……104
図61　発掘区全域図　分割図６ ……105
図62　発掘区全域図　分割図７ ……106
図63　発掘区全域図　分割図８ ……107
図64　発掘区全域図　分割図９ ……108
図65　発掘区全域図　分割図10 ……109
図66　発掘区全域図　分割図11 ……110
図67　発掘区全域図　分割図12 ……111
図68　発掘区全域図　分割図13 ……112
図69　発掘区全域図　分割図14 ……113

図70　試料及び生漆の赤外吸収スペクトル…… 117
図71　Ⅴ期主要文字資料分布図…… 128
図72　Ⅵ期各地点墨書点数及び主要墨書内容… 130
図73　Ⅶ期各地点墨書点数及び主要墨書内容… 131
図74　Ⅱ期の主な遺構配置図…… 133
図75　Ⅲ期の主な遺構配置図…… 134
図76　Ⅳ期の主な遺構配置図…… 136
図77　Ⅴ期の主な遺構配置図…… 137
図78　Ⅵ期の主な遺構配置図…… 138
図79　Ⅶ期の主な遺構配置図…… 139
図80　Ⅷ期の主な遺構配置図…… 140

表目次

表１　試掘・確認調査結果…… 2
表２　周辺遺跡一覧表…… 11
表３　時期区分一覧…… 15
表４　編年対応表…… 16
表５　遺構種別基数一覧表…… 17
表６　出土遺物点数一覧表…… 19
表７　出土木製品一覧表…… 20
表８　掘立柱建物一覧表…… 76
表９　掘立柱建物付属遺構一覧表…… 76
表10　柱穴一覧表…… 76
表11　溝一覧表…… 76
表12　自然流路一覧表…… 76
表13　水制遺構一覧表…… 76
表14　土坑一覧表…… 77
表15　土器観察表（１）…… 78
表16　土器観察表（２）…… 79
表17　土器観察表（３）…… 80
表18　土器観察表（４）…… 81
表19　土器観察表（５）…… 82
表20　土器観察表（６）…… 83
表21　土器観察表（７）…… 84
表22　土器観察表（８）…… 85
表23　土器観察表（９）…… 86
表24　土器観察表（10）…… 87
表25　土器観察表（11）…… 88
表26　土器観察表（12）…… 89
表27　土器観察表（13）…… 90
表28　土器観察表（14）…… 91
表29　土器観察表（15）…… 92
表30　土器観察表（16）…… 93
表31　土器観察表（17）…… 94
表32　土器観察表（18）…… 95
表33　土器観察表（19）…… 96
表34　土器観察表（20）…… 97
表35　木製品観察表…… 98
表36　石器・石製品観察表…… 98
表37　金属製品観察表…… 98
表38　柿田遺跡出土木製品の樹種同定結果…… 114
表39　分析対象一覧…… 115
表40　生漆の赤外吸収位置とその強度…… 116
表41　塗膜分析結果…… 117
表42　出土木製品の樹種同定結果一覧…… 120
表43　出土文字資料時期別点数…… 127
表44　墨書須恵器等出土点数…… 127
表45　墨書灰釉陶器出土点数…… 129
表46　墨書山茶碗出土点数…… 132
表47　墨書山茶碗出土遺構及び層位…… 132

挿入写真目次

写真１　重機による表土掘削状況…… 6
写真２　遺物包含層掘削状況…… 6
写真３　遺構検出作業状況…… 6
写真４　遺構掘削状況…… 6
写真５　遺構実測作業状況…… 6
写真６　写真撮影作業状況…… 6
写真７　遺物写真と試料採取位置…… 115
写真８　漆製品の塗膜構造と反射電子像……117
写真９　木製品の顕微鏡写真（１）……121
写真10　木製品の顕微鏡写真（２）……122
写真11　木製品の顕微鏡写真（３）……123
写真12　木製品の顕微鏡写真（４）……124
写真13　木製品の顕微鏡写真（５）……125
写真14　木製品の顕微鏡写真（６）……126

写真図版目次

巻頭図版

Ｃ17地点（北から）
水辺の祭祀関連須恵器（Ｃ17地点・NR５）

巻末図版

図版１　発掘区全景（１）
図版２　発掘区全景（２）
図版３　Ｃ16地点の遺構（１）
図版４　Ｃ16地点の遺構（２）、Ｃ17地点の遺構（１）
図版５　Ｃ17地点の遺構（２）
図版６　Ｃ18地点の遺構（１）
図版７　Ｃ18地点の遺構（２）
図版８　Ｃ18地点の遺構（３）、Ｃ19地点の遺構（１）
図版９　Ｃ19地点の遺構（２）
図版10　Ｃ19地点の遺構（３）
図版11　出土遺物（１）
図版12　出土遺物（２）
図版13　出土遺物（３）
図版14　出土遺物（４）
図版15　出土遺物（５）
図版16　出土遺物（６）
図版17　出土遺物（７）
図版18　出土遺物（８）
図版19　出土遺物（９）
図版20　出土遺物（10）
図版21　出土遺物（11）
図版22　出土遺物（12）
図版23　出土遺物（13）
図版24　出土遺物（14）

第１章　調査の経過

第１節　調査に至る経緯

柿田遺跡は、可児川により形成された沖積平野上及び浅間丘陵地の北側に展開する扇状地上に広がる遺跡で、可児市柿田及び可児郡御嵩町顔戸に所在する（図１）。東海環状自動車道建設事業に先立ち、財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター（現岐阜県文化財保護センター）が平成 11・12・13 年度に発掘調査（以下、「平成調査」という。）を実施し、縄文時代から近現代までの複合遺跡であることが明らかになった[1)]。

東海環状自動車道における土岐 JCT～美濃加茂 IC 間付加車線設置事業の事業予定地が柿田遺跡に含まれることから、中日本高速道路株式会社名古屋支社岐阜工事事務所長（以下、「岐阜工事事務所長」という。）から岐阜県知事（以下、「県知事」という。）あてに試掘・確認調査の実施依頼（令和２年６月５日付け中高名岐工第 334 号）があり、令和２年６月 24・25 日及び９月 23・24・25 日に岐阜県環境生活部県民文化局文化伝承課（以下、「県文化伝承課」という。）が試掘・確認調査を実施した。試掘・確認調査では、当遺跡の範囲内及びその周辺の事業予定地内に８箇所（TP１～TP８）の試掘・確認調査坑が設定された（図２）。調査の結果、TP３・７において遺構が検出され、TP１・２・３・７において遺物包含層が確認された（表１）。

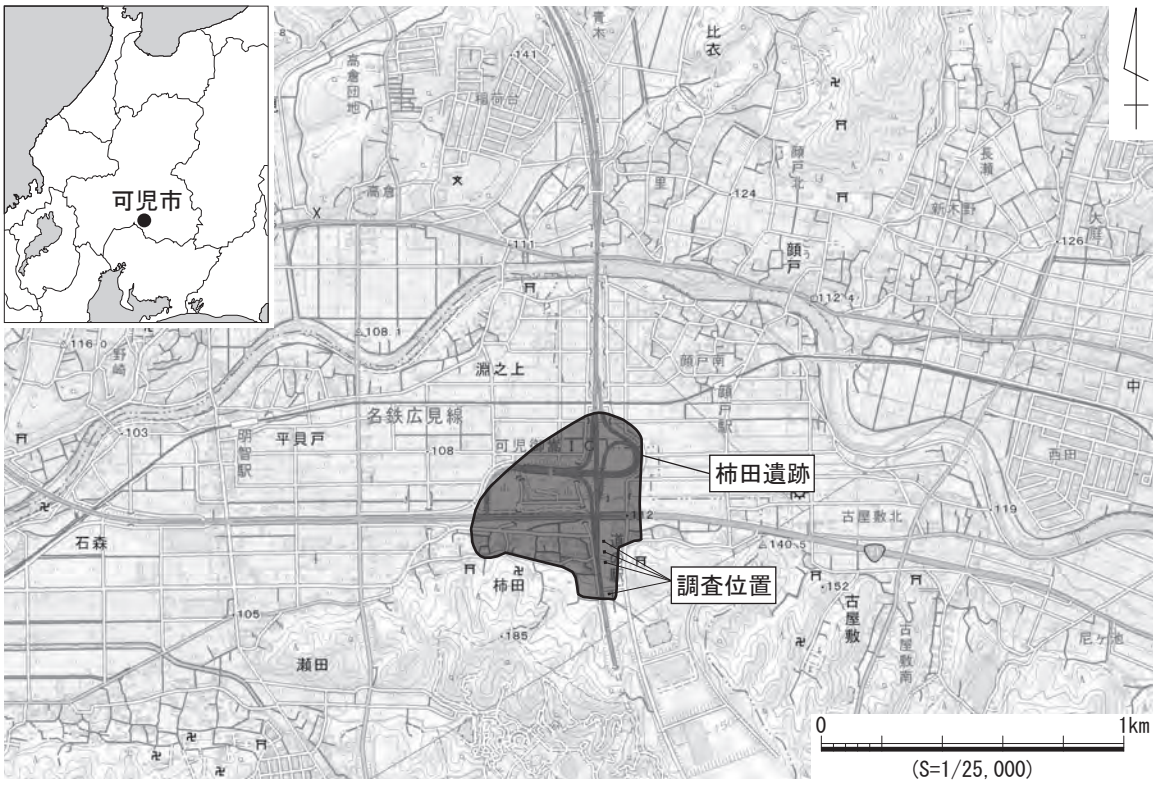


図１　遺跡位置図
（令和４年国土地理院発行電子地形図 25000「美濃加茂」に加筆）

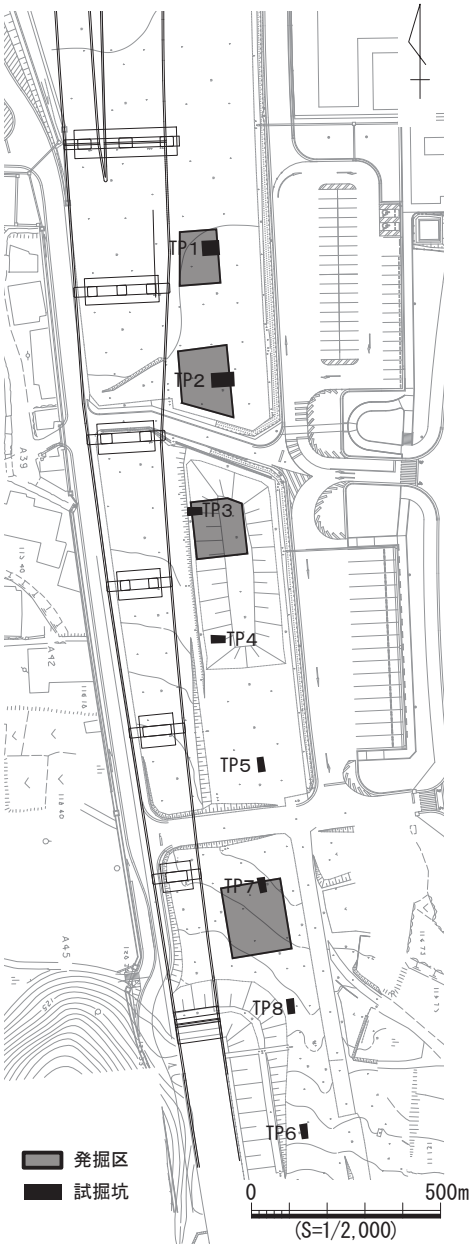


図２　試掘・確認調査坑と発掘区

試掘・確認調査結果をもとに、県文化伝承課により、令和２年 12 月 21 日に令和２年度第２回岐阜県埋蔵文化財発掘調査検討会が開催され、1,260.5 ㎡について本発掘調査が必要との意見がまとめられた。

本工事については、文化財保護法第94条第１項の規定に基づき、岐阜工事事務所長から県知事あてに埋蔵文化財発掘通知（令和２年８月24日付け中高名岐工第473号）が提出され、同条第４項の規定に基づき、県知事から岐阜工事事務所長あてに発掘調査実施勧告（令和２年12月25日付け文伝第104号の159）を通知した。岐阜工事事務所長は岐阜県文化財保護センター（以下、「当センター」という。）所長に発掘調査の実施を依頼（令和３年１月14日付け中高名岐工第12号）し、当センターが発掘調査を実施した。当センター所長は調査着手後、文化財保護法第99条第１項の規定に基づく発掘調査の報告（令和３年５月13日付け文財セ第107号）を県知事に提出した。

表１　試掘・確認調査結果

調査坑 No.	検出遺構（基数）	出土遺物点数							合計
		土師器	須恵器	灰釉陶器	山茶碗	中近世陶磁器	木製品	石製品	
TP１		47	12	39	39	6	4	2	149
TP２		2	2	6	6	0	1	0	17
TP３	溝(1)	3	13	9	3	1	0	0	29
TP４		1	0	0	0	0	0	0	1
TP５		0	0	0	0	0	0	0	0
TP６		0	0	0	1	0	0	0	1
TP７	溝(2)	2	11	6	12	1	0	0	32
TP８		0	0	0	0	1	0	0	1

第２節　調査の方法と経過

１　調査の方法

発掘調査は、発掘調査対象地を北側からＣ16 地点～Ｃ19 地点の４箇所に分割し、1,260.5 ㎡を実施した。発掘調査対象地は、財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センターが平成 11 年度から平成 13 年度にかけて実施した発掘調査（以下、「平成調査」という。）のＣ地区に含まれ、平成調査ではＣ15 地点までの調査が実施されたことから、地点の名称はその続番とした。また、発掘調査対象地は東海環状自動車道付加車線の橋脚部分にあたるため、発掘区は飛び地となっている。

発掘区には世界測地系座標のＸ＝63260、Ｙ＝5995 を原点として、100ｍ×100ｍの大グリッド（Ａ、Ｂ）を設定した。各大グリッドには５ｍ×５ｍの小グリッドを設定し、南北列にＡ～Ｔのアルファベット、東西列に１～10 のアラビア数字を付した。個別のグリッド名（以下、「グリッド」という。）は大グリッドと小グリッドを合わせた名称とした。そのため、発掘区の北東隅のグリッドは「AA５」、南西隅のグリッドは「BT６」となる（図３）。

表土掘削は重機を用いて実施し、遺物包含層掘削・遺構検出・遺構掘削はスコップ・草刈り鎌・移植ゴテなどを用いて人力で実施した。遺物包含層掘削は、遺物包含層上面から約 10cm 下までを遺物包含層①、約 10～20cm 下を遺物包含層②というように、およそ 10cm 単位の人工層位を設定し、掘削した。遺構掘削は、遺構を半截又は４分割して土層堆積状況を観察し、必要な記録を作成したあとに完掘した。また、検出後に遺構埋土と基盤層との識別が困難な場合は、サブトレンチを設定し、土層観察により識別を明確にした上で遺構を掘削した。なお、発掘区内は周辺からの引水が激しかったため、発掘区の形状に応じて壁面沿いに排水溝を掘削し、排水作業を行った。

遺物包含層掘削及び遺構検出の際に出土した遺物は、原則としてグリッド単位、層位ごとに取り上げた。また遺構出土遺物は半截前後で取り上げ方法を変えた。すな

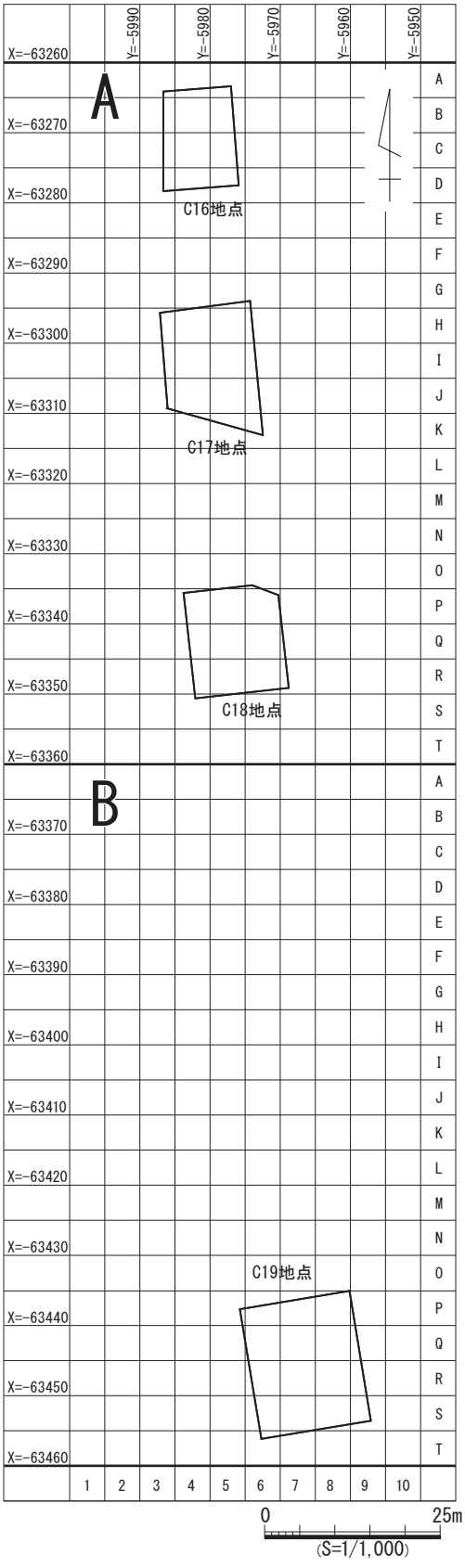


図３ 発掘区地区割図

わち、半截前は検出面から約５㎝までをａ層、約５～10㎝下をｂ層というように遺構内をおよそ５㎝単位の人工層位で取り上げ、半截後は半截時に分層した単位ごとに取り上げた。なお、大溝及び自然流路の出土遺物については、土層観察用畦では分層した層位ごとに取り上げ、土層観察用畦以外では人工層位で取り上げた。なお、遺構の時期や性格を表す可能性がある遺物は出土位置を測定し、特徴的な出土状況の遺物は出土状況図を作成した。

出土した遺物は、取上げ順を原則として遺物番号（通番）を付し、取上げ単位ごとに遺物ラベルを添付した。遺物ラベルには「遺跡番号（発掘作業年度の西暦下２桁と柿田遺跡の遺跡記号 KD）」、「グリッド・遺構名」、「層位」、「遺物番号」、「出土月日」、「遺物名」を記入し、遺物ラベルをもとに遺物台帳を作成した。

遺構は、原則として検出順に調査番号（通番）を付し、「Ｓ」と３桁の数字により「S001」のように表記した。調査番号は、整理等作業時に遺構種別で分類し、種別ごとの通番に付け替え、例えば自然流路の場合「NR1」のように表記した。

遺構等の実測作業は、平面図、土層断面図ともデジタル測量にて実施した。

写真撮影は、デジタル一眼レフカメラとコンパクトデジタルカメラを使用した。また、発掘区の景観写真撮影は、高所作業車を用いて実施した。

２　調査の経過

現地での調査経過は以下のとおりである。

第１週　（５/10～５/14）　10 日、Ｃ16 地点表土掘削開始。13 日、Ｃ16 地点表土掘削終了。Ｃ16 地点グリッド杭打設。14 日、Ｃ16 地点排水溝掘削開始。

第２週　（５/17～５/21）　Ｃ16 地点排水溝掘削継続。

第３週　（５/24～５/28）　25 日、Ｃ16 地点排水溝掘削終了。Ｃ16 地点遺物包含層掘削開始。

第４週　（５/31～６/４）　１日、Ｃ16 地点遺物包含層掘削終了。３日、NR１・NR２・NR３検出。

第５週　（６/７～６/11）　８日、SP２検出。10 日、NR１完掘。11 日、NR２完掘。Ｃ18 地点表土掘削開始。

第６週　（６/14～６/18）　18 日、SP２完掘。

第７週　（６/21～６/25）　22 日、Ｃ16 地点景観写真撮影。23 日、SP１検出及び完掘。NR３完掘。土師器の壺（102）出土。Ｃ16 地点調査終了。Ｃ18 地点表土掘削終了。24 日、Ｃ18 地点グリッド杭打設。Ｃ18 地点排水溝掘削開始。

第８週　（６/28～７/２）　28 日、Ｃ18 地点遺物包含層掘削開始。29 日、Ｃ18 地点排水溝掘削終了。

第９週　（７/５～７/９）　Ｃ18 地点遺物包含層掘削継続。

第 10 週（７/12～７/16）　16 日、SB１-SP１検出。

第 11 週（７/19～７/21）　21 日、SB１-SP３検出。

第 12 週（７/26～７/30）　26 日、Ｃ18 地点遺物包含層掘削終了。27 日、SB１-SP１完掘。28 日、Ｃ16 地点埋め戻し開始。Ｃ17 地点表土掘削開始。29 日、SB１-SP３完掘。30 日、SB１-SP４検出。SD２検出。

第 13 週（８/２～８/６）　２日、SB１-SP２検出。SB１-SP４完掘。３日、SB１-SP２完掘。４日、SD２完掘。Ｃ18 地点景観写真撮影。Ｃ18 地点調査終了。５日、Ｃ17 地点表土掘削終了。６日、Ｃ16 地点

埋め戻し終了。C17 地点グリッド杭打設。C17 地点遺物包含層掘削開始。

第 14 週（８/10～８/13）　夏期休業。

第 15 週～第 17 週（８/16～９/３）　C17 地点遺物包含層掘削継続。

第 18 週（９/６～９/10）　６日、C17 地点遺物包含層掘削終了。７日、NR５検出。

第 19 週（９/13～９/17）　16 日、NR５より曲物底板（152）・建築部材（153）等の木製品が出土。

第 20 週（９/21～９/24）　21 日、NR５完掘。22 日、C17 地点景観写真撮影。C17 地点調査終了。24 日、C17 地点埋め戻し開始。C19 地点表土掘削開始。

第 21 週（９/27～10/１）　C17 地点埋め戻し継続。C19 地点表土掘削継続。

第 22 週（10/４～10/８）　５日、C17 地点埋め戻し終了。C19 地点表土掘削終了。C19 地点グリッド杭打設。C19 地点排水溝掘削開始。７日、C19 地点排水溝掘削終了。８日、SD３・SD４検出。

第 23 週（10/11～10/15）　SD３・SD４掘削継続。

第 24 週（10/18～10/22）　20 日、SD３完掘。

第 25 週（10/25～10/29）　SD４掘削継続。

第 26 週（11/１～11/５）　４日、SD４完掘。SD６・SD７検出。

第 27 週（11/８～11/12）　11 日、SD８検出。12 日、SD６完掘。

第 28 週（11/15～11/19）　16 日、SD９検出。17 日、SD８完掘。

第 29 週（11/22～11/26）　25 日、SD９完掘。26 日、SD７完掘。

第 30 週（11/29～12/３）　30 日、C19 地点景観写真撮影。１日、長江真和氏（可児市文化スポーツ部文化財課）現地指導。C19 地点調査終了。C19 地点埋め戻し開始。

第 31 週（12/６～12/10）　10 日、C19 地点埋め戻し終了。

一次整理作業（出土遺物の洗浄や注記作業など）は令和３年度、整理等作業（遺物実測や挿図作成など）は令和４年度に、それぞれ当センターにおいて実施した。

整理等作業時には、林正憲氏（独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所）から総括に関する指導を受けた。また、須恵器類に関する指導を渡邉博人氏から受けた。

漆塗膜構造分析は株式会社パレオ・ラボ、木製品樹種同定及び保存処理は株式会社吉田生物研究所に委託して実施した。

３　調査体制

発掘作業及び整理等作業の体制は、以下のとおりである。

センター所長	岡田知也（令和３・４年度）
総務課長	布施三千代（令和３年度）、中通珠子（令和３・４年度）
調査課長	三輪晃三（令和４年度）
調査担当係長	長谷川幸志（令和３年度）、大本直人（令和４年度）
担当調査職員	片桐由裕（令和３・４年度）

注

１）財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2005『柿田遺跡』

（岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第92集）

写真１　重機による表土掘削状況

写真２　遺物包含層掘削状況

写真３　遺構検出作業状況

写真４　遺構掘削状況

写真５　遺構実測作業状況

写真６　写真撮影作業状況

第２章　遺跡の環境

第１節　地理的環境

柿田遺跡は、可児川により形成された沖積平野上及び沖積平野の南側に展開する浅間丘陵地の扇状地上に位置する。可児川は瑞浪市を水源とする一級河川で、可児市西端で木曽川に合流する。当遺跡付近では西から東へ屈曲して流れ、至るところで過去の氾濫によって形成された自然堤防や旧河道の痕跡を確認することができる。可児川によって形成された沖積平野は面積が広く、その勾配は緩い。これは、可児川の河口付近に木曽川泥流が堆積し、河口部がふさがれたことで形成された淡水湖に、上流からの土砂が堆積して埋没谷が形成されたためと考えられている。

可児川により形成された沖積平野の南側に展開する浅間丘陵地は、浅間山から東西方向に伸びるなだらかな丘陵地で、新第三紀中新世の堆積層（可児層群）を基盤とする。なかでも当遺跡が立地するのは中村層と呼ばれる、褐炭層を挟む凝灰質砂岩及びシルト岩で形成された層である。緩やかな斜面をもつ丘陵と扇状地の発達は、岩盤が比較的削られやすく、堆積物を供給しやすいという、中村層の特性によるものと考えられる[1)]。

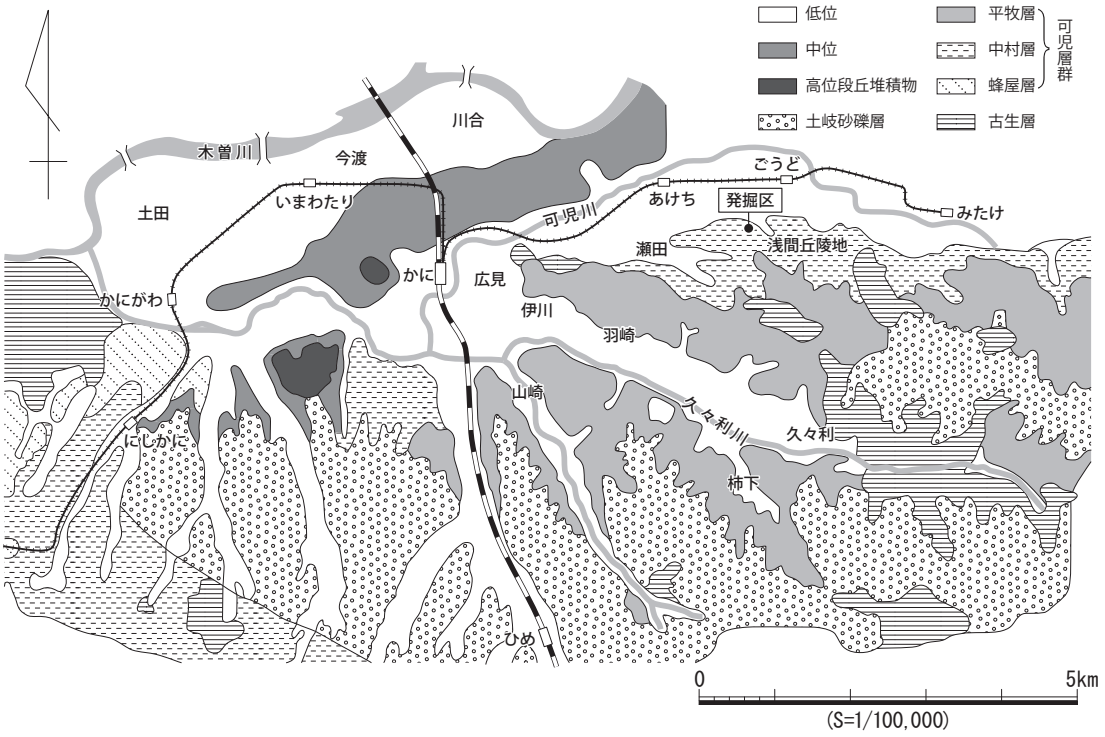


図４　柿田遺跡周辺の地質概略図　（可児町 1980『可児町史』（通史編）を基に作成）

第２節　歴史的環境

本節では、当遺跡の歴史的環境について、図５で示す範囲（以下、「当遺跡周辺」という。）における主要な遺跡の概要に触れながら、時代順に記す[2)]。図５・表２は、『改訂版岐阜県遺跡地図』（岐阜県教育委員会 2007）を基に、遺跡の種類・時代などに関する新たな成果を踏まえて作成した。なお、当遺跡周辺の遺跡の所在地は可児市若しくは可児郡御嵩町であり、文中の遺跡名に続く括弧内の番号は、図５及び表２と一致する。

旧石器時代　当遺跡（１）周辺では旧石器時代の遺跡は確認されていないが、金ヶ崎遺跡（37）では、遺物包含層からナイフ型石器１点が出土している。

縄文時代　可児市北部に位置する川合地区を中心に、中期の遺跡が複数確認されているが、当遺跡周辺では集落遺跡は確認されていない。顔戸南遺跡（73）では、中期と晩期の土坑墓が３基確認されている。

弥生時代　当遺跡では、中期及び後期から古墳時代初頭の竪穴建物や水田跡が確認されている。また、金ヶ崎遺跡では、終末期から古墳時代初頭の墳墓群が確認されている。神崎山遺跡（90）では、後期の盛土を伴う方形土坑から土器片とともに石包丁を加工した槍先が出土している。可児市東部に位置する久々利地区からは後期の近畿式銅鐸が出土している。

古墳時代　当遺跡周辺には、古墳時代に属する遺跡が最も多い。その大部分は古墳であるが、顔戸南遺跡や当遺跡のように、集落跡や水田跡が確認されている遺跡もある。

当遺跡では、竪穴建物 30 棟、掘立柱建物６棟の他、溝、自然流路、水制遺構などが確認されている。なかでも水制遺構は、構造が複雑化するとともに、比較的幅の広い流路内に設けられた大規模なものが多く確認され、当遺跡に北接する顔戸南遺跡でも、長さ約 35m にわたる築堤の基礎構築が確認されたことから、当該時期に、当遺跡周辺で広範囲にわたる大規模な治水・利水事業がなされたと考えられる。

可児地域における前期古墳は、木曽川が形成した中・高位段丘面上を中心に大型のものが築かれ、伏見地区に位置する高倉山古墳（26）や東寺山古墳群（70）、前波地区に位置する野中古墳（55）・西寺山古墳（56）・長塚古墳（57）（前波の三ツ塚）などがある。なかでも長塚古墳は、東美濃地方最大の前方後円墳で、国史跡に指定されている。なお、中期古墳は確認されていない。後期古墳は丘陵部にも造設域を拡大し、当遺跡南北の丘陵上にも、柿田古墳（84）など、数多くの古墳が確認されている。なかでも前山古墳群（85）と杉ヶ洞古墳群（87）は発掘区に近接する。杉ヶ洞古墳群は５基からなる古墳群で、３号古墳及び５号古墳が発掘調査されている。いずれも６世紀末から７世紀前半に属する横穴式石室を主体部とする円墳である。３号古墳の石室からは須恵器、玉類、馬具、刀子などが出土し、５号古墳の石室からは須恵器、耳環、鉄鏃、小刀などが出土している。前山古墳群は２基からなる古墳群で、２号古墳が発掘調査されている。２号古墳は６世紀後半に属する横穴式石室を主体部とする円墳で、石室からは須恵器、玉類、耳環、鉄製品などが出土している。杉ヶ洞古墳群及び前山古墳群は７世紀前半の須恵器窯として知られる馬乗洞古窯跡（93）と近接するが、古墳に副葬されていた須恵器はすべて猿投窯産であった。

古代　７世紀後半になると、伏見廃寺跡（25）などの古代寺院の建立が進むとともに、律令的な地方支配機構が整えられていく。古代において当遺跡が所在する可児市及び可児郡御嵩町は、美濃国可児郡に属し、当遺跡は郡家郷内に存在していたと考えられている。郡家という郷名は、郡の行政拠点である「郡家」に由来すると考えられることから、当遺跡周辺に可児郡の「郡家」があった可能性が高いと考えられる。江戸時代における中山道の経路から、当遺跡近辺が東山道の推定経路に比定されている。顔戸南遺跡から当遺跡にかけて、条里地割の坪境となる場所に道路遺構が確認されたことから、当遺跡付近一帯にも条里が施行されたといえ、その時期は出土遺物から８世紀代と考えられる。また、当遺跡では竪穴建物 13 棟、掘立柱建物７棟が確認されており、そのほとんどが浅間丘陵地の扇状地上に位置し、本調査の発掘区に近接するＣ９地点でも掘立柱建物５棟が確認されている。また、自然流路や溝から形代などの木製祭祀具や墨書土器が多数出土した。

中・近世　律令制が崩壊すると、可児郡内には寄進地系荘園が出現し、当遺跡は明知荘に含まれたと考えられている。当遺跡では中世前期に属する掘立柱建物が 33 棟確認された。その多くは可児川が形成した沖積平野上で確認されるとともに、床面積が 100 ㎡を超える大型建物も２棟含まれ、古代と様相が異なる。中世後期になると掘立柱建物の確認は３棟にとどまるが、低地部のほとんどで方向を条里地割に規制された畦畔を伴う水田跡が確認された。顔戸南遺跡で確認された畦畔の基軸とほぼ一致していることから、広域に及ぶ水田の再開発が計画的になされたと考えられる。また、金ヶ崎遺跡では中世から近世にかけての土坑墓や火葬墓が多数確認されている。

当遺跡周辺には中世の山城が点在する。明智光秀が誕生したとされる長山城跡（102）などがあげられる。また、当遺跡の北東に位置する顔戸城跡（47）は平地に築かれた居館形式の城跡である。山城が多く築かれていた当時としては珍しく、美濃国守護土岐氏の重臣斎藤妙椿が築いたとされる。顔戸城跡の北方には美濃金山城跡（３）がある。美濃金山城跡の発掘調査では、天守や門に使用された瓦、古銭、石製の容器などが出土しており、国史跡に指定されている。なお美濃金山城は織田信長から森可成に与えられた城で、関ケ原合戦後の 1601 年に破却されるが、その後も城下町（金山城下町遺跡（２））は栄えた。

注

１）地質に関する記述は、以下の文献を参考にした。

可児市 2007『可児市史』第４巻（自然編）

可児市教育委員会 1996『可児の地層と化石』（可児市の文化財第８集）

可児町 1980『可児町史』（通史編）

岐阜県文化財保護センター2014『今渡遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第 130 集）

久馬一剛・永塚鎮男編 1987『土壌学と考古学』、博友社

工楽善通 1991『水田の考古学』（UP 考古学選書 12）、東京大学出版会

財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2003『杉ヶ洞３・５号古墳　前山２号古墳』（岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第 85 集）

財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2005『柿田遺跡』（岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第 92 集）

御嵩町 1992『御嵩町史』（通史編）

図５　柿田遺跡周辺遺跡

（令和４年国土地理院発行電子地形図 25000「美濃加茂」・「小泉」に加筆）　(S=1/25,000)

表２　周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名（所在地）	種別	時代
1	柿田遺跡（可児市・御嵩町）	集落跡・生産遺跡	縄文～近現代
2	金山城下町遺跡（可児市）	城館跡	中世・近世
3	美濃金山城跡（可児市）	城館跡（国史跡）	中世
4	兼山湊跡（可児市）	その他の遺跡（県史跡）	中世・近世
5	森長可・長成墓（可児市）	その他の墓	中世
6	妙向尼墓（可児市）	その他の墓	不明
7	伝可成寺跡（可児市）	社寺跡	中世
8	東中国古墳（御嵩町）	古墳	古墳
9	トノヤ下古墳（美濃加茂市）	古墳	古墳
10	下屋古墳（八百津町）	古墳	古墳
11	火塚古墳（美濃加茂市）	古墳	古墳
12	小貝戸１号古墳（美濃加茂市）	古墳	古墳
13	小貝戸２号古墳（美濃加茂市）	古墳	古墳
14	小貝戸遺跡（美濃加茂市）	集落跡	縄文・弥生
15	神明遺跡（美濃加茂市）	集落跡	縄文
16	岐大農場遺跡（美濃加茂市）	散布地	縄文
17	花之下遺跡（美濃加茂市）	散布地	古代・中世
18	杉ヶ洞古墳群（御嵩町）	古墳	古墳
19	市洞古墳群（御嵩町）	古墳	古墳
20	新村湊（御嵩町）	その他の遺跡	近世
21	新発知古墳群（御嵩町）	古墳	古墳
22	山田横穴墓群（御嵩町）	横穴墓（県史跡）	古墳
23	生沢古墳（御嵩町）	古墳	古墳
24	伏見白山神社古墳（御嵩町）	古墳	古墳
25	伏見廃寺跡（御嵩町）	社寺跡	古代
26	高倉山古墳（御嵩町）	古墳	古墳
27	山本藤九朗屋敷跡（御嵩町）	城館跡	近世
28	念事ヶ平古墳群（御嵩町）	古墳	古墳
29	稲荷山古墳群（御嵩町）	古墳	古墳
30	青木古墳群（御嵩町）	古墳	古墳
31	青木横穴墓（御嵩町）	横穴墓	古墳
32	打越古墳群（御嵩町）	古墳	古墳
33	打越１号古墳（御嵩町）	古墳	古墳
34	打越２号古墳（御嵩町）	古墳	古墳
35	打越３号古墳（御嵩町）	古墳	古墳
36	陣ヶ峰古墳群（御嵩町）	古墳	古墳
37	金ヶ崎遺跡（御嵩町）	集落跡	弥生～近世
38	金ヶ崎１号古墳（御嵩町）	古墳	古墳
39	金ヶ崎８号古墳（御嵩町）	古墳	古墳
40	金ヶ崎古墳群（御嵩町）	古墳	古墳
41	坂本天神山古墳（御嵩町）	古墳	古墳
42	諏訪神社古墳（御嵩町）	古墳	古墳
43	坂本古墳群（御嵩町）	古墳	古墳
44	比衣金ヶ崎古窯跡群（御嵩町）	生産遺跡	古代
45	花塚古墳（御嵩町）	古墳	古墳
46	恵観寺廃寺跡（御嵩町）	社寺跡	中世
47	顔戸城跡（御嵩町）	城館跡	中世
48	顔戸藤塚古墳（御嵩町）	古墳	古墳
49	狐塚古墳（可児市）	古墳	古墳
50	長畑古墳群（可児市・御嵩町）	古墳	古墳
51	浦畑古墳（御嵩町）	古墳	古墳
52	浦畑遺跡（御嵩町）	集落跡	中世・近世
53	上恵土城跡（御嵩町）	城館跡	中世・近世
54	野中西古墳（可児市）	古墳	古墳
55	野中古墳（可児市）	古墳	古墳
56	西寺山古墳（可児市）	古墳	古墳
57	長塚古墳（可児市）	古墳（国史跡）	古墳
58	欠ノ上遺跡（可児市）	集落跡	縄文～中世
59	上野稲荷古墳（可児市）	古墳	古墳
60	桐野２号古墳（可児市）	古墳	古墳
61	上恵土本郷古窯跡（御嵩町）	生産遺跡	古代
62	上野桐野弥生墳丘墓（可児市）	古墳	弥生
63	上野山神弥生墳丘墓（可児市）	古墳	弥生
64	権現山古墳（御嵩町）	古墳	古墳
65	大塚古墳群（御嵩町）	古墳	古墳
66	土居田古墳（御嵩町）	古墳	古墳
67	伏見狐塚古墳（御嵩町）	古墳	古墳
68	堂根古墳（御嵩町）	古墳	古墳

番号	遺跡名（所在地）	種別	時代
69	女郎塚（御嵩町）	その他の墓	近世
70	東寺山古墳群（御嵩町）	古墳（県史跡）	古墳
71	伏見寺東古窯跡（御嵩町）	生産遺跡	古代
72	伏見東坂南遺跡（御嵩町）	散布地	弥生～近世
73	顔戸南遺跡（御嵩町）	散布地	古墳～中世
74	柿田西遺跡Ａ地点（可児市）	集落跡・生産遺跡	縄文～近代
75	柿田西遺跡Ｂ地点（可児市）	集落跡・生産遺跡	縄文～近代
76	柿田西遺跡Ｃ地点（可児市）	集落跡・生産遺跡	縄文～近代
77	柿田西遺跡Ｄ地点（可児市）	集落跡・生産遺跡	縄文～近代
78	柿田西遺跡Ｅ地点（可児市）	集落跡・生産遺跡	縄文～近代
79	柿田西遺跡Ｆ地点（可児市）	集落跡・生産遺跡	縄文～近代
80	柿田西遺跡Ｇ地点（可児市）	集落跡・生産遺跡	縄文～近代
81	顔戸山ノ神遺跡（御嵩町）	散布地	弥生・古墳
82	在原行平卿墓（御嵩町）	その他の墓	近世
83	柿田月田遺跡（可児市）	集落跡	古代・中世
84	柿田古墳（可児市）	古墳	古墳
85	前山古墳群（可児市）	古墳	古墳
86	柿田前山遺跡（可児市）	集落跡	中世・近世
87	杉ヶ洞古墳群（可児市）	古墳	古墳
88	栢之木古墳群（御嵩町）	古墳	古墳
89	栢之木経塚（御嵩町）	その他の遺跡	近世
90	神崎山遺跡（可児市）	古墳（墳丘墓）	弥生・古墳
91	北ヶ洞１号古墳（可児市）	古墳	古墳
92	北ヶ洞２号古墳（可児市）	古墳	古墳
93	馬乗洞古窯跡（可児市）	生産遺跡	古墳
94	村出古墳（可児市）	古墳	古墳
95	身隠山古墳群（可児市）	古墳（県史跡）	古墳
96	中川寺１号古墳（可児市）	古墳	古墳
97	熊野古墳（可児市）	古墳（県史跡）	古墳
98	羽崎北洞古墳（可児市）	古墳	古墳
99	桧下古墳（可児市）	古墳	古墳
100	しゃもじ塚古墳（可児市）	古墳	古墳
101	巣本古墳（可児市）	古墳	古墳
102	長山城跡（可児市）	城館跡	中世
103	七ツ塚古墳群（可児市）	古墳	古墳
104	七ツ塚５号古墳（可児市）	古墳	古墳
105	大洞白山塚古墳（可児市）	古墳	古墳
106	羽崎大洞１号古墳（可児市）	古墳	古墳
107	羽崎大洞２号古墳（可児市）	古墳	古墳
108	羽崎大洞３号古墳（可児市）	古墳	古墳
109	羽崎大洞４号古墳（可児市）	古墳	古墳
110	羽崎城跡（可児市）	城館跡	中世
111	中央ヶ峰横穴墓群（可児市）	横穴墓	古墳
112	羽崎寺洞１号古墳（可児市）	古墳	古墳
113	羽崎寺洞２号古墳（可児市）	古墳	古墳
114	羽崎横穴墓群（可児市）	横穴墓	古墳
115	羽崎山寺横穴墓群（可児市）	横穴墓	古墳
116	羽崎山寺横穴１号古墳（可児市）	古墳	古墳
117	羽崎日吉古墳群（可児市）	古墳	古墳
118	羽崎中洞横穴墓（可児市）	横穴墓	古墳
119	羽崎中洞古墳（可児市）	古墳（県史跡）	古墳
120	羽崎中洞２号古墳（可児市）	古墳	古墳
121	不孝寺塚古墳（可児市）	古墳（県史跡）	古墳
122	羽崎山寺古墳（可児市）	古墳	古墳
123	大洞ため池南古墳（可児市）	古墳	古墳
124	羽崎大洞横穴墓群（可児市）	横穴墓	古墳
125	粘り塚古墳（可児市）	古墳	古墳
126	西山横穴墓（可児市）	横穴墓	古墳
127	我田横穴墓群（可児市）	横穴墓	古墳
128	猿洞横穴墓群（可児市）	横穴墓	古墳
129	庚申洞横穴墓（可児市）	横穴墓	古墳
130	岡本山横穴墓群（可児市）	横穴墓	古墳
131	二野上組稲荷塚古墳（可児市）	古墳	古墳
132	二野東段横穴墓（可児市）	横穴墓	古墳
133	佃古墳（可児市）	その他の墓	古墳
134	鍋煎横穴墓群（可児市）	横穴墓（県史跡）	古墳
135	二野東段遺跡（可児市）	集落跡	縄文～中世
136	番場遺跡（可児市）	散布地	古墳

２）歴史的環境に関する記述は、以下の文献を参考にした。

可児郷土歴史館 2005『発掘スペシャル可児～埋もれていた柿田の歴史～』

可児市 2007『可児市史』第１巻（通史編　考古・文化財）

可児市 2007『可児市史』第２巻（通史編　古代・中世・近世）

可児市教育委員会 1997『美濃の焼き物と可児』（可児市の文化財第９集）

可児市教育委員会 2006『可児市市内遺跡発掘調査報告書』（可児市埋文報告 36）

可児市教育委員会 2009『柿田遺跡馬乗洞地点』（可児市埋文報告 42）

可児市教育委員会 2014『柿田遺跡（道の駅地点）・ほうの木古窯跡』（可児市埋文報告 45）

可児市教育委員会 2017『可児市の古墳ガイドブック』

可児町 1980『可児町史』（通史編）

可児町教育委員会 1974『可児町柿下古窯発掘調査報告書』

岐阜県教育委員会・可児町教育委員会 1973『可児町杉ヶ洞古墳発掘報告書』

岐阜県文化財保護センター2014『今渡遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第 130 集）

財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2000『顔戸南遺跡』（岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第 58 集）

財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2003『金ヶ崎遺跡・青木横穴墓』（岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第 78 集）

財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2003『杉ヶ洞３・５号古墳　前山２号古墳』（岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第 85 集）

財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2005『柿田遺跡』（岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第 92 集）

中山道みたけ館 2006『平成 18 年度中山道みたけ館特別展「いにしえの御嵩を訪ねて」～金ヶ崎遺跡・顔戸南遺跡・浦畑遺跡・上恵土城跡発掘調査より～』、御嵩町教育委員会

長瀬治義 1994「柿田馬乗洞古窯の須恵器」『美濃の古陶』（美濃古窯研究会会報第７号）、美濃古窯研究会

御嵩町 1992『御嵩町史』（通史編）

第３章　調査の成果

第１節　基本層序

基本層序は、令和２年度に県文化伝承課が実施した試掘・確認調査で確認された層序と発掘調査における結果を基に、以下のとおりⅠ層からⅣ層に設定した。発掘区の標高は南から北に向かって低くなっており、調査前の標高は、南端が約119.50m、北端が約112.50mと約７mの差がある（図６）。

Ⅰ層　造成土等

発掘区全域で確認した。層厚は約0.80m～2.80mである。東海環状自動車道建設に伴う造成土等をまとめてⅠ層とした。2.5Y4/4オリーブ褐色～10YR2/1黒色を呈する土で、角礫やコンクリートブロックが多く混じる。

Ⅱ層　造成前の表土

発掘区全域で確認した。層厚は約0.15m～0.95mである。近世から東海環状自動車道建設前までの堆積をまとめてⅡ層とした。2.5Y5/1黄灰色～5Y3/2オリーブ黒色を呈する粘質土で、微砂や炭粒が均一に混じり、鉄分沈着が顕著にみられる。

Ⅲ層　遺物包含層

Ｃ16地点北半部及びＣ19地点を除く発掘区全域で確認した。層厚は約0.10m～0.60mである。中世の耕作土とみられる堆積をまとめてⅢ層とした。2.5Y3/1黒褐色を呈する粘質土で、微砂や炭粒が均一に混じる。弥生時代末期から中世の遺物を含む。

Ⅳ層　基盤層

発掘区全域で確認した。無遺物層。今回の調査で検出された遺構の基盤となっている堆積をまとめてⅣ層とした。大半は地山(岩盤)及びそれに由来する5G4/1暗緑灰色を呈するシルト～粘土であるが、Ｃ18地点南半部は旧河道に伴う砂礫であった。この層の上面で遺構検出を行った。

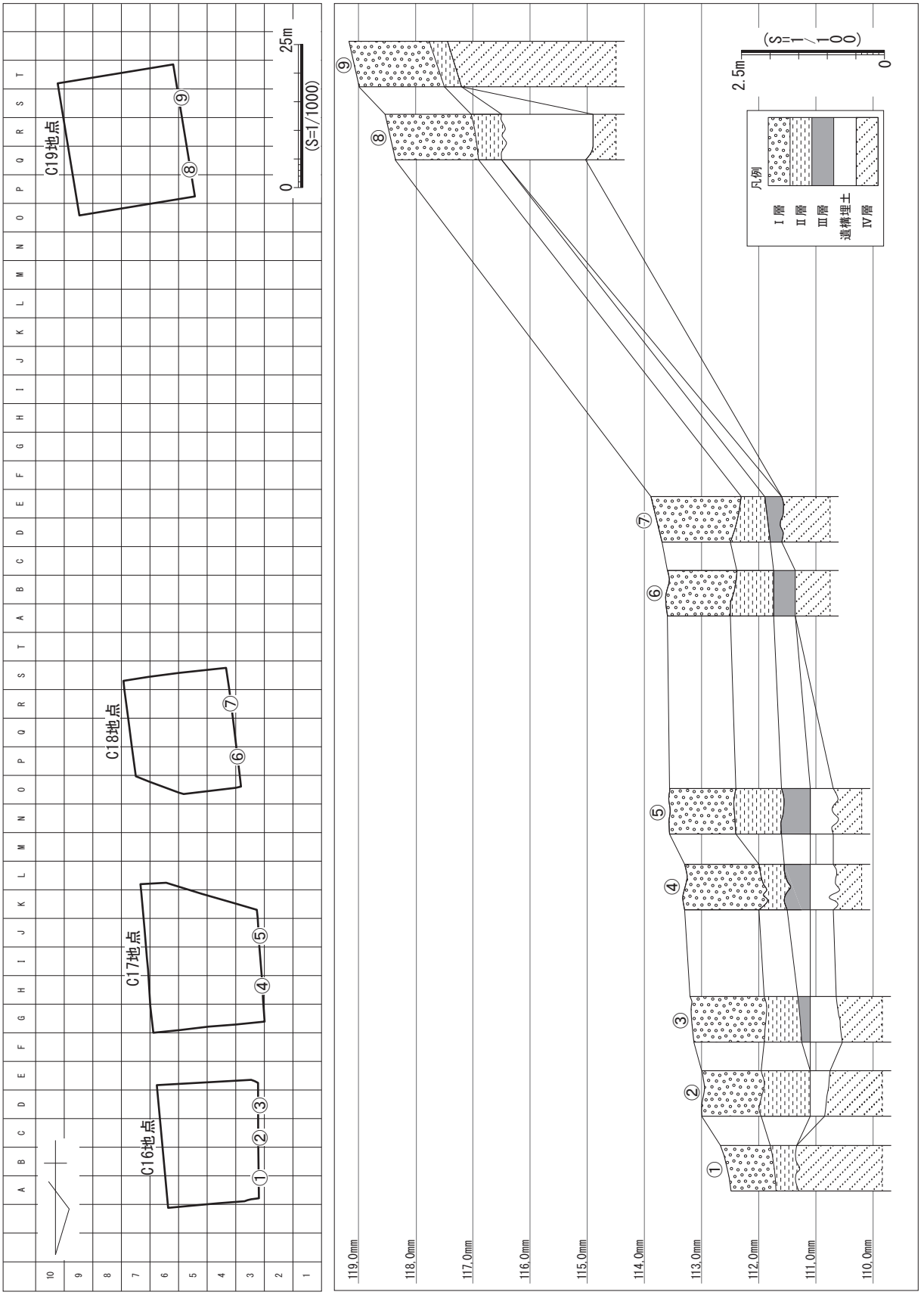

C19地点
C18地点
C17地点
C16地点
25m
0
(S=1/1000)
凡例
Ⅰ層
Ⅱ層
Ⅲ層
遺構埋土
Ⅳ層
2.5m
(S=1/100)
0
119.0mm
118.0mm
117.0mm
116.0mm
115.0mm
114.0mm
113.0mm
112.0mm
111.0mm
110.0mm

図６　土層柱状図（西壁面）

第２節　時期区分

本報告書では、平成調査における時期区分[1)]を踏襲した。ただし、今回の調査における出土遺物に関連する時期の暦年代観については、近年の土器編年研究の成果[2)]を踏まえ、表３のように設定した。なお、時期区分と土器編年との対応関係は表４のとおりである。

表３　時期区分一覧

時期	土器編年	暦年代	時代・時代区分
Ⅱ－３期	山中Ⅰ・Ⅱ式	１世紀後葉～２世紀中葉	弥生時代後期
Ⅱ－４期	廻間Ⅰ～Ⅲ式	２世紀中葉～４世紀中葉	弥生時代末～古墳時代前期前半
Ⅲ－１期	松河戸Ⅰ・Ⅱ式	４世紀中葉～５世紀中葉	古墳時代前期後半
Ⅲ－２期	宇田Ⅰ式	５世紀中葉	
Ⅳ－１期	東山48号窯式～東山11号窯式	５世紀中葉～６世紀初頭	古墳時代後期
Ⅳ－２期	東山10号窯式～東山44号窯式	６世紀前葉～７世紀初頭	
Ⅳ－３期	東山15号窯式～岩崎101号窯式	７世紀前葉～中葉	
Ⅴ－１期	岩崎17号窯式～岩崎41号窯式	７世紀後葉～末	古代
Ⅴ－２期	高蔵寺２号窯式～黒笹14号窯式	８世紀初頭～９世紀後葉	
Ⅴ－３期	光ヶ丘１号窯式～西坂１号窯式	９世紀後葉～11世紀後葉	
Ⅵ－１期	矢戸上野２号窯式～窯洞１号窯式	11世紀後葉～13世紀初頭	中世前期
Ⅵ－２期	白土原１号窯式	13世紀前葉～中葉	
Ⅶ－１期	明和１号窯式～大谷洞14号窯式	13世紀後葉～14世紀末	中世後期
Ⅶ－２期	大洞東１号窯式～生田２号窯式	15世紀初頭～後葉	
Ⅶ－３期	大窯第１～４段階	15世紀末～17世紀初頭	
Ⅷ－１期	登窯第１～２段階	17世紀前葉～18世紀中葉	近世
Ⅷ－２期	登窯第３段階	18世紀後葉～19世紀中葉	
Ⅷ－３期		19世紀後葉～20世紀前半	近代

※Ⅰ期（縄文土器）、Ⅱ－１期、Ⅱ－２期（いずれも弥生土器）については、今回の調査で当該時期の遺物が出土していないため省略した。

※土器編年は、今回の調査における出土遺物の主たる産地の型式若しくは窯式を表記した。

注

１）財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2005『柿田遺跡』第１分冊（岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第92集）25・26頁

平成調査における時期区分において基準とされた土器の種別は、Ⅰ期は縄文土器、Ⅱ期は弥生土器、Ⅲ期は土師器、Ⅳ期は須恵器、Ⅴ期は須恵器・灰釉陶器、Ⅵ期は山茶碗、Ⅶ期は山茶碗・大窯、Ⅷ期は近世近代陶器である。

２）暦年代観は、以下の文献を参考にした。

愛知県史編さん委員会2007『愛知県史　別編　窯業２　中世・近世　瀬戸系』、愛知県

愛知県史編さん委員会2012『愛知県史　別編　窯業３　中世・近世　常滑系』、愛知県

愛知県史編さん委員会2015『愛知県史　別編　窯業１　古代　猿投系』、愛知県

赤塚次郎・早野浩二2001「松河戸・宇田様式の再編」『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』第２号、愛知県埋蔵文化財センター

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2015『石座神社遺跡』第１分冊（愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第189集）

山内伸浩2008「東農地域における灰釉陶器・山茶碗生産の一様相」『日本考古学協会2008年度愛知大会研究発表資料集』、日本考古学協会2008年度愛知県大会実行委員会

渡邉博人2008「美濃須衛窯について」『日本考古学協会2008年度愛知大会研究発表資料集』、日本考古学協会2008年度愛知県大会実行委員会

表４　編年対応表

時期区分	弥生土器・土師器				中近世陶器	
			美濃須衛窯		常滑窯	瀬戸美濃窯
Ⅱ－３期	山中Ⅰ・Ⅱ式					
Ⅱ－４期	廻間Ⅰ～Ⅲ式					
Ⅲ－１期	松河戸Ⅰ・Ⅱ式					
Ⅲ－２期	宇田Ⅰ式					
Ⅳ－１期	宇田Ⅱ式～儀町式	東山48～東山11				
Ⅳ－２期		東山10～東山44				
Ⅳ－３期		東山15～岩崎101	Ⅱ期後半～Ⅲ期前半			
Ⅴ－１期		岩崎17～岩崎41	Ⅲ期後半			
Ⅴ－２期		高蔵寺２～黒笹14	Ⅳ－１期～Ⅴ－１期			
Ⅴ－３期		黒笹90～百代寺	Ⅴ－２期～Ⅶ期			
Ⅵ－１期		第３～５型式	Ⅷ期	矢戸上野２～窯洞１	１ａ型式～４型式	古瀬戸草創期～前Ⅰ期
Ⅵ－２期		第６型式	Ⅸ期	白土原１	５型式	古瀬戸前Ⅱ期～前Ⅲ期
Ⅶ－１期		第７型式～第９型式		明和１～大谷洞14	６ａ型式～８型式	古瀬戸前Ⅳ期～後Ⅱ期
Ⅶ－２期		第10型式～第11型式		大洞東１～生田２	９型式～10型式	古瀬戸後Ⅲ期～後Ⅳ期新
Ⅶ－３期					11型式～12型式	大窯第１～４段階
Ⅷ－１期						登窯第１～２段階
Ⅷ－２期						登窯第３段階

第３節　遺構の概要

１　概要

今回の調査では、弥生時代末期以降の遺構を検出した。検出した遺構数は表５のとおりである。遺構の時期決定は、出土遺物や遺構の重複関係などから判断した。また、出土遺物が複数の時期にまたがる場合は原則として新しい時期を選択したが、出土状況や出土量も判断材料とした。

本報告書では、これらの遺構のうち、遺跡の変遷や周辺の土地利用の移り変わりなどを検討する上で重要な遺構や、一括性の高い遺物が出土した遺構などを抽出して掲載した。なお、各遺構の説明文の「遺物出土状況」に記載した出土点数は、接合前の破片数を示す。

表５　遺構種別基数一覧表

地点	SB	SB-P	SP	SD	NR	SR	SK	合計
C16	0	0	2	0	3	0	9	14
C17	0	0	0	1	1	0	6	8
C18	1	4	0	1	0	2	11	19
C19	0	0	0	11	1	0	24	36
合計	1	4	2	13	5	2	50	77

２　遺構の分類

今回の調査で確認した遺構は、それぞれの形状、規模、構造をもとに以下のように分類した。また、北側の地点から順に、原則として北西の遺構から略号とともに番号を付した。各遺構の分類基準と略号は以下のとおりである。

掘立柱建物（SB）　一定の間隔で並ぶ柱列が向かい合って２辺以上認められ、上屋構造を有すると推定できる遺構を掘立柱建物とした。また、建物を構成する柱穴は、「(付属するSBの番号）－P●」と表記した。

柱穴（SP）　柱根が残存しているものや土層に柱痕跡が確認できたもの、底部に礎盤石若しくは根石、柱あたりが確認できた遺構のうち、規則的な配列が確認できず、建物や柵として認定できなかったものを柱穴とした。

溝（SD）　人為的に掘られた、細長い平面形（短軸と長軸比＝１：３以上）となる遺構を溝とした。

自然流路（NR）　埋土に流水や帯水の痕跡が確認でき、人為的に掘削されていないと判断できる遺構を自然流路とした。

水制遺構（SR）　「堤防」「護岸施設」「堰」など水流を調整する機能を有すると推定できる遺構を水制遺構とした。

土坑（SK）　人為的な掘り込みは確認できるが、明確に性格付けができない遺構を土坑とした。

３　遺構一覧表

各遺構の位置や規模などの基礎的情報は、それぞれ種別ごとに作成した遺構一覧表に示した。遺構種別により一覧表の項目は異なるが、共通する項目の内容は以下のとおりである。

地点名　検出した地点をＣ16からＣ19のいずれかで表記した。

調査番号・遺構番号　調査番号は現地調査時点で付した番号、遺構番号は全地点の遺構について種別毎に通し番号を付したものを示す。

地区割り　第１章第２節の１で示したとおりである。

検出面　基本層序の層位名を使用し、Ⅳ層上面で検出した遺構は「Ⅳ上」のように、遺構を検出した面について略号で示した。

平面形状・底面形状　形状を以下のとおり分類し、数字で表記した。

１　円形又は楕円形、２　方形又は長方形、３　不定形、４　不明

堆積状況　以下のとおり分類し、アルファベットで表記した。

ａ　埋土が単一層、ｂ　ほぼ水平な堆積、ｃ　中央がU字状に窪むような堆積、

ｄ　窪みが偏った堆積、ｅ　柱痕跡状の土層があるもの、ｆ　その他の特徴をもつ堆積、ｇ　不明

断面形状　形状を以下のとおり分類し、ローマ数字で表記した。

Ⅰ　底面が丸い形状、Ⅱ　底面が平坦で壁面が垂直に立ち上がる形状、

Ⅲ　中央に向かって凹む形状、Ⅳ　底面が平坦で壁面が外側に開いて立ち上がる形状、

Ⅴ　底面が検出面より広がる形状、Ⅵ　テラスをもち２段に掘り込む形状、

Ⅶ　不定形な形状、Ⅷ 不明

規模　単位はｍである。（　）は全形が確認できなかった遺構の残存長の規模を示す。

重複関係　「新＞旧」の関係を示す。「新」には、その遺構より重複が新しいもの、「旧」には、その遺構より重複が古いものを示した。

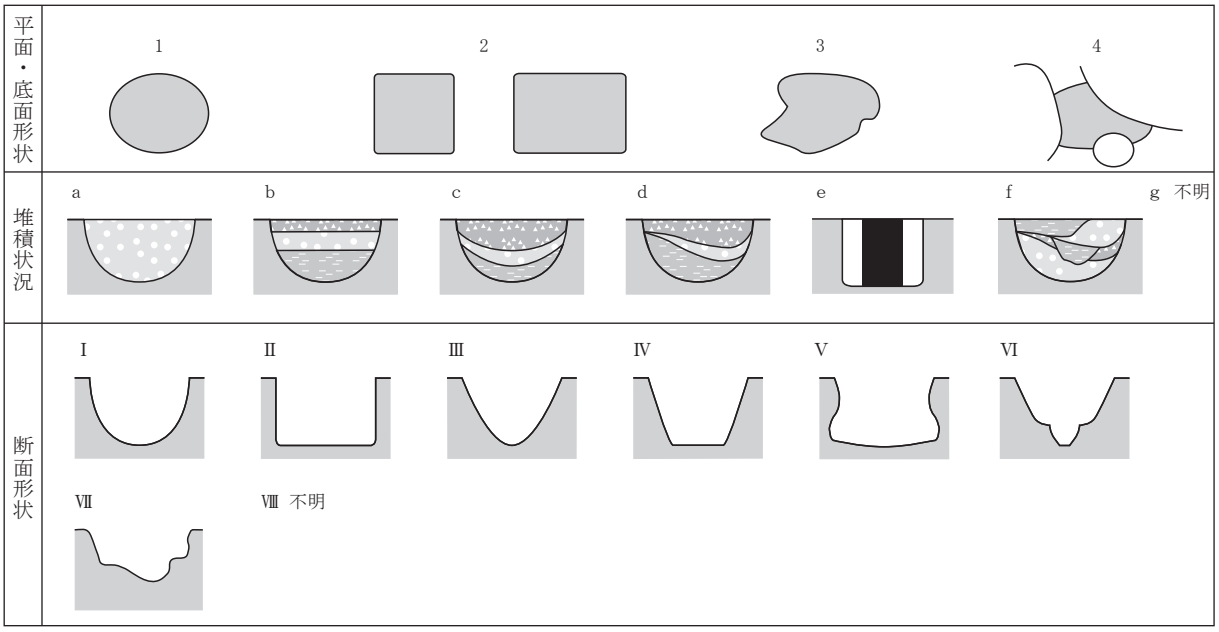


図７　遺構分類模式図

第４節　遺物の概要

１　概要

今回の調査では、土師器（弥生土器を含む）、須恵器、灰釉陶器、中近世陶磁器などの土器類と、木製品、土製品、石器・石製品、金属製品が出土した。それらの出土数は表６のとおりで、土師器、山茶碗の出土数が多い。本報告書では、これらの遺物のうち、遺構の性格や時期などを検討する上で必要な遺物や、遺跡の性格を端的に示す遺物、分類別の代表的な遺物を中心に抽出して報告した。以下、各遺物の概要を記す。

表６　出土遺物点数一覧表

種別／破片数等	土器類					土器類合計	木製品	土製品	石器・石製品	金属製品	合計
	土師器	須恵器	灰釉陶器	山茶碗	中近世陶磁器						
接合前破片数	9,076	6,050	2,872	8,547	388	26,933	85	4	19	2	27,043
接合後破片数	8,960	6,035	2,835	8,527	384	26,741	85	4	19	2	26,851

２　遺物の分類

出土遺物の細分類を含む器種分類や編年観及び年代観については、原則として既存の研究[1)]を参考とした。また、パレススタイル壺は「パレス壺」、く字状口縁台付甕は「く字甕」、Ｓ字状口縁台付甕は「Ｓ字甕」と略し、記載した。

土師器　弥生時代末期から中世にかけて製作された素焼き製品をすべて土師器とした。器種については弥生時代末期から古墳時代では甕や壺、高坏、古代から中世では皿や甕、鍋などがある。

須恵器　遺跡全体としては蓋坏の出土が多いが、高坏、壺、甕、瓶などが出土している。猿投窯産のものが大半を占め、東山44号窯式期から折戸10号窯式期までが確認できる。出土数の多い蓋坏については、平成調査における分類を踏襲し、それぞれＡ類～Ｃ類に分類した。坏身Ａ類は立ち上がりがあり蓋受けを持つもの、坏身Ｂ類は無台坏のうち蓋受けのないもの、坏身Ｃ類は有台坏のものとした。坏蓋Ａ類は立ち上がりがあり受け部を持つもの、坏蓋Ｂ類は口縁部内面に返りを持つもの、坏蓋Ｃ類は口縁端部を折り返す、若しくは直截するものとした。

灰釉陶器　碗、皿、鉢、瓶、壺などが出土している。東濃窯産のものが大半を占め、光ヶ丘１号窯式期から西坂１号窯式期までが確認できる。猿投窯産のものも若干認められ、黒笹90号窯式期から百代寺窯式期までが確認できる。

山茶碗　碗、小碗、小皿、片口鉢などが出土している。東濃型が大半を占め、尾張型が続く。また若干美濃須衛型も確認できる。東濃型は矢戸上野２号窯式期から生田２号窯式期までが確認できる。尾張型は第３型式から第10型式までが確認できる。美濃須衛型はⅧ期からⅨ期までが確認できる。

中近世陶磁器　古瀬戸系施釉陶器（以下、「古瀬戸」という。）、大窯製品、常滑産陶器、貿易陶磁器、登窯製品等が出土している。古瀬戸は後期のものが大半を占める。

木製品　下駄、漆器（漆塗りの木製品、椀及び皿）、曲物底板、火付け木、杭、柱材などが出土している。製品ごとの出土数は表７のとおりである。製品名は平成調査における名称を踏襲した。また、連歯下駄、曲物底板、柱材、柱根、杭については、平成調査における分類に従い、以下のように細分類した。

連歯下駄：前壺の位置と歯裏の幅により分類し、Ａ１類、Ｂ２類などと呼称した。（図８）

Ａ類　前壺を左右どちらかに寄せて開けたもの、Ｂ類　前壺を台のほぼ中央に開けたもの

１類　歯裏が台の幅と同じもの、２類　歯裏が台の幅より広いもの

曲物底板：形状により、円形、耳付円形、楕円形、耳付楕円形、方形、四葉形に分類した。（図９）

柱材：横架材との仕口部の形態から以下のように分類した。（図10）

Ａ１類　Ｖ字状の枝分れ部分を利用するもの

Ａ２類　Ｌ字状の枝分れ部分を利用するもの

Ｂ１類　柱頭に施された出枘の断面形が円形を呈するもの

Ｂ２類　柱頭に施された出枘の断面形が方形を呈するもの

Ｃ１類　柱頭に縦の半截距離が短い鬢太（びんた）を作り出すもの

Ｃ２類　柱頭に縦の半截距離が長い鬢太を作り出すもの

柱根：木取り、断面形、底部の形態より分類し、Ａ１ａ類、Ｂ２ａ類などと呼称した。（図11）

Ａ類　丸木を分割した材を用いているもの、Ｂ類　芯持材を用いているもの

１類　多角形が明瞭な断面形を呈するもの、２類　円形を基本とする断面形を呈するもの

ａ類　底部がほぼ平坦な形態を呈するもの、ｂ類　底部が平坦でない形態を呈するもの

杭：木取り、先端の形状、加工状況により分類し、ＩＡａ類、ⅡＣｂ類などと呼称した。（図12）

木取り

Ⅰ類　丸木芯持ち材、Ⅱ－１類　単なる割り材、Ⅱ－２類　芯部側を削り角状にした割り材、Ⅱ－３類　木肌側を削り角状にした割り材、Ⅱ－４類　半割材、Ⅲ類　角材、Ⅳ類　板材

先端の形状

Ａ類　周縁方向から比較的鋭角に先端を削り出したもの

Ｂ類　周縁方向から比較的鈍角に先端を削り出したもの

Ｃ類　１～２方向もしくは片面から比較的鋭角に先端を削り出したもの

Ｄ類　１～２方向もしくは片面から比較的鈍角に先端を削り出したもの

加工状況

ａ類　削り面に数度にわたる緻密な削り痕を残すもの、ｂ類　単純な削り痕を残すもの

なお、出土位置、残存率、製品名の判別可否等の観点をもとに抽出した32点は樹種同定を、漆器はすべて漆塗膜分析を実施し、その結果を第４章に記載した。

表７　出土木製品一覧表

分類群	装飾・装身具	容器			祭祀具	雑具	土木材	建築部材			用途不明品		
器種	下駄	椀	皿	曲物身	斎串	火付け木	杭	柱		横架材	板状木製品	棒状木製品	角柱状木製品
器種細分	連歯下駄	漆器椀	漆器皿	曲物底板	－	－	－	柱材	柱根	－	板材	棒状材	角材
点数	1	1	1	1	1	15	11	2	4	1	35	11	1

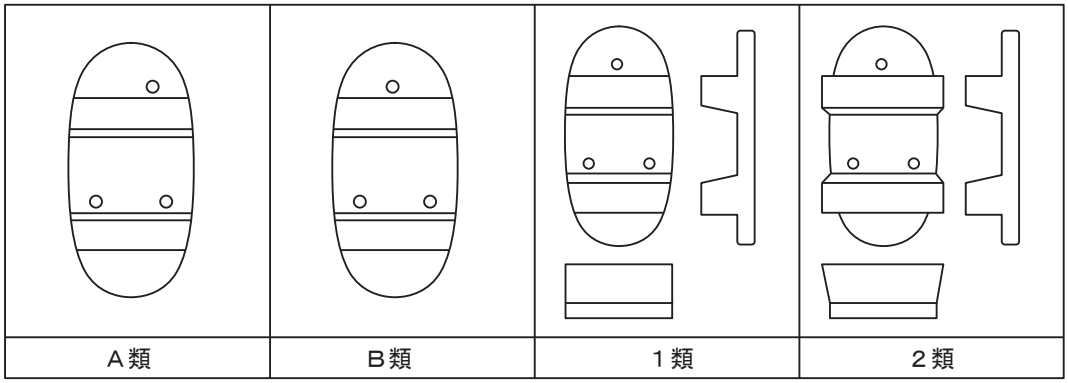


図８　連歯下駄の分類

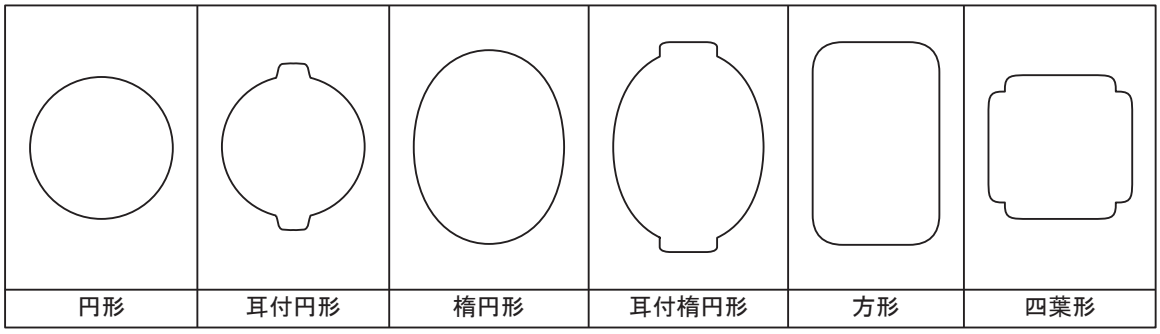


図９　曲物底板の分類

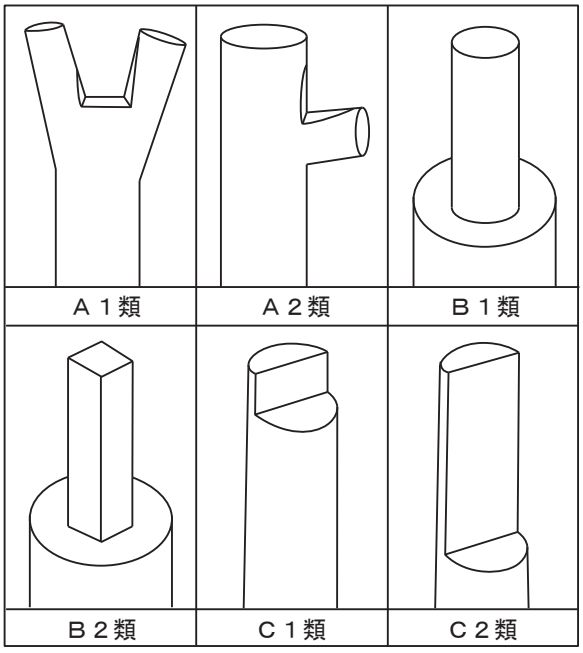


図 10　柱材の分類

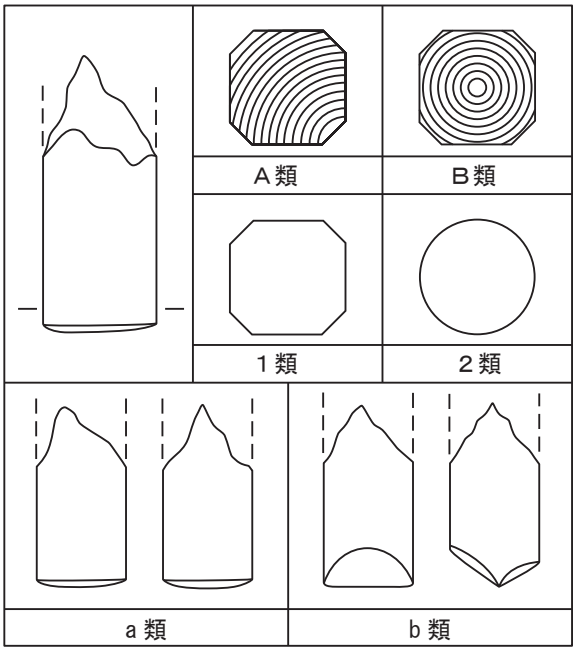


図 11　柱根の分類

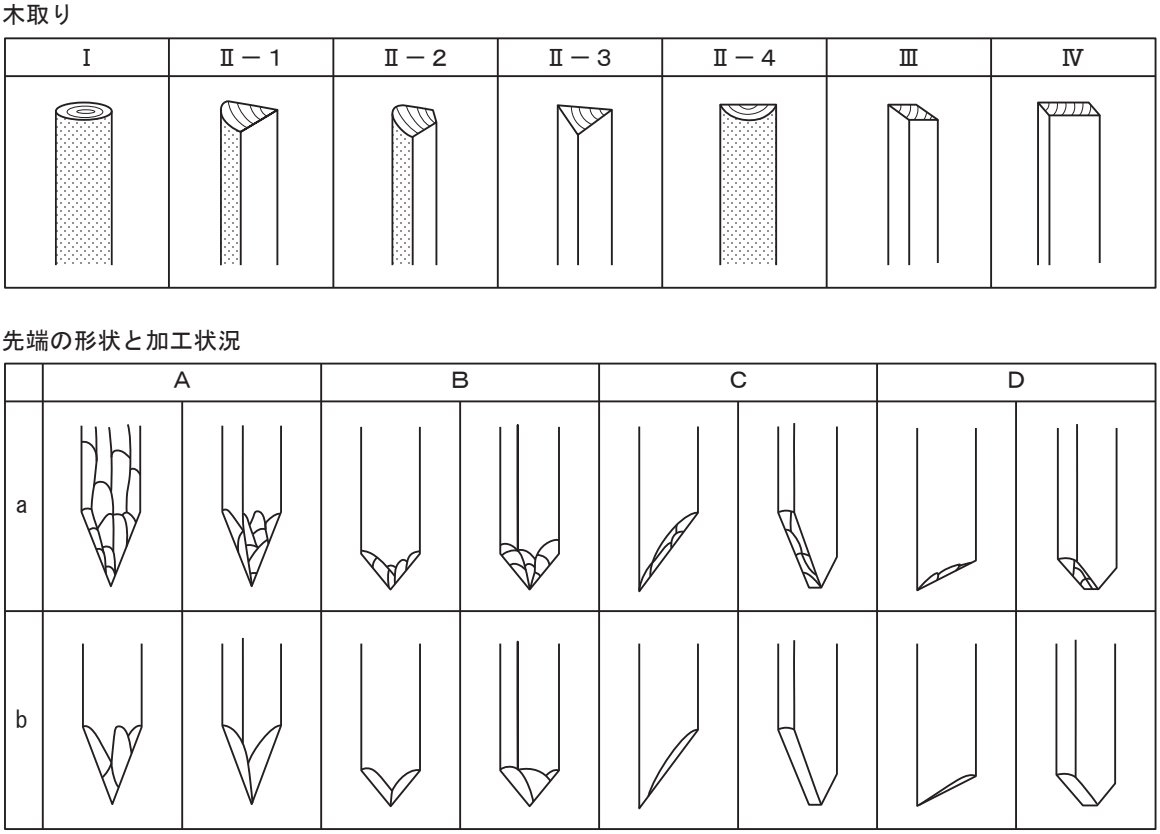


図 12　杭の分類

土製品　瓦及び不明製品が４点出土している。

石器・石製品　剥片、砥石などが19点出土している。

金属製品　鏃などの鉄製品が２点出土している。

３　遺物観察表

本報告書に掲載した遺物の観察表は、それぞれ種別ごとに作成した。種別により一覧表の項目は異なるが、主な項目の内容は次のとおりである。

出土地点　出土した地点を記載した。

遺構名・グリッド　遺構名は遺構番号を記載した。グリッドは原則として出土位置が明らかなものについて第１章第２節の１で示したグリッド名を記載した。

層位　Ⅰ～Ⅲ層から出土した場合は、基本層序名を記載した。また、遺構出土の場合、土層分層前は埋土を深さ約５㎝ごとに区切り、上層から順に「ａ・ｂ・ｃ…」の順に記載し、土層分層後はその土層番号（１・２・３…）を記載した。

口径等　土器の（　）で示した値は、口径及び底径は復元径を、器高は残存高を記載した。

長さ等　石製品、木製品の（　）で示した値は残存長を記載した。

胎土　含有物は肉眼観察による。混和材の量により、「粗」、「やや粗」、「密」に分けて記載した。

調整　内面と外面の調整について記載した。

注

１）出土遺物の器種分類や編年観及び年代観は、以下の文献を参考とした。この他に参考とした文献は巻末に一括して記載した。なお土師器については早野浩二氏、須恵器については渡邉博人氏、在地産の土器については長瀬治義氏の指導を得たが、最終的な判断は執筆担当者が行った。

愛知県史編さん委員会2007『愛知県史　別編　窯業２　中世・近世　瀬戸系』、愛知県

愛知県史編さん委員会2010『愛知県史　資料編４　考古４　飛鳥～平安』、愛知県

愛知県史編さん委員会2012『愛知県史　別編　窯業３　中世・近世　常滑系』、愛知県

愛知県史編さん委員会2015『愛知県史　別編　窯業１　古代　猿投系』、愛知県

赤塚次郎・早野浩二2001「松河戸・宇田様式の再編」『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』第２号、愛知県埋蔵文化財センター

北村和宏1996「尾張の「伊勢型鍋」」『鍋と甕そのデザイン』（第４回東海考古学フォーラム）、東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会

公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2015『石座神社遺跡』第１分冊（愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第189集）

財団法人愛知県埋蔵文化財センター1990『廻間遺跡』（愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第10集）

財団法人愛知県埋蔵文化財センター1994『松河戸遺跡』（愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第48集）

独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所2010『出土建築部材における調査方法についての研究報告』

奈良国立文化財研究所1985『木器集成図録　近畿古代編』（奈良国立文化財研究所史料第27冊）

藤沢良祐1994「山茶碗研究の現状と課題」『三重県埋蔵文化財センター研究紀要』第３号、三重県埋蔵文化財センター

山内伸浩2008「東農地域における灰釉陶器・山茶碗生産の一様相」『日本考古学協会2008年度愛知大会研究発表資料集』、日本考古学協会2008年度愛知県大会実行委員会

第５節　Ｃ16・17地点の遺構・遺物

１　柱穴

SP１（図13）

検出状況　Ｃ16地点AA５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。他の遺構との重複はない。

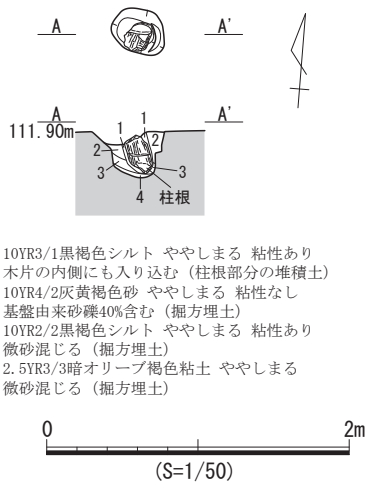
規模・形状　平面形は円形である。底面は概ね平坦である。東側壁面は２段に掘り込む形状である。

埋土　４層に分層した。１層は柱根部分の堆積土、２層～４層は掘方埋土である。

遺物出土状況　柱根が残存し、４層に接した状態で出土した。

出土遺物　柱根は腐食が激しく、取上げを断念した。他に遺物は出土しなかった。

時期　他の遺構との重複がなく、柱根以外の遺物が出土しなかったため、本遺構の時期は不明である。



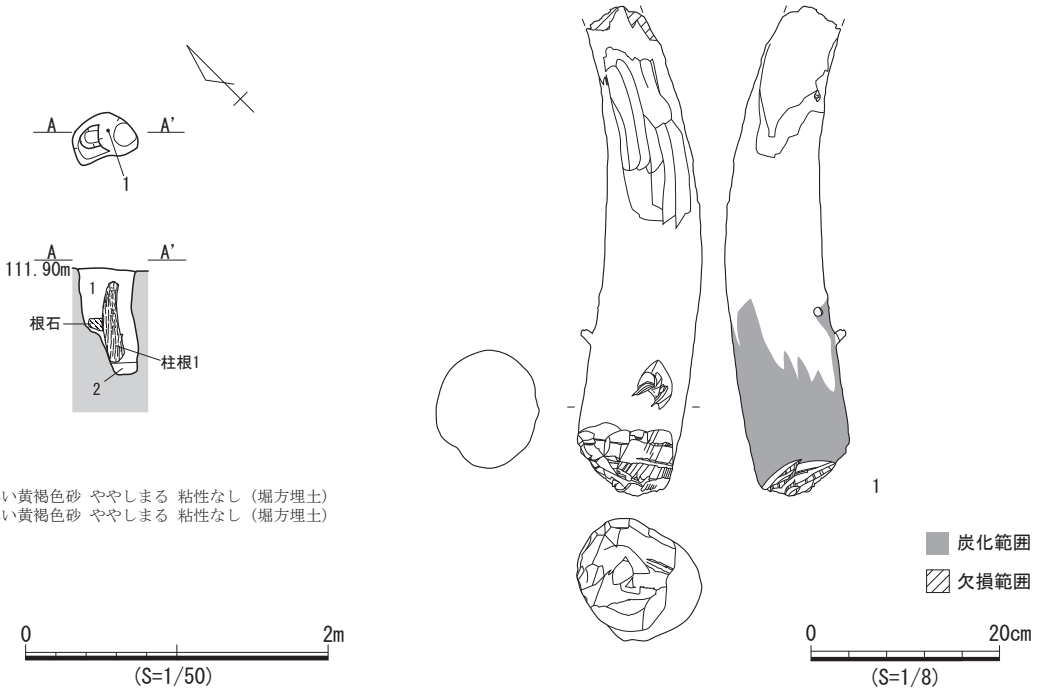
1　10YR3/1黒褐色シルト　ややしまる　粘性あり
　木片の内側にも入り込む（柱根部分の堆積土）
2　10YR4/2灰黄褐色砂　ややしまる　粘性なし
　基盤由来砂礫40%含む（掘方埋土）
3　10YR2/2黒褐色シルト　ややしまる　粘性あり
　微砂混じる（掘方埋土）
4　2.5YR3/3暗オリーブ褐色粘土　ややしまる
　微砂混じる（掘方埋土）

図13　SP１遺構図

SP２（図14）

検出状況　Ｃ16地点AA５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。SK２と重複し、本遺構はSK２より新しい。

規模・形状　平面形は円形である。底面は平坦である。南東壁面はほぼ垂直に立ち上がり、北西壁面



1　10YR5/4にぶい黄褐色砂　ややしまる　粘性なし（堀方埋土）
2　10YR5/4にぶい黄褐色砂　ややしまる　粘性なし（堀方埋土）

図14　SP２遺構図・出土遺物実測図

は２段に掘り込む形状である。段の平坦部で柱根を支えたと考えられる根石を確認した。

埋土　２層に分層した。いずれも掘方埋土である。柱根は上部が腐食により欠損しているが、柱根上部に柱痕跡は確認できなかった。

遺物出土状況　掘方埋土から土師器１点、山茶碗３点が出土した。柱根（掲載番号１、以下括弧内は掲載番号のみを記載）が残存していた。

出土遺物　柱根を図示した。土器類は小片のため図示しなかった。１はＢ２ｂ類に分類される柱根である。底部は２方向から切断され、先端には斧痕が明瞭に残る。下端は削り込みにより尖り、明瞭な刃痕が確認できる。刃幅は２～３cmである。胴部の右上方はよく調整され、滑らかになっている。上端部は欠失し、表面下部は炭化している。

時期　掘方埋土から大畑大洞４号窯式期の東濃型山茶碗が出土したことから、本遺構の構築は14世紀初頭以降と考えられる。

２　自然流路

NR１（図15）

検出状況　Ｃ16地点AD４・AD５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。NR2・NR3と重複する。本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状　発掘区の南端に位置し、南側は発掘区外に続く。平面形は不定形である。底面は南側に向かって緩やかに下がる。北側壁面はやや急に立ち上がる。

埋土　10層に分層した。埋土は砂礫（１層～７層、10層）とシルト（８層及び９層）に大別できる。堆積状況から、当初は一定量の水量が流れていたが、その後流水が少なくなり、再び一定量の水量が流れたと考えられる。

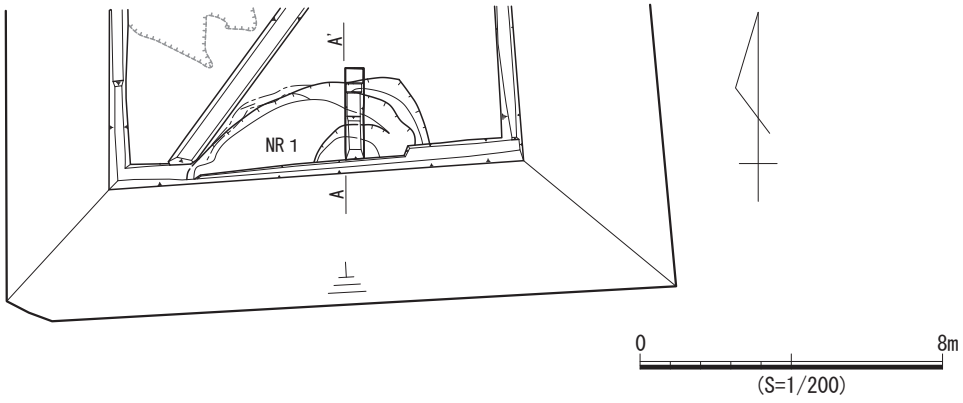
遺物出土状況　１層～７層から土師器44点、須恵器55点、灰釉陶器９点（２）、山茶碗14点（３・４）が散在して出土した。８層及び９層から土師器８点、須恵器32点（５）、灰釉陶器８点（６）、山茶碗５点が散在して出土した。10層から土師器31点、須恵器174点（７～13）、灰釉陶器10点（14）、山茶碗10点（15）、石器１点が散在して出土した。

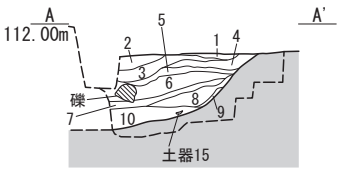
出土遺物　須恵器８点、灰釉陶器３点、山茶碗３点を図示した。２は東濃窯産の灰釉陶器で、虎渓山１号窯式期の碗である。３・４はいずれも東濃型山茶碗で、３は谷迫間２号窯式期の碗、４は窯洞１号窯式期の碗である。５は猿投窯産の須恵器で、岩崎25号窯式期の坏身Ｃ類である。６は東濃窯産の灰釉陶器で、大原２号窯式期の碗である。７・８はいずれも猿投窯産の須恵器で、７は高蔵寺２号窯式期の坏蓋Ｃ類、８は東山15号窯式期の坏蓋Ａ類である。９～12はいずれも美濃須衛窯産の須恵器で、９はⅢ期第３小期からⅣ期第１小期の坏身Ｂ類、10はⅣ期第１小期の坏身Ｂ類、11はⅣ期第２小期の坏身Ｂ類、12はⅢ期第３小期の甕である。13は在地産の須恵器で、岩崎41号窯式期から高蔵寺２号窯式期併行の坏蓋Ｂ類若しくはＣ類である。14は東濃窯産の灰釉陶器で、光ヶ丘１号窯式期の皿である。15は美濃須衛型山茶碗でⅧ期の広口壺である。

時期　NR２との重複関係、図示した15から、本遺構は12世紀後葉と考えられる。

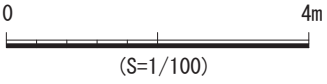
NR２（図16～18）

検出状況　Ｃ16地点AB３～AD５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。NR１・NR３と重複する。本遺構はNR１より古く、NR３より新しい。





1　2.5Y5/3黄褐色砂 ややしまる 粘性なし
2　2.5YR5/3黄褐色砂 ややしまる 粘性なし　2.5Y4/2暗灰黄色砂礫を30%含む
3　2.5Y4/2暗灰黄色砂礫 ややしまる 粘性なし
4　2.5Y4/2暗灰黄色砂　ややしまる　粘性なし　10YR3/1黒褐色シルトが層状に混入
5　2.5Y4/2暗灰黄色砂 ややしまる 粘性なし
6　2.5Y4/2暗灰黄色砂礫 ややしまる 粘性なし 2.5Y4/3オリーブ褐色砂が層状に混入
7　2.5Y4/3オリーブ褐色砂 ややしまる 粘性なし
8　10YR4/1褐灰色シルト ややしまる　粘性あり 微砂含む 炭粒含む
9　10YR2/1黒色シルト　ややしまる 粘性あり
10 2.5Y3/2黒褐色砂 ややしまる　粘性なし 径3～5cmの亜円礫40%含む



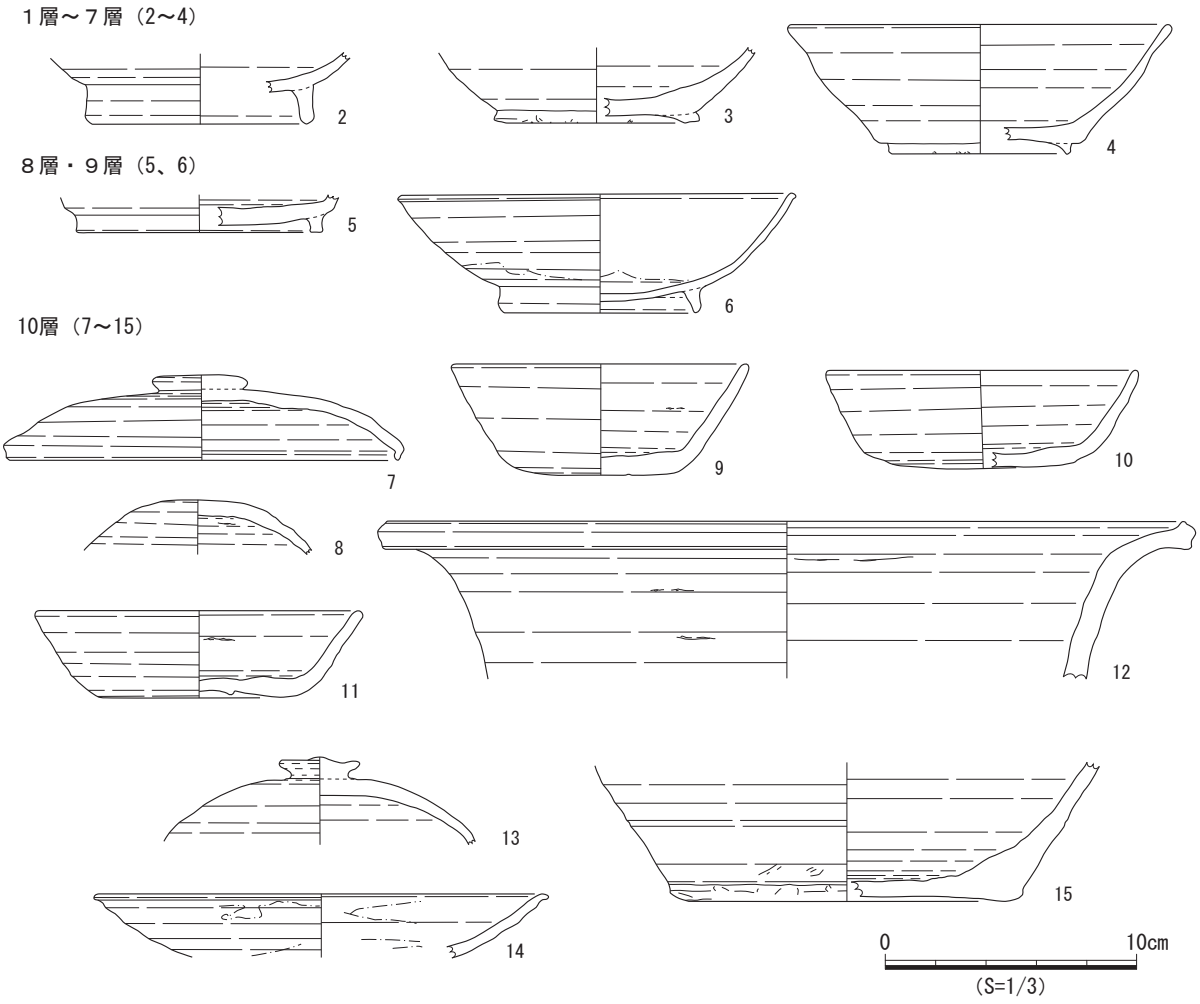
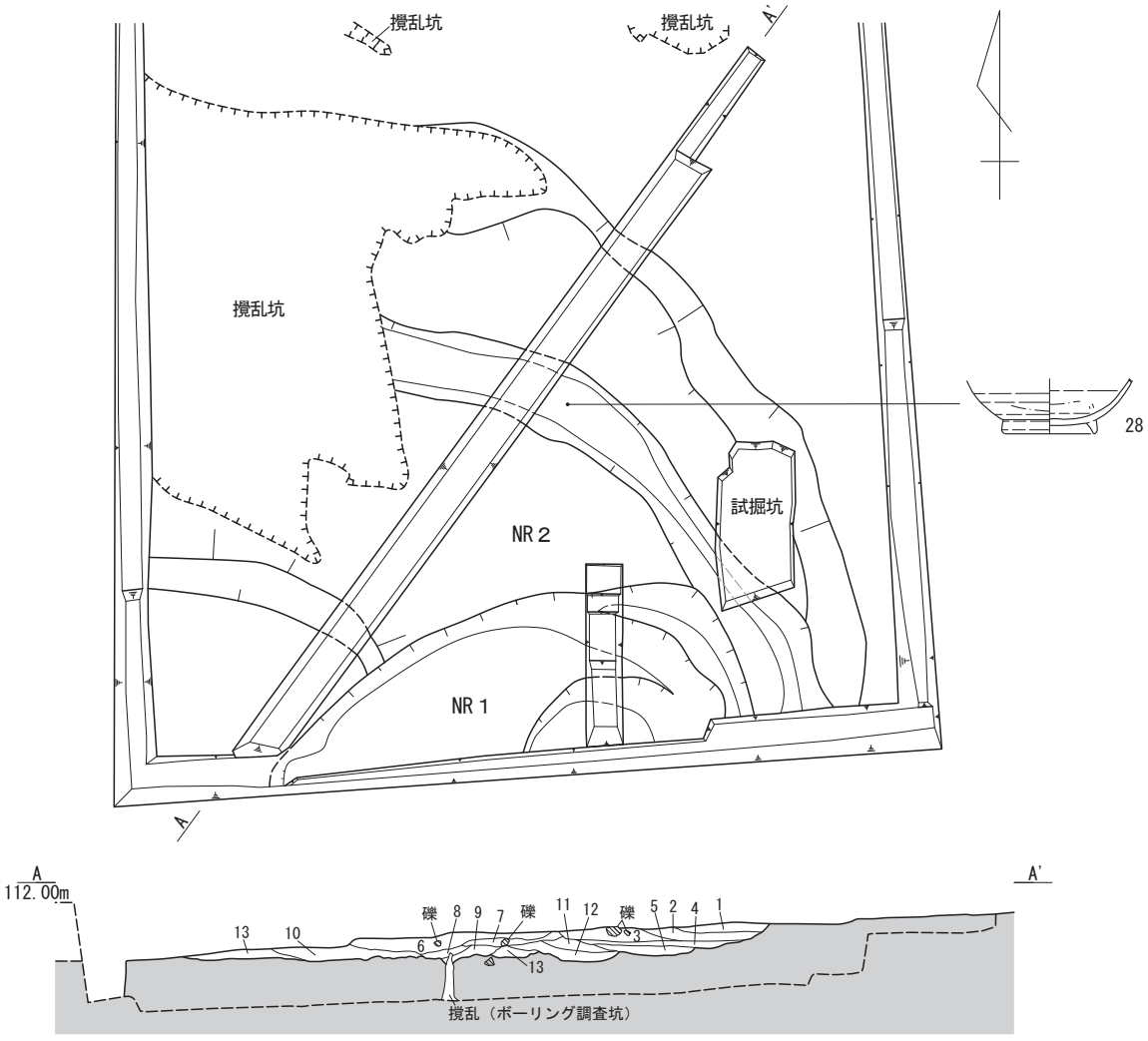


図15　NR１遺構図・出土遺物実測図

規模・形状　発掘区のほぼ全域に位置する。南側は発掘区外に続き、西側は攪乱坑により消失するため、全容は不明である。底面は南西側は平坦で、北東側は丸い。壁面の立ち上がりは南西側は緩やかで、北東側はやや急である。

埋土　13層に分層した。埋土は砂（２層、３層、５層、６層、８～12層）とシルト（１層、４層、７層、13層）に大別でき、地山（岩盤）に由来すると考えられる砂質ブロックが混じる。堆積状況から、一定量の水量が流れていた時期と、流水量が少なくなる時期が繰り返されていたと考えられる。



1　7.5YR3/1黒褐色シルト ややしまる 粘性あり　10YR3/1黒褐色砂を20%含む 炭粒を5%含む
2　2.5Y4/3オリーブ褐色砂 ややしまる 粘性なし　2.5Y3/2黒褐色シルトが層状に混入
3　2.5Y4/3オリーブ褐色砂 ややしまる 粘性なし　地山由来砂質ブロックを40%含む
4　7.5YR3/1黒褐色シルト ややしまる 粘性あり　地山由来砂質ブロックを10%含む
5　10YR3/1黒褐色砂 ややしまる 粘性なし　地山由来砂質ブロックを20%含む
6　10YR5/3にぶい黄褐色砂 ややしまる 粘性なし 地山由来砂質ブロックを10%含む
7　10YR3/1黒褐色シルト ややしまる 粘性あり　10YR5/2灰黄褐色砂を40%含む
8　10YR3/1黒褐色砂 ややしまる 粘性なし　2.5Y4/3オリーブ褐色砂が層状に混入
9　10YR3/1黒褐色砂 ややしまる 粘性なし　5Y2/1黒色シルトが層状に混入　地山由来砂質ブロックを10%含む
10　10YR3/1黒褐色砂 ややしまる 粘性なし
11　2.5Y3/3暗オリーブ褐色砂 ややしまる 粘性なし 地山由来砂質ブロックを20%含む 径1cm程度の亜円礫を3%含む
12　2.5Y4/3オリーブ褐色砂 ややしまる 粘性なし　2.5Y3/2黒褐色シルトが層状に混入
　地山由来砂質ブロックを20%含む 径2～3cm程度の亜円礫を3%含む
13　10YR4/1黒褐色シルト ややしまる 粘性あり 地山由来砂質ブロックを3%含む 炭粒混じる

0　4m
(S=1/100)

図16　NR２遺構図

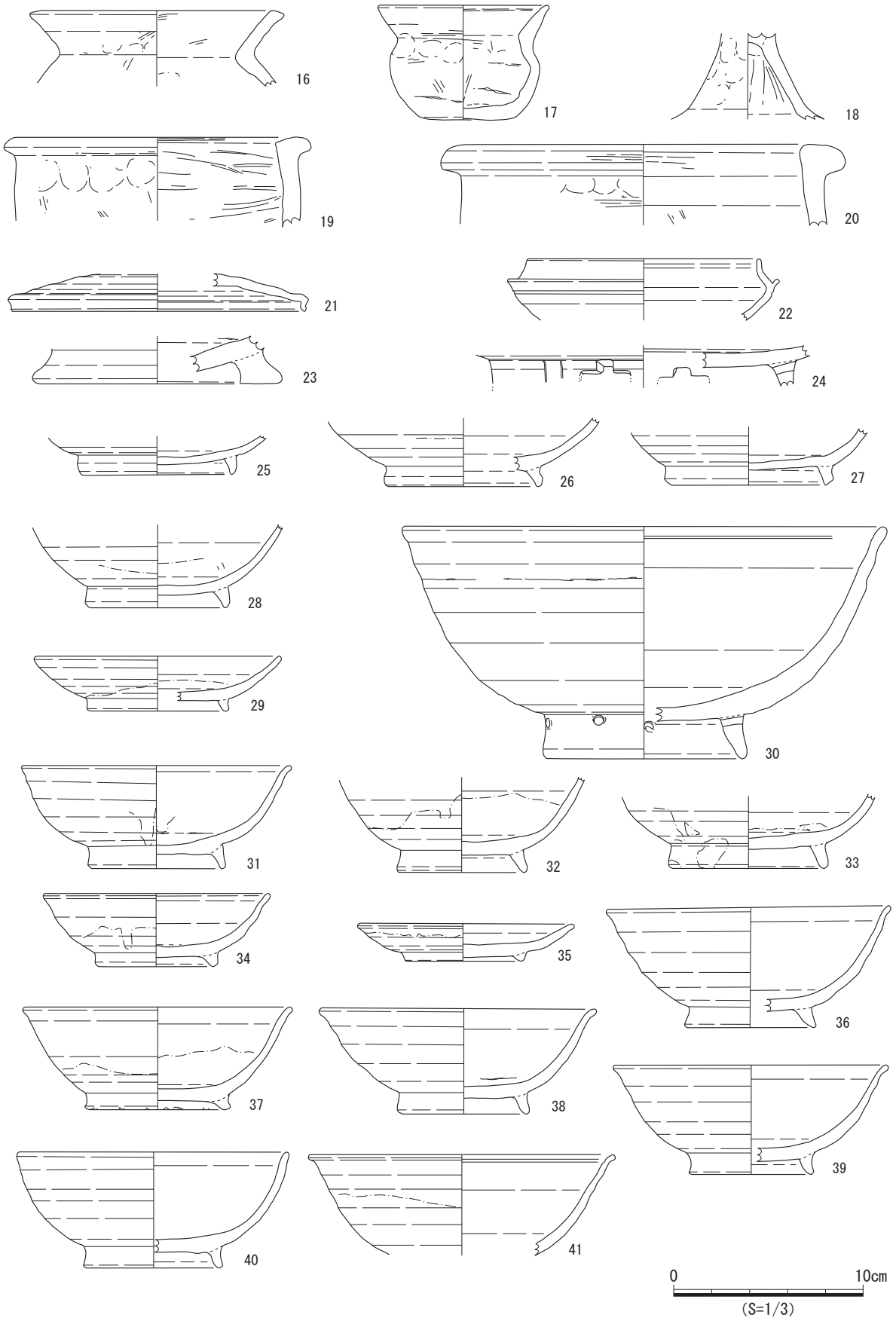


図17　NR２出土遺物実測図（１）

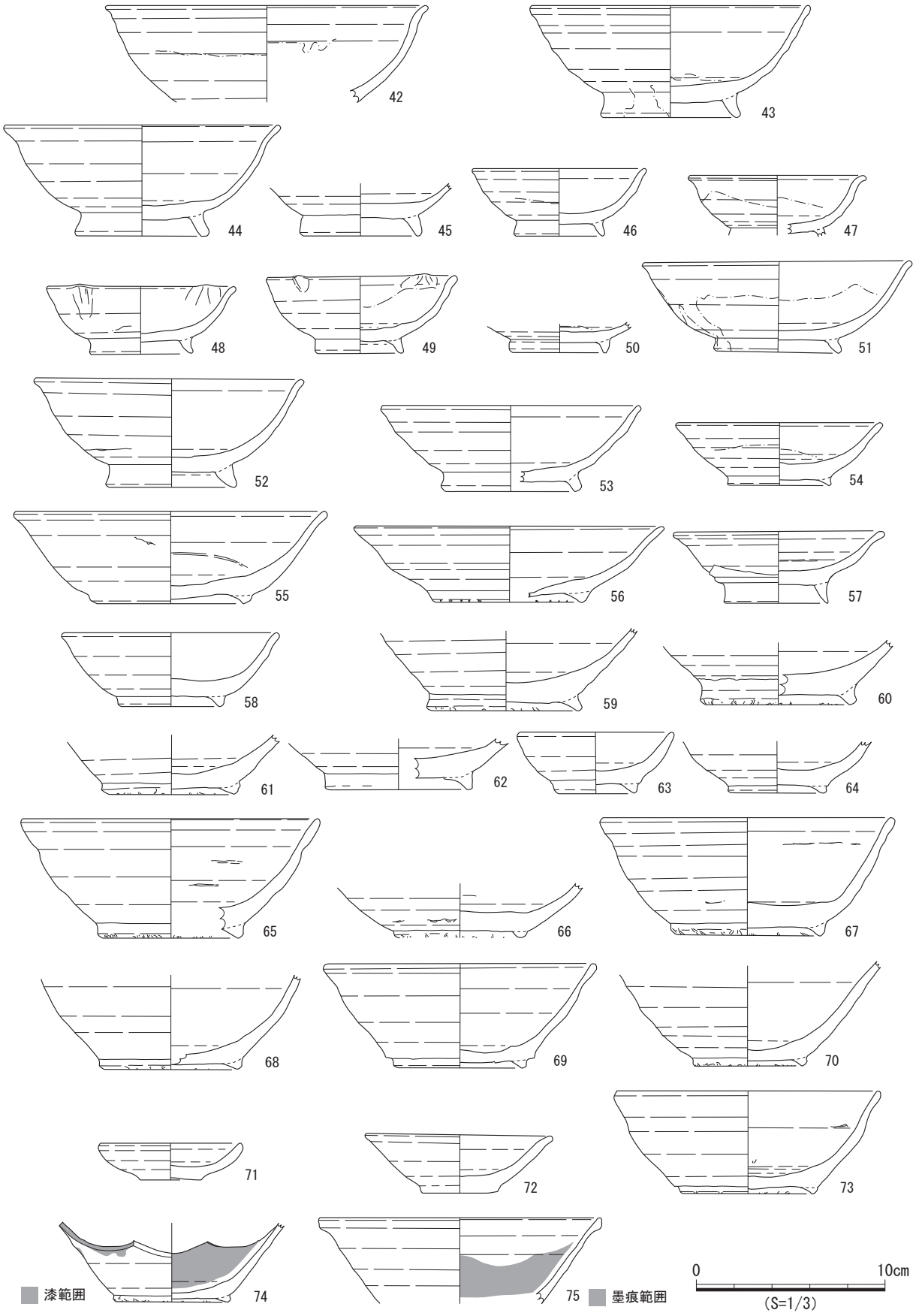
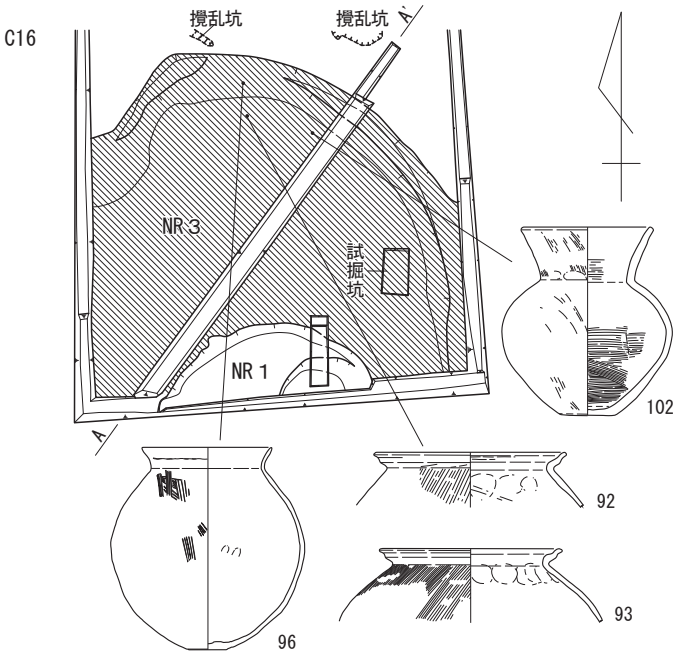


図18　NR２出土遺物実測図（２）

遺物出土状況　埋土から土師器771点（16～20）、須恵器525点（21～24）、灰釉陶器567点(25～54)、山茶碗482点(55～75)、古瀬戸３点、石器１点が出土した。28は13層底面から出土した。

出土遺物　土師器５点、須恵器４点、灰釉陶器30点、山茶碗21点を図示した。16は宇田Ⅰ式から宇田Ⅱ式の甕である。17は松河戸Ⅱ式から宇田Ⅰ式の小型壺である。18は松河戸Ⅱ式から宇田Ⅰ式の高坏である。19・20は北村和宏による古代清郷型鍋編年の第Ⅱ段階第３小期（北村2001）の清郷型鍋である。21～23はいずれも猿投窯産の須恵器で、21は鳴海32号窯式期の坏蓋Ｃ類、22は蟆ヶ池窯式期から東山44号窯式期の坏身Ａ類、23は高蔵寺２号窯式期から鳴海32号窯式期の広口瓶である。24は美濃須衛窯産の須恵器で、Ⅳ期第１小期からⅤ期第１小期の盤である。25～54はいずれも東濃窯産の灰釉陶器で、25・26は光ヶ丘１号窯式期の碗、27は大原２号窯式期の碗、28は虎渓山１号窯式期の碗、29は虎渓山１号窯式期の皿、30は虎渓山１号窯式期から丸石２号窯式期の鉢、31～33は丸石２号窯式期の碗、34は丸石２号窯式期の小碗、35は丸石２号窯式期の皿、36～45は明和27号窯式期の碗、46・47は明和27号窯式期の小碗、48・49は明和27号窯式期の輪花碗、50は明和27号窯式期の皿、51～53は西坂１号窯式期の碗、54は西坂１号窯式期の小碗である。55・56はいずれも尾張型山茶碗で、第５型式の碗である。57は美濃須衛型山茶碗で、Ⅷ期の小碗である。58～75はいずれも東濃型山茶碗で、58は矢戸上野２号窯



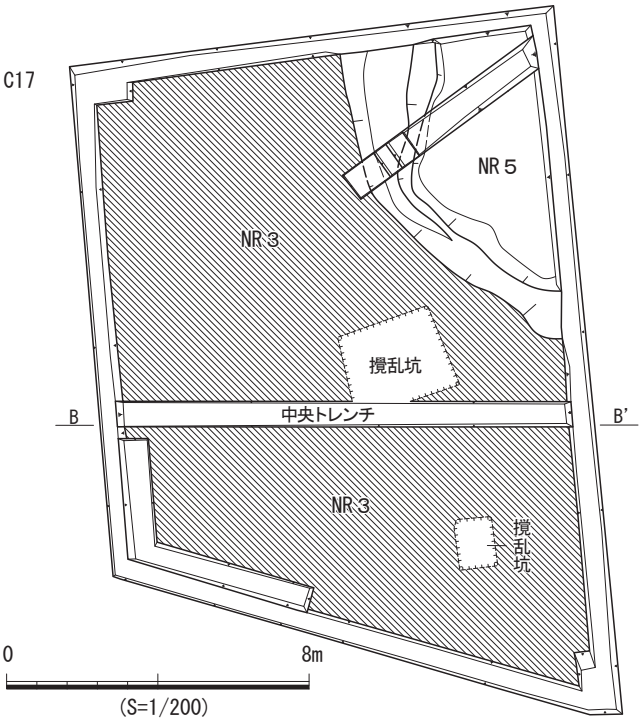
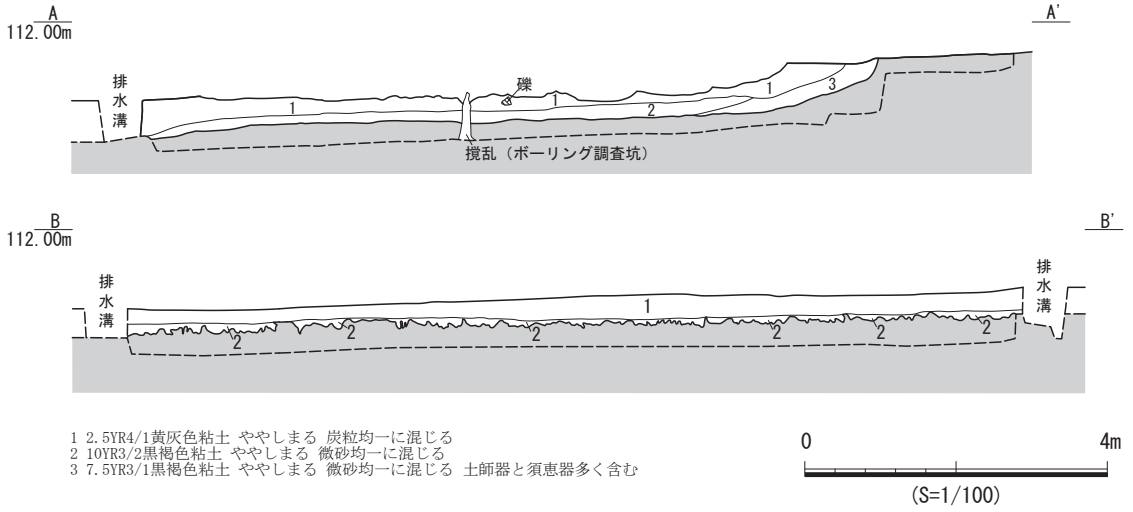


図19　NR３遺構図（１）



遺物出土状況図

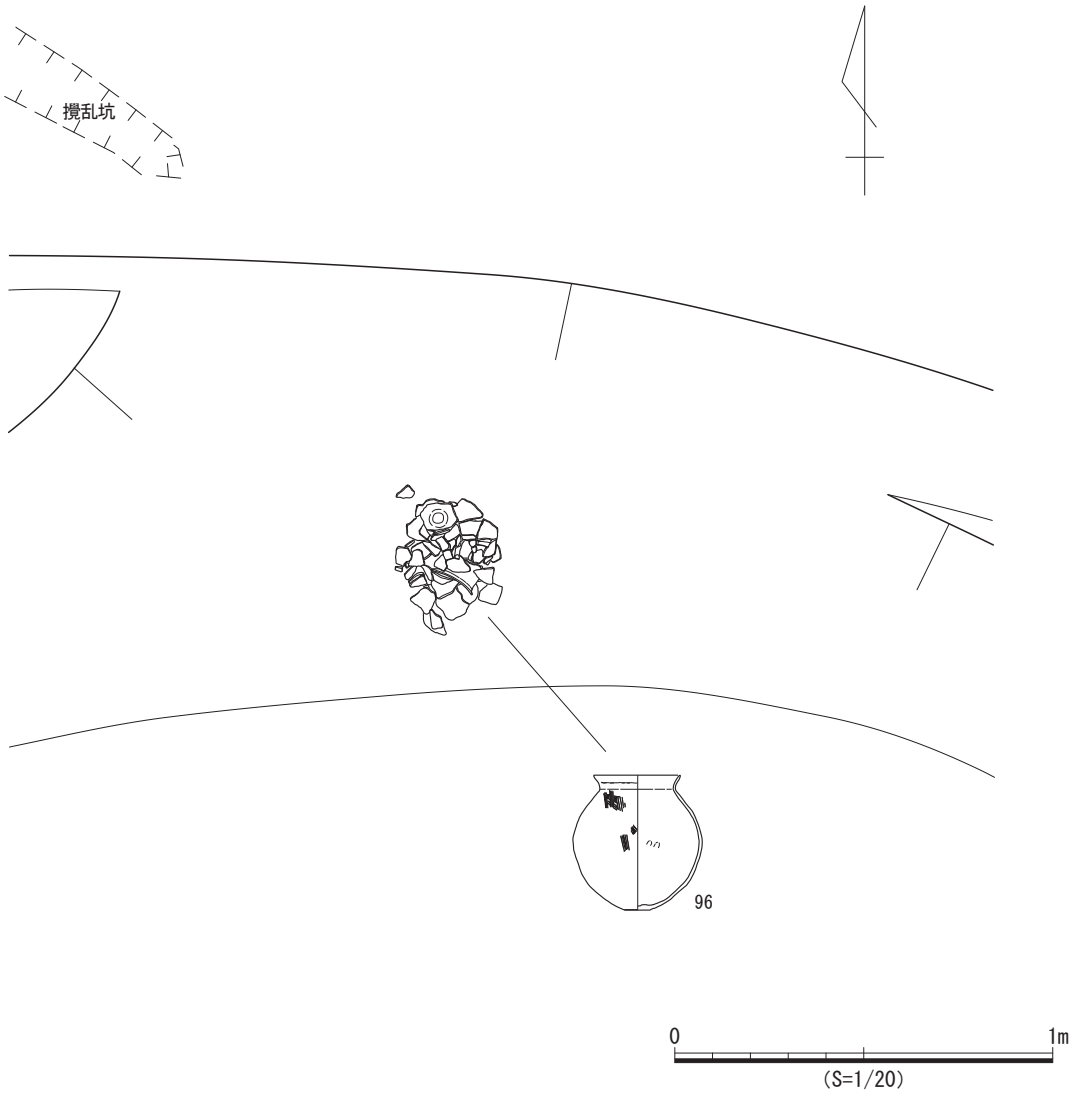


図20　NR３遺構図（２）・遺物出土状況図

式期の小碗、59～62は谷迫間２号窯式期の碗、63・64は谷迫間２号窯式期の小碗、65～67は浅間窯下１号窯式期の碗、68～70は丸石３号窯式期の碗、71は丸石３号窯式期の小皿、72は丸石３号窯式期の平高台皿、73は窯洞１号窯式期の碗、74は白土原１号窯式期の碗、75は白土原１号窯式期から明和１号窯式期の碗である。74は内面及び破断面に漆が付着する。75は内面の体部下半に墨痕が確認できる。

時期　NR１との重複関係、図示した28から、本遺構は10世紀中葉から12世紀中葉と考えられる。

NR３（図19～23）

検出状況　Ｃ16地点AB３～AD５グリッド及びＣ17地点AH３～AK６グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。Ｃ17地点においては、中央トレンチ壁面（Ｂ－Ｂ’断面）における土層確認の結果、標高、埋土の土質及び堆積状況、出土遺物の様相等から、Ｃ16地点において検出した本遺構と同一遺構であると判断し、遺構の掘削は実施しなかった。NR１・NR２・NR５・SK９・SK10・SK14・SK15と重複する。本遺構はいずれの遺構より古い。

規模・形状　Ｃ16地点及びＣ17地点発掘区のほぼ全域に位置する。南側、西側、東側は発掘区外に続くため、全容は不明である。底面は概ね平坦で、Ａ－Ａ’断面における北東壁面はやや急に立ち上がる。

埋土　３層に分層した（Ａ－Ａ’断面、Ｂ－Ｂ’断面）。埋土は微砂及び炭粒を含む粘土である。概ね水平に堆積するが、Ｂ－Ｂ’断面における３層と基盤との層界は乱れる。堆積状況から、湿地性堆積と考えられる。

遺物出土状況　埋土（Ｃ16地点）から土師器4,844点（76～128）、須恵器553点（129～131）、木製品１点（132）、石器４点（133・134）が出土した。埋土（Ｃ17地点）から土師器13点、須恵器15点（135）、木製品11点（136）が出土した。96は本遺構の肩部から破片がまとまって出土した（図20）。102は完形に近い状態で逆位で出土した（図版４）。92・93はいずれも本遺構の肩部から出土した。

出土遺物　土師器53点、須恵器４点、板状木製品１点、火付け木１点、石器２点を図示した。76は廻間Ⅱ式から廻間Ⅲ式のく字甕である。77は松河戸Ⅰ式から松河戸Ⅱ式のく字甕である。78～85は松河戸Ⅰ式から宇田Ⅰ式のく字甕である。86～88は廻間Ⅰ式から廻間Ⅲ式のＳ字甕である。89～91は廻間Ⅱ式のＳ字甕である。92・93は廻間Ⅲ式のＳ字甕である。94は儀町式の甕である。95は廻間Ⅱ式のパレス壺である。96は廻間Ⅲ式の広口壺である。97～100は廻間Ⅲ式の二重口縁壺である。97は内面に赤色塗彩が確認できる。99・100は外面に赤色塗彩が確認できる。101は松河戸Ⅰ式から松河戸Ⅱ式の有段口縁壺である。102は廻間Ⅲ式の小型壺である。103は宇田Ⅰ式から宇田Ⅱ式の小型壺である。104は廻間Ⅲ式の壺である。105は松河戸Ⅰ式から宇田Ⅰ式の壺である。106は松河戸Ⅰ式の大型高坏である。107・108は松河戸Ⅰ式から松河戸Ⅱ式の大型高坏である。109・110は宇田Ⅰ式から宇田Ⅱ式の椀状坏部高坏である。111は廻間Ⅱ式から廻間Ⅲ式の高坏である。112は廻間Ⅲ式の高坏である。113～118は松河戸Ⅰ式から松河戸Ⅱ式の高坏である。119～121は松河戸Ⅰ式から宇田Ⅰ式の高坏である。122・123は松河戸Ⅱ式から宇田Ⅰ式の高坏である。124は宇田Ⅰ式から宇田Ⅱ式の高坏である。125は廻間Ⅱ式から廻間Ⅲ式の器台である。126は松河戸Ⅱ式から宇田Ⅰ式の鉢である。127は宇田Ⅰ式の椀である。128は儀町式の鍋若しくは甑である。129・130はいずれも猿投窯産の須恵器で、129は岩崎17号窯式期の坏蓋Ｂ類、130は東山15号窯式期の水瓶である。131は在地産の須恵器で、東山10号窯式期併行の坏身Ａ類である。132は板状木製品である。133は砥石、134は剥片である。135は猿投窯産の須恵器で、

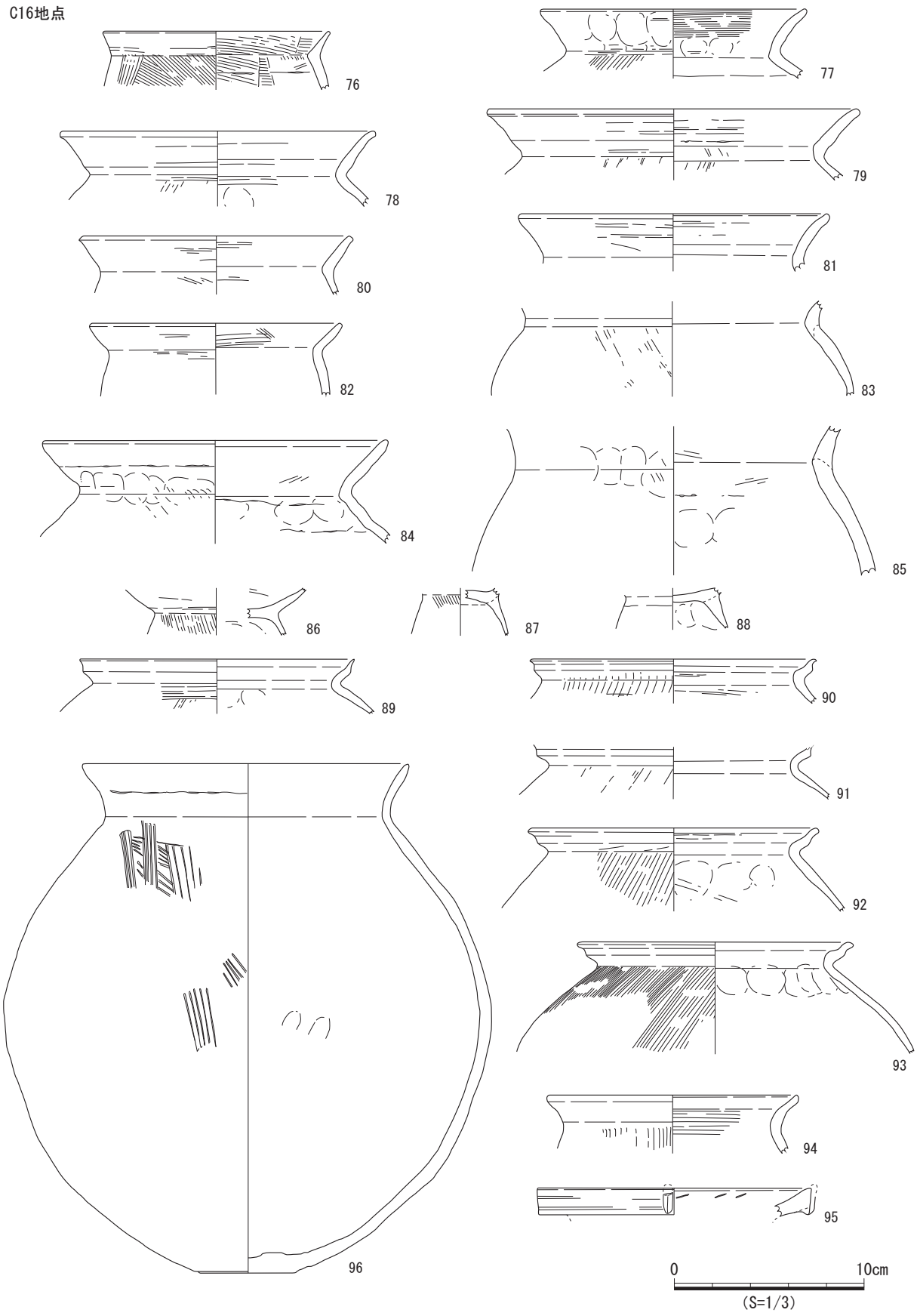


図21　NR３出土遺物実測図（１）

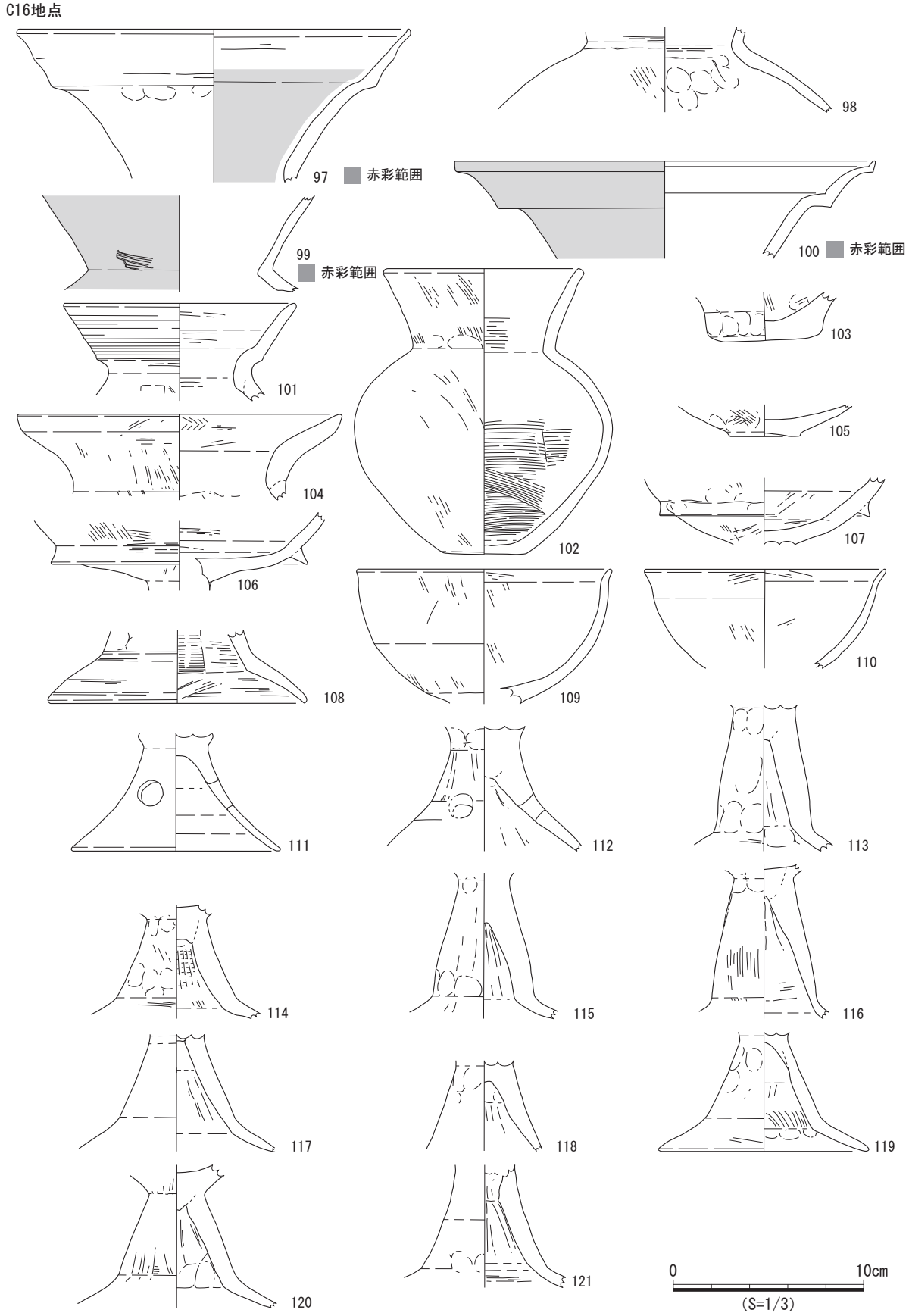


図22　NR３出土遺物実測図（２）

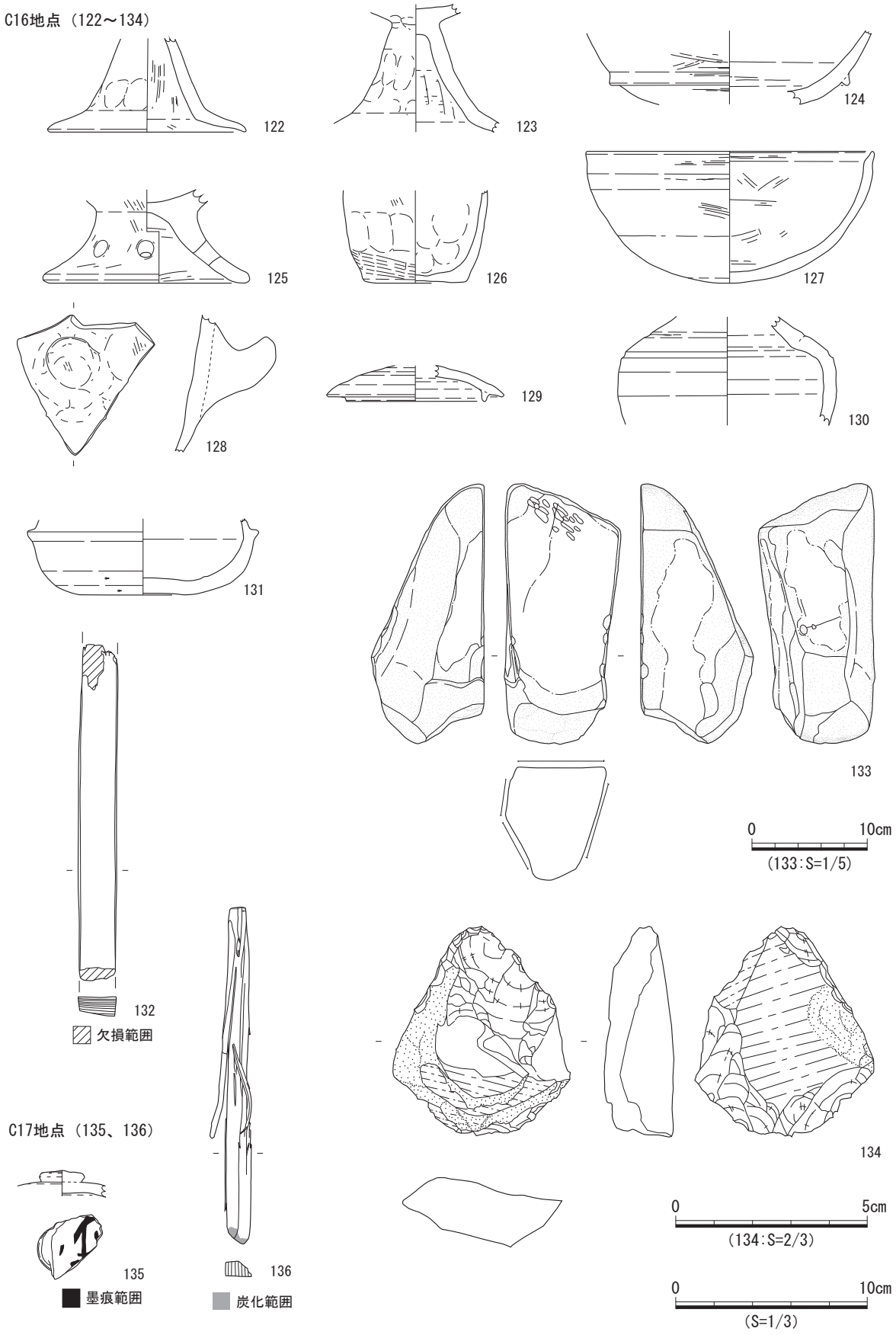


図23　NR３出土遺物実測図（３）

岩崎41号窯式期の坏蓋Ｃ類である。内面に墨痕が確認できる。136は火付け木である。

時期　NR２・NR５との重複関係、図示した92・93・96・102から、本遺構は３世紀後葉から７世紀末と考えられる。

NR５（図24～29）

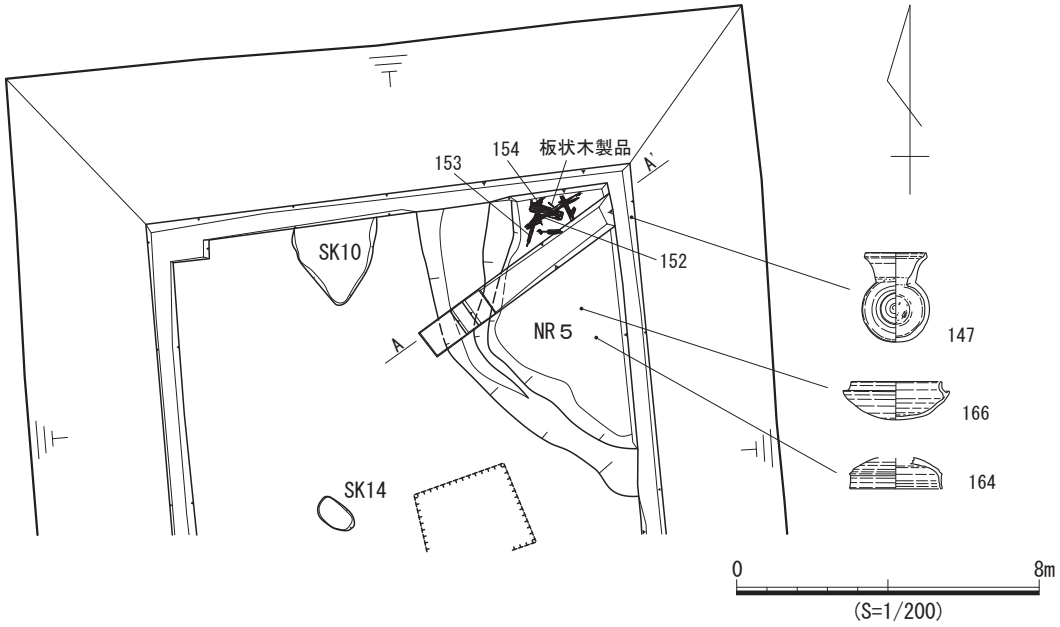
検出状況　Ｃ17地点AH５～AI６グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。SD１・NR３・SK11・SK12・SK13と重複する。本遺構はSD１・SK11・SK12・SK13より古く、NR３より新しい。

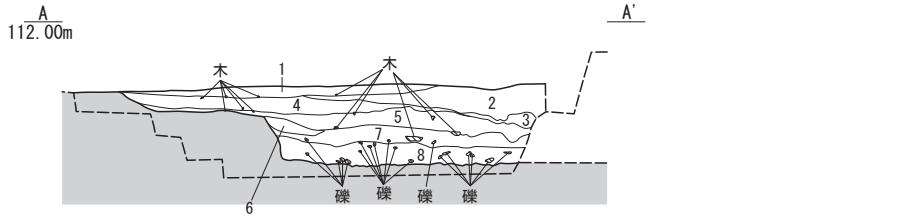
規模・形状　発掘区の北東端に位置する。本遺構の北側及び東側は発掘区外に続くため、全容は不明である。底面は平坦である。西側壁面は２段に立ち上がる。西側の壁面上段では犬走状の平坦面が存在するが、南側では消失する。

埋土　８層に分層した。埋土は上層と下層に大別できる。上層（１層～６層）はシルトであり、２層と４層の間に粗砂（３層）を挟む。下層（７層及び８層）は粗砂である。

遺物出土状況　１層～６層から土師器155点（137・138）、須恵器244点（139～151）、灰釉陶器４点、木製品14点（152～162）、石器１点が出土した。７層及び８層から土師器37点（163）、須恵器18点（164～169）、木製品14点（170～177）、石器２点（178）が散在して出土した。土器類の大半は１層～６層から出土した。３層からは完形に近いミニチュアの提瓶（147）が出土し、周辺からは須恵器甕や横瓶（145）の破片を確認した（図版４）。この提瓶は祭祀に関わるものと考えられる。また、５層底面からは木製品がまとまって出土した（図24、152～154）。

出土遺物　土師器３点、須恵器19点、柱材３点、板状木製品５点、曲物底板１点、斎串１点、火付け木５点、棒状木製品４点、石器１点を図示した。137・138は永井宏幸による古代土師器甕編年の第２段階から第３段階（永井1995）の長胴甕である。139～145はいずれも猿投窯産の須恵器で、139は岩崎25号窯式期の坏蓋Ｃ類、140は東山15号窯式期から岩崎101号窯式期の坏身Ａ類、141は岩崎25号窯式期の坏身Ｂ類、142・143は高蔵寺２号窯式期の坏身Ｃ類、144は高蔵寺２号窯式期の壺、145は岩崎41号窯式期の横瓶である。146・147はいずれも美濃須衛窯産の須恵器で、146はⅣ期第１小期の坏身Ｂ類、147はⅣ期第１小期のミニチュアの提瓶である。148は馬乗洞古窯産の可能性がある在地産の須恵器で東山44号窯式期併行の坏身Ａ類である。149は猿投窯産の須恵器で、岩崎25窯式期の坏身Ｃ類である。内面には黒漆が施されている。150・151は産地不明の須恵器である。150は坏蓋Ｃ類、151は坏身Ｃ類で、いずれも岩崎25号窯式期併行である。152は耳付楕円形に分類される曲物底板である。側板を乗せる周縁段上に紐孔が二箇所みられ、周縁段の内側は垂直に仕上げられている。内面には黒漆が施され使用痕とみられる窪みが複数確認できる。外面には刃物痕が直線的に残る。153はＢ１類に分類される柱材である。柱頭部には出枘が施され、その先端は炭化している。下端部は欠損及び腐食のため加工方法は判然としない。154は板状木製品で、表面がよく調整され滑らかに仕上げられている。ヤリガンナ痕とみられる刃物痕が左半分は真横に右半分は斜めに展開する。155は板状木製品である。156は斎串である。157～161は火付け木である。162は棒状木製品である。163は第１段階（永井1995）の長胴甕である。164～169はいずれも猿投窯産の須恵器で、164・165は東山44号窯式期の坏蓋Ａ類、166・167は東山44号窯式期の坏身Ａ類、168は岩崎41号窯式期の壺、169は東山15号窯式期の高坏である。170はＢ１類に分類される柱材である。表面上部及び右側面内部は炭化し、その他部分も被熱により薄黒く変色している。柱頭部には出枘が施され、その一部は炭化している。171～173は板状木製品である。





1　7.5YR3/1黒褐色シルト ややしまる 粘性あり
2　2.5Y3/2黒褐色シルト ややしまる 粘性あり 微砂含む 炭化物含む
3　2.5Y4/4オリーブ褐色粗砂 ややしまる 粘性なし　10G4/1暗緑灰色砂礫を7%含む　遺物多く含む
4　5Y3/1オリーブ黒色シルト ややしまる 粘性ややあり　5Y5/3灰オリーブ色砂礫ブロックを3%含む 炭化物含む 微砂含む
5　5Y2/2オリーブ黒色シルト ややしまる 粘性あり 植物遺存体含む 炭化物含む
6　2.5Y4/1黄灰色シルト ややしまる 粘性あり 炭化物含む 微砂含む
7　2.5Y4/4オリーブ褐色粗砂 ややしまる 粘性なし　2.5GY4/1暗オリーブ灰色砂礫を30%含む　2.5Y2/1黒色シルトが層状に混入
8　10YR3/1黒褐色粗砂 ややしまる 粘性なし 径5～10cm程度の亜円礫を40%含む　2.5Y3/1黒褐色粘土を底に含む

0　4m
(S=1/100)

木製品出土状況図（５層底面）

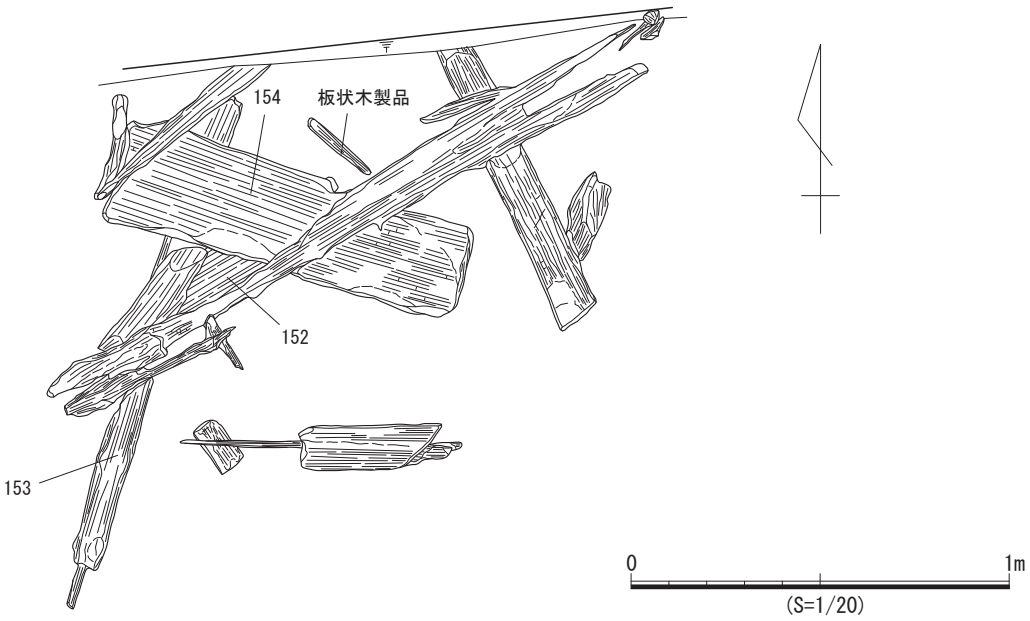


図24　NR５遺構図・木製品出土状況図

上層（３層）

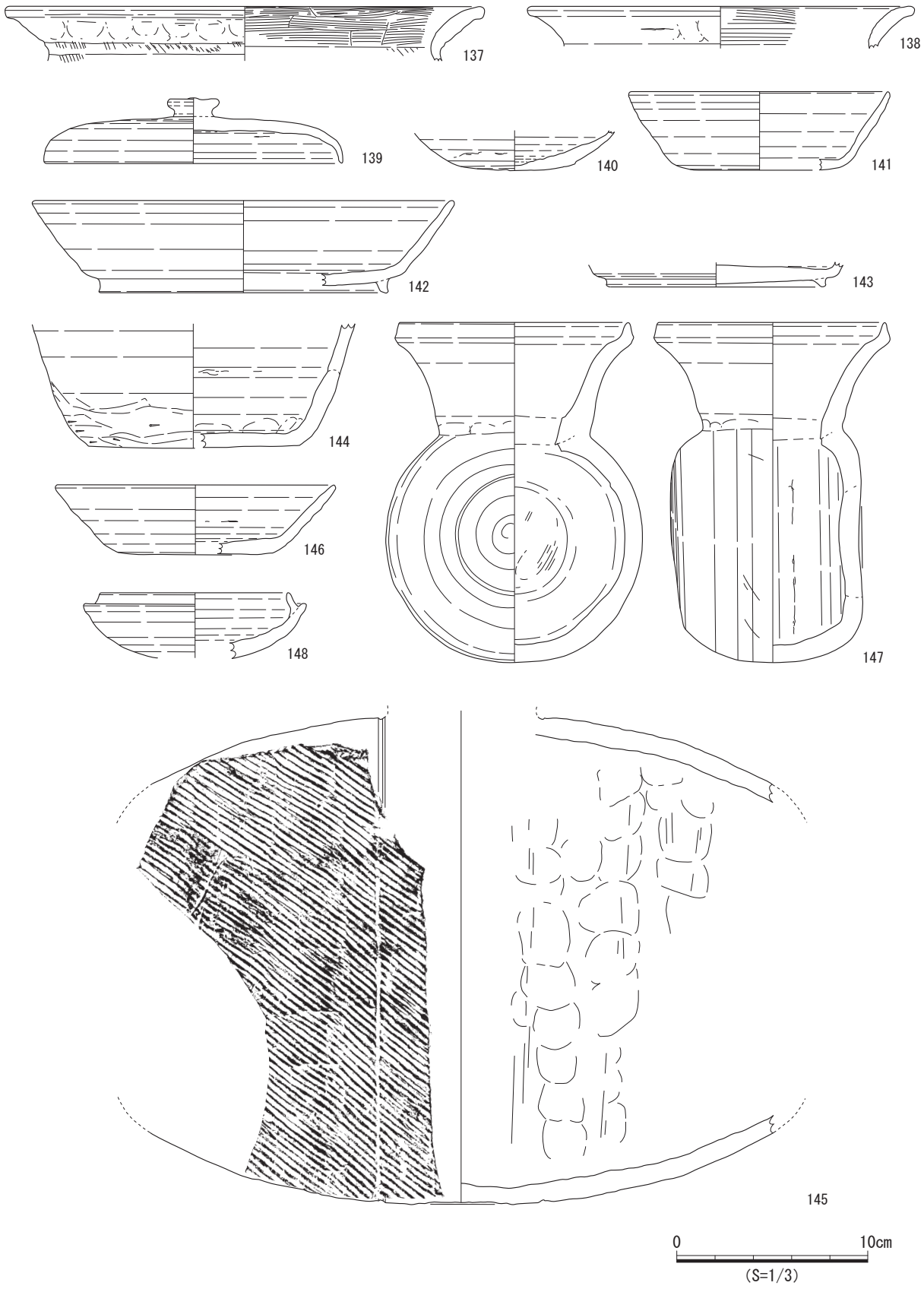


図25　NR５出土遺物実測図（１）

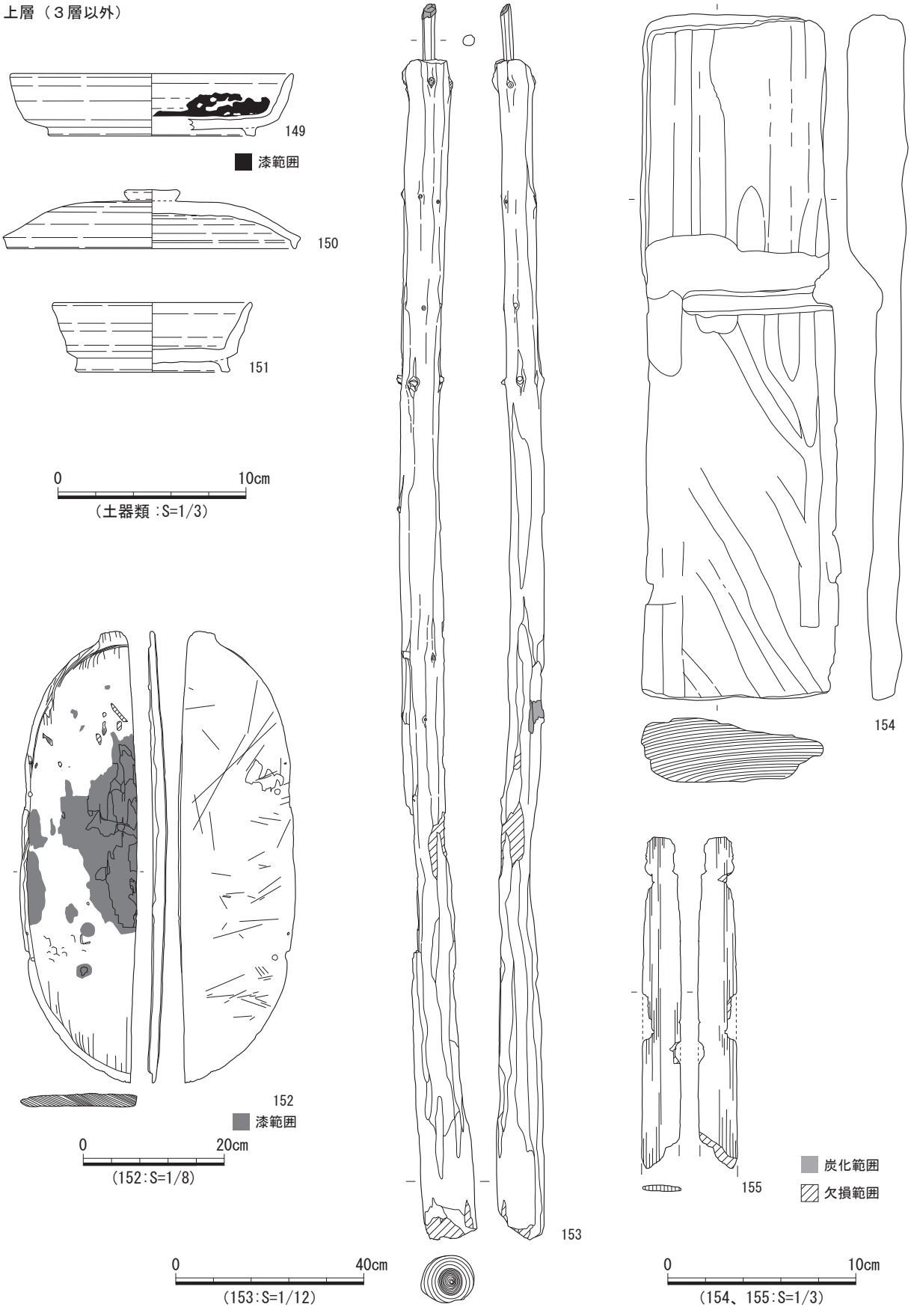
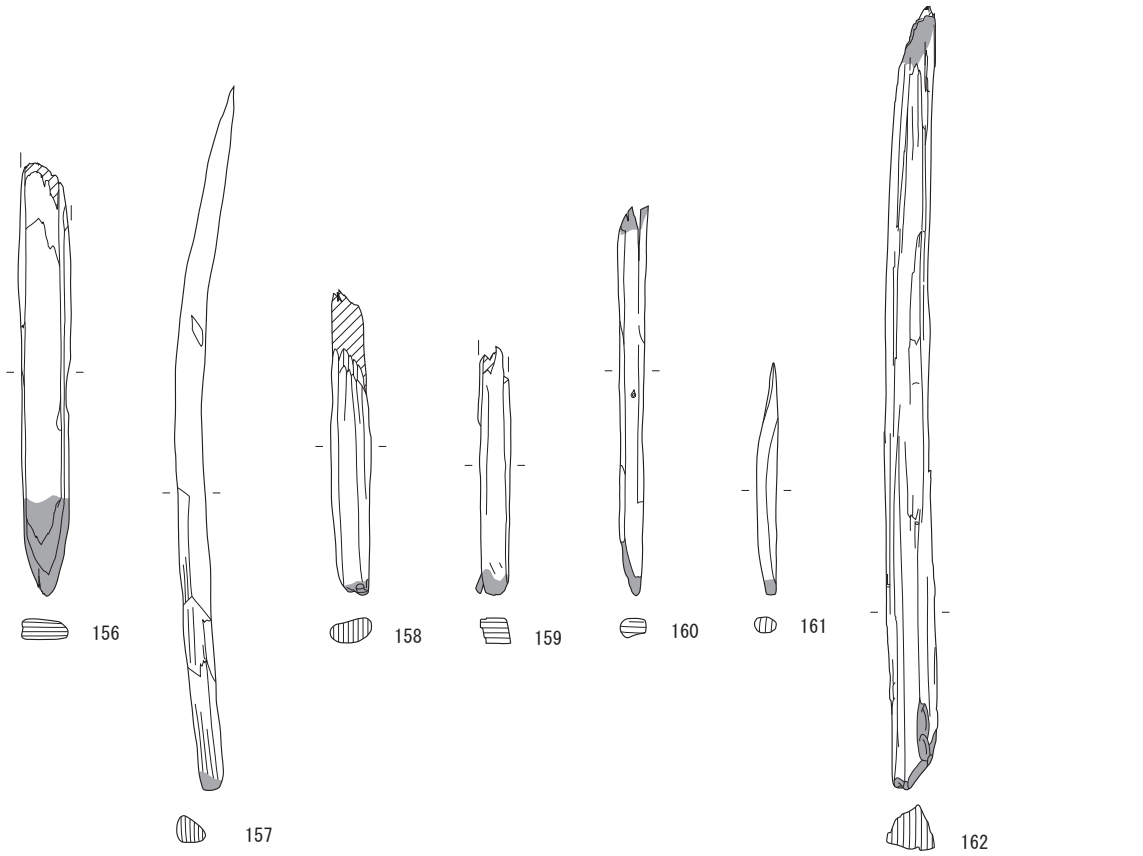


図26　NR５出土遺物実測図（２）

上層（３層以外）



下層

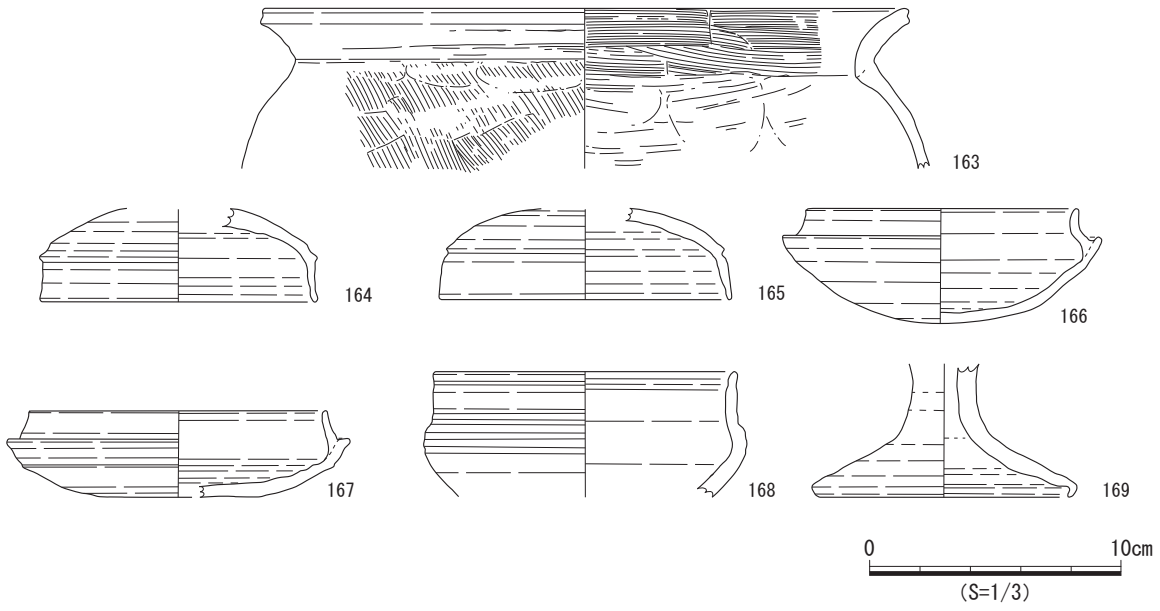


図27　NR５出土遺物実測図（３）

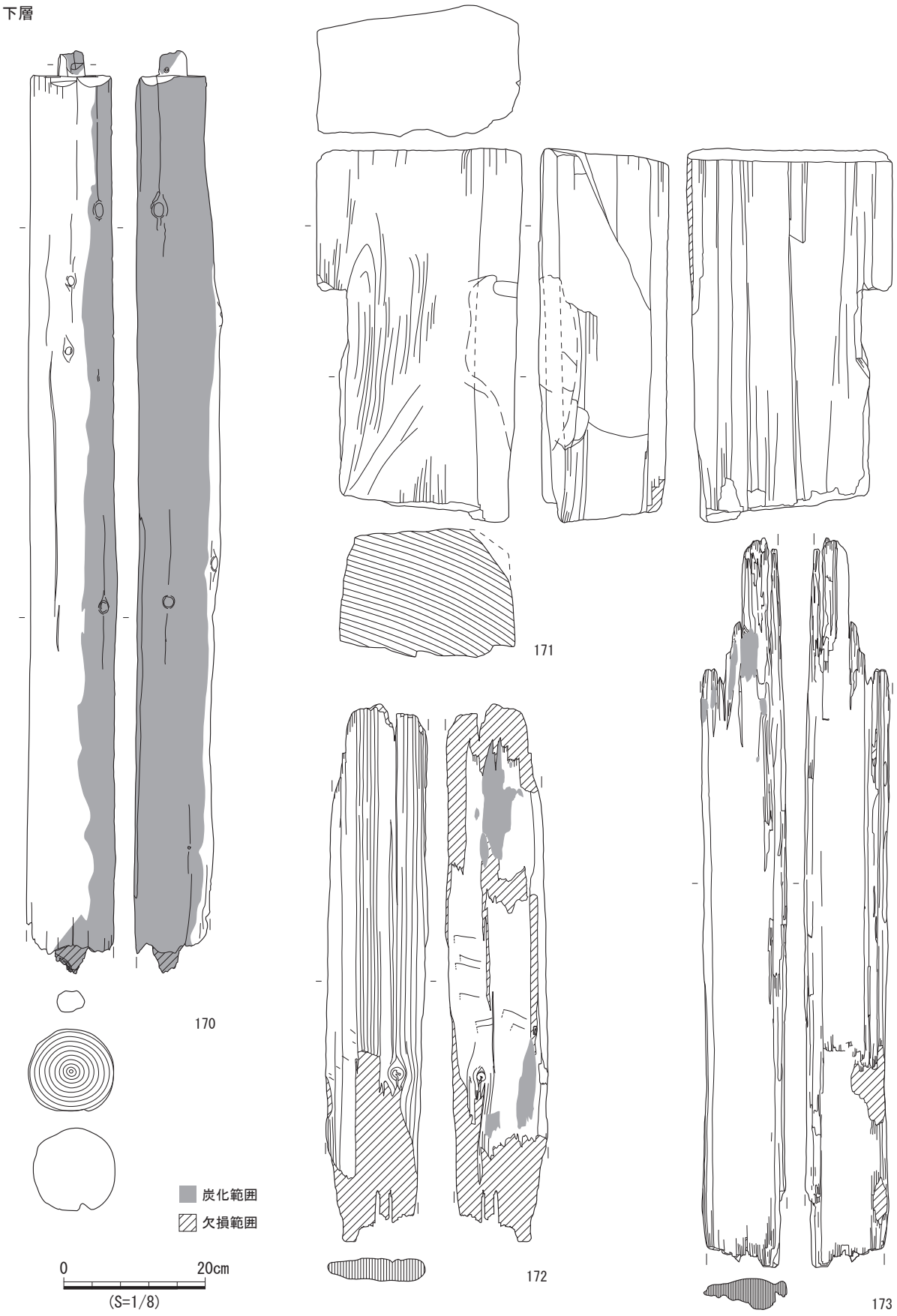


図28　NR５出土遺物実測図（４）

下層

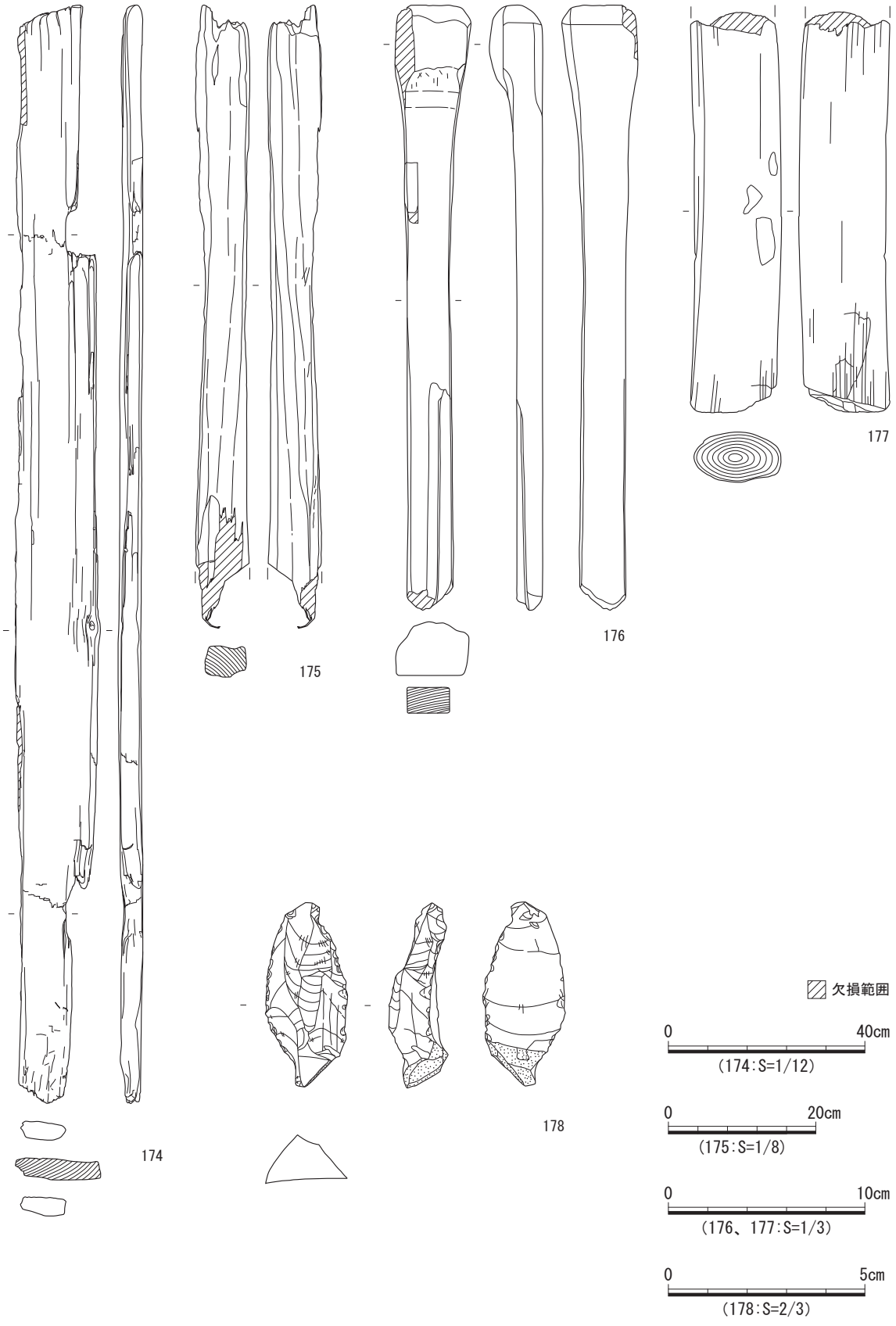


図29　NR５出土遺物実測図（５）

171は下端部にハツリ痕、上端部に鋸痕があり、左側面には鑿を用いて加工したとみられる溝がある。端材を活用した未製品と考えられる。174は横架材である。表面はよく調整され滑らかである。五平形の仕口を二つ有し、アテ痕とみられる窪みが確認できる。175～177は棒状木製品である。178は剥片である。

時期　図示した164・166から、下層は６世紀末から７世紀前葉に堆積したと考えられる。NR３との重複関係、図示した147から上層は８世紀初頭から８世紀前葉に堆積したと考えられる。

３　Ⅲ層（遺物包含層）等出土遺物（図30～34）

Ⅲ層からは、土師器833点（179～181）、須恵器705点（182～188）、灰釉陶器540点（189～191）、山茶碗1655点（192～208）、古瀬戸40点（209～214）、常滑産陶器19点、白磁13点（215～218）、青磁５点（219）、木製品11点（220～222）、石器２点、金属製品１点（223）が出土した。Ⅰ層及びⅡ層からは、土師器179点（224）、須恵器119点、灰釉陶器150点（225・226）、山茶碗428点（227～229）、古瀬戸13点、常滑産陶器７点、大窯製品15点（230）、登窯製品10点が出土した。また、攪乱坑からは、土師器308点（231～237）、須恵器325点、灰釉陶器487点（238～254）、山茶碗395点（255～266）、古瀬戸７点、常滑産陶器６点（267・268）、木製品１点（269）が出土した。

出土遺物のうち土師器11点、須恵器７点、灰釉陶器22点、山茶碗32点、古瀬戸６点、常滑産陶器２点、白磁４点、青磁１点、大窯製品１点、木製品４点、金属製品１点を図示した。179は宇田Ⅰ式から宇田Ⅱ式の壺である。180は東山72号窯式期併行の甕である。181は第２段階から第３段階（永井1995）の長胴甕である。182～186はいずれも猿投窯産の須恵器で、182は高蔵寺２号窯式期の坏蓋Ｃ類、183は岩崎25号窯式期の坏身Ｂ類、184は高蔵寺２号窯式期の坏身Ｃ類、185は高蔵寺２号窯式期から鳴海32号窯式期の長頸瓶、186は高蔵寺２号窯式期の鉢である。182は内面に刻書が確認でき、「大徳」と釈読できる。186は底部外面に刺突により孔が蜂の巣状に施される。187・188はいずれも美濃須衛窯産の須恵器で、187はⅣ期第２小期の坏身Ｃ類、188はⅣ期第１小期からⅣ期第３小期の手付鍋である。189～191はいずれも東濃窯産の灰釉陶器で、189は大原２号窯式期の長頸瓶、190は丸石２号窯式期の碗、191は丸石２号窯式期の皿である。190は底部外面に墨書及び墨痕が確認できる。墨書は釈読できない。191は底部外面に墨書が確認できるが、釈読できない。192は美濃須衛型の山茶碗で、Ⅸ期の鉢である。193～208はいずれも東濃型山茶碗である。193～197は谷迫間２号窯式期の碗で、いずれも底部外面に墨書が確認できる。193は「天」、195は「十」（漢数字）、196は「大」と釈読できる。194・197は釈読できない。198は谷迫間２号窯式期の高足高台碗である。199・200は浅間窯下１号窯式期の碗で、いずれも底部外面に墨書が確認できる。199は「太」と釈読できるが、200は釈読できない。201は浅間窯下１号窯式期の小皿、202は丸石３号窯式期の碗、203は丸石３号窯式期の小皿、204は白土原１号窯式期から明和１号窯式期の小皿、205は明和１号窯式期の小皿、206は大畑大洞４号窯式期の小皿、207は大洞東１号窯式期の碗、208は大洞東１号窯式期の小皿である。206・207は底部外面に墨書が確認でき、「十」（漢数字）と釈読できる。208は底部外面に墨書が確認でき、「一」（漢数字）と釈読できる。209・210は古瀬戸後Ⅱ期の灰釉平碗、211は古瀬戸後Ⅱ期から後Ⅲ期の鉄釉天目茶碗、212は古瀬戸後Ⅳ期古段階から後Ⅳ期新段階の擂鉢、213は古瀬戸後Ⅳ期新段階の擂鉢、214は古瀬戸後Ⅰ期から後Ⅳ期新段階の尊式花瓶である。215～217は尾張型山茶碗第４型式併行の白磁玉縁碗である。218は尾張型山茶碗第４型式併行の白磁碗である。219は尾張型山茶碗第６型式から第７型式併行の龍泉窯系青磁碗である。

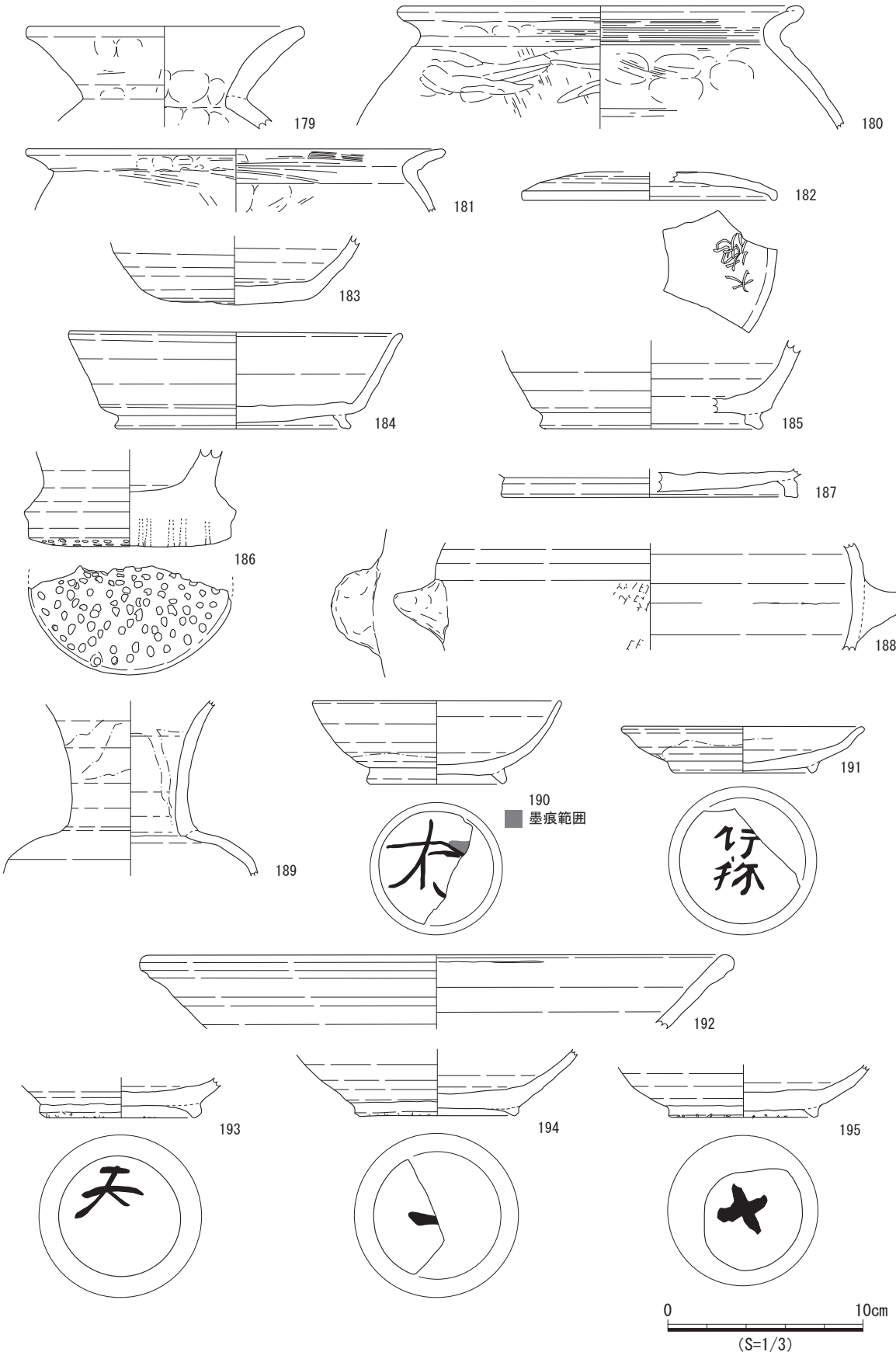


図30　Ⅲ層（遺物包含層）出土遺物実測図（１）

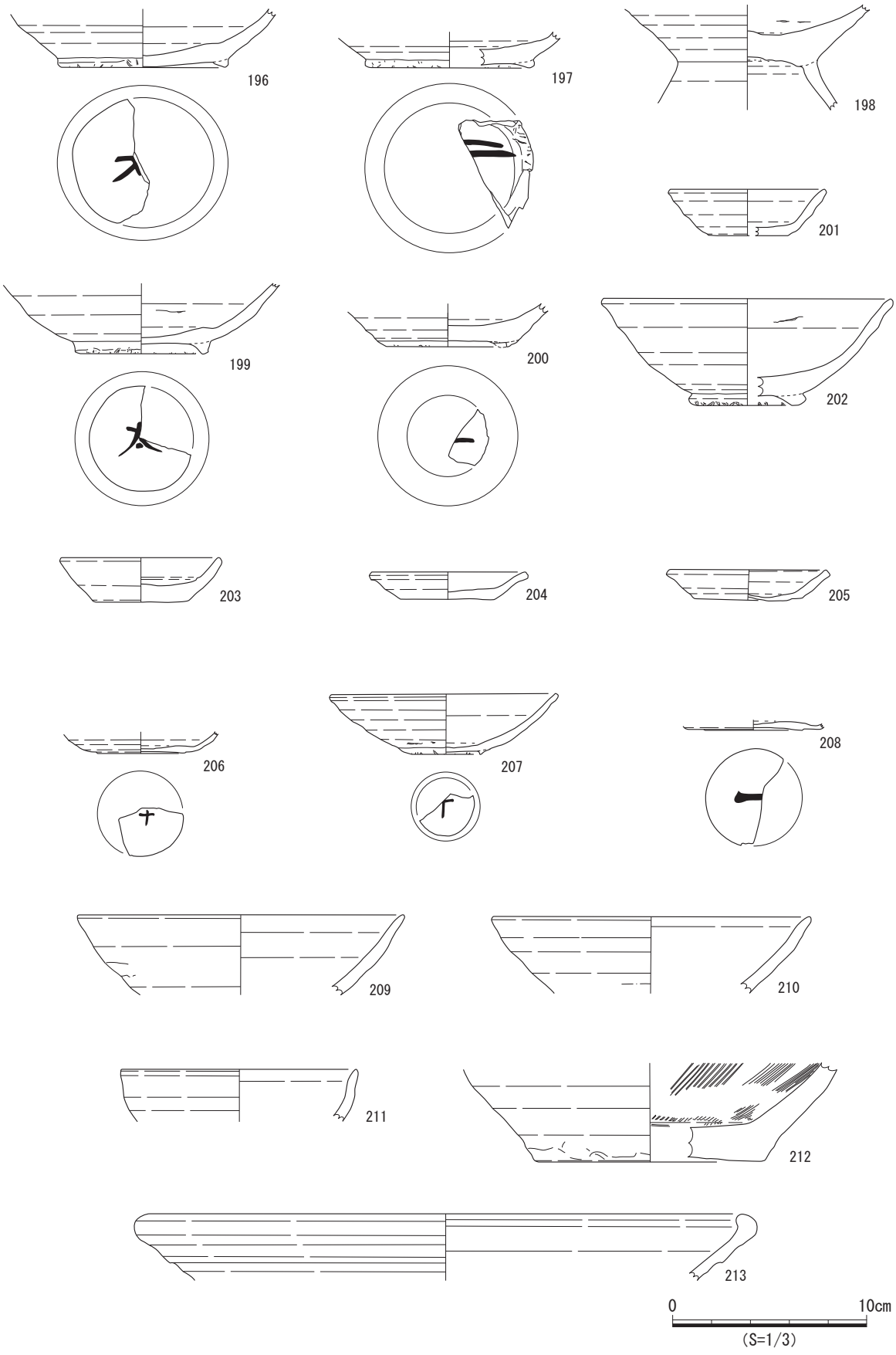
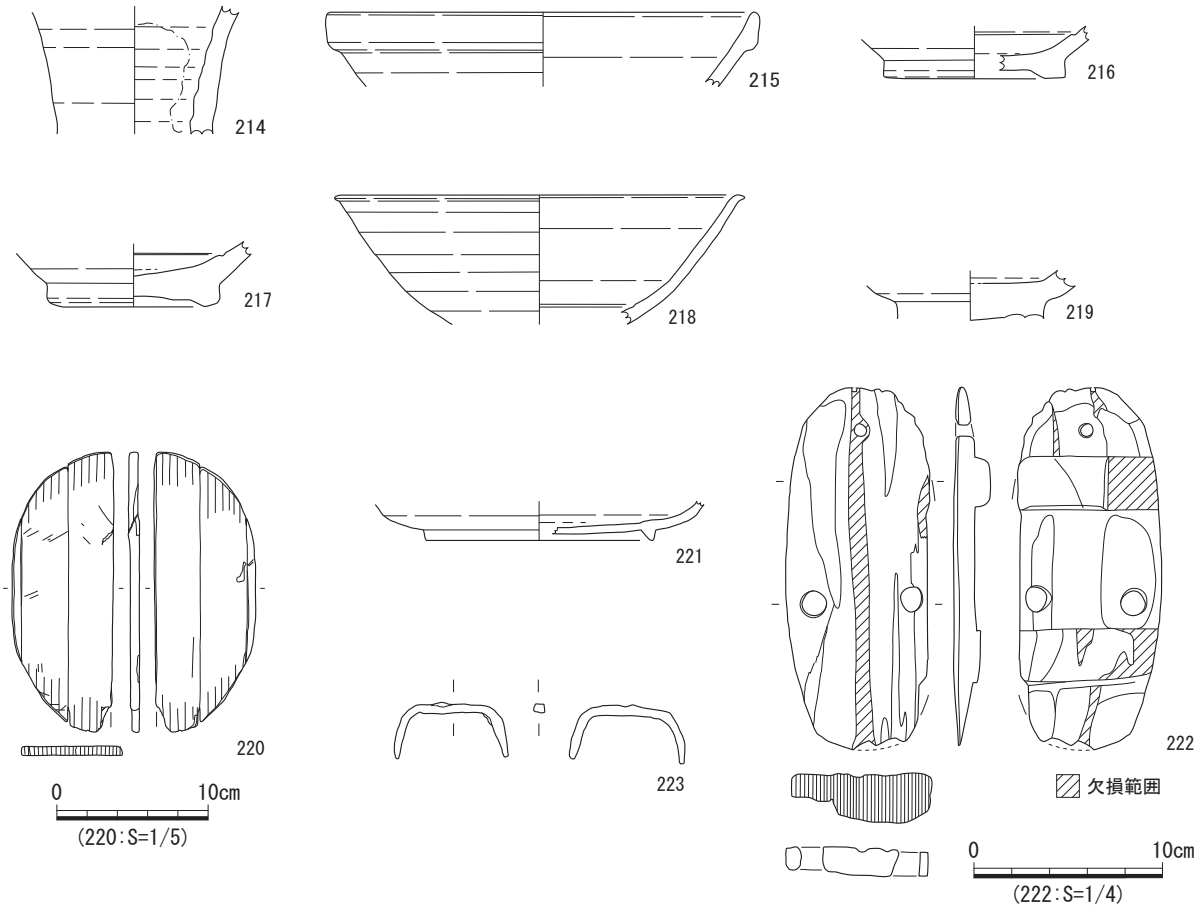


図31　Ⅲ層（遺物包含層）出土遺物実測図（２）

Ⅲ層（214～223）



Ⅰ層・Ⅱ層（224～230）

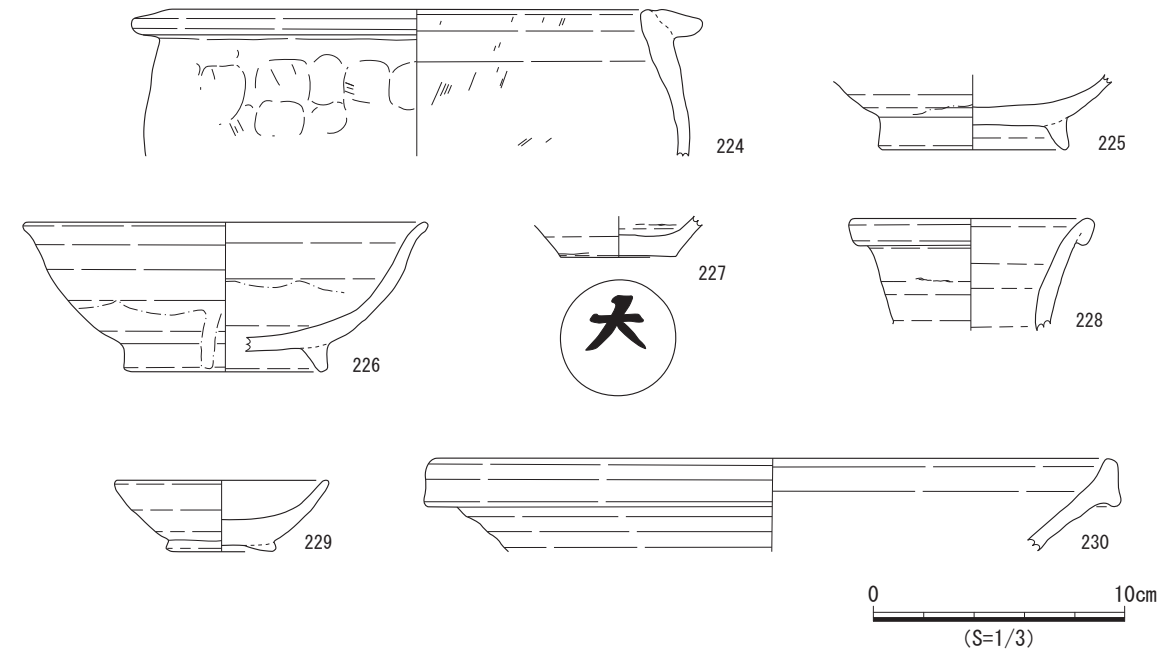


図32　Ⅲ層（遺物包含層）出土遺物実測図（３）、Ⅰ層・Ⅱ層出土遺物実測図

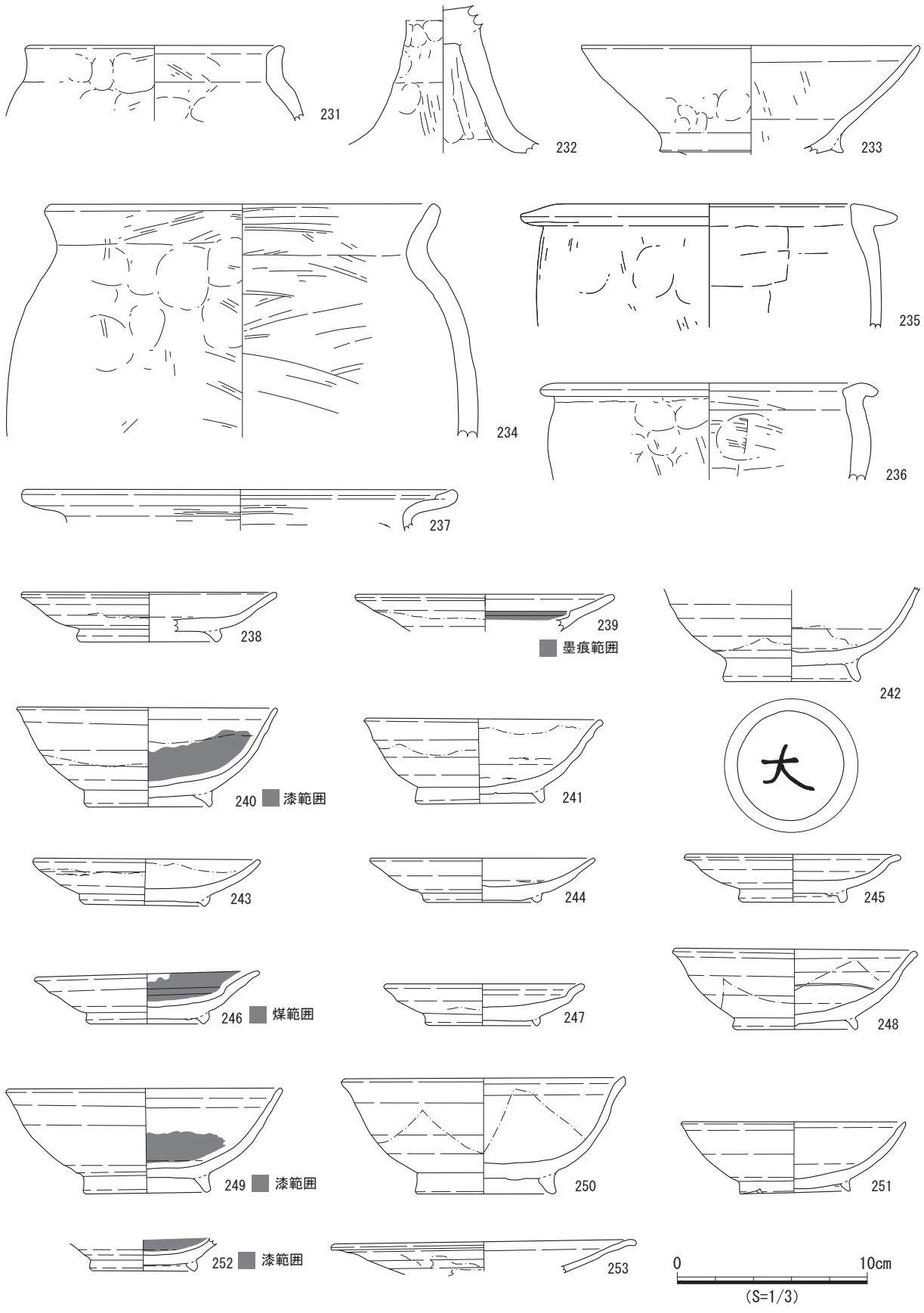


図33　攪乱坑出土遺物実測図（１）

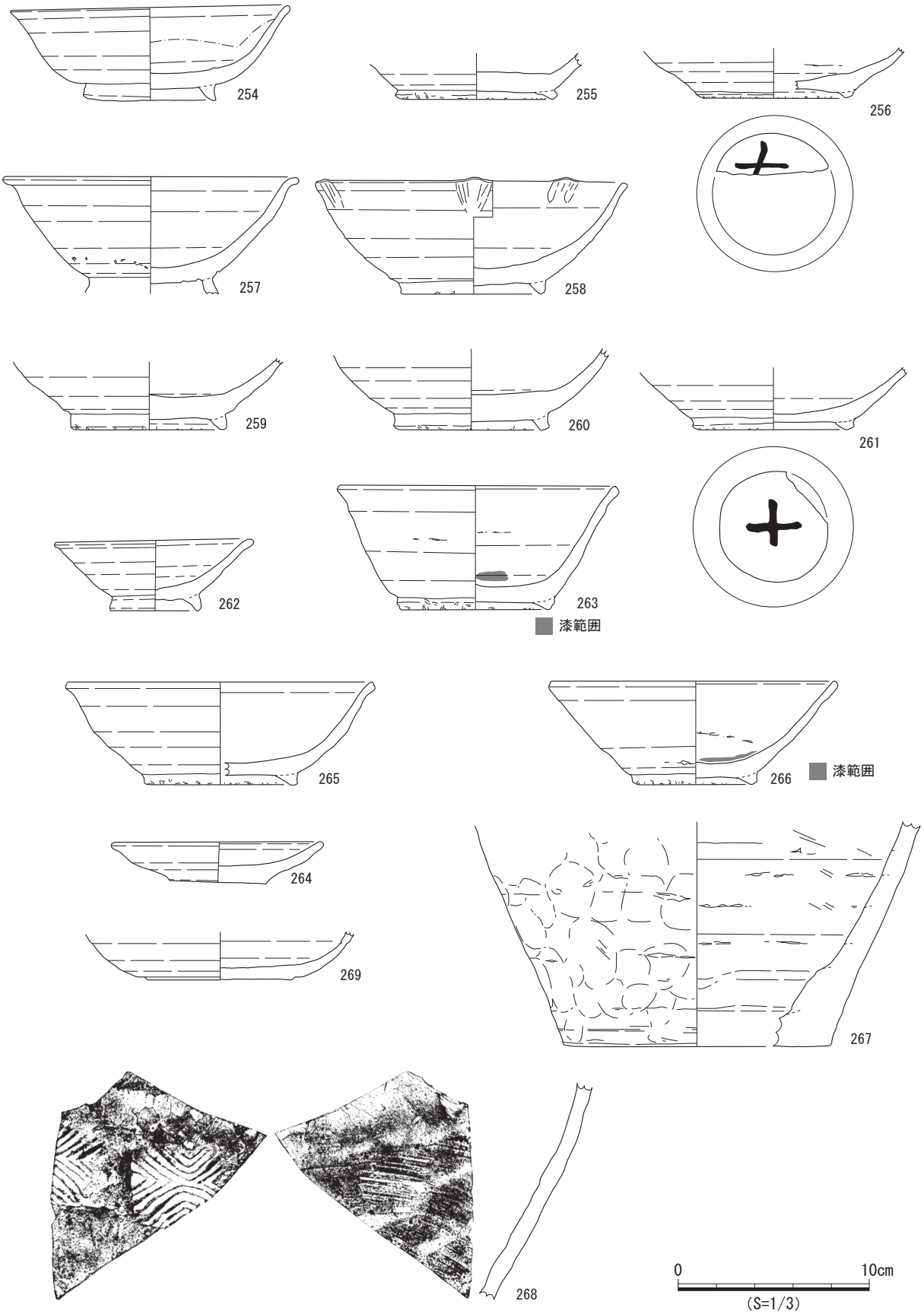


図34　攪乱坑出土遺物実測図（２）

220は板状木製品である。221は漆塗りの皿である。全体に黒漆が施され、剥落が少ない。塗膜分析の結果、炭粉漆下地に透明塗膜が１層塗られる構造と判明した（第４章第２節参照）。222は下駄である。歯の摩滅が激しく、表面前部に指圧痕が明確に残る。223は鉄製の鎹である。224は第Ⅱ段階第２小期（北村2001）の清郷型鍋である。225・226はいずれも東濃窯産の灰釉陶器で、明和27号窯式期の碗である。227は尾張型山茶碗で、第５型式の小皿である。底部外面に墨書が確認でき、「大」と釈読できる。228は美濃須衛型山茶碗で、Ⅸ期の四耳壺である。229は東濃型山茶碗で、谷迫間２号窯式期の小碗である。230は大窯第２段階の擂鉢である。231は松河戸Ⅰ式から宇田Ⅰ式の平底甕である。232は松河戸Ⅰ式から松河戸Ⅱ式の高坏である。233は松河戸Ⅱ式から宇田Ⅰ式の大型高坏である。234は第Ⅰ段階第５小期（北村2001）の清郷型鍋である。235・236は第Ⅱ段階第２小期（北村2001）の清郷型鍋である。237は北村和宏による中世伊勢型鍋編年の第Ⅰ期第３小期から第Ⅱ期第１小期（北村1996）の伊勢型鍋である。238～252はいずれも東濃窯産の灰釉陶器である。238虎渓山１号窯式期の皿、239は虎渓山１号窯式期の段皿、240は丸石２号窯式期の碗、241は丸石２号窯式期の小碗、242は丸石２号窯式期の碗である。239は内面の体部下半に墨痕が確認できる。240は内面の体部下半に漆が付着する。242は底部外面に墨書が確認でき、「大」と釈読できる。243～245は丸石２号窯式期の皿、246は丸石２号窯式期の段皿、247は丸石２号窯式期の折縁皿、248は丸石２号窯式期から明和27号窯式期の小碗、249・250は明和27号窯式期の碗、251は明和27号窯式期の小碗、252は西坂１号窯式期の小碗である。246は体部内面に煤が付着する。249は内面の体部下半に漆が付着する。252は内面に漆が付着する。253・254はいずれも猿投窯産の灰釉陶器で、253は黒笹90号窯式期の段皿、254は百代寺窯式期の碗である。255・256はいずれも尾張型山茶碗で、255は第４型式の碗、256は第５型式の碗である。256は底部外面に墨書が確認でき、「大」と釈読できる。257は美濃須衛型山茶碗で、Ⅷ期の碗である。258～266はいずれも東濃型山茶碗で、258は矢戸上野２号窯式期の輪花碗、259～261は谷迫間２号窯式期の碗、262は谷迫間２号窯式期の小碗、263は浅間窯下１号窯式期の碗、264は浅間窯下１号窯式期から丸石３号窯式期の小皿、265は丸石３号窯式期の碗、266は窯洞１号窯式期の碗である。261は底部外面に墨書が確認でき、「十」（漢数字）と釈読できる。263・266は内面に漆が付着する。267は１a型式から５型式の常滑産の甕である。268は１b型式から４型式の常滑産の甕である。体部外面に押印文が確認できる。269は漆塗りの碗である。内面底部及び外面に施された漆は剥落する。塗膜分析の結果、炭粉渋下地に透明塗膜が１層塗られる構造と判明した（第４章第２節参照）。

第６節　Ｃ18地点の遺構・遺物

１　掘立柱建物

SB１（図35・36）

検出状況　AQ４～AR５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。１間×１間の建物と考えられる。各柱穴の平面形はP２とP４は明瞭であったが、P１とP３は不明瞭であった。他の遺構との重複はない。

規模・形状　長軸方位はＮ－18°－Ｅである。桁行１間（４ｍ）、梁行１間（3.8m）である。

柱穴　柱穴の平面形は円形である。P１とP３で柱根（P１:273、P３:274）を確認し、P２とP４で礎盤石を確認した。なおP２、P４では柱痕跡は確認できなかった。

遺物出土状況　P１の掘方埋土（２層）から土師器４点、須恵器１点（270）、P２の掘方埋土（１層）から須恵器２点（271）、P３の掘方埋土（２層）から須恵器１点、P４から須恵器１点（272）が散在して出土した。

出土遺物　須恵器３点と柱根２点を図示した。270～272はいずれも猿投窯産の須恵器で、270は高蔵寺２号窯式期の坏身Ｃ類、271は岩崎41号窯式期の坏身Ｃ類、272は東山44号窯式期の坏蓋Ａ類である。273はＡ２ｂ類の柱根である。胴部の断面から三分割にみかん割した材を加工していることが推定される。底部は大きく３方向から切断されており、先端はやや尖る。底部には斧の刃痕が明瞭にみられ、その幅は６cm程度である。274はＡ２ａ類の柱根である。腐食が激しく、欠損範囲が広いため、加工痕等は判然としない。底部は概ね平坦である。

時期　図示した270から、本遺構の構築は８世紀初頭以降と考えられる。

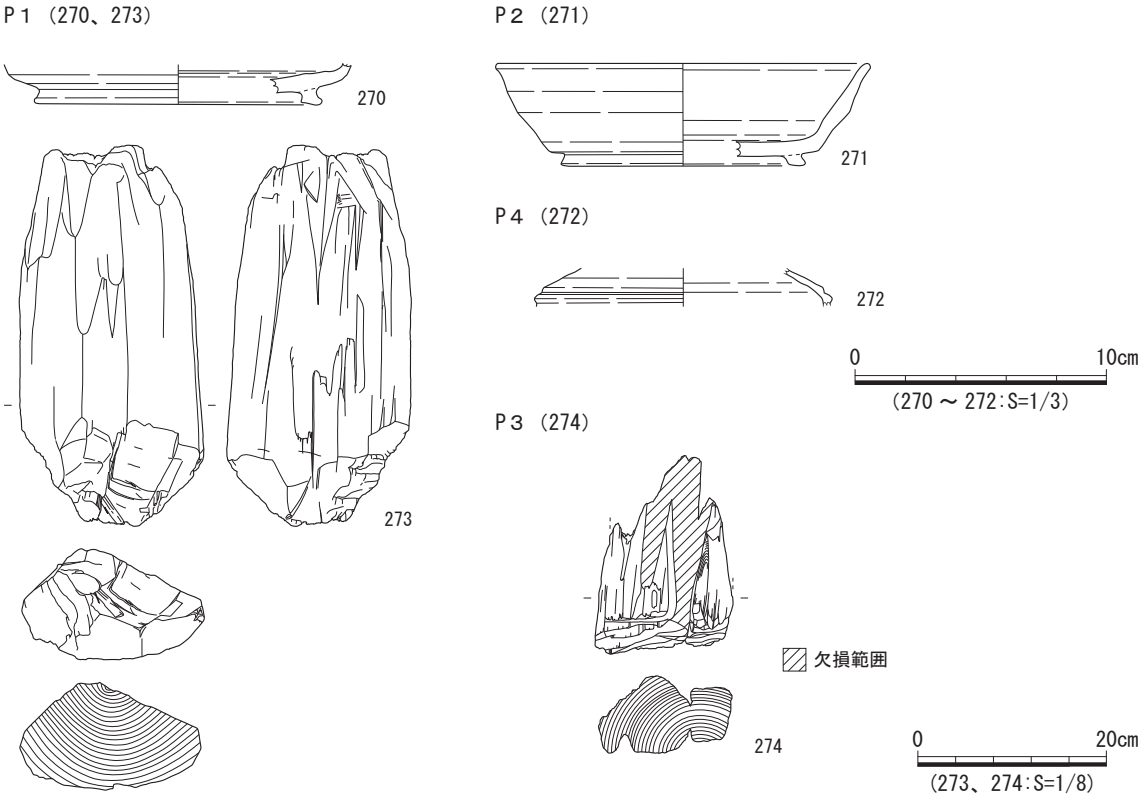
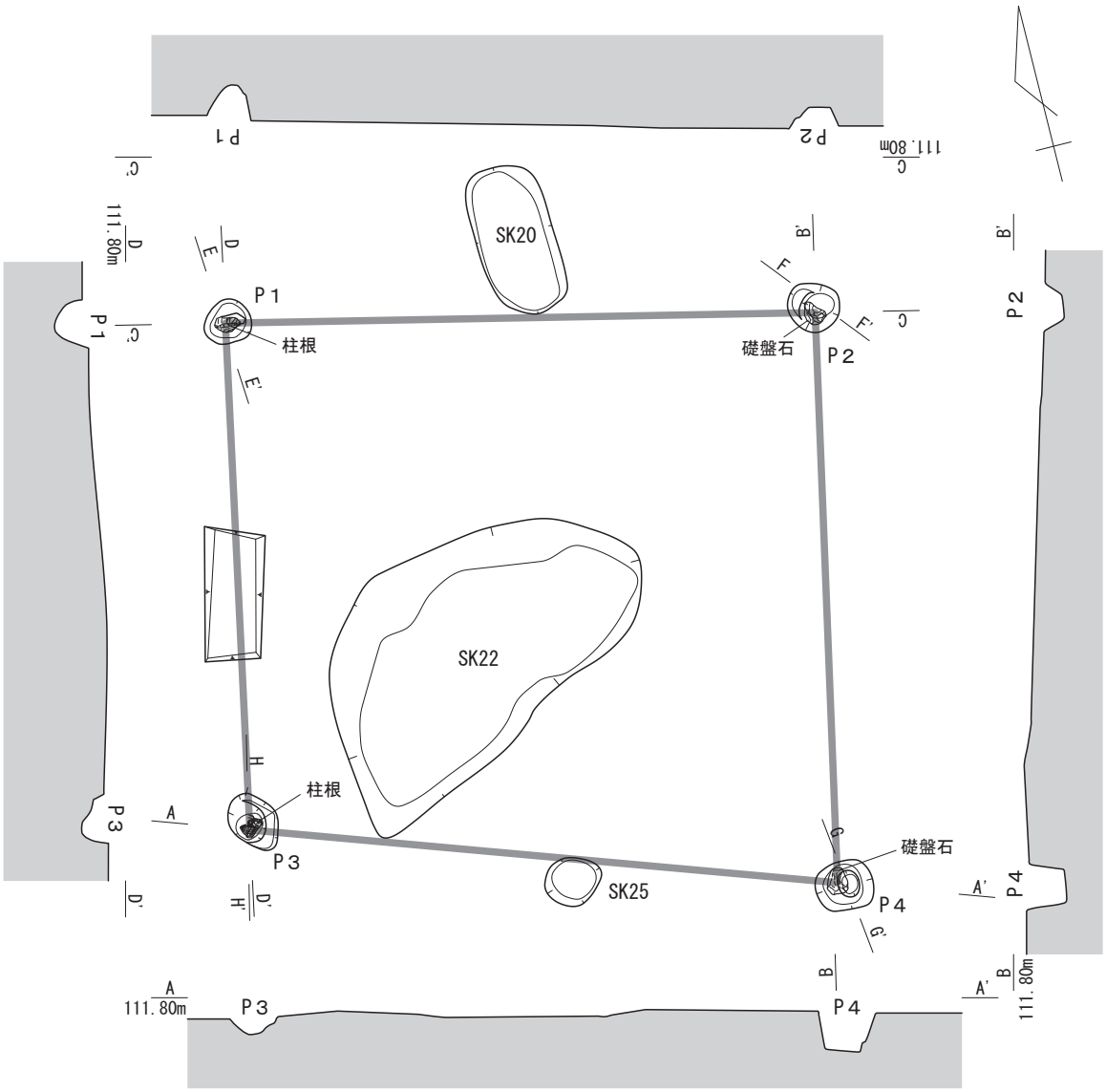
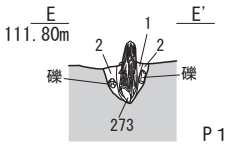
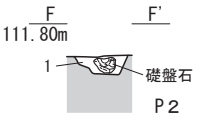


図35　SB１出土遺物実測図

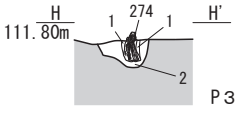




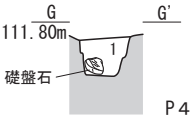
1　2.5Y4/1黄灰色シルト　ややしまる　粘性あり
　　2.5Y5/3黄褐色砂　ややしまる　粘性なしを20%含む
2　2.5Y5/3黄褐色砂　ややしまる　粘性なし　径3～5cmの亜円礫を3%含む（掘方埋土）



1　2.5Y3/1黒褐色粘質土　ややしまる
　　径1cm程度の亜円礫3%含む（掘方埋土）



1　5Y3/1オリーブ黒色シルト　ややしまる　粘性あり
　　微砂混じる　腐食した木片混じる
2　5Y6/1灰色シルト　ややしまる　粘性あり
　　径5cm以上の亜円礫30%含む（掘方埋土）



1　2.5Y4/1黄灰色粘土　ややしまる　鉄斑含む

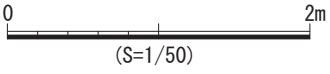


図36　SB１遺構図

２　溝

SD２（図37・38）

検出状況　AP６・AP７グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。SK16・SK17・SK18・SK19と重複し、本遺構はSK16・SK18・SK19より古く、SK17より新しい。

規模・形状　南東から北西に向かってやや湾曲して延びる。本遺構の北西側及び南東側は発掘区外に続くため、全容は不明である。北西半部は幅0.7m～1.0m程度、南東半部は幅2.0m程度である。底面は北西に向かって緩やかに下がる。北西半部（Ａ－Ａ’断面）の壁面は２段に掘り込む形状である。南東半部（Ｂ－Ｂ’断面及びＣ－Ｃ’断面）の壁面は緩やかに立ち上がる形状である。

埋土　Ａ－Ａ’断面及びＢ－Ｂ’断面では２層に分層した。Ｃ－Ｃ’断面では単層であった。埋土は亜円礫を含まない砂若しくはシルト（以下、「埋土①」という。）と亜円礫を含む粗砂（以下、「埋土②」という。）に大別できる。埋土①はＡ－Ａ’断面１～２層及びＢ－Ｂ’断面１層に堆積し、埋土②はＢ－Ｂ’断面２層及びＣ－Ｃ’断面１層に堆積する。埋土①は流水量が少ない時期の自然堆積と考えられる。埋土②は土石流等に由来する堆積と考えられる。Ｂ－Ｂ’断面における堆積状況から、埋土①は埋土②により南東半部が埋没した後に堆積したと考えられる。

遺物出土状況　埋土①から土師器５点、須恵器10点（275）、木製品10点（276・277）が出土した。埋土②から土師器32点（278～280）、須恵器44点（281～286）、木製品１点が散在して出土した。大半は埋土②からの出土であるが、埋土による出土遺物の時期差はない。

出土遺物　土師器３点、須恵器７点、板状木製品１点、角柱状木製品１点を図示した。275は猿投窯産の須恵器で、東山15号窯式期の高坏である。276は板状木製品である。側面が直線的な形状に加工された材である。277は角柱状木製品である。表面は凹凸が少なく滑らかで、炭化している箇所が複数確認できる。残存状態が悪く、本来の形状等は判然としない。278～280は土師器である。278・279は宇田Ⅰ式の平底甕で同一個体と考えられる。280は宇田Ⅰ式のく字甕である。281～286はいずれも猿投窯産の須恵器で、281は東山15号窯式期の高坏、282～284は東山44号窯式期の坏蓋Ａ類、285は蝮ヶ池窯式期の坏蓋Ａ類、286は東山15号窯式期の坏身Ａ類である。281は古墳や祭祀に関わる遺構から出土することが多い。

時期　SK17との重複関係、図示した275・281・286から、本遺構は７世紀前葉と考えられる。

３　水制遺構

SR１（図37）

検出状況　AP６グリッド、SD２の東側屈曲部の肩（Ⅳ層上面）で検出した。SD２南東半部、東肩付近の埋土を10cm程度掘り下げたところで本遺構を構成する木杭の頭部を確認した（図37）。木杭はSD２の肩からSD２の外側に向かって斜めに打ち込まれているため、SD２に伴う溝の肩部を守る護岸施設と考えられる。

遺物出土状況　木杭11本を確認した。横木等は確認できなかった。杭間の距離に規則性はなく、無造作に打ち込まれているが、打設方向は一定である。

出土遺物　木杭は図示しなかった。木杭は、ＩＣｂ類６本、ＩＤｂ類２本、ＩＡｂ類１本、ＩＢｂ類１本、ＩＤａ類１本である。すべてが丸木芯持ち材で、単純な削り痕を残す。

時期　SD２に伴う遺構であることから、本遺構は７世紀前葉と考えられる。

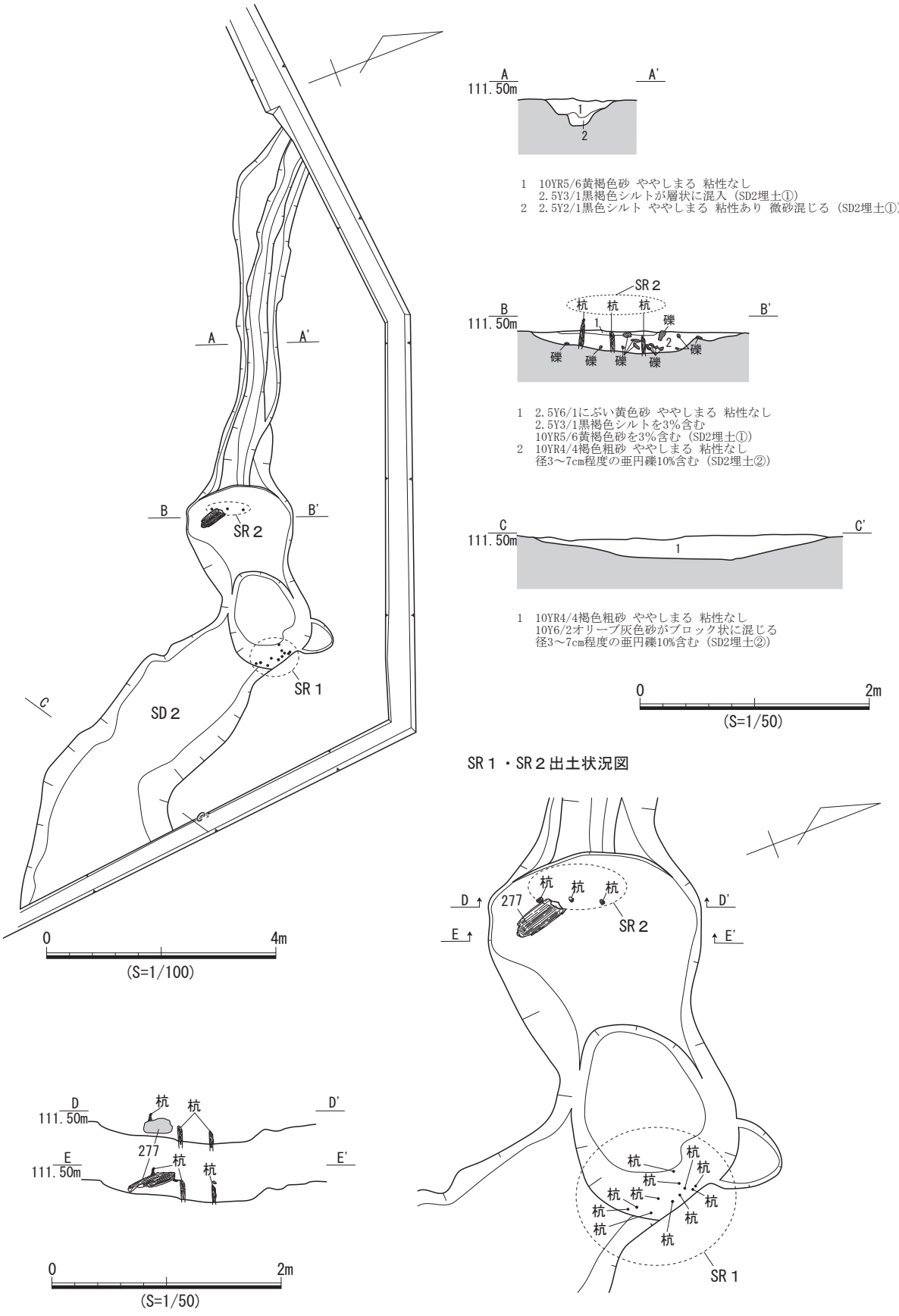


図37　SD２・SR１・SR２遺構図

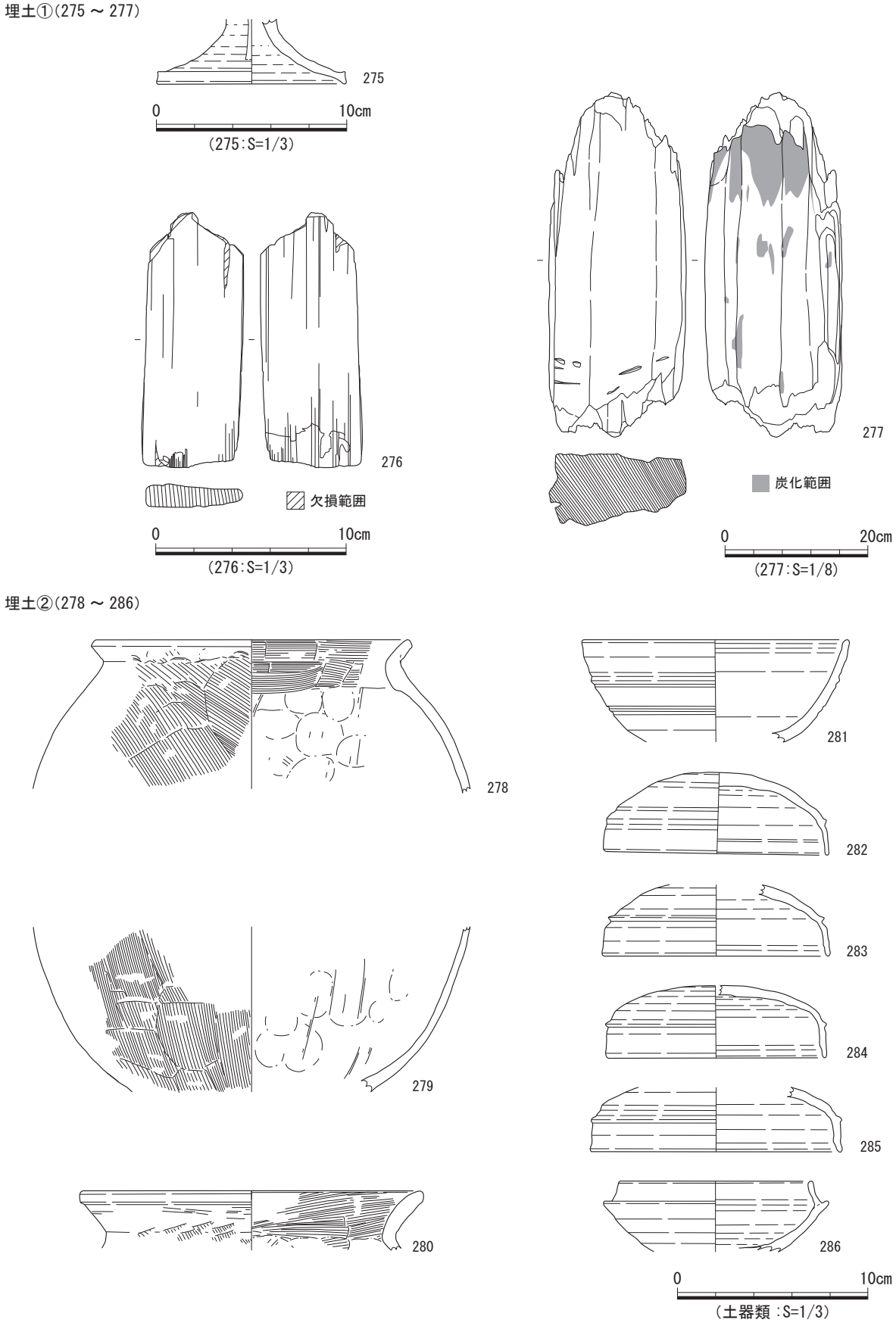


図38　SD２出土遺物実測図

SR２（図37）

検出状況　AP６グリッド、SD２の幅が狭くなる部分の埋土上面（Ⅳ層上面）で検出した。SD２検出時に木杭１本（頭部欠失）を確認した。SD２における土層断面（Ｂ－Ｂ’断面）記録時の掘削により、SD２埋土①で木杭２本を確認した。SD２に伴う堰と考えられる。

遺物出土状況　木杭３本を確認した。木杭は杭間約30cmで直線的に等間隔に打ち込まれている。杭列の方向はSD２に対して直交する。木杭はSD２上方から垂直に打設され、先端部は基盤層に達する。

出土遺物　木杭は図示しなかった。木杭は、すべてＩＡｂ類である。すべてが丸木芯持ち材で、単純な削り痕を残す。

時期　SD２に伴う遺構であることから、本遺構は７世紀前葉と考えられる。

４　土坑

SK24（図39）

検出状況　AR５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。他の遺構との重複はない。

規模・形状　平面形は円形である。底面は概ね平坦である。壁面はやや急に立ち上がる。

埋土　単層である。

遺物出土状況　埋土から土師器１点が出土した。

出土遺物　小片のため図示しなかった。

時期　埋土から土師器が出土したことから、本遺構は２世紀中葉以降と考えられる。

SK25（図39）

検出状況　AR５グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。他の遺構との重複はない。

規模・形状　平面形は円形である。底面は平坦である。壁面は垂直に立ち上がる。

埋土　単層である。

遺物出土状況　埋土から土師器２点、山茶碗１点が散在して出土した。

出土遺物　小片のため図示しなかった。

時期　埋土から明和１号窯式期の東濃型山茶碗が出土したことから、本遺構は13世紀後葉以降と考えられる。

５　Ⅲ層（遺物包含層）等出土遺物（図40）

Ⅲ層からは、土師器1,131点（287）、須恵器1,517点（288～299）、灰釉陶器60点、山茶碗514点（300

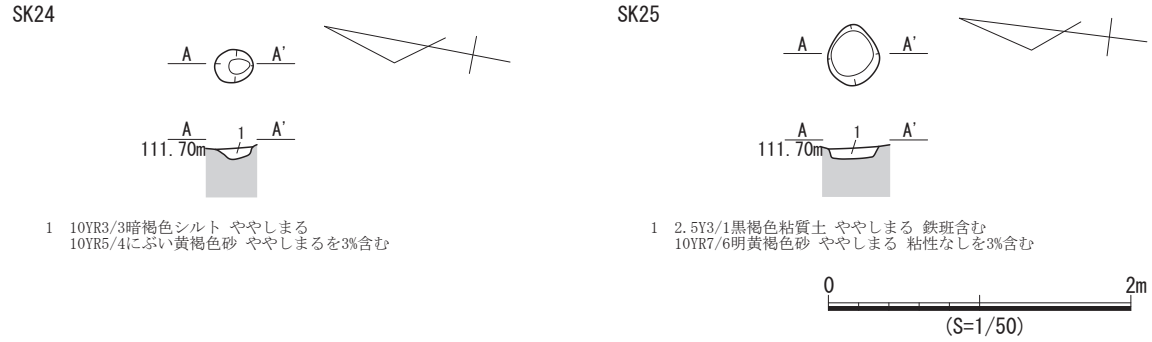


図39　SK24・SK25遺構図

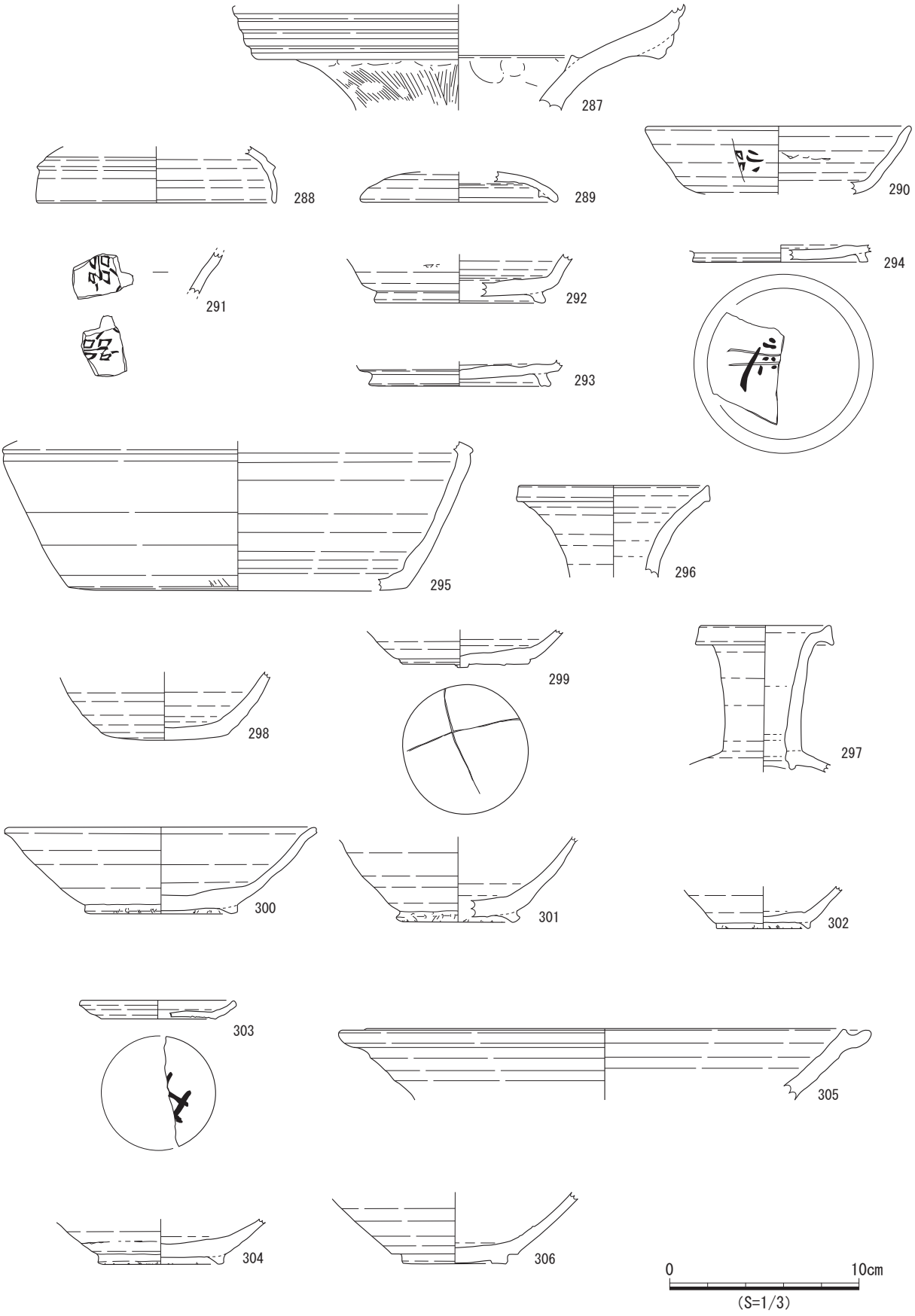


図40　Ⅲ層（遺物包含層）出土遺物実測図

～305)、古瀬戸５点（306)、常滑産陶器２点、大窯製品２点、木製品２点、石器５点が出土した。Ⅱ層からは、土師器１点、須恵器１点、山茶碗15点、大窯製品２点が出土した。

出土遺物のうち土師器１点、須恵器12点、山茶碗６点、古瀬戸１点を図示した。287は廻間Ⅰ式から廻間Ⅱ式のパレス壺である。288～299は須恵器で、288～297は猿投窯産、298・299は美濃須衛窯産である。288は東山44号窯式期の坏蓋Ａ類、289は岩崎17号窯式期の坏蓋Ｂ類である。290は高蔵寺２号窯式期の坏身Ｂ類である。体部外面に２文字の墨書が確認でき、１文字目は「小」と釈読できる。２文字目は上部のみが残存するが、「器」と推測できる。291は高蔵寺２号窯式期から鳴海32号窯式期の坏身Ｂ類若しくはＣ類である。体部外面に墨書が確認でき、「器」と釈読できる。「器」の上部にも文字の一部が確認できるが、釈読できない。292は高蔵寺２号窯式期から鳴海32号窯式期の坏身Ｃ類である。293は高蔵寺２号窯式期から岩崎25号窯式期の坏身Ｃ類である。294は高蔵寺２号窯式期から鳴海32号窯式期の坏身Ｃ類である。底部外面に２条の線刻とともに墨書が確認できる。墨書は釈読できない。295は高蔵寺２号窯式期の平瓶である。296・297は鳴海32号窯式期の長頸瓶である。298はⅣ期第１小期からⅣ期第３小期の坏身Ｂ類である。299はⅣ期第３小期の鉢である。底部外面に「×」の線刻が確認できる。300～303は東濃型山茶碗である。300は谷迫間２号窯式期の碗、301は丸石３号窯式期の碗、302は明和１号窯式期の碗である。303は大畑大洞４号窯式期若しくは大谷洞14号窯式期の小皿である。底部外面に墨書が確認できるが、釈読できない。304・305は尾張型山茶碗である。304は第５型式の碗、305は第10型式の片口鉢である。306は古瀬戸後Ⅱ期の灰釉平碗である。

第７節　Ｃ19地点の遺構・遺物

１　溝

SD３（図41・42）

検出状況　BP６～BQ８グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。SD４・SD５・SK32と重複し、本遺構はいずれの遺構より新しい。

規模・形状　西から東に向かってやや湾曲して延びる。西側は発掘区外に続き、東側は攪乱坑により消失するため、全容は不明である。溝幅は1.5m程度である。底面は概ね平坦である。壁面は緩やかに立ち上がる。

埋土　７層に分層した。１層及び２層はブロック土が含まれることから、埋戻し土と考えられる。３層から７層は自然堆積層と考えられる。

遺物出土状況　１層及び２層から土師器５点、須恵器６点、灰釉陶器２点、山茶碗46点、古瀬戸３点（307）、大窯製品４点（308）、登窯製品３点（309・310）が散在して出土した。３層～７層から須恵器８点（311）、灰釉陶器７点、山茶碗33点（312）、大窯製品５点、登窯製品５点（313）が散在して出土した。他、土師器３点、須恵器９点、灰釉陶器２点、山茶碗39点、古瀬戸１点、大窯製品２点（314）、登窯製品２点（315）が散在して出土したが出土層位は不明である。

出土遺物　須恵器１点、山茶碗１点、古瀬戸１点、大窯製品２点、登窯製品４点を図示した。307は古瀬戸後Ⅲ期から後Ⅳ期の直縁大皿である。308は大窯第３段階の天目茶碗である。309は登窯第１段階の水指蓋である。310は登窯第１段階の香炉である。311は美濃須衛窯産の須恵器で、Ⅳ期第３小期の坏身Ｃ類である。312は東濃型山茶碗で、大畑大洞４号窯式期の小皿である。313は登窯第１段階の柿

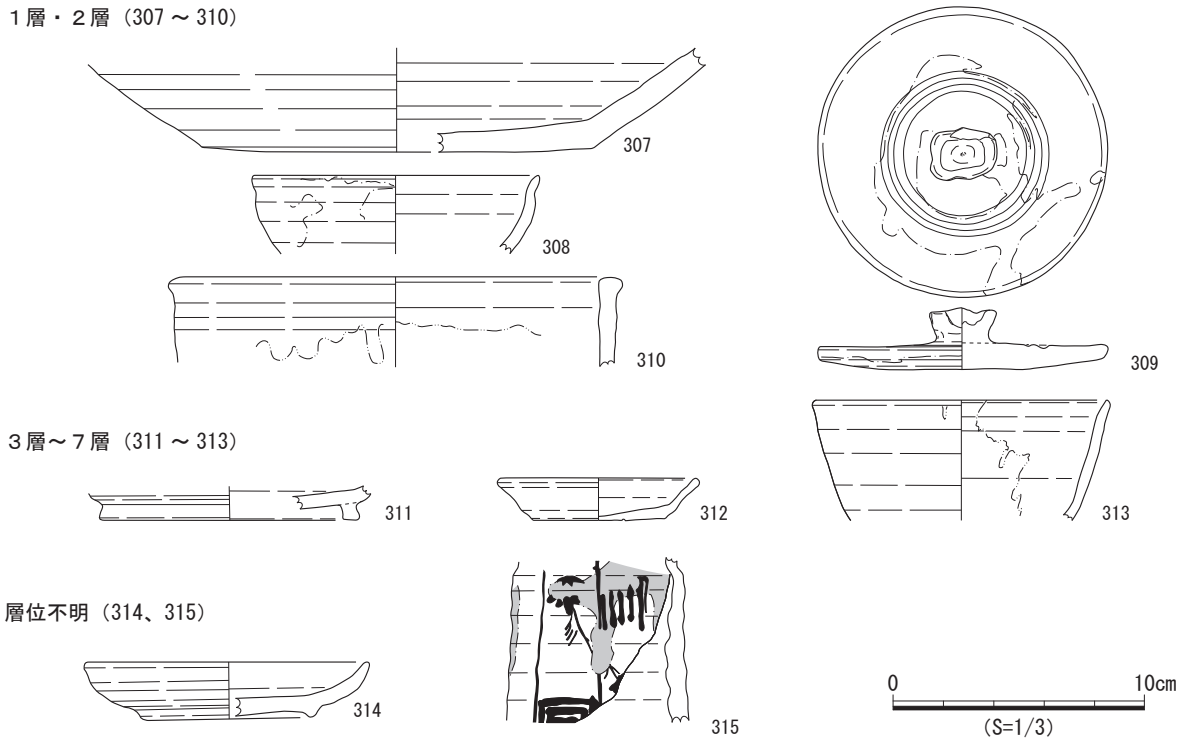
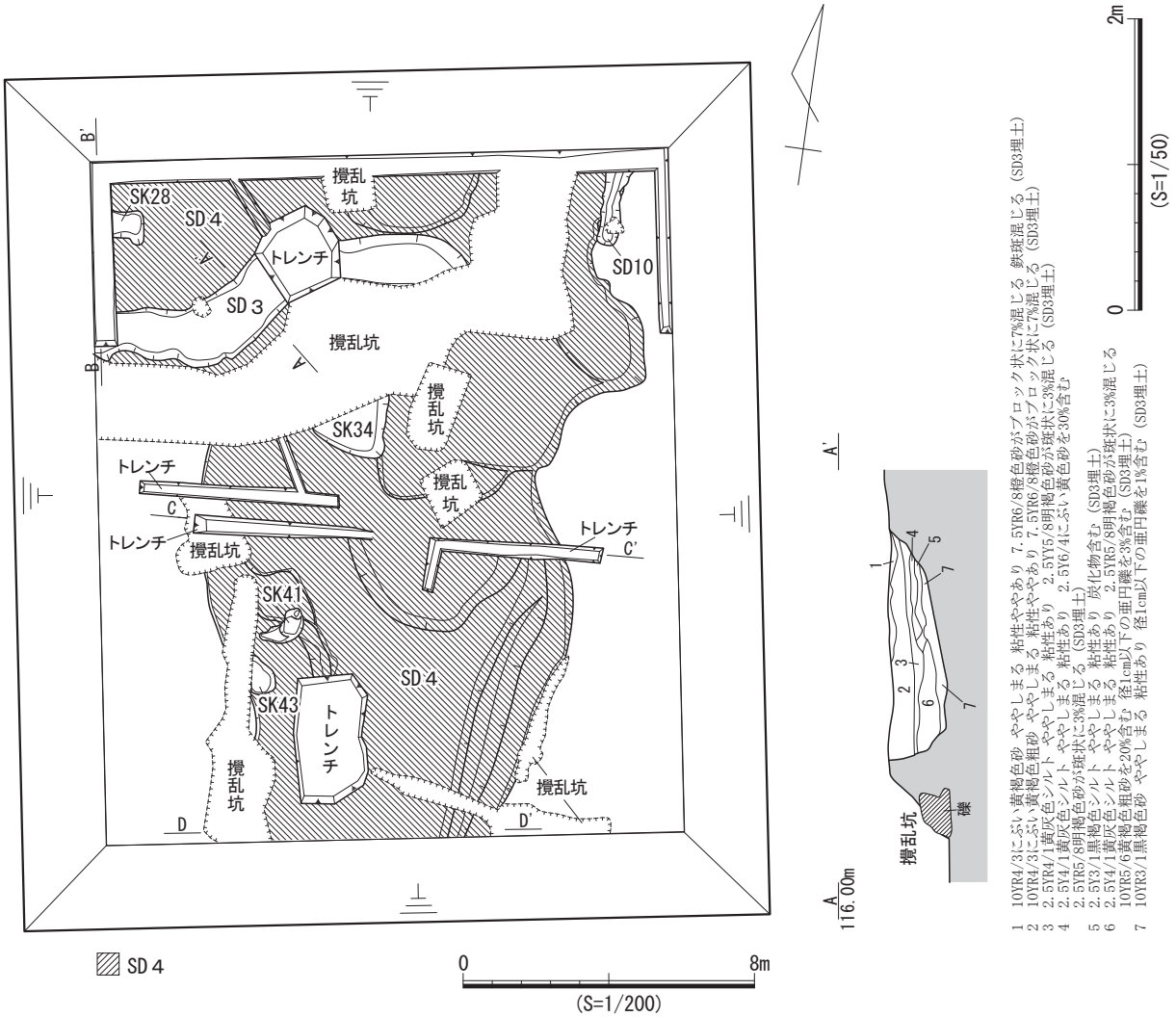
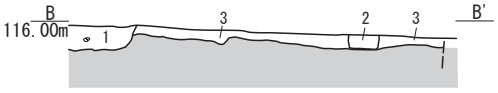
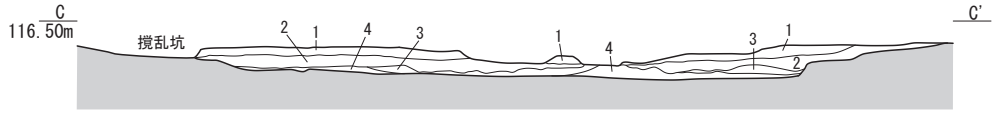


図41　SD３出土遺物実測図

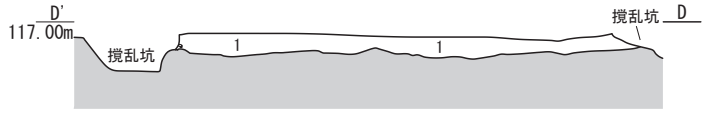




1　10YR6/1褐灰色シルト ややしまる 粘性あり　10YR6/8明黄褐色岩盤由来砂質ブロックを10%含む 鉄斑混じる (SD3埋土)
2　10YR3/3暗褐色粗砂 ややしまる 粘性なし　10YR4/6褐色砂がブロック状に30%混じる 径1～5cm程度の亜円礫を5%含む (SK28埋土)
3　10YR5/1褐灰色粘土 ややしまる　2.5Y4/3オリーブ褐色砂を30%含む 鉄斑混じる (SD4埋土)



1　5YR4/1褐灰色粘土 ややしまる 炭粒含む 鉄斑混じる 径1cm以下の亜円礫を1%含む (SD4埋土)
2　7.5YR6/1褐灰色粘土 ややしまる　10YR6/3にぶい黄褐色砂を7%含む 鉄斑混じる (SD4埋土)
3　7.5YR5/6明褐色砂 ややしまる 粘性なし (SD4埋土)
4　7.5YR6/1褐灰色粘土 ややしまる　10YR6/3にぶい黄褐色砂を3%含む　10YR3/2黒褐色粘土を3%含む (SD4埋土)



1　2.5Y5/1黄灰色粘質土 ややしまる 鉄斑を底の方に多く含む 炭粒3%含む 微砂全体に10%含む 径1cm以下の亜円礫を1%含む (SD4埋土)

0
4m
(S=1/100)

図42　SD３・SD４遺構図

釉灰流し碗である。314は大窯第４段階の志野丸皿である。315は登窯第１段階の織部筒向付である。

時期　図示した313から、本遺構は17世紀前葉から17世紀後葉と考えられる。

SD４（図42・43）

検出状況　BP６～BT８グリッド、Ⅳ層上面で検出した。発掘区のほぼ全域に位置する。平面形は不明瞭であった。SD３・SD６・SD10・SD13・NR7・SK28・SK29・SK33・SK34・SK36・SK41・SK43・SK46・SK49・SK51・SK52と重複し、本遺構はSD３・SD10・SK28・SK33・SK34・SK41・SK43より古く、SD６・SD13・NR７・SK29・SK36・SK46・SK49・SK51・SK52より新しい。

規模・形状　北側、南側、西側は発掘区外に続き、所々が攪乱坑により消失するため、全容は不明である。底面は概ね平坦である。肩部は地山（岩盤）を削って形成されており、掘削痕が明瞭に残る。

埋土　Ｃ－Ｃ’断面では４層に分層した。概ね水平に堆積する。Ｂ－Ｂ’断面及びＤ－Ｄ’断面では単層であった。埋土は主として撹拌の進んだ粘土で、微粒砂や鉄斑が混じる。

遺物出土状況　埋土から土師器130点、須恵器278点（316～329）、灰釉陶器148点（330～333）、山茶碗656点（334～339）、古瀬戸５点（340・341）、白磁４点（342・343）、青磁２点（344・345）、陶器41点が散在して出土した。

出土遺物　須恵器14点、灰釉陶器４点、山茶碗６点、古瀬戸２点、白磁２点、青磁２点を図示した。316～324はいずれも猿投窯産の須恵器で、316は東山15号窯式期の坏蓋Ａ類、317は岩崎25号窯式期の坏蓋Ｃ類、318は岩崎41号窯式期の坏身Ｃ類、319は岩崎25号窯式期の坏身Ｃ類、320は岩崎25号窯式期から鳴海32号窯式期の坏身Ｃ類である。321は岩崎25号窯式期の盤である。322は高蔵寺２号窯式期の鉢である。323は岩崎25号窯式期の甕である。324は鳴海32号窯式期から折戸10号窯式期の長頸瓶である。325～329はいずれも美濃須衛窯産の須恵器で、325はⅣ期第３小期の坏身Ｂ類、326～328はⅢ期第３小期の坏身Ｃ類、329はⅣ期第３小期の坏身Ｃ類である。330～333はいずれも東濃窯産の灰釉陶器で、330は大原２号窯式期の碗、331は虎渓山１号窯式期の碗、332は丸石２号窯式期の碗、333は西坂１号窯式期の碗である。334～339はいずれも東濃型山茶碗で、334は矢戸上野２号窯式期の小碗、335・336は大洞東１号窯式期の碗、337は脇之島３号窯式期の碗、338・339は生田２号窯式期の碗である。340は古瀬戸後Ⅱ期から後Ⅲ期の折縁深皿である。341は古瀬戸後Ⅱ期の直縁大皿である。342は13～14世紀の中国製白磁Ａ群の白磁玉縁碗である。343は16世紀の中国製白磁Ｅ群の白磁碗である。344は14世紀の中国製青磁Ｄ類の龍泉窯系青磁碗である。口縁端部はやや外反し、体部内外は無文である。345は14世紀の中国製青磁Ｂ類の同安窯系青磁碗で、体部外面に櫛目文を有し、体部内面にヘラ片切彫による花文を有する。

時期　SD３・SD６との重複関係、図示した338・339から、本遺構は14世紀末から15世紀末と考えられる。

SD６（図44・45）

検出状況　BP６～BT８グリッド、SD４底面（Ⅳ層上面）で検出した。平面形は不明瞭であった。SD４・SD７・SD８・SD９・NR７・SK31・SK33・SK34・SK37・SK42・SK46・SK51・SK52と重複し、本遺構はSD４・SK31・SK33・SK34・SK42・SK46・SK51・SK52より古く、SD７・SD８・SD９・NR７・SK37より新しい。

規模・形状　北側、南側は発掘区外に続き、攪乱坑により消失するため、全容は不明である。底面は

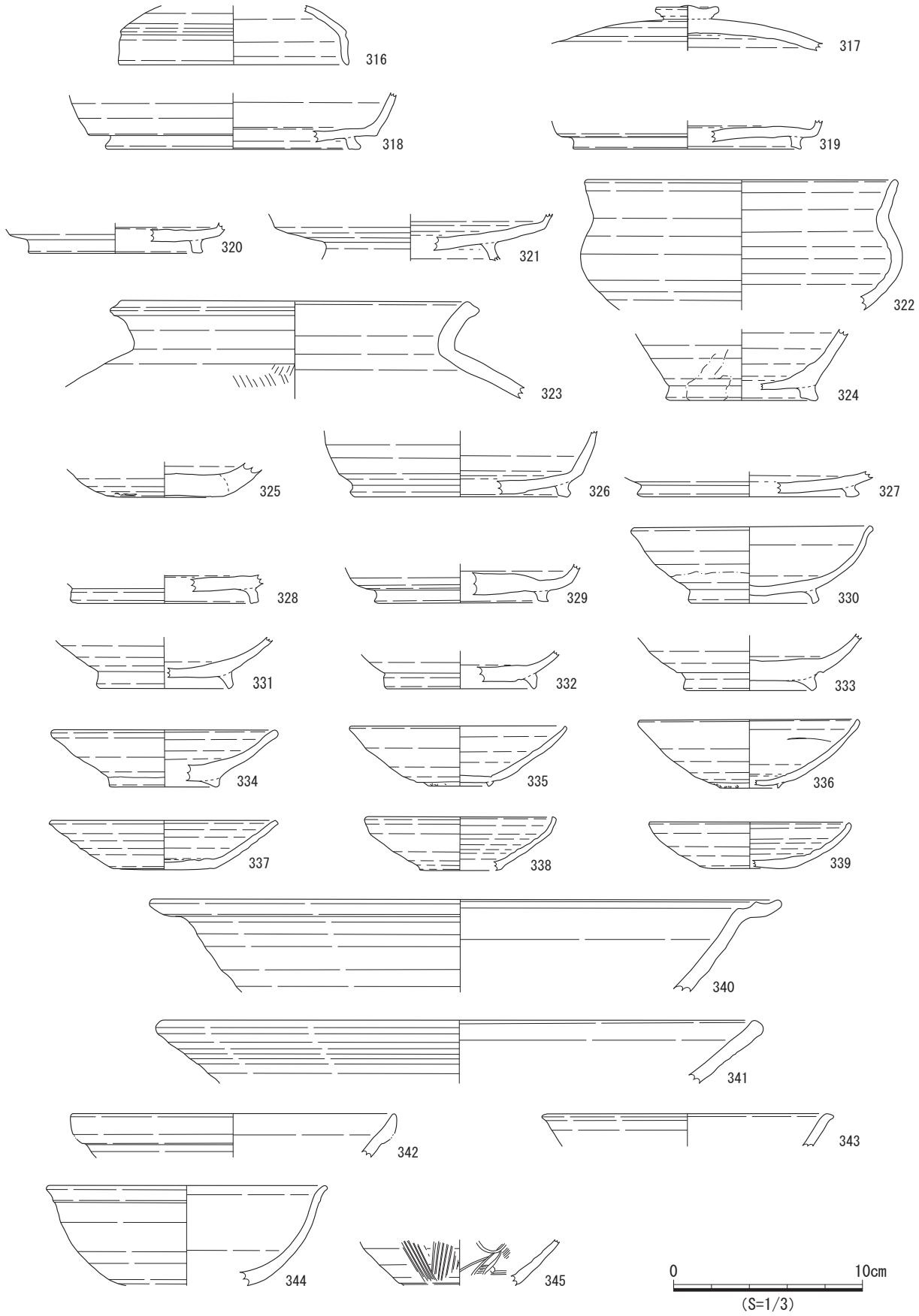


図43　SD４出土遺物実測図

概ね平坦である。肩部は地山（岩盤）を削って形成されており、掘削痕が明瞭に残る。

埋土　Ａ－Ａ’断面では３層に分層した。概ね水平に堆積する。Ｂ－Ｂ’断面では単層であった。埋土はいずれも撹拌の進んだ粘土で、微粒砂や鉄斑が混じる。Ｂ－Ｂ’断面１層に含まれる明黄褐色砂質ブロックは地山（岩盤）に由来すると考えられる。

遺物出土状況　埋土から土師器62点（346～349）須恵器247点（350～359）、灰釉陶器64点（360・361）、山茶碗312点（362～367）、古瀬戸４点、常滑産陶器３点、白磁１点、石器１点（368）が散在して出土した。

出土遺物　土師器４点、須恵器10点、灰釉陶器２点、山茶碗６点、石器１点を図示した。346～349はいずれも土師器で、346は廻間Ⅰ式からⅡ式の加飾壺である。347は宇田Ⅱ式から儀町式の甕である。348・349は第２段階から第３段階（永井1995）の長胴甕である。350～359はいずれも猿投窯産の須恵器で、350は岩崎101号窯式期の坏蓋Ｂ類、351は岩崎41号窯式期の坏蓋Ｃ類、352は高蔵寺２号窯式期から岩崎25号窯式期の坏蓋Ｃ類、353は岩崎101号窯式期から岩崎17号窯式期の坏身Ａ類、354は高蔵寺２号窯式期の坏身Ｃ類、355・356は高蔵寺２号窯式期から岩崎25号窯式期の坏身Ｃ類、357は高蔵寺２号窯式期から岩崎25号窯式期の盤、358は鳴海32号窯式期の長頸瓶、359は岩崎41号窯式期から高蔵寺２号窯式期の甕である。360・361はいずれも東濃窯産の灰釉陶器で、360は虎渓山１号窯式期の碗、361は丸石２号窯式期の碗である。362は尾張型山茶碗で、第５型式の碗である。363～367はいずれも東濃型山茶碗で、363は浅間窯下１号窯式期の碗、364は窯洞１号窯式期の碗、365は白土原１号窯式期の碗、366は明和１号窯式期の小皿、367は大谷洞14号窯式期の碗である。364は底部外面に墨書が確認でき、「十」（漢数字）と釈読できる。365は底面外部に墨書が確認できるが、釈読できない。368は砥石である。

時期　SD４・SD８との重複関係、図示した367から、本遺構は14世紀中葉から14世紀末と考えられる。

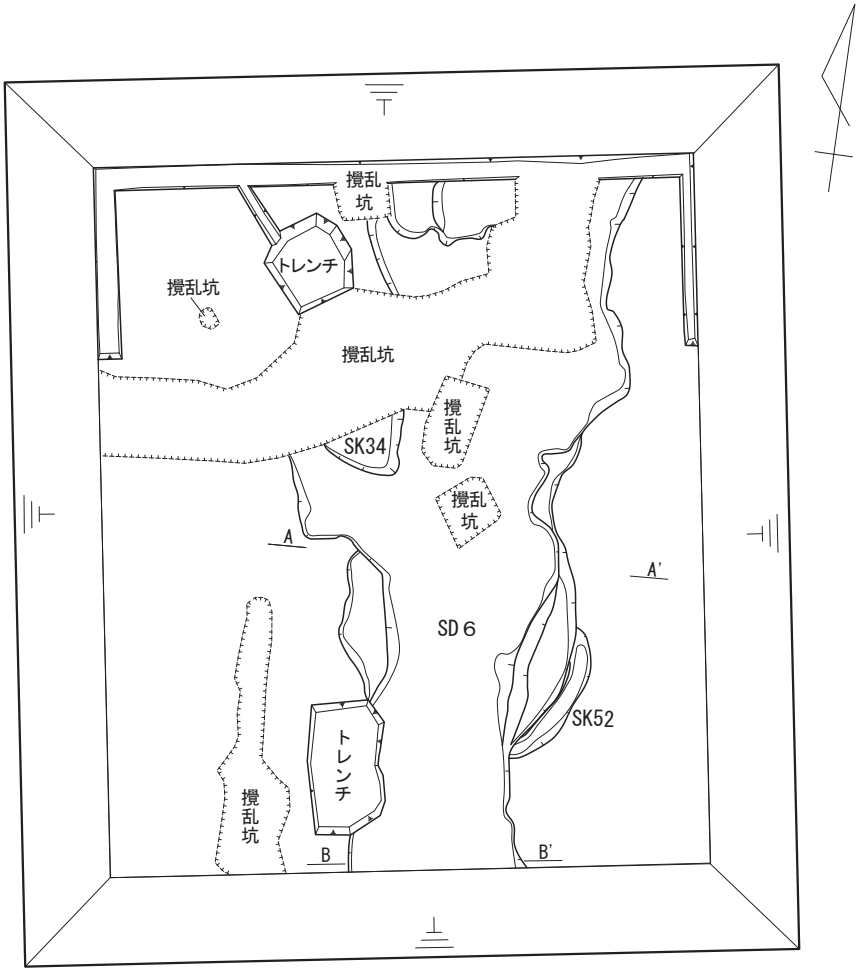
SD７（図46～49）

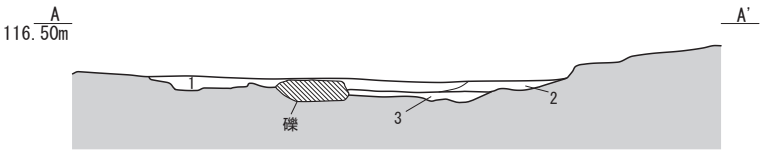
検出状況　BP６～BQ８グリッド、SD７底面（Ⅳ層上面）で検出した。平面形は不明瞭であった。SD６・SD８・SD９・SK27・SK32と重複し、本遺構はSD６・SD８より古く、SD９・SK27・SK32より新しい。

規模・形状　西から東に向かって概ね直線的に延びる。北側及び西側は発掘区外に続き、東側は攪乱坑により消失するため、全容は不明である。南側壁面は地山（岩盤）を削って形成されており、ほぼ垂直に立ち上がる。Ａ－Ａ’断面における８層底面は平坦である。

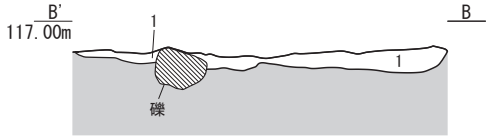
埋土　８層に分層した（Ａ－Ａ’断面）。埋土は亜円礫を多く含む粗砂（１～３層、以下、「埋土①」という。）、亜円礫を含まない砂若しくはシルト（４～６層、以下、「埋土②」という。）、植物遺体を含む砂若しくは粘土（７層及び８層、以下、「埋土③」という。）に大別できる。埋土①は洪水等に由来する堆積と考えられる。埋土②及び埋土③は流水量が少ない時期の自然堆積と考えられる。Ａ－Ａ’断面における堆積状況から、本遺構は埋土③堆積後に再掘削され、埋土②が堆積し、その後埋土①により埋没したと考えられる。

遺物出土状況　埋土①から土師器73点（369・370）須恵器321点（371～380）、灰釉陶器280点（381～383）、山茶碗1,719点（384～420）、古瀬戸14点、白磁１点（421）、常滑産陶器９点（422）、木製品２点（423・424）、石器１点、金属製品１点が散在して出土した。埋土②から土師器30点、須恵器46点（425・426）、灰釉陶器40点、山茶碗354点（427～433）、古瀬戸２点が散在して出土した。埋土③から土師器





1　10YR3/2黒褐色粘土 ややしまる　10YR5/6明黄褐色砂を1%含む
2　10YR5/1褐灰色粘土 ややしまる 鉄斑多く混じる　7.5GY7/1明緑灰色砂を7%含む
3　2.5Y3/3暗オリーブ褐色粘土 ややしまる　7.5GY7/1明緑灰色砂を3%含む



1　2.5Y4/1黄灰色粘土 ややしまる 鉄斑含む 微砂含む 炭粒1%含む　2.5Y6/6明黄褐色砂質ブロックを10%含む

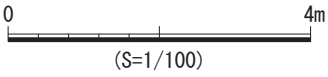


図44　SD６遺構図

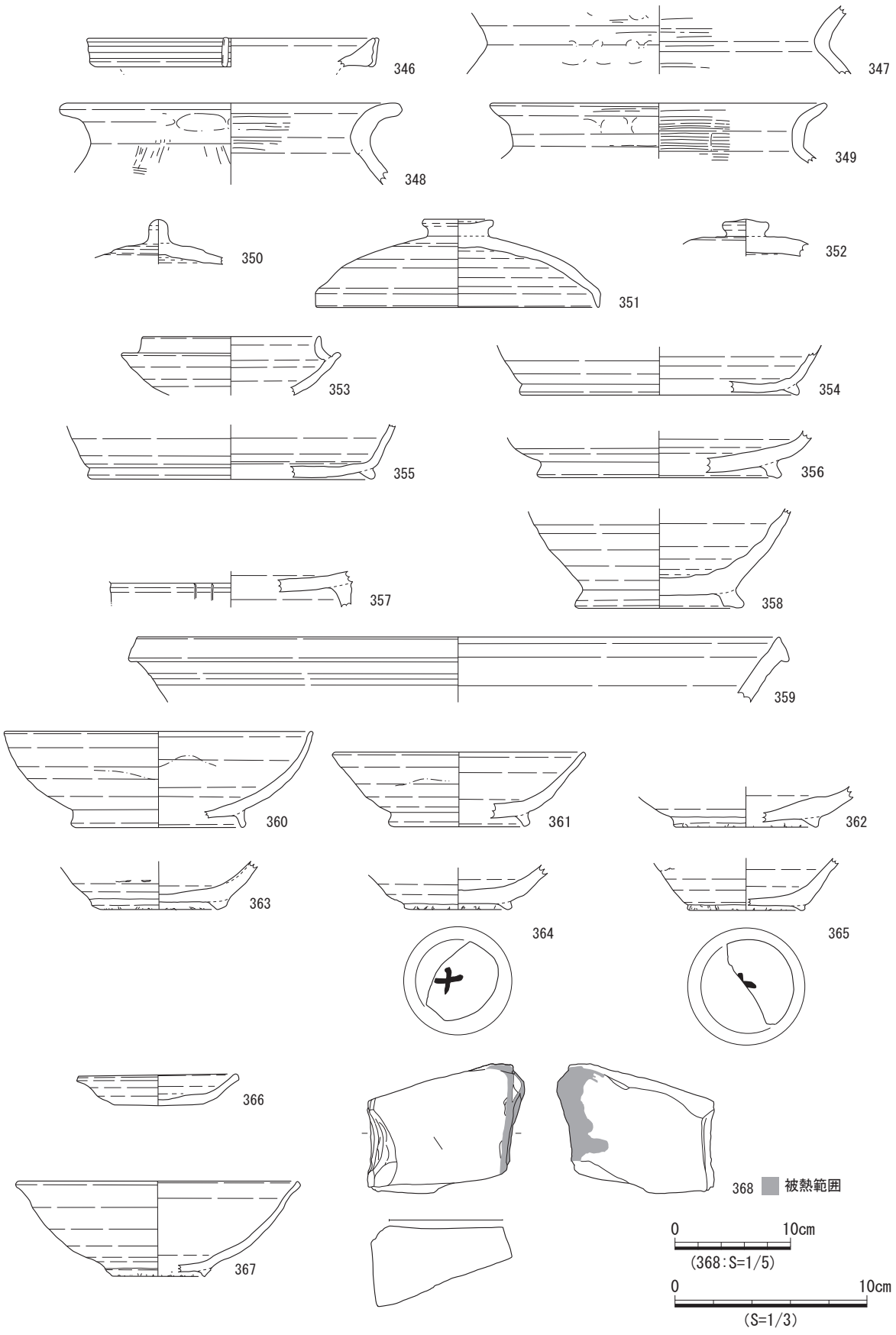


図45　SD６出土遺物実測図

35点、須恵器38点（434）、灰釉陶器31点、山茶碗237点（435～438）が散在して出土した。

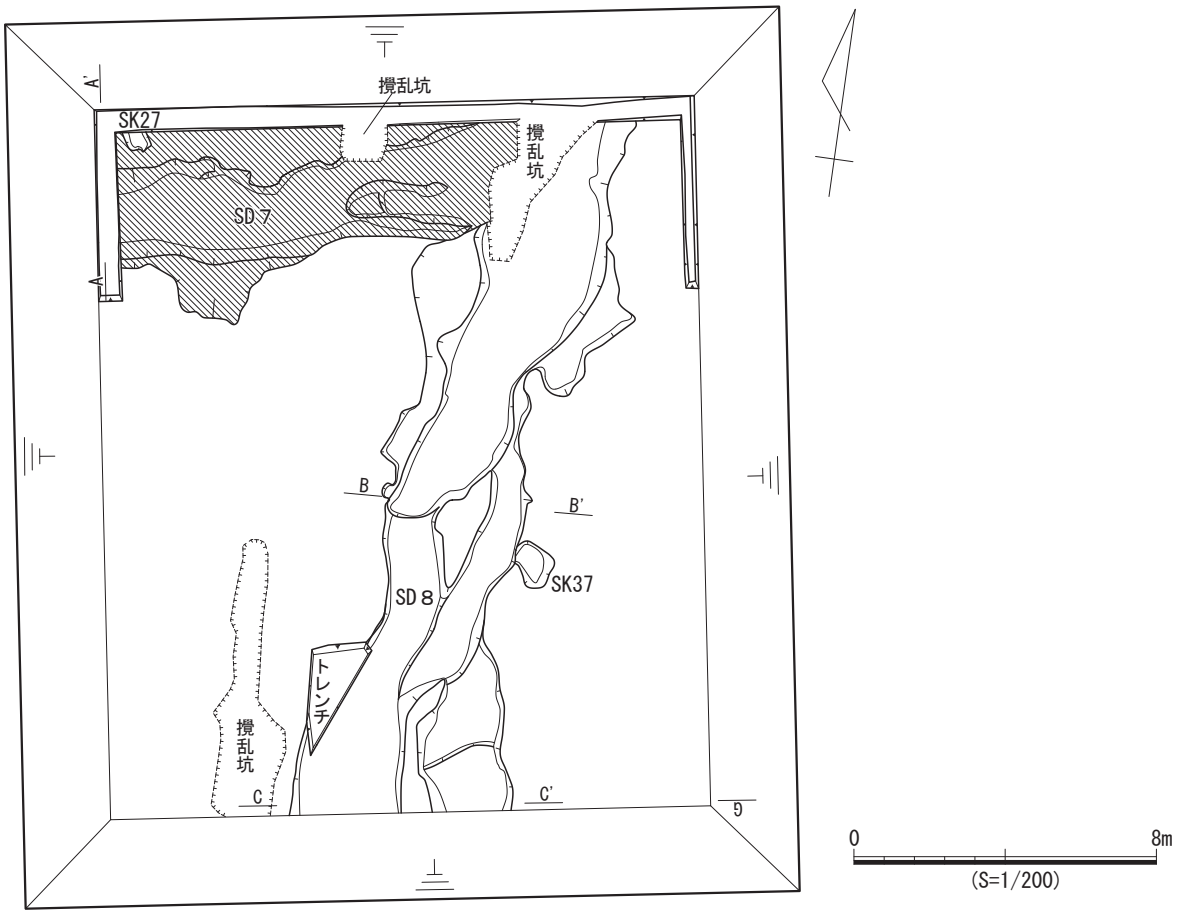
出土遺物　土師器２点、須恵器13点、灰釉陶器３点、山茶碗48点、白磁１点、木製品２点を図示した。369は松河戸Ⅰ式のく字甕である。370は尾張型山茶碗第６型式併行の土師器皿Ｃ１類である。371～378はいずれも猿投窯産の須恵器で、371は高蔵寺２号窯式期の坏蓋Ｃ類、372は高蔵寺２号窯式期から鳴海32号窯式期の坏蓋Ｃ類、373は岩崎25号窯式期の坏身Ｃ類、374は鳴海32号窯式期の坏身Ｃ類、375は岩崎41号窯式期から岩崎25号窯式期の鉢、376は高蔵寺２号窯式期から鳴海32号窯式期の平瓶、377は岩崎17号窯式期から岩崎41号窯式期の甕、378は鳴海32号窯式期の長頸瓶である。379・380はいずれも美濃須衛窯産の須恵器で、379はⅣ期第１小期の坏身Ｂ類、380はⅣ期第１小期からⅣ期第３小期の太頸瓶である。381～383はいずれも東濃窯産の灰釉陶器で、381は明和27号窯式期の小碗、382は西坂１号窯式期の碗、383は西坂１号窯式期の玉縁碗である。384・385はいずれも尾張型山茶碗で、384は第４型式の碗、385は第５型式の碗である。386は美濃須衛型山茶碗で、Ⅷ期の片口鉢である。387～420はいずれも東濃型山茶碗である。387は矢戸上野２号窯式期の碗である。388～390は谷迫間２号窯式期の碗である。391～394は谷迫間２号窯式期の小碗である。395・396は浅間窯下１号窯式期の碗である。397は浅間窯下１号窯式期の玉縁碗で、口縁外縁に幅1.3cmの縁帯を形成する。398～401は丸石３号窯式期の碗である。402～405は丸石３号窯式期の小皿である。406～409は窯洞１号窯式期の碗である。406は底部外面に墨書が確認でき、「大」と釈読できる。410・411は窯洞１号窯式期の小皿である。411は底部外面に墨書が確認でき、「十」（漢数字）と釈読できる。412～416は白土原１号窯式期の碗である。412は底部外面に墨書が確認できるが、釈読できない。413は底部外面に墨書が確認でき、「品」と釈読できる。414は底部外面に墨書が確認できるが、釈読できない。417は白土原１号窯式期から明和１号窯式期の碗である。418は明和１号窯式期の碗である。419・420は明和１号窯式期の小皿である。421は13～14世紀の中国製白磁Ａ群と思われる。422は６a型式の常滑産の甕である。423は火付け木である。上端分は欠損し、下端部には炭化が見られる。424は板状木製品である。厚さが均一な材で、上部は欠損している。表面は滑らかに仕上げられている。425は猿投窯産の須恵器で、岩崎17号窯式期から岩崎41号窯式期の高坏である。426は産地不明の須恵器で、岩崎17号窯式期から岩崎41号窯式期併行の高坏である。427～433はいずれも東濃型山茶碗で、427は矢戸上野２号窯式期の碗、428は浅間窯下１号窯式期の碗、429は丸石３号窯式期の小皿、430は窯洞１号窯式期の碗、431は白土原１号窯式期の碗、432は白土原１号窯式期の小壺、433は明和１号窯式期の小皿である。430は底部外面に墨書が確認でき、「十」（漢数字）と釈読できる。434は猿投窯産の須恵器で、岩崎101号窯式期の高坏である。435～438はいずれも東濃型山茶碗で、435は浅間窯下１号窯式期の碗、436・437は窯洞１号窯式期の小皿、438は白土原１号窯式期の小皿である。437は底部外面に墨書が確認できるが、釈読できない。

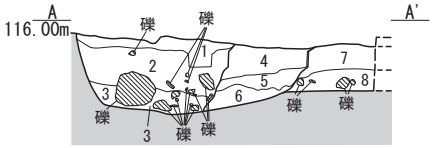
時期　SD８・SD９との重複関係、図示した419・420から、本遺構は12世紀末から13世紀後葉と考えられる。

SD８（図46・50）

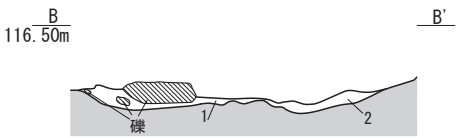
検出状況　BP７～BS８グリッド、SD７底面（Ⅳ層上面）で検出した。平面形は不明瞭であった。SD６・SD７・SD９・SK37と重複し、本遺構はSD６・SK37より古く、SD７・SD９より新しい。

規模・形状　南から北に向かって概ね直線的に延び、中央部（Ｂ－Ｂ’断面付近）及び南部（Ｃ－Ｃ’断面付近）では二条となるが、上部がSD６により消失しているため、全体を一条の溝と判断した。





1　2.5Y5/1黄灰色粗砂 ややしまる 粘性ややあり 径1cm以下の亜円礫を3%含む（SD7埋土①）
2　7.5YR5/6明褐色粗砂 ややしまる 粘性なし　10YR6/8明黄褐色砂質ブロックを10%含む
　径1～30cm程度の亜円礫を多く含む 5層埋土がブロック状に散在する（SD7埋土①）
3　10YR4/1褐灰色粗砂 ややしまる 粘性ややあり
　10YR6/8明黄褐色砂質ブロックが、他層と比べて径の大きな状態で30%混じる 径30cm以上の亜円礫を底の方に含む（SD7埋土①）
4　2.5Y6/1黄灰色砂 ややしまる 粘性なし（SD7埋土②）
5　2.5Y3/2黒褐色シルト ややしまる 粘性あり（SD7埋土②）
6　2.5Y4/1黄灰色砂 ややしまる 粘性ややあり
　10YR6/8明黄褐色砂質ブロックが径3cm程度の大きさで3%混じる（SD7埋土②）
7　2.5Y3/1黒褐色粘土 ややしまる 植物遺体含む　10YR4/4褐色砂を3%含む（SD7埋土③）
8　2.5Y4/2暗灰黄色砂 ややしまる 粘性ややあり　植物遺体含む
　10YR6/8明黄褐色砂質ブロックが径3cm程度の大きさで3%混じる 径20cm以上の円礫を多く含む（SD7埋土③）



1　7.5Y4/1灰色粗砂 ややしまる 粘性ややあり 径1～5cm程度の亜円礫を7%含む（SD8埋土）
2　2.5Y4/4オリーブ褐色粗砂 ややしまる 径5cm以上の亜円礫を3%含む　2.5Y6/8明黄褐色砂が底の方にブロック状に3%混じる（SD8埋土）

1　10YR6/1褐灰色粗砂 ややしまる 粘性なし　2.5Y6/6明黄褐色砂質ブロックを多く含む 径10cm以下の亜円礫を3%含む（SD8埋土）
2　10YR6/1褐灰色粗砂 ややしまる 粘性なし 径10cm程度の亜円礫を多く含む（SD8埋土）

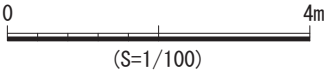


図46　SD７・SD８遺構図

埋土①（369～397）

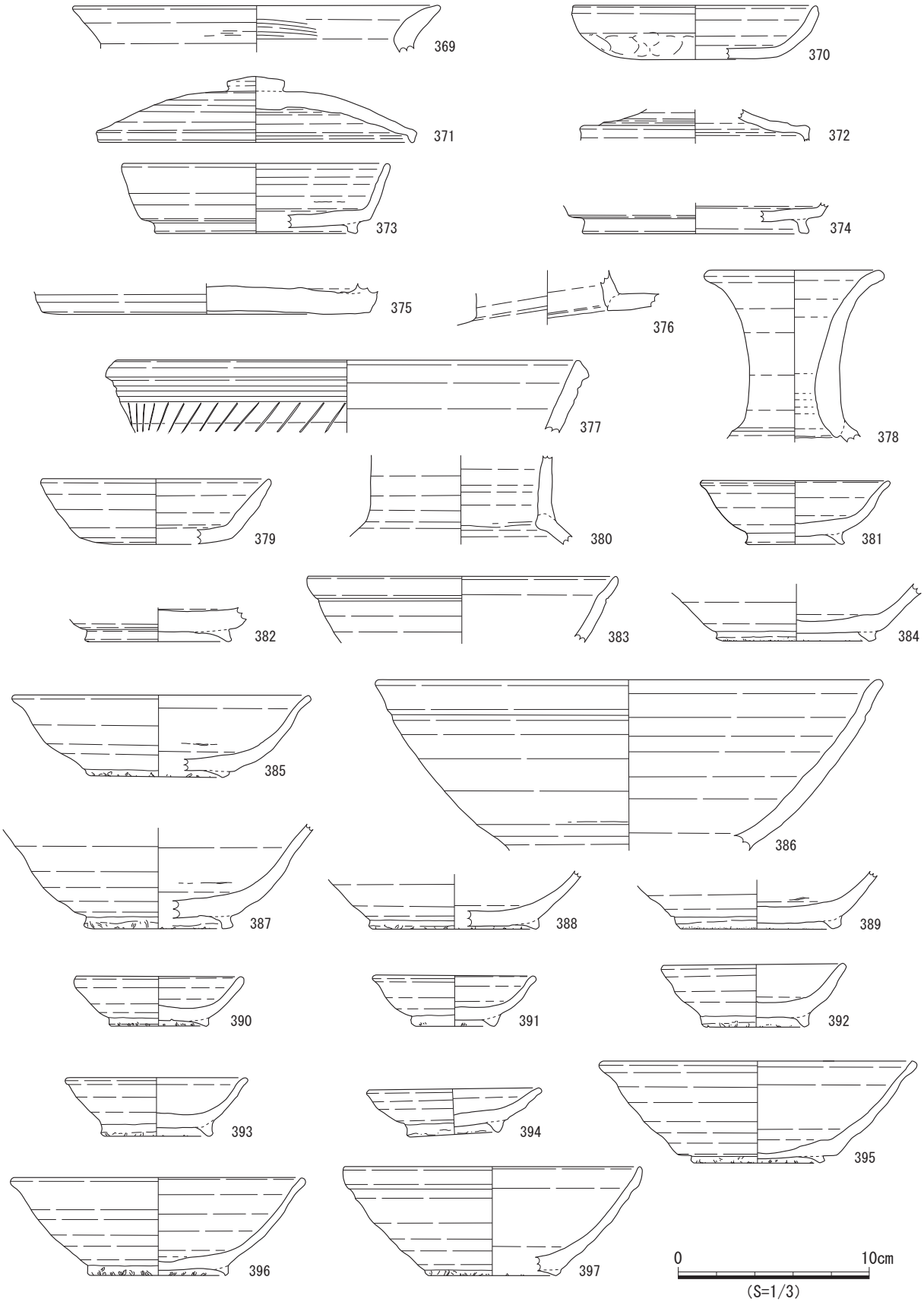


図47　SD７出土遺物実測図（１）

埋土①（398～424）

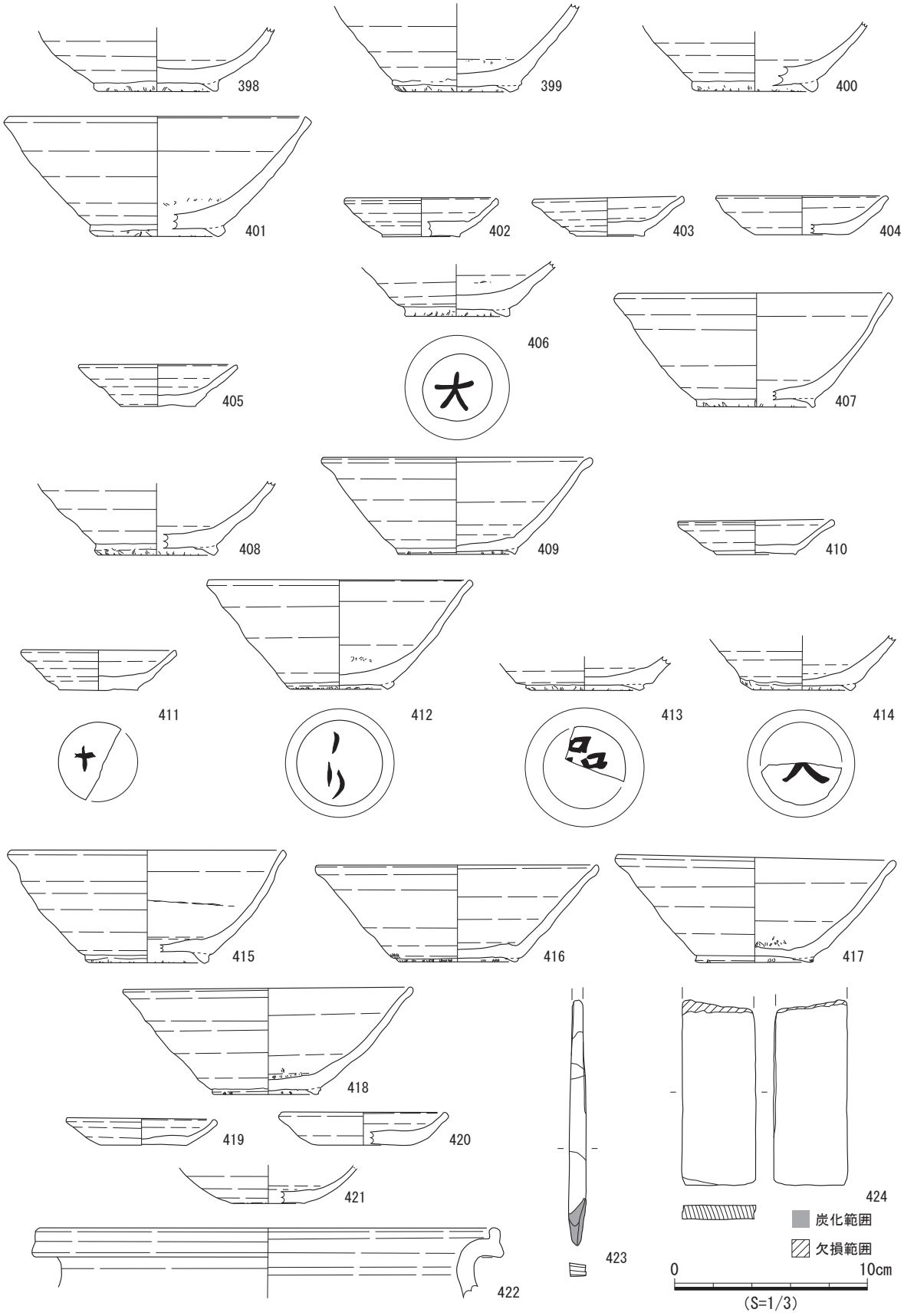


図48　SD７出土遺物実測図（２）

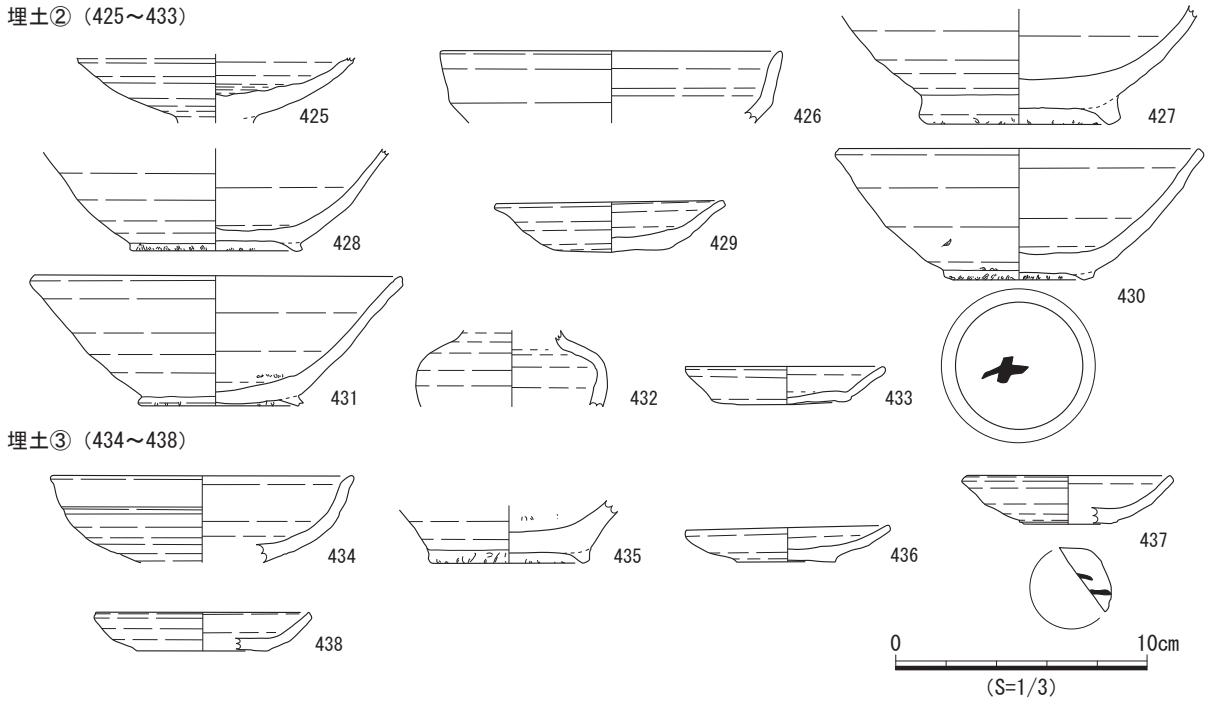


図49　SD７出土遺物実測図（３）

北側は攪乱坑により消失するため、全容は不明である。底面は概ね平坦である。肩部は地山（岩盤）を削って形成されており、掘削痕が明瞭に残る。

埋土　２層に分層した（Ｂ－Ｂ’断面及びＣ－Ｃ’断面）。埋土は亜円礫を含む粗砂である。Ｃ－Ｃ’断面１層に含まれる明黄褐色砂質ブロックは地山（岩盤）に由来すると考えられる。

遺物出土状況　埋土から土師器61点、須恵器310点（439～445）、灰釉陶器139点（446～448）、山茶碗563点（449～467）、古瀬戸８点（468）が散在して出土した。

出土遺物　須恵器７点、灰釉陶器３点、山茶碗19点、古瀬戸１点を図示した。須恵器はいずれも猿投窯産で、439は岩崎17号窯式期の坏蓋Ｂ類、440は高蔵寺２号窯式期の坏蓋Ｃ類、441は高蔵寺２号窯式期の坏身Ｂ類、442は高蔵寺２号窯式期から岩崎25号窯式期の坏身Ｃ類、443は折戸10号窯式期の長頸瓶、444は高蔵寺２号窯式期から鳴海32号窯式期の甕、445は高蔵寺２号窯式期から岩崎25号窯式期の壺である。灰釉陶器はいずれも東濃窯産で、446は大原２号窯式期の碗、447は虎渓山１号窯式期の段皿、448は丸石２号窯式期の丸皿である。449は尾張型山茶碗で、第５型式の碗である。450～467はいずれも東濃型山茶碗で、450は谷迫間２号窯式期の小碗、451～455は谷迫間２号窯式期の碗、456・457は浅間窯下１号窯式期の碗、458は浅間窯下１号窯式期の小皿、459～462は丸石３号窯式期の碗、463～465は窯洞１号窯式期の碗、466は白土原１号窯式期の碗、467は大畑大洞４号窯式期の碗である。466は底部外面に墨書が確認でき、「十」（漢数字）と釈読できる。468は古瀬戸後Ⅰ期の緑釉小皿である。

時期　SD６・SD７との重複関係、図示した467から、本遺構は13世紀末から14世紀中葉と考えられる。

SD９（図51）

検出状況　BQ７～BR８グリッド、SD８底面（Ⅳ層上面）で検出した。平面形は不明瞭であった。SD６・SD７・SD８・NR７と重複し、本遺構はいずれの遺構より古い。

規模・形状　南西から北東に向かって概ね直線的に延びる。北東側は攪乱坑により消失するため、全

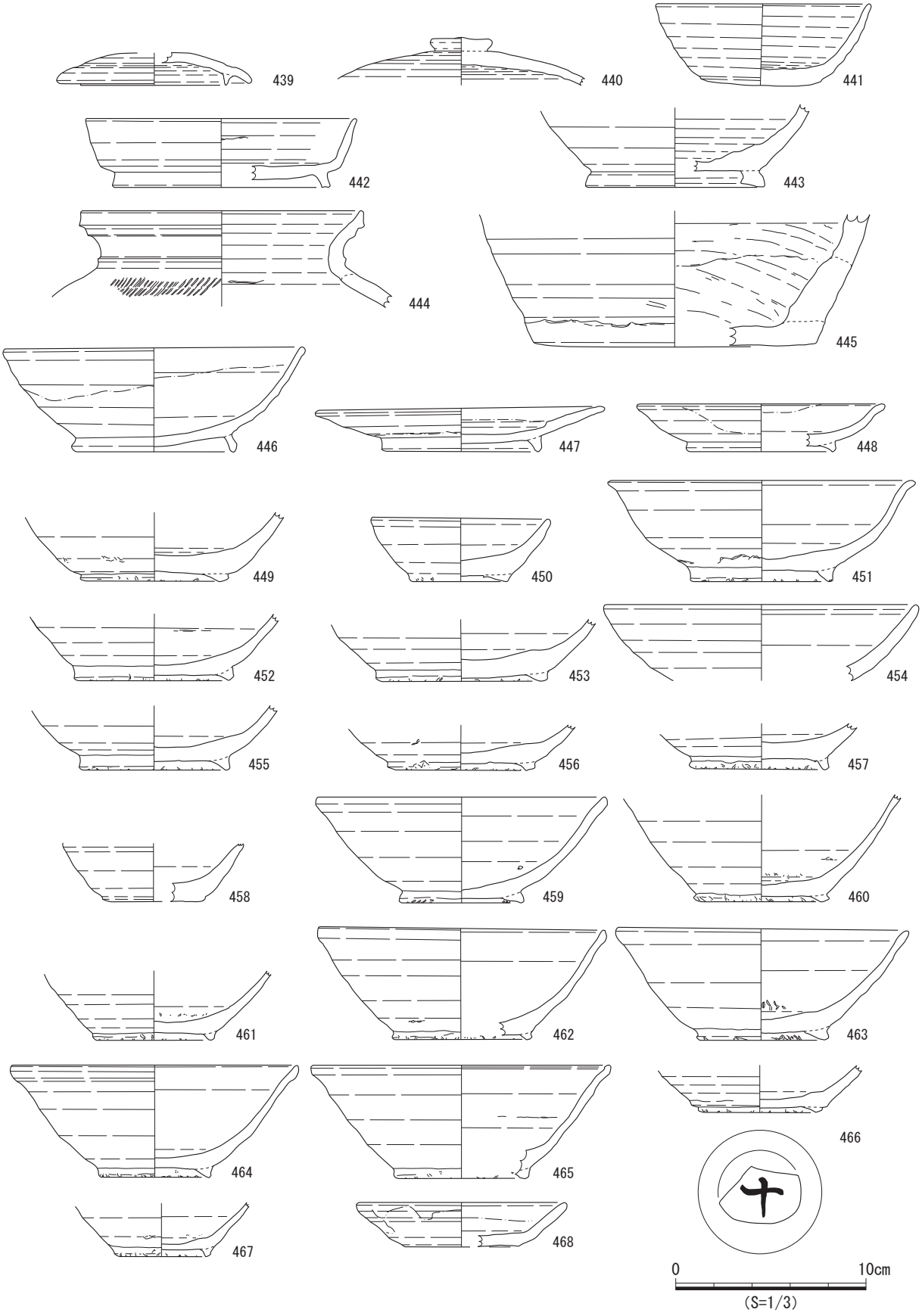


図50　SD８出土遺物実測図

容は不明である。底面は概ね平坦である。肩部は地山（岩盤）を削って形成されており、掘削痕が明瞭に残る。

埋土　３層に分層した。概ね水平に堆積する。１層に含まれる青灰色砂質ブロックは地山（岩盤）に由来すると考えられる。

遺物出土状況　埋土から土師器７点、須恵器14点（469）、灰釉陶器13点（470）、山茶碗52点（471・472）が散在して出土した。

出土遺物　須恵器１点、灰釉陶器１点、山茶碗２点を図示した。469は美濃須衛窯産の須恵器で、Ⅳ期第３小期の坏身Ｃ類である。470は東濃窯産の灰釉陶器で、西坂１号窯式期の片口鉢である。471は尾張型山茶碗で、第４型式の碗である。472は東濃型山茶碗で、谷迫間２号窯式期の碗である。

時期　SD８との重複関係、図示した472から、本遺構は12世紀中葉から12世紀後葉と考えられる。

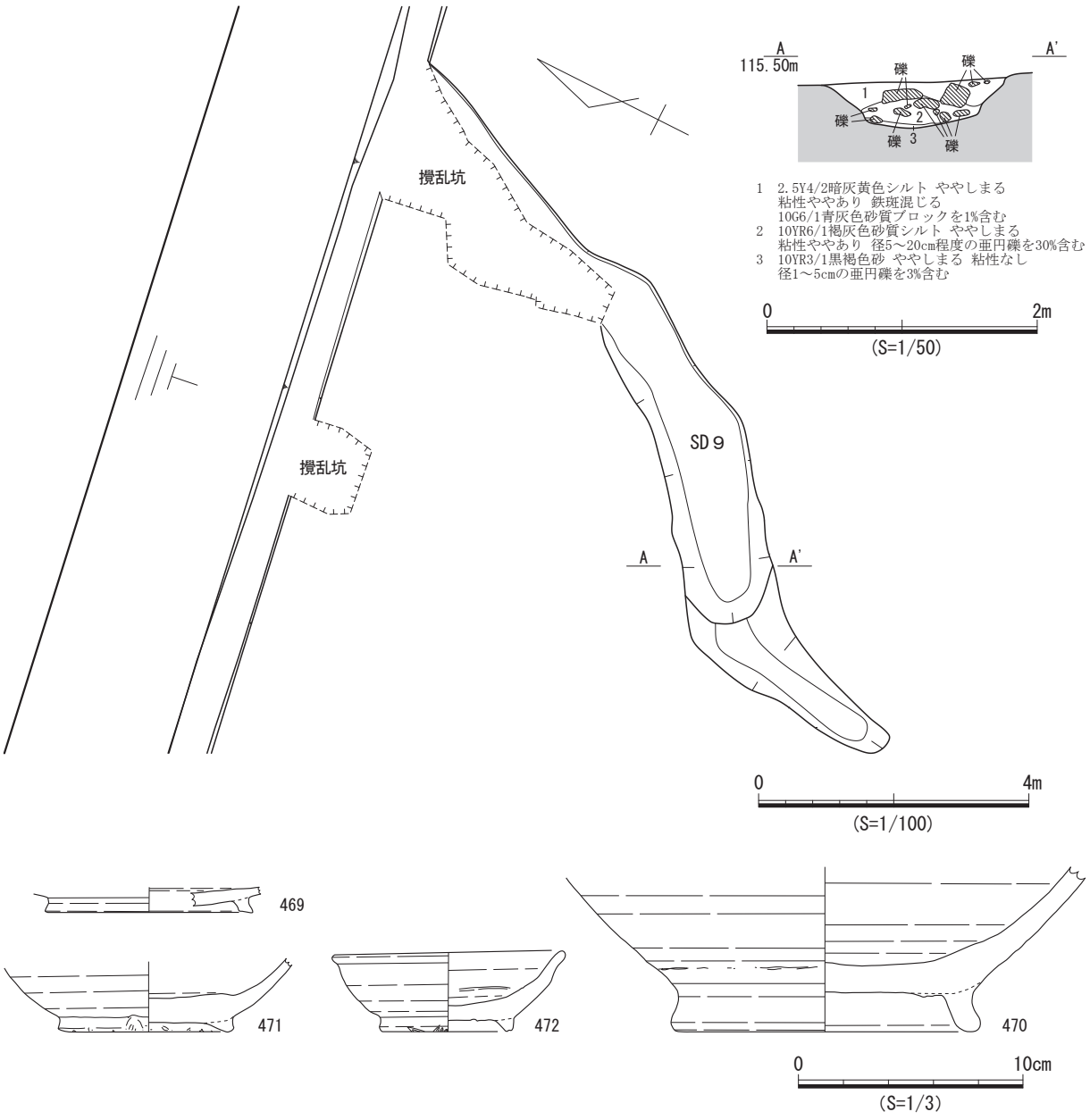


図51　SD９遺構図・出土遺物実測図

２　土坑

SK50（図52）

検出状況　BR６～BT７グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は明瞭であった。SK38・SK39と重複し、本遺構はいずれの遺構より古い。

規模・形状　発掘区の南西部に位置する。本遺構の北側及び東側は攪乱坑により消失するため、全容は不明である。底面は平坦であり、平坦部の面積が広い。底面及び西側壁面は地山（岩盤）を削って形成されており、掘削痕が明瞭に残る。西側壁面は緩やかに立ち上がる。

埋土　単層である。ブロック土が含まれることから人為堆積と考えられる。

遺物出土状況　埋土から土師器１点、山茶碗１点が散在して出土した。

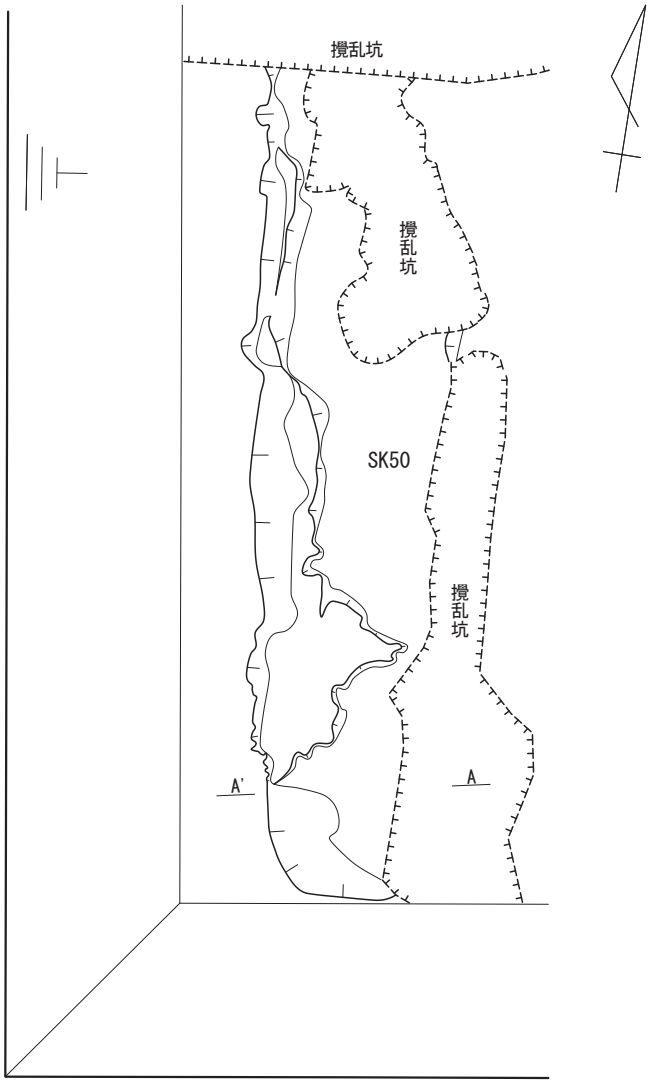
出土遺物　小片のため図示しなかった。

時期　重複するSK38・SK39から大谷洞14号窯式期の東濃型山茶碗が出土したこと、本遺構埋土から出土した山茶碗は極めて小片で時期判断ができないことから、本遺構の埋没は中世以降と考えられる。

SK51（図53）

検出状況　BR６・BR７グリッド、Ⅳ層上面で検出した。平面形は不明瞭であった。SD４・SD６・SK41と重複し、本遺構はSD４・SK41より古く、SD６より新しい。

規模･形状　平面形は不定形である。SK41及び攪乱坑により焼失するため、全容は不明である。底面は概ね平坦である。壁面は垂直に立ち上がるが、



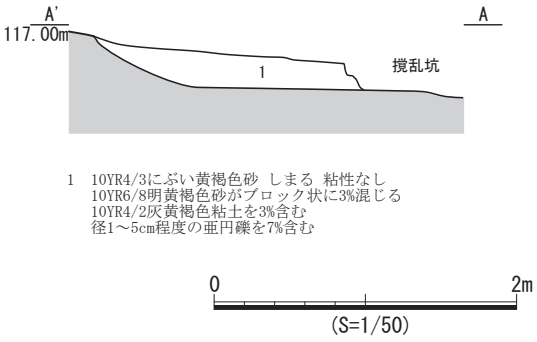


図52　SK50遺構図

南西側ではその上部で緩やかに立ち上がり二段となる。

埋土　単層である。黄褐色砂を含むことから、人為堆積と考えられる。

遺物出土状況　埋土から土師器２点､須恵器６点、灰釉陶器５点、山茶碗27点が散在して出土した。

出土遺物　小片のため図示しなかった。

時期　埋土から大谷洞14号窯式期の東濃型山茶碗が出土したことから、本遺構は14世紀中葉と考えられる。

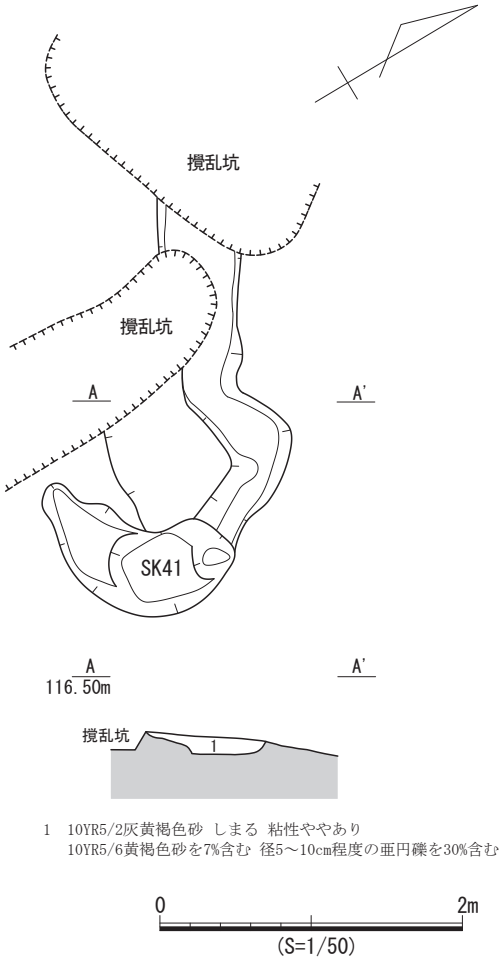


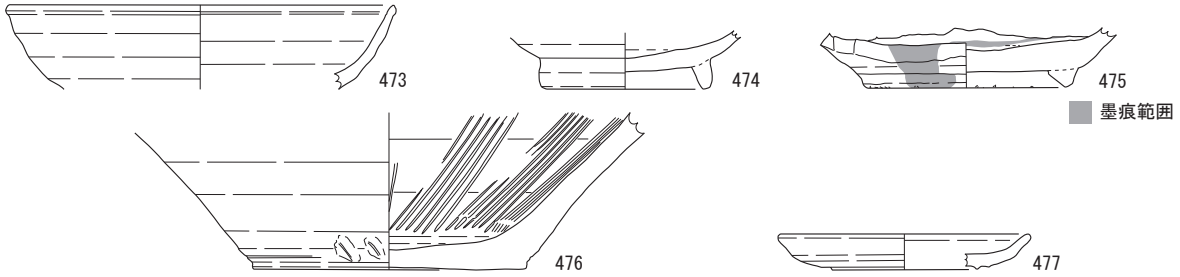
図53　SK51遺構図

３　Ⅱ層等出土遺物（図54）

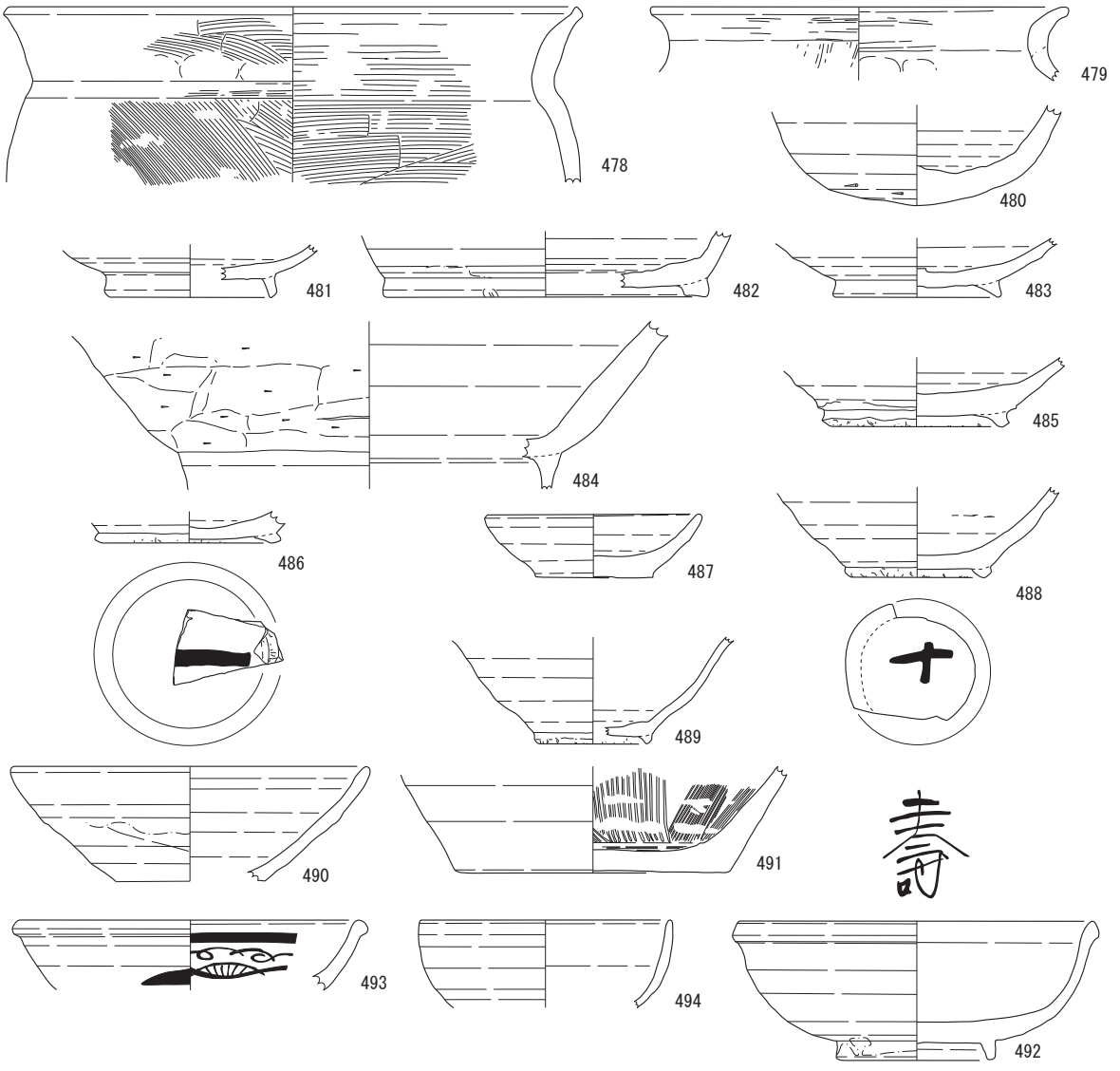
Ⅱ層からは、土師器40点、須恵器77点（473)、灰釉陶器47点（474)、山茶碗258点（475)、古瀬戸11点(476)､常滑産陶器７点､大窯製品20点(477)、登窯製品９点が出土した｡遺構検出面(Ⅳ層上面)に設定したトレンチからは､土師器50点(478･479)、須恵器133点（480)、灰釉陶器158点（481～483)、山茶碗288点（484～489)、古瀬戸７点（490)、常滑産陶器３点、大窯製品２点、登窯製品５点（491～494）が出土した。これらはⅣ層上面に存在する遺構の埋土に含まれる遺物と考えられるが、帰属する遺構が特定できなかったためトレンチ出土遺物として取り扱う。また、攪乱坑からは、土師器15点、須恵器45点、灰釉陶器29点、山茶碗105点（495～497)、古瀬戸５点、常滑産陶器４点、大窯製品２点、登窯製品３点が出土した。なお、Ｃ19地点ではⅢ層（遺物包含層）は後世の攪乱により消失したと考えられ、確認できなかった。

出土遺物のうち土師器２点、須恵器２点、灰釉陶器４点、山茶碗10点、古瀬戸２点、大窯製品１点、登窯製品４点を図示した。473は猿投窯産の須恵器で、岩崎25号窯式期の無台碗である。474は東濃窯産の灰釉陶器で、丸石２号窯式期の碗である。475は東濃型山茶碗で、谷迫間２号窯式期の碗である。破断面及び底部内面に墨痕が確認できる。転用硯と考えられる。476は古瀬戸後Ⅰ期から後Ⅲ期の擂鉢である。477は大窯第４段階の志野丸皿である。478は第１段階から第２段階（永井1995）の長胴甕である。479は第２段階から第３段階（永井1995）の長胴甕である。480は猿投窯産の須恵器で、東山11号窯式期から東山44号窯式期の壺である。481～483はいずれも東濃窯産の灰釉陶器で、481は光ヶ丘１号窯式期の碗、482は光ヶ丘１号窯式期の広口瓶、483は西坂１号窯式期の碗である。484は尾張型山茶碗で、第９型式から第10型式の片口鉢である。485～489はいずれも東濃型山茶碗で、485は谷迫間２号窯式期の碗、486は浅間窯下１号窯式期の碗、487は浅間窯下１号窯式期の小皿、488は窯洞１号窯式期の碗、489は大畑大洞４号窯式期の碗である。486は底部外面に墨書が確認でき、「一」（漢数字）と釈読できる。488は底部外面に墨書が確認でき、「十」（漢数字）と釈読できる。490は古瀬戸後Ⅳ期新段

Ⅱ層（473～477）



トレンチ（478～494）



攪乱坑（495～497）

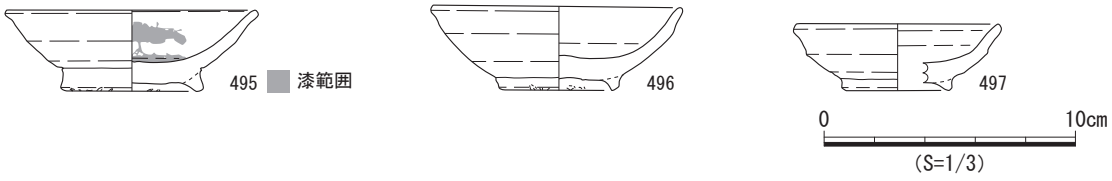


図54　Ⅱ層等出土遺物実測図

階の灰釉平碗である。491は登窯第２段階の擂鉢である。492は登窯第３段階の碗で「壽」の染付が内面見込に施される。493は登窯第３段階の染付皿である。494は登窯第３段階の灰釉丸碗である。495～497はいずれも東濃型山茶碗で、495は矢戸上野２号窯式期の小碗、496は谷迫間２号窯式期の碗、497は谷迫間２号窯式期の小碗である。

表８　掘立柱建物一覧表

地点名	調査番号	遺構番号	地区割り			検出面	間柱		規模(m)		主軸方位	重複関係		挿図	図版
			大区画	南北	東西		桁行	梁行	長軸長	短軸長		新	旧		
C18	－	SB1	A	Q-R	4-5	Ⅳ上	1間	1間	4.00	3.80	N18° E			36	6

表９　掘立柱建物付属遺構一覧表

地点名	調査番号	遺構番号	地区割り			検出面	平面形状	底面形状	堆積状況	断面形状	規模(m)					重複関係		挿図	図版
			大区画	南北	東西						上端		下端		深さ	新	旧		
											長軸長	短軸長	長軸長	短軸長					
C18	S021	SB1-SP1	A	Q	6	Ⅳ上	1	1	e	Ⅲ	0.30	(0.18)	(0.07)	0.04	0.27			36	6
C18	S037	SB1-SP2	A	Q	5	Ⅳ上	1	1	a	Ⅳ	0.36	0.32	0.18	0.17	0.12			36	6
C18	S025	SB1-SP3	A	R	4	Ⅳ上	1	1	e	Ⅳ	0.35	(0.21)	0.17	(0.02)	0.18			36	6
C18	S034	SB1-SP4	A	R	5	Ⅳ上	1	1	a	Ⅱ	0.40	0.34	0.13	0.11	0.24			36	6

表10　柱穴一覧表

地点名	調査番号	遺構番号	地区割り			検出面	平面形状	底面形状	堆積状況	断面形状	規模(m)					重複関係		挿図	図版
			大区画	南北	東西						上端		下端		深さ	新	旧		
											長軸長	短軸長	長軸長	短軸長					
C16	S017	SP1	A	A	5	Ⅳ上	1	1	e	Ⅵ	0.34	(0.14)	0.23	(0.08)	0.32			13	3
C16	S008	SP2	A	A	5	Ⅳ上	1	1	a	Ⅵ	0.42	0.30	0.15	0.15	0.66		SK2	14	3

表11　溝一覧表

地点名	調査番号	遺構番号	地区割り			検出面	平面形状	底面形状	堆積状況	断面形状	規模(m)					重複関係		挿図	図版
			大区画	南北	東西						上端		下端		深さ	新	旧		
											長軸長	短軸長	長軸長	短軸長					
C17	S044	SD1	A	H	5	Ⅳ上	1	1	a	Ⅱ	1.81	0.23	1.69	0.12	0.05		NR5		
C18	S030	SD2	A	P	6-7	Ⅳ上	3	3	b	Ⅰ	(13.82)	0.73	(13.82)	0.18	0.31	SK16, SK18, SK19	SK17	37	7
C19	S052	SD3	B	P-Q	6-8	Ⅳ上	4	4	b	Ⅳ	(10.55)	1.10	(10.12)	0.88	0.37		SD4, SD5, SK32	42	8
C19	S051	SD4	B	P-T	6-8	Ⅳ上	3	3	b	Ⅶ	(18.72)	5.50	(18.72)	4.10	0.28	SD3, SD10, SK28, SK33, SK34, SK41, SK43	SD6, SD13, NR7, SK29, SK36, SK46, SK49, SK51, SK52	42	8 9
C19	S061	SD5	B	Q	6	Ⅳ上	4	4	a	Ⅰ	(3.12)	0.34	(3.03)	0.22	0.08	SD3			
C19	S074	SD6	B	P-T	6-8	Ⅳ上	3	3	b	Ⅶ	(17.30)	4.70	(18.20)	4.30	0.22	SD4, SK31, SK33, SK34, SK42, SK46, SK51, SK52	SD7, SD8, SD9, NR7, SK37	44	9
C19	S097	SD7	B	P-Q	6-8	Ⅳ上	4	4	d	Ⅰ	(9.55)	2.68	(9.64)	2.56	0.67	SD6, SD8	SD9, SK27, SK32	46	9
C19	S080	SD8	B	P-S	7-8	Ⅳ上	3	3	f	Ⅶ	(18.52)	3.00	(11.80)	1.04	0.28	SD6, SK37	SD7, SD9	46	9
C19	S087	SD9	B	Q-R	7-8	Ⅳ上	4	4	b	Ⅰ	12.16	0.62	9.12	0.40	0.34	SD6, SD7, SD8, NR7		51	10
C19	S070	SD10	B	P	8	Ⅳ上	4	4	a	Ⅲ	(2.04)	0.49	(1.94)	0.16	0.26		SD4, SK30		
C19	S060	SD11	B	R-S	7	Ⅳ上	4	4	d	Ⅰ	(2.92)	0.26	(2.82)	0.11	0.21				
C19	S089	SD12	B	R	8-9	Ⅳ上	4	4	a	Ⅶ	(1.96)	0.42	(1.92)	0.22	0.08				
C19	S066	SD13	B	R-S	7	Ⅳ上	4	4	a	Ⅳ	(4.01)	0.63	(3.86)	0.21	0.11	SD4			

表12　自然流路一覧表

地点名	調査番号	遺構番号	地区割り			検出面	平面形状	底面形状	堆積状況	断面形状	規模(m)					重複関係		挿図	図版
			大区画	南北	東西						上端		下端		深さ	新	旧		
											長軸長	短軸長	長軸長	短軸長					
C16	S007	NR1	A	D	4-5	Ⅳ上	4	4	d	Ⅷ	6.48	1.16	4.92	(0.60)	0.95		NR2, NR3	15	3
C16	S004	NR2	A	B-D	3-5	Ⅳ上	4	4	f	Ⅶ	(7.50)	6.56	(7.50)	0.56	0.41	NR1	NR3	16	3
C16	S005	NR3	A	B-D	3-5	Ⅳ上	4	4	b	Ⅶ	10.78	(9.30)	9.42	(8.23)	0.6	NR1, NR2, NR5, SK9, SK10, SK14, SK15		19 20	4
C17	S050	NR5	A	H-I	5-6	Ⅳ上	4	4	f	Ⅵ	(9.55)	(5.42)	(6.98)	(3.72)	1.04	SD1, SK11, SK12, SK13	NR3	24	4 5
C19	S058	NR7	B	Q-R	6-7	Ⅳ上	4	4	f	Ⅶ	(4.57)	0.70	(4.47)	0.40	0.08	SD4, SD6, SK33, SK34	SD9		

表13　水制遺構一覧表

地点名	調査番号	遺構番号	地区割り			検出面	平面形状	底面形状	堆積状況	断面形状	規模(m)					重複関係		挿図	図版
			大区画	南北	東西						上端		下端		深さ	新	旧		
											長軸長	短軸長	長軸長	短軸長					
C18	S040	SR1	A	P	6	Ⅳ上	－	－	－	－	－	－	－	－	－			37	7
C18	S030	SR2	A	P	6	Ⅳ上	－	－	－	－	－	－	－	－	－			37	7

表14　土坑一覧表

地点名	調査番号	遺構番号	地区割り			検出面	平面形状	底面形状	堆積状況	断面形状	規模(m)					重複関係		挿図	図版
			大区画	南北	東西						上端		下端		深さ	新	旧		
											長軸長	短軸長	長軸長	短軸長					
C16	S009	SK1	A	A	4	Ⅳ上	1	1	b	Ⅱ	0.33	0.31	0.15	0.13	0.56				
C16	S011	SK2	A	A	5	Ⅳ上	1	1	c	Ⅵ	0.23	0.22	0.10	0.08	0.44	SP2	SK3		
C16	S012	SK3	A	A	5	Ⅳ上	1	1	a	Ⅱ	0.27	0.20	0.15	0.15	0.20	SK2			
C16	S003	SK4	A	A	5	Ⅳ上	2	2	a	Ⅱ	(1.01)	0.82	(0.95)	0.68	0.08				
C16	S002	SK5	A	B	4	Ⅳ上	4	4	a	Ⅱ	0.68	(0.65)	0.60	(0.58)	0.03				
C16	S013	SK6	A	B	4	Ⅳ上	1	1	a	Ⅰ	0.48	0.42	0.36	0.35	0.08				
C16	S001	SK7	A	B	4-5	Ⅳ上	1	1	a	Ⅱ	1.15	0.70	0.96	0.55	0.07				
C16	S010	SK8	A	B	4	Ⅳ上	1	1	a	Ⅲ	0.48	0.38	0.40	0.30	0.05				
C16	S015	SK9	A	C	4	Ⅳ上	1	1	a	Ⅵ	0.74	0.72	0.30	0.27	0.15		NR3		
C17	S043	SK10	A	H	4	Ⅳ上	4	4	a	Ⅱ	(2.12)	2.00	(2.06)	1.85	0.04		NR3		
C17	S045	SK11	A	H	5-6	Ⅳ上	3	3	a	Ⅱ	(2.58)	1.15	(2.55)	1.00	0.02		NR5, SK12, SK13		
C17	S046	SK12	A	H	5-6	Ⅳ上	4	4	c	Ⅶ	1.18	(0.77)	0.92	(0.42)	0.36	SK11	NR5		
C17	S047	SK13	A	H	6	Ⅳ上	1	1	a	Ⅰ	0.75	0.50	0.62	0.37	0.04	SK11	NR5		
C17	S049	SK14	A	I	4	Ⅳ上	1	1	f	Ⅱ	1.08	0.64	0.97	0.57	0.03		NR3		
C17	S048	SK15	A	I	5	Ⅳ上	1	1	a	Ⅱ	0.19	0.18	0.13	0.12	0.04		NR3		
C18	S018	SK16	A	P	4-5	Ⅳ上	4	4	f	Ⅱ	4.55	(1.54)	4.39	(1.50)	0.07		SD2		
C18	S041	SK17	A	P	6	Ⅳ上	4	4	a	Ⅶ	(1.22)	(0.52)	(1.22)	(0.51)	0.01	SD2			
C18	S028	SK18	A	Q	6-7	Ⅳ上	1	1	b	Ⅵ	1.36	(0.50)	0.48	(0.32)	0.17		SD2		
C18	S033	SK19	A	Q-R	6-7	Ⅳ上	4	4	a	Ⅰ	(1.29)	0.98	(1.23)	0.85	0.03		SD2		
C18	S020	SK20	A	Q	5	Ⅳ上	1	1	a	Ⅱ	1.04	0.55	0.96	0.45	0.04				
C18	S029	SK21	A	R	4	Ⅳ上	1	1	a	Ⅶ	1.58	(0.56)	1.36	(0.48)	0.12				
C18	S019	SK22	A	R	5	Ⅳ上	1	1	a	Ⅰ	2.62	1.44	2.26	1.00	0.05				
C18	S038	SK23	A	R	6	Ⅳ上	1	1	a	Ⅰ	0.32	0.24	0.13	0.13	0.07				
C18	S027	SK24	A	R	5	Ⅳ上	1	1	a	Ⅰ	0.25	0.22	0.14	0.10	0.07			39	8
C18	S036	SK25	A	R	5	Ⅳ上	1	1	a	Ⅱ	0.40	0.34	0.29	0.28	0.06			39	8
C18	S039	SK26	A	R	6	Ⅳ上	1	1	a	Ⅱ	0.34	0.27	0.20	0.20	0.07				
C19	S096	SK27	B	P	6	Ⅳ上	4	4	a	Ⅰ	0.64	(0.54)	(0.50)	0.36	0.08	SD7			
C19	S059	SK28	B	P	6	Ⅳ上	2	2	a	Ⅰ	0.93	(0.93)	0.52	(0.77)	0.12		SD4		
C19	S086	SK29	B	P-Q	6	Ⅳ上	1	1	a	Ⅰ	2.55	0.68	2.11	0.37	0.16	SD4			
C19	S072	SK30	B	P	8	Ⅳ上	4	4	b	Ⅱ	0.92	(0.44)	0.48	(0.22)	0.14	SD10			
C19	S076	SK31	B	P-Q	8	Ⅳ上	4	4	a	Ⅱ	2.32	(0.58)	1.52	(0.53)	0.14		SD6		
C19	S081	SK32	B	Q	6-7	Ⅳ上	4	4	b	Ⅵ	2.70	(0.84)	2.62	(0.78)	0.15	SD3, SD7			
C19	S083	SK33	B	Q-R	6-7	Ⅳ上	4	4	b	Ⅵ	1.40	(0.18)	1.08	(0.16)	0.15		SD4, SD6, NR7		
C19	S057	SK34	B	Q-R	7	Ⅳ上	4	4	b	Ⅱ	2.25	(1.47)	1.94	(1.15)	0.24		SD4, SD6, NR7		
C19	S085	SK35	B	R	8	Ⅳ上	1	1	a	Ⅳ	0.47	0.44	0.31	0.28	0.14				
C19	S088	SK36	B	R	8-9	Ⅳ上	4	4	d	Ⅰ	(3.60)	0.44	(3.44)	0.28	0.25	SD4			
C19	S082	SK37	B	R	8	Ⅳ上	1	1	b	Ⅰ	1.12	0.71	0.78	0.56	0.10	SD6	SD8		
C19	S065	SK38	B	R	6	Ⅳ上	1	1	a	Ⅳ	0.34	0.26	0.27	0.16	0.04	SK39	SK50		
C19	S055	SK39	B	R-S	6-7	Ⅳ上	4	4	a	Ⅰ	2.62	(0.31)	2.30	(0.28)	0.14		SK38, SK50		
C19	S071	SK40	B	R-S	7	Ⅳ上	1	1	a	Ⅰ	0.47	0.36	0.32	0.20	0.08		SK41		
C19	S069	SK41	B	R-S	7	Ⅳ上	3	3	e	Ⅶ	1.13	0.54	0.93	0.12	0.12	SK40	SD4, SK51		
C19	S079	SK42	B	R-S	7	Ⅳ上	2	2	f	Ⅳ	1.38	0.77	1.28	0.23	0.10		SD6		
C19	S056	SK43	B	S	7	Ⅳ上	1	1	a	Ⅱ	0.97	(0.64)	0.65	(0.52)	0.04		SD4		
C19	S054	SK44	B	S	6	Ⅳ上	1	1	a	Ⅰ	0.41	(0.25)	0.30	(0.13)	0.04				
C19	S053	SK45	B	S	6	Ⅳ上	1	1	a	Ⅱ	0.40	(0.18)	0.30	(0.15)	0.04				
C19	S077	SK46	B	S	7	Ⅳ上	1	1	b	Ⅱ	0.20	0.11	0.12	0.07	0.18	SD4	SD6		
C19	S090	SK49	B	S	8	Ⅳ上	4	4	a	Ⅶ	0.90	(0.35)	0.84	(0.34)	0.10	SD4			
C19	S092	SK50	B	R-T	6-7	Ⅳ上	2	2	b	Ⅳ	(10.82)	2.28	(10.52)	2.24	0.36	SK38, SK39		52	10
C19	S073	SK51	B	R	6-7	Ⅳ上	4	4	b	Ⅱ	(1.92)	0.42	(1.92)	0.22	0.17	SD4, SK41	SD6	53	10
C19	S078	SK52	B	R-T	8	Ⅳ上	3	3	a	Ⅵ	3.75	0.84	3.44	0.38	0.18	SD4	SD6		

表15　土器観察表（１）

掲載番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	種別	器種	産地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整(内面)	調整(外面)	胎土	焼成	備考	挿図番号	図版番号
2	C16	－	NR1	a-c	371-1	灰釉陶器	碗	東濃産	虎渓山1	－	(8.5)	(2.8)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好		15	
3	C16	－	NR1	a-c	372-1	山茶碗	碗	東濃型	谷迫間2	－	(8.0)	(3.0)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	やや粗	良好	籾殻痕	15	
4	C16	－	NR1	a-c	372-2	山茶碗	碗	東濃型	窯洞1	15.0	6.8	5.2	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	籾殻痕	15	11
5	C16	－	NR1	8-9	540-2	須恵器	坏身Ｃ	猿投産	岩崎25	－	(9.6)	(1.4)	回転ナデ	回転ヘラ削り、底部回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好		15	
6	C16	－	NR1	j-l	387-1	灰釉陶器	碗	東濃産	大原2	(15.5)	7.5	4.7	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り、底部回転ヘラ削り、貼付高台	密	不良		15	
7	C16	－	NR1	m-o	446-1	須恵器	坏蓋Ｃ	猿投産	高蔵寺2	15.5	－	3.4	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好		15	
8	C16	－	NR1	m-o	402-7	須恵器	坏蓋Ａ	猿投産	東山15	－	－	(2.2)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好		15	
9	C16	－	NR1	南壁12	656-1	須恵器	坏身Ｂ	美濃須衛産	Ⅲ期-3～Ⅳ期-1	(11.5)	(6.3)	4.4	回転ナデ、静止ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラ削り	密	良好		15	
10	C16	－	NR1	10	542-1	須恵器	坏身Ｂ	美濃須衛産	Ⅳ期-1	(12.2)	(7.2)	3.9	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラ切り後ナデ	密	不良		15	
11	C16	－	NR1	南壁12	655-1	須恵器	坏身Ｂ	美濃須衛産	Ⅳ期-2	(12.8)	(7.8)	3.5	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラ切り	密	不良		15	
12	C16	－	NR1	m-o	403-1	甕	美濃須衛産	Ⅲ期-3	(31.5)	－	(6.2)	回転ナデ	回転ナデ	密	良好			15	
13	C16	－	NR1	10	542-5	須恵器	坏蓋Ｂか坏蓋Ｃ	在地産	岩崎41～高蔵寺2併行	－	－	(3.5)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	やや粗	良好		15	
14	C16	－	NR1	10	543-1	灰釉陶器	皿	東濃産	光ヶ丘1	(17.7)	－	(2.5)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好	内外面灰釉刷毛掛け	15	
15	C16	－	NR1	m-o	447-1	山茶碗	広口壺	美濃須衛型	Ⅷ期	－	(14.0)	(5.5)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り、底部砂粒痕及び指頭圧痕	密	不良		15	11
16	C16	AD5	NR2	j-l	317-2	土師器	甕	－	宇田Ⅰ～Ⅱ	(13.3)	－	(3.9)	ナデ、指押え	ナデ、ハケ、指押え	やや粗	不良		17	
17	C16	－	NR2	j-l	296-1	土師器	小型壺	－	松河戸Ⅱ～宇田Ⅰ	(8.9)	4.5	6.0	不定方向ナデ	不定方向ナデ	粗	不良	内外面に粘土紐接合痕有	17	11
18	C16	AC4	NR2	j-l	532-1	土師器	高坏	－	松河戸Ⅱ～宇田Ⅰ	－	－	(4.5)	ナデ	指押え	やや粗	不良		17	
19	C16	AC5	NR2	j-l	389-1	土師器	清郷型鍋	－	Ⅱ段階-3	(15.3)	－	(4.8)	回転ナデ	ナナメナデ、指頭圧痕	密	良好		17	12
20	C16	AC5	NR2	a-c	288-2	土師器	清郷型鍋	－	Ⅱ段階-3	(21.2)	－	(4.3)	ナデ	ナデ、指押え	やや粗	良好		17	12
21	C16	－	NR2	6-10	647-4	須恵器	坏蓋Ｃ	猿投産	鳴海32	(15.5)	－	(2.0)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好		17	
22	C16	AC5	NR2	j-l	449-6	須恵器	坏身Ａ	猿投産	蝮ヶ池～東山44	(12.1)	－	(3.3)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好	口縁端部内面凹線巡る、体部外面沈線有	17	
23	C16	AD5	NR2	j-l	318-3	須恵器	広口瓶	猿投産	高蔵寺2～鳴海32	－	(12.6)	(3.5)	静止指頭圧痕	底部回転指ナデ	密	良好	歪み顕著	17	
24	C16	AC3	NR2	d-f	364-1	須恵器	盤	美濃須衛産	Ⅳ期-1～Ⅴ期-1	－	－	(2.1)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラ削り	密	良好	高台部十字透し及びヘラ描き沈線有	17	11
25	C16	AC4	NR2	d-f	417-11	灰釉陶器	碗	東濃産	光ヶ丘1	－	(7.8)	(2.1)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り、底部回転糸切、貼付高台	密	良好		17	
26	C16	－	NR2	d-f	294-9	灰釉陶器	碗	東濃産	光ヶ丘1	－	(7.8)	(3.6)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好	体部内外面上半灰釉刷毛掛け	17	

表16　土器観察表（２）

掲載番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	種別	器種	産地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整(内面)	調整(外面)	胎土	焼成	備考	挿図番号	図版番号
27	C16	AD4	NR2	d-f	276-2	灰釉陶器	碗	東濃産	大原2	-	(8.0)	(3.0)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り、底部回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好		17	
28	C16	-	NR2	d-l	467-1	灰釉陶器	碗	東濃産	虎渓山1	-	7.1	(4.4)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	内部に高台接着痕	17	
29	C16	AD5	NR2	j-l	319-2	灰釉陶器	皿	東濃産	虎渓山1	(12.7)	(7.1)	2.9	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好		17	
30	C16	AC4	NR2	d-f	381-1	灰釉陶器	鉢	東濃産	虎渓山1～丸石2	(25.2)	(10.3)	12.3	回転ナデ	回転ヘラ削り、底部回転ナデ、貼付高台	密	良好	穿孔有	17	11
31	C16	AC5	NR2	g-i	322-1	灰釉陶器	碗	東濃産	丸石2	(14.1)	6.8	5.5	回転ナデ	回転ヘラ削り、底部回転糸切、貼付高台	密	良好		17	
32	C16	AC5	NR2	j-l	356-1	灰釉陶器	碗	東濃産	丸石2	-	6.6	(5.0)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好		17	
33	C16	-	NR2	11-12	653-1	灰釉陶器	碗	東濃産	丸石2	-	7.9	(3.9)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラ削り、貼付高台	密	不良		17	
34	C16	AC4	NR2	a-c	341-4	灰釉陶器	小碗	東濃産	丸石2	(11.7)	6.0	3.9	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切後回転ナデ、貼付高台	密	良好		17	
35	C16	AD5	NR2	a-c	283-1	灰釉陶器	皿	東濃産	丸石2	11.3	6.0	2.0	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切後軽いナデ、貼付高台	密	良好		17	11
36	C16	-	NR2	d-f	295-1	灰釉陶器	碗	東濃産	明和27	(14.8)	(6.6)	6.3	回転ナデ	回転ナデ、貼付高台	密	良好		17	
37	C16	-	NR2	11-12	653-2	灰釉陶器	碗	東濃産	明和27	(13.9)	7.0	5.4	回転ナデ	回転ナデ 、底部糸切後回転ナデ、貼付高台	密	良好		17	
38	C16	-	NR2	d-l	461-1	灰釉陶器	碗	東濃産	明和27	(14.4)	6.5	5.5	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好		17	11
39	C16	-	NR2	d-l	462-1	灰釉陶器	碗	東濃産	明和27	(14.3)	(6.2)	5.8	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ナデ、貼付高台	密	良好		17	
40	C16	AC5	NR2	j-l	355-1	灰釉陶器	碗	東濃産	明和27	(14.2)	(6.9)	6.1	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ナデ、貼付高台	密	良好	使用痕、高台接着痕	17	
41	C16	-	NR2	d-l	458-1	灰釉陶器	碗	東濃産	明和27	(16.0)	-	(5.3)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好	口縁部内面沈線１条有	17	
42	C16	-	NR2	d-l	463-1	灰釉陶器	碗	東濃産	明和27	(16.7)	-	(5.1)	回転ナデ	回転ナデ	密	不良	焼成甘く釉白濁	18	
43	C16	AC5	NR2	d-f	303-1	灰釉陶器	碗	東濃産	明和27	(14.6)	7.0	5.9	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ナデ、貼付高台	密	不良		18	
44	C16	AC5	NR2	j-l	352-2	灰釉陶器	碗	東濃産	明和27	(14.4)	6.8	5.9	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ナデ、貼付高台	密	良好		18	
45	C16	-	NR2	d-f	295-3	灰釉陶器	碗	東濃産	明和27	-	6.0	(2.3)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好		18	
46	C16	-	NR2	d-l	455-1	灰釉陶器	小碗	東濃産	明和27	(9.1)	4.6	3.6	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ナデ、貼付高台	密	良好		18	
47	C16	AC5	NR2	j-l	391-2	灰釉陶器	小碗	東濃産	明和27	(9.2)	-	(3.3)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好		18	
48	C16	AC4	NR2	d-f	347-2	灰釉陶器	輪花碗	東濃産	明和27	9.9	5.2	3.6	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ナデ、貼付高台	密	良好	指頭ナデによる輪花４箇所有	18	11
49	C16	-	NR2	d-l	456-1	灰釉陶器	輪花碗	東濃産	明和27	(9.9)	4.4	4.1	回転ナデ	回転ナデ、底部糸切後回転ナデ、貼付高台	密	良好	体部外面下半粘土付着	18	

表17　土器観察表（３）

掲載番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	種別	器種	産地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整(内面)	調整(外面)	胎土	焼成	備考	挿図番号	図版番号
50	C16	－	NR2	d-l	465-1	灰釉陶器	皿	東濃産	明和27	－	4.9	(1.6)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	不良		18	
51	C16	AC4	NR2	d-f	417-2	灰釉陶器	碗	東濃産	西坂1	14.0	6.4	4.8	回転ナデ	回転ナデ、底部ヘラ削り後ナデ、貼付高台	密	不良		18	11
52	C16	AC5	NR2	j-l	359-1	灰釉陶器	碗	東濃産	西坂1	(14.0)	6.6	5.8	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ナデ、貼付高台	密	良好		18	
53	C16	－	NR2	d-f	295-4	灰釉陶器	碗	東濃産	西坂1	(13.5)	(6.8)	4.5	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切後回転ナデ、貼付高台	密	不良		18	
54	C16	AD4	NR2	d-f	276-3	灰釉陶器	小碗	東濃産	西坂1	(10.7)	5.2	3.3	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好		18	
55	C16	AD4	NR2	d-f	267-1	山茶碗	碗	尾張型	第5型式	16.2	7.6	4.9	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	底部内面重ね焼き痕、籾殻痕	18	
56	C16	AC4	NR2	g-i	454-2	山茶碗	碗	尾張型	第5型式	(16.2)	(7.6)	4.0	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	籾殻痕	18	
57	C16	AC4	NR2	a-c	341-2	山茶碗	小碗	美濃須衛型	Ⅷ期	11.0	5.4	3.8	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	不良		18	12
58	C16	－	NR2	6-10	649-3	山茶碗	小碗	東濃型	矢戸上野2	(11.3)	5.2	3.9	回転ナデ	回転ナデ、底部糸切後回転ナデ、貼付高台	密	良好		18	
59	C16	AC4	NR2	d-f	417-1	山茶碗	碗	東濃型	谷迫間2	－	(7.6)	(4.3)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、植物状圧痕、貼付高台	密	良好		18	
60	C16	AC4	NR2	d-f	418-1	山茶碗	碗	東濃型	谷迫間2	－	7.7	(3.4)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切後軽い回転ナデ、貼付高台	密	良好	籾殻痕	18	
61	C16	AD4	NR2	d-f	275-2	山茶碗	碗	東濃型	谷迫間2	－	6.6	(3.2)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	やや粗	良好	籾殻痕	18	
62	C16	AC5	NR2	a-c	278-1	山茶碗	碗	東濃型	谷迫間2	－	(7.4)	(2.7)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	やや粗	良好	籾殻痕	18	
63	C16	AC4	NR2	g-i	454-1	山茶碗	小碗	東濃型	谷迫間2	8.1	4.0	3.3	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ナデ、貼付高台	密	良好	底部内面高台接着痕、籾殻痕	18	12
64	C16	AC5	NR2	a-c	280-1	山茶碗	小碗	東濃型	谷迫間2	－	4.8	(2.7)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切後軽い回転ナデ、貼付高台	密	良好		18	
65	C16	AD4	NR2	d-f	275-8	山茶碗	碗	東濃型	浅間窯下1	15.6	7.0	6.3	回転ナデ	回転ナデ、貼付高台	密	良好	籾殻痕	18	
66	C16	AC5	NR2	a-c	279-1	山茶碗	碗	東濃型	浅間窯下1	－	6.5	(2.9)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕、貼付高台	密	良好	籾殻痕	18	
67	C16	AD4	NR2	d-f	267-2	山茶碗	碗	東濃型	浅間窯下1	(15.3)	(7.5)	6.2	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕、貼付高台	密	不良	籾殻痕	18	
68	C16	AD4	NR2	d-f	268-1	山茶碗	碗	東濃型	丸石3	－	(7.0)	(5.0)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	籾殻痕	18	
69	C16	AD4	NR2	d-f	267-3	山茶碗	碗	東濃型	丸石3	14.0	6.6	5.5	回転ナデ、底部指圧痕	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕、貼付高台	密	良好	籾殻痕	18	
70	C16	AD4	NR2	d-f	265-1	山茶碗	碗	東濃型	丸石3	－	5.7	(5.4)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	籾殻痕	18	

表18　土器観察表（４）

掲載番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	種別	器種	産地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整(内面)	調整(外面)	胎土	焼成	備考	挿図番号	図版番号
71	C16	AD4	NR2	d-f	266-1	山茶碗	小皿	東濃型	丸石3	7.3	3.2	19.5	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好		18	11
72	C16	AC4	NR2	d-f	418-4	山茶碗	平高台皿	東濃型	丸石3	9.8	4.0	3.2	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切	密	良好	底部内面摩耗	18	12
73	C16	AD4	NR2	d-f	275-5	山茶碗	碗	東濃型	窯洞1	14.0	7.0	5.5	回転ナデ、底部静止ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	籾殻痕	18	11
74	C16	AD4	NR2	d-f	275-1	山茶碗	碗	東濃型	白土原1	-	5.9	(4.2)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕、貼付高台	密	良好	内面全体及び破断面一部筆先により漆状付着物塗付、籾殻痕	18	12
75	C16	AD4	NR2	d-f	276-8	山茶碗	碗	東濃型	白土原1～明和1	(14.9)	-	(4.5)	回転ナデ	回転ナデ	密	良好	体部内面下半墨痕付着	18	
76	C16	-	NR3	15-16	676-18	土師器	く字甕	-	廻間Ⅱ～Ⅲ	(11.8)	-	(2.1)	ヨコハケ	ヨコナデ、ナナメハケ	粗	不良		21	
77	C16	AB4	NR3	g-i	621-11	土師器	く字甕	-	松河戸Ⅰ～Ⅱ	(13.9)	-	(3.6)	ナデ、ヨコハケ、指押え	ナデ、ナナメハケ、指押え	粗	不良		21	
78	C16	AC4	NR3	g-i	615-3	土師器	く字甕	-	松河戸Ⅰ～宇田Ⅰ	(16.4)	-	(4.0)	ヨコナデ、指押え	ヨコナデ、ハケ	やや粗	不良	白色軟質胎土	21	
79	C16	AC4	NR3	g-i	622-61	土師器	く字甕	-	松河戸Ⅰ～宇田Ⅰ	(19.3)	-	(3.8)	ナデ、ハケ	ナデ、ハケ	やや粗	不良	白色軟質胎土	21	
80	C16	AC3	NR3	g-i	612-11	土師器	く字甕	-	松河戸Ⅰ～宇田Ⅰ	(14.2)	-	(3.0)	ナデ、ヨコナデ	ナデ、ヨコナデ	やや粗	不良	赤褐色胎土	21	
81	C16	AC4	NR3	g-i	615-9	土師器	く字甕	-	松河戸Ⅰ～宇田Ⅰ	(16.1)	-	(2.9)	ヨコナデ	ヨコナデ	やや粗	不良		21	
82	C16	-	NR3	15-16	676-12	土師器	く字甕	-	松河戸Ⅰ～宇田Ⅰ	(13.0)	-	(3.8)	ナデ	ナデ	やや粗	不良		21	
83	C16	AC5	NR3	j-l	582-49	土師器	く字甕	-	松河戸Ⅰ～宇田Ⅰ	-	-	(4.9)	ナデ	ナデ、ハケ	やや粗	不良		21	
84	C16	AC5	NR3	g-i	559-1	土師器	く字甕	-	松河戸Ⅰ～宇田Ⅰ	(17.9)	-	(5.4)	ナデ、指押え	ナデ、ハケ、指押え	粗	不良		21	
85	C16	AD5	NR3	j-l	579-3	土師器	く字甕	-	松河戸Ⅰ～宇田Ⅰ	-	-	(7.8)	ナデ、指押え	指押え	粗	不良		21	
86	C16	AC5	NR3	j-l	582-58	土師器	S字甕	-	廻間Ⅰ～Ⅲ	-	-	(2.5)	ナデ	ナナメハケ	粗	不良		21	
87	C16	AC4	NR3	j-l	624-166	土師器	S字甕	-	廻間Ⅰ～Ⅲ	-	-	(2.4)	ナデ	不詳	やや粗	不良	全体に摩耗著しい	21	
88	C16	AB4	NR3	j-l	621-29	土師器	S字甕	-	廻間Ⅰ～Ⅲ	-	-	(2.2)	指押え	ヨコナデ	やや粗	不良	全体に摩耗著しい	21	
89	C16	AC5	NR3	j-l	582-131	土師器	S字甕	-	廻間Ⅱ	(14.2)	-	(2.9)	ナデ	ナデ、ヨコハケ、ナナメハケ	粗	不良	全体に摩耗著しい	21	
90	C16	AC5	NR3	j-l	611-13	土師器	S字甕	-	廻間Ⅱ	(14.9)	-	(2.4)	ナデ、ハケ	ナデ、タテハケ	粗	不良		21	
91	C16	AC5	NR3	j-l	582-13	土師器	S字甕	-	廻間Ⅱ	(14.6)	-	(2.9)	不詳	不詳	粗	不良	全体に摩耗著しい	21	
92	C16	-	NR3	j-l	626-3	土師器	S字甕	-	廻間Ⅲ	(15.0)	-	(4.3)	ナデ、指押え	ナデ、ハケ	やや粗	良好		21	12
93	C16	-	NR3	j-l	626-1	土師器	S字甕	-	廻間Ⅲ	(14.2)	-	(5.9)	ナデ、ヨコナデ、指押え	ヨコナデ、ナナメハケ	やや粗	良好		21	12
94	C16	AC4	NR3	d-f	499-5	土師器	甕	-	儀町	(13.1)	-	(3.0)	ヨコナデ、ヨコハケ	ヨコナデ、タテハケ	粗	不良		21	
95	C16	AC5	NR3	j-l	582-119	土師器	パレス壺	-	廻間Ⅱ	(14.3)	-	(1.4)	不詳	不詳	密	不良	口縁端部沈線２条有、棒状浮文有、口縁部内面に綾杉文の痕跡有	21	

表19　土器観察表（５）

掲載番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	種別	器種	産地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整(内面)	調整(外面)	胎土	焼成	備考	挿図番号	図版番号
96	C16	－	NR3	－	679-1	土師器	広口壺	－	廻間Ⅲ	(17.2)	4.9	26.8	ナデ、指頭圧痕	ナデ、ハケ	やや粗	良好	全体に摩耗著しい	21	12
97	C16	AD5	NR3	j-l	579-2	土師器	二重口縁壺	－	廻間Ⅲ	(20.5)	－	(3.3)	ナデ	ナデ、指押え	粗	不良	内面赤彩	22	13
98	C16	AD5	NR3	j-l	579-6	土師器	二重口縁壺	－	廻間Ⅲ	(20.5)	－	(6.1)	ナデ	ナデ、指押え	粗	不良		22	13
99	C16	AD5	NR3	g-i	555-1	土師器	二重口縁壺	－	廻間Ⅲ	－	－	(4.9)	不詳	不詳	やや粗	良好	外面赤彩、全体に摩耗著しい	22	
100	C16	AD5	NR3	j-l	579-1	土師器	二重口縁壺	－	廻間Ⅲ	(22.0)	－	(5.0)	ナデ	ナデ	やや粗	良好	外面赤彩、全体に摩耗著しい	22	
101	C16	－	NR3	g-l	741-1	土師器	有段口縁壺	－	松河戸Ⅰ～Ⅱ	(12.0)	－	(5.0)	ヨコナデ	板ナデ	やや粗	不良	外面櫛描併行沈線有	22	13
102	C16	－	NR3	16	662-1	土師器	小型壺	－	廻間Ⅲ	(10.0)	4.2	15.0	ナデ、ハケ	ハケ、ヘラミガキ	粗	不良	体部外面黒斑有	22	13
103	C16	AB4	NR3	g-i	621-2	土師器	小型壺	－	宇田Ⅰ～Ⅱ	－	6.0	(2.5)	ナデ、指押え	ナデ、指押え	やや粗	良好		22	
104	C16	AC4	NR3	j-l	624-5	土師器	壺	－	廻間Ⅲ	(16.7)	－	(4.5)	ナデ	ナデ、ハケ	やや粗	不良	胎土鉄分多く赤褐色呈す	22	
105	C16	AC5	NR3	a-c	493-3	土師器	壺	－	松河戸Ⅰ～宇田Ⅰ	－	3.8	(1.6)	ナデ、指押え	ハケ、指押え	粗	不良		22	
106	C16	AC4	NR3	j-l	624-3	土師器	大型高坏	－	松河戸Ⅰ	－	－	(4.0)	ナデ	ナデ、ハケ	やや粗	不良	坏部下半黒斑有	22	
107	C16	AC5	NR3	j-l	582-5	土師器	大型高坏	－	松河戸Ⅰ～Ⅱ	－	－	(3.5)	ハケ	ナデ、指押え	やや粗	不良	全体に摩耗著しい	22	
108	C16	AC4	NR3	j-l	624-2	土師器	大型高坏	－	松河戸Ⅰ～Ⅱ	－	13.5	(3.9)	ナデ、ヨコハケ	ヨコナデ	密	不良		22	
109	C16	－	NR3	15-16	676-2	土師器	椀状坏部高坏	－	宇田Ⅰ～Ⅱ	(13.2)	－	(7.1)	ナデ	ナデ	やや粗	不良	胎土鉄分多く赤褐色呈す	22	
110	C16	AB4	NR3	a-c	544-3	土師器	椀状坏部高坏	－	宇田Ⅰ～Ⅱ	(12.5)	－	(5.2)	ナデ	ナデ	やや粗	不良	胎土鉄分少なく淡灰褐色呈す	22	
111	C16	AB4	NR3	g-i	605-1	土師器	高坏	－	廻間Ⅱ～Ⅲ	－	10.8	(6.2)	不詳	不詳	やや粗	良好	3方向に穿孔有、全体に摩耗著しい	22	13
112	C16	AB4	NR3	j-l	620-2	土師器	高坏	－	廻間Ⅲ	－	－	(6.5)	ナデ	ナデ、タテハケ、指押え	やや粗	不良	胎土鉄分多く赤褐色呈す	22	
113	C16	AC5	NR3	j-l	582-2	土師器	高坏	－	松河戸Ⅰ～Ⅱ	－	－	(7.5)	ナデ、指押え	ナデ、指押え	やや粗	不良	全体に摩耗著しい	22	
114	C16	AC5	NR3	g-i	547-1	土師器	高坏	－	松河戸Ⅰ～Ⅱ	－	－	(5.5)	ナデ、ヨコハケ	ナデ、指押え	密	不良	胎土鉄分多く赤褐色呈す	22	
115	C16	AC4	NR3	j-l	624-7	土師器	高坏	－	松河戸Ⅰ～Ⅱ	－	－	(7.6)	ナデ、絞り	指押え後ナデ	粗	不良		22	
116	C16	－	NR3	g-l	741-2	土師器	高坏	－	松河戸Ⅰ～Ⅱ	－	－	(7.0)	タテハケ、指押え	ナデ	やや粗	不良		22	
117	C16	AC5	NR3	g-i	581-3	土師器	高坏	－	松河戸Ⅰ～Ⅱ	－	(10.3)	(6.1)	タテナデ	不詳	密	不良	全体に摩耗著しい	22	13
118	C16	AC4	NR3	j-l	624-6	土師器	高坏	－	松河戸Ⅰ～Ⅱ	－	－	(4.6)	ナデ、絞り	ナデ、指押え	密	不良	胎土鉄分多く淡赤褐色呈す	22	
119	C16	AC4	NR3	g-i	622-1	土師器	高坏	－	松河戸Ⅰ～宇田Ⅰ	－	(10.8)	(6.3)	ナデ、板ナデ、指押え	ナデ、指押え	やや粗	不良	胎土鉄分多く赤褐色呈す	22	13

表20　土器観察表（６）

掲載番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	種別	器種	産地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整(内面)	調整(外面)	胎土	焼成	備考	挿図番号	図版番号
120	C16	AC5	NR3	j-l	582-1	土師器	高坏	-	松河戸Ⅰ～宇田Ⅰ	-	-	(7.5)	ナデ	タテハケ後ナデ	密	不良		22	
121	C16	AC5	NR3	g-i	581-1	土師器	高坏	-	松河戸Ⅰ～宇田Ⅰ	-	-	(6.5)	ナデ、ヨコナデ	ナデ、指押え	密	不良		22	
122	C16	AC4	NR3	g-i	622-2	土師器	高坏	-	松河戸Ⅱ～宇田Ⅰ	-	10.2	(4.9)	ナデ、指押え	ナデ、指押え	密	良好	胎土鉄分多く赤褐色呈す	23	
123	C16	AC5	NR3	g-i	559-4	土師器	高坏	-	松河戸Ⅱ～宇田Ⅰ	-	-	(6.6)	ナデ、板ナデ	指押え後ナデ	やや粗	良好		23	
124	C16	AC5	NR3	g-i	547-5	土師器	高坏	-	宇田Ⅰ～Ⅱ	-	-	(3.9)	ナデ	ナデ	密	不良	全体に摩耗著しい	23	
125	C16	-	NR3	m-o	342-1	土師器	器台	-	廻間Ⅱ～Ⅲ	-	(10.4)	(4.9)	ヨコナデ	ナデ、ハケ	やや粗	良好	穿孔有	23	13
126	C16	AC5	NR3	g-i	581-2	土師器	鉢	-	松河戸Ⅱ～宇田Ⅰ	-	5.3	(4.8)	ナデ、指押え	ナデ、ハケ、指押え	やや粗	不良	筒形を呈する	23	
127	C16	AD5	NR3	j-l	574-1	土師器	椀	-	宇田Ⅰ	(14.8)	-	6.9	ナデ	ナデ	やや粗	不良	口端部外面黒斑有	23	
128	C16	AC5	NR3	a-c	493-2	土師器	鍋か甑	-	儀町	-	-	(7.1)	ナデ	ハケ、指押え	やや粗	良好		23	
129	C16	-	NR3	g-i	305-2	須恵器	坏蓋Ｂ	猿投産	岩崎17	(9.3)	-	(1.9)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好		23	
130	C16	-	NR3	14	672-2	須恵器	水瓶	猿投産	東山15	-	-	(5.6)	回転ナデ	回転ヘラ削り後手持ちヘラ削り	密	良好	外面肩部粘土紐輪積痕	23	
131	C16	-	NR3	15-16	677-1	須恵器	坏身Ａ	在地産	東山10併行	-	6.2	(3.9)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	やや粗	良好		23	13
135	C17	AJ6	NR3	-	1571-1	須恵器	坏蓋Ｃ	猿投産	岩崎41	-	-	(1.4)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好	内面墨痕付着	23	
137	C17	-	NR5	3	1527-1	土師器	長胴甕	-	第2～3段階	(24.8)	-	(2.8)	ナデ、ヨコハケ	ナナメハケ、指押え	やや粗	良好		25	
138	C17	-	NR5	3	1518-3	土師器	長胴甕	-	第2～3段階	(20.1)	-	(2.1)	ヨコハケ	ナデ、ヨコナデ	やや粗	良好		25	
139	C17	-	NR5	3	1595-5	須恵器	坏蓋Ｃ	猿投産	岩崎25	(15.4)	-	3.4	回転ナデ、指押え	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好		25	
140	C17	-	NR5	3	1595-3	須恵器	坏身Ａ	猿投産	東山15～岩崎101	-	6.6	(2.1)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラ切り後静止削り	密	良好		25	
141	C17	-	NR5	3	1595-13	須恵器	坏身Ｂ	猿投産	岩崎25	(13.4)	(7.0)	4.1	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラ削り	密	不良		25	
142	C17	-	NR5	3	1528-10	須恵器	坏身Ｃ	猿投産	高蔵寺2	(21.7)	(14.9)	4.8	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好		25	
143	C17	-	NR5	3	1595-2	須恵器	坏身Ｃ	猿投産	高蔵寺2	-	(11.2)	(1.3)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り、底部回転ヘラ削り、貼付高台	密	不良	内面顕著に摩滅、転用硯か	25	14
144	C17	-	NR5	3	1528-5	須恵器	壺	猿投産	高蔵寺2	-	(10.9)	(6.6)	回転ナデ、指頭圧痕	回転ナデ、静止ヘラ削り、指押え	密	良好		25	
145	C17	-	NR5	3	1528-3	須恵器	横瓶	猿投産	岩崎41	-	-	(25.5)	ナデ、指押え	タタキ	密	良好		25	
146	C17	-	NR5	3	1528-11	須恵器	坏身Ｂ	美濃須衛産	Ⅳ期-1	(14.4)	(8.0)	3.6	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラ切り	密	良好		25	
147	C17	-	NR5	3	1581-1	須恵器	提瓶	美濃須衛産	Ⅳ期-1	(12.0)	-	17.8	回転ナデ	回転ヘラ削り、指押え	密	良好		25	14
148	C17	-	NR5	3	1595-9	須恵器	坏身Ａ	在地産	東山44併行	(9.8)	-	(3.4)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好	胎土鉄分多く含む、酸化炎焼成、内面2.5YR5/3にぶい黄褐色、外面2.5YR5/1赤灰色	25	14

表21　土器観察表（７）

掲載番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	種別	器種	産地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整(内面)	調整(外面)	胎土	焼成	備考	挿図番号	図版番号
149	C17	－	NR5	h-l	1497-1	須恵器	坏身Ｃ	猿投産	岩崎25	(14.8)	(10.8)	3.3	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好	内面漆付着	26	14
150	C17	－	NR5	3	1595-4	須恵器	坏蓋Ｃ	不明	岩崎25併行	(15.2)	－	3.1	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好	重ね焼き痕顕著	26	14
151	C17	－	NR5	d-f	1502-1	須恵器	坏身Ｃ	不明	岩崎25併行	(10.4)	(8.0)	3.7	回転ナデ、底部静止ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り、底部回転ヘラ切り、貼付高台	やや粗	良好	胎土やや暗い灰色を呈す	26	
163	C17	－	NR5	7	1553-1	土師器	長胴甕	－	第1段階	(25.4)	－	(6.3)	ナデ、ヨコハケ、指押え	ナデ、ナナメハケ	やや粗	良好		27	
164	C17	－	NR5	t	1545-1	須恵器	坏蓋Ａ	猿投産	東山44	(10.8)	－	(3.7)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好		27	14
165	C17	－	NR5	m-o	1533-1	須恵器	坏蓋Ａ	猿投産	東山44	(11.4)	－	(3.6)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好		27	14
166	C17	－	NR5	r	1537-1	須恵器	坏身Ａ	猿投産	東山44	10.8	－	4.5	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好		27	14
167	C17	－	NR5	m-o	1533-2	須恵器	坏身Ａ	猿投産	東山44	(11.6)	(6.2)	3.4	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好		27	
168	C17	－	NR5	7	1558-1	須恵器	壺	猿投産	岩崎41	(11.8)	－	(4.9)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り後ナデ	密	良好	頸部から体部凹線有、胎土砂粒少なく緻密で硬質	27	
169	C17	－	NR5	r	1538-1	須恵器	高坏	猿投産	東山15	－	(9.8)	(5.3)	回転ナデ	回転ナデ	密	良好		27	14
179	C16	AC3	－	Ⅲ	74-1	土師器	壺	－	宇田Ⅰ～Ⅱ	(14.0)	－	(5.2)	指押え	ナデ、指押え	やや粗	不良		30	
180	C16	AD4	－	Ⅲ	13-1	土師器	甕	－	東山72併行	20.3	－	(6.3)	ナデ、ヨコナデ、ヨコハケ、指押え	ナデ、指押え、ヘラ削り工具による横方向静止削り	やや粗	良好		30	
181	C17	AJ6	－	Ⅲ	1388-1	土師器	長胴甕	－	第2～3段階	(21.3)	－	(2.1)	ナデ、ヨコハケ、指押え	ナデ、ナナメハケ、指押え	やや粗	良好		30	
182	C17	AH6	－	Ⅲ	1384-1	須恵器	坏蓋Ｃ	猿投産	高蔵寺2	(12.8)	－	(1.5)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好	内面線刻「大徳」	30	18
183	C17	AG6	－	Ⅲ	1212-1	須恵器	坏身Ｂ	猿投産	岩崎25	－	7.6	(3.5)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラ切り	密	良好		30	
184	C17	AG6	－	Ⅲ	1211-1	須恵器	坏身Ｃ	猿投産	高蔵寺2	16.9	11.8	5.0	回転ナデ、底部静止ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好	底部底部重ね焼き痕、籾殻痕	30	14
185	C16	AD4	－	Ⅲ	169-1	須恵器	長頸瓶	猿投産	高蔵寺2～鳴海32	－	(11.0)	(4.4)	回転ナデ	回転ヘラ削り、底部回転ナデ、貼付高台	密	良好		30	
186	C16	AD5	－	Ⅲ	94-1	須恵器	鉢	猿投産	高蔵寺2	－	10.2	(5.0)	回転ナデ	回転ナデ、底部刺突	密	良好	底部に深度0.5～1.5㎝程の刺突孔	30	14
187	C17	AH5	－	Ⅲ	1412-1	須恵器	坏身Ｃ	美濃須衛産	Ⅳ期-2	－	(15.0)	(2.0)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好		30	
188	C16	AB5	－	Ⅲ	220-11	須恵器	手付鍋	美濃須衛産	Ⅳ期-1～Ⅳ期-3	－	－	(5.5)	ナデ	ナナメタタキ後軽いナデ	密	良好		30	
189	C16	AD4	－	Ⅲ	117-1	灰釉陶器	長頸瓶	東濃産	大原2	－	－	(9.0)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好	頸部内外面施釉刷毛掛け	30	
190	C16	AC3	－	Ⅲ	66-1	灰釉陶器	碗	東濃産	丸石2	(12.5)	6.7	4.3	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	底部外面墨書（釈読不能）及び墨痕付着	30	19
191	C16	AC5	－	Ⅲ	159-1	灰釉陶器	皿	東濃産	丸石2	(12.2)	6.8	2.4	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	底部外面に墨書(釈読不能)	30	

表22　土器観察表（８）

掲載番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	種別	器種	産地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整(内面)	調整(外面)	胎土	焼成	備考	挿図番号	図版番号
192	C17	AI4	－	Ⅲ	1302-1	山茶碗	鉢	美濃須衛型	Ⅸ期	(29.6)	－	(3.8)	回転ナデ	回転ナデ	密	良好		30	
193	C16	AB4	－	Ⅲ	227-1	山茶碗	碗	東濃型	谷迫間2	－	7.6	(2.1)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	やや粗	良好	底部外面墨書「天」籾殻痕	30	19
194	C16	AC4	－	Ⅲ	189-1	山茶碗	碗	東濃型	谷迫間2	－	(7.8)	(3.4)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切なし、貼付高台	やや粗	良好	底部外面墨書（釈読不能）、籾殻痕	30	
195	C17	AH5	－	Ⅲ	1391-1	山茶碗	碗	東濃型	谷迫間2	－	7.2	(2.7)	回転ナデ、底部指圧痕	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	やや粗	良好	底部外面墨書［十」底部内面摩耗、籾殻痕	30	
196	C16	AC5	－	Ⅲ	235-1	山茶碗	碗	東濃型	谷迫間2	－	(8.4)	(3.0)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	やや粗	良好	底部外面墨書「大」、籾殻痕	31	
197	C16	AC5	－	Ⅲ	160-21	山茶碗	碗	東濃型	谷迫間2	－	(8.3)	(1.8)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕、貼付高台	やや粗	良好	底部外面に墨書（釈読不能）、籾殻痕	31	
198	C17	AI6	－	Ⅲ	1406-1	山茶碗	高足高台碗	東濃型	谷迫間2	－	－	(5.4)	回転ナデ	回転ナデ、貼付長脚高台	やや粗	良好		31	
199	C17	AH6	－	Ⅲ	1400-1	山茶碗	碗	東濃型	浅間窯下1	－	6.5	(3.7)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	不良	底部外面墨書「太」、籾殻痕	31	
200	C16	AC5	－	Ⅲ	272-1	山茶碗	碗	東濃型	浅間窯下1	－	(6.2)	(2.2)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	底部外面墨書「一」、籾殻痕	31	
201	C16	AC5	－	Ⅲ	272-7	山茶碗	小皿	東濃型	浅間窯下1	(8.0)	(4.0)	2.4	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切	密	良好		31	15
202	C17	AH4	－	Ⅲ	1289-1	山茶碗	碗	東濃型	丸石3	－	(5.7)	5.5	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	籾殻痕	31	
203	C16	AD4	－	Ⅲ	202-1	山茶碗	小皿	東濃型	丸石3	8.1	4.7	2.3	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切	密	良好	底部外面使用痕	31	
204	C17	AI6	－	Ⅲ	1580-1	山茶碗	小皿	東濃型	白土原1～明和1	7.9	4.8	1.4	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕	密	良好	底部内面摩耗	31	
205	C17	AI4	－	Ⅲ	1256-2	山茶碗	小皿	東濃型	明和1	8.0	5.6	1.6	回転ナデ、底部指圧痕	回転ナデ、底部回転糸切	密	良好		31	
206	C17	AJ4	－	Ⅲ	1323-8	山茶碗	小皿	東濃型	大畑大洞4	－	(4.5)	(1.1)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕	密	良好	底部外面に墨書「十」	31	
207	C17	AJ5	－	Ⅲ	1360-1	山茶碗	碗	東濃型	大洞東1	(11.7)	(3.5)	3.1	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	底部外面墨書「十」、籾殻痕	31	
208	C17	AI4	－	Ⅲ	1256-1	山茶碗	小皿	東濃型	大洞東1	－	5.0	(0.4)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切	密	良好	底部外面墨書「一」	31	
209	C17	AI4	－	Ⅲ	1257-1	古瀬戸	灰釉平碗	－	後Ⅱ期	(16.7)	－	(4.0)	回転ナデ	回転ナデ	密	良好	内外面灰釉施釉（よく溶け光沢貫入あり淡緑灰色）	31	
210	C17	AI4	－	Ⅲ	1257-2	古瀬戸	灰釉平碗	－	後Ⅱ期	(16.3)	－	(4.0)	回転ナデ	回転ナデ	密	良好	体部外面上半から内面に薄く灰釉	31	
211	C17	AH5	－	Ⅲ	1283-1	古瀬戸	鉄釉天目茶碗	－	後Ⅱ期～後Ⅲ期	(12.0)	－	(2.7)	回転ナデ	回転ナデ	密	良好	内外面に黒茶褐色の鉄釉施釉	31	
212	C17	AH4	－	Ⅲ	1279-1	古瀬戸	擂鉢	－	後Ⅳ期古～新	－	(11.8)	(5.0)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切	密	不良	錆釉全面施釉	31	
213	C17	AI5	－	Ⅲ	1265-1	古瀬戸	擂鉢	－	後Ⅳ期新	(30.7)	－	(3.4)	回転ナデ	回転ナデ	密	良好	内外面に暗茶褐色の錆釉施釉	31	
214	C17	AI5	－	Ⅲ	1262-1	古瀬戸	尊式花瓶	－	後Ⅰ期～後Ⅳ期新	－	－	(5.0)	回転ナデ	回転ナデ	密	良好	鉄釉施釉	32	
215	C17	AI5	－	Ⅲ	1265-2	貿易陶磁器	白磁玉縁碗	－	尾張型第4型式併行	(16.8)	－	(3.0)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好	内外面に施釉	32	

表23　土器観察表（９）

掲載番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	種別	器種	産地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整(内面)	調整(外面)	胎土	焼成	備考	挿図番号	図版番号
216	C16	AD4	－	Ⅲ	120-3	貿易陶磁器	白磁玉縁碗	－	尾張型第4型式併行	－	(7.2)	(2.0)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好		32	
217	C16	AB5	－	Ⅲ	241-2	貿易陶磁器	白磁玉縁碗	－	尾張型第4型式併行	－	6.7	(2.6)	回転ナデ	回転ヘラ削り	密	良好	内面施釉、内面ヘラ描き沈線１条有	32	
218	C16	AC5	－	Ⅲ	273-1	貿易陶磁器	白磁碗	－	尾張型第4型式併行	(15.9)	－	(5.1)	回転ナデ	回転ヘラ削り	密	良好	内外面に施釉	32	
219	C17	AJ4	－	Ⅲ	1324-1	貿易陶磁器	青磁碗	龍泉窯系	尾張型第6～7型式併行	－	－	(1.9)	回転ナデ	回転ヘラ削り	密	良好	底部除き青磁釉施釉、底部内面使用痕	32	
224	C16	AC3	－	Ⅰ-Ⅱ	25-1	土師器	清郷型鍋	－	Ⅱ段階-2	(22.6)	－	(5.7)	ナデ	ナデ、指押え	やや粗	良好		32	
225	C16	－	－	Ⅱ	9-1	灰釉陶器	碗	東濃産	明和27	－	7.3	(3.0)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好		32	
226	C16	AC3	－	Ⅱ	68-1	灰釉陶器	碗	東濃産	明和27	(15.7)	(7.5)	5.9	回転ナデ	回転ナデ、貼付高台	密	不良		32	
227	C16	－	－	Ⅱ	9-5	山茶碗	小皿	尾張型	第5型式	－	4.6	(1.6)	回転ナデ、底部中央軽い静止ナデ	回転ナデ、底部回転糸切	やや粗	良好	底部外面墨書「大」	32	19
228	C16	AA4	－	Ⅱ	73-2	山茶碗	四耳壺	美濃須衛型	Ⅸ期	(9.3)	－	(4.5)	回転ナデ	回転ナデ	密	良好	胎土黄灰色	32	
229	C16	－	－	Ⅱ	8-1	山茶碗	小碗	東濃型	谷迫間2	(8.4)	4.0	2.9	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ナデ、貼付高台	やや粗	良好	内面全体降灰（最上位での重焼痕）	32	
230	C16	AA4	－	Ⅱ	209-1	大窯製品	擂鉢	－	第2段階	(26.6)	－	(3.6)	回転ナデ	回転ナデ	密	良好	錆釉全面施釉	32	
231	C16	AC4	－	攪乱	130-10	土師器	平底甕	－	松河戸Ⅰ～宇田Ⅰ	(13.2)	－	(3.9)	ナデ、指押え	ナデ、指押え	粗	不良		33	
232	C16	AC4	－	攪乱	148-1	土師器	高坏	－	松河戸Ⅰ～Ⅱ	－	－	(7.8)	ナデ	ナデ、指頭圧痕	密	不良	外面一部赤色変色	33	
233	C16	AC4	－	攪乱	138-2	土師器	大型高坏	－	松河戸Ⅱ～宇田Ⅰ	(17.6)	－	(5.7)	ナデ	ナデ、指押え	密	不良		33	
234	C16	AC4	－	攪乱	138-1	土師器	清郷型鍋	－	Ⅰ段階-5	(20.1)	－	(12.2)	ナデ	ナデ、指押え	やや粗	良好		33	
235	C16	AC4	－	攪乱	130-1	土師器	清郷型鍋	－	Ⅱ段階-2	(19.8)		(6.4)	ナデ、板ナデ	ナデ、指頭圧痕	やや粗	良好		33	14
236	C16	AB3	－	攪乱	130-6	土師器	清郷型鍋	－	Ⅱ段階-2	(17.6)	－	(5.0)	ヨコナデ、板ナデ、指押え	板ナデ、指押え	密	良好		33	
237	C16	AC4	－	攪乱	130-11	土師器	伊勢型鍋	－	Ⅰ期-3～Ⅱ期-1	(22.4)	－	(2.0)	ヨコナデ	ヨコナデ	やや粗	良好		33	
238	C16	AC4	－	攪乱	140-42	灰釉陶器	皿	東濃産	虎渓山1	(13.1)	(7.1)	2.6	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好		33	
239	C16	AC4	－	攪乱	140-15	灰釉陶器	段皿	東濃産	虎渓山1	13.5	－	(1.9)	回転ナデ	回転ナデ	密	不良		33	
240	C16	AC4	－	攪乱	147-1	灰釉陶器	碗	東濃産	丸石2	(13.5)	6.3	5.2	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラ削り後軽い回転ナデ、貼付高台	密	良好	内面漆付着	33	15
241	C16	AC4	－	攪乱	140-2	灰釉陶器	小碗	東濃産	丸石2	12.3	7.4	4.5	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好		33	15
242	C16	AC4	－	攪乱	132-2	灰釉陶器	碗	東濃産	丸石2	－	6.9	(4.9)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好	底部外面墨書「大」	33	19
243	C16	AC3	－	攪乱	129-1	灰釉陶器	皿	東濃産	丸石2	11.7	6.3	2.5	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好		33	

表24　土器観察表（10）

掲載番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	種別	器種	産地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整(内面)	調整(外面)	胎土	焼成	備考	挿図番号	図版番号
244	C16	AC4	－	攪乱	141-3	灰釉陶器	皿	東濃産	丸石2	(11.7)	6.8	2.4	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	不良	焼成不良のため施釉ライン不明瞭	33	
245	C16	AC4	－	攪乱	132-14	灰釉陶器	皿	東濃産	丸石2	(11.1)	5.2	2.5	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、植物状圧痕	密	良好		33	
246	C16	AC4	－	攪乱	140-12	灰釉陶器	段皿	東濃産	丸石2	(11.7)	(6.0)	2.7	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	不良	灯明皿として転用か	33	
247	C16	AB3	－	攪乱	136-1	灰釉陶器	折縁皿	東濃産	丸石2	(10.3)	5.7	2.2	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切後回転ナデ、貼付高台	密	良好		33	
248	C16	AC4	－	攪乱	132-4	灰釉陶器	小碗	東濃産	丸石2～明和27	12.6	6.4	4.3	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラ削り後回転ナデ、貼付高台	密	良好		33	15
249	C16	AB4	－	攪乱	146-1	灰釉陶器	碗	東濃産	明和27	14.3	6.2	5.5	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	内面漆付着	33	15
250	C16	AC4	－	攪乱	132-7	灰釉陶器	碗	東濃産	明和27	(14.6)	7.0	6.1	回転ナデ	回転ナデ、底部糸切後回転ナデ、貼付高台	密	良好		33	15
251	C16	AC4	－	攪乱	133-31	灰釉陶器	小碗	東濃産	明和27	12.0	5.8	3.8	回転ナデ	回転ナデ、底部糸切後回転ナデ、貼付高台	密	不良		33	15
252	C16	AC4	－	攪乱	140-1	灰釉陶器	小碗	東濃産	西坂1	－	5.3	(1.7)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好	内面漆付着	33	
253	C16	AC4	－	攪乱	132-35	灰釉陶器	段皿	猿投産	黒笹90	(15.6)	－	(1.7)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好	体部内外面灰釉刷毛掛け	33	
254	C16	AC4	－	攪乱	132-3	灰釉陶器	碗	猿投産	百代寺	14.6	6.9	4.9	回転ナデ	回転ナデ、底部糸切後回転ナデ、貼付高台	密	不良	底部内面重ね焼き痕	34	15
255	C16	AC3	－	攪乱	128-2	山茶碗	碗	尾張型	第4型式	－	7.8	(2.4)	回転ナデ、底部中央静止ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	やや粗	良好	籾殻痕	34	
256	C16	AC4	－	攪乱	133-25	山茶碗	碗	尾張型	第5型式	－	(7.5)	(2.6)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	やや粗	良好	底部外面墨書「大」、籾殻痕	34	
257	C16	AC4	－	攪乱	133-32	山茶碗	碗	美濃須衛型	Ⅷ期	15.2	7.0	6.2	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	不良	無釉	34	15
258	C16	AC4	－	攪乱	133-27	山茶碗	輪花碗	東濃型	矢戸上野2	16.0	7.0	6.1	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	籾殻痕	34	
259	C16	AC3	－	攪乱	128-1	山茶碗	碗	東濃型	谷迫間2	－	7.8	(3.8)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	底部外面藁状植物圧痕	34	
260	C16	AC3	－	攪乱	129-2	山茶碗	碗	東濃型	谷迫間2	－	7.3	(4.2)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	籾殻痕	34	
261	C16	AC4	－	攪乱	133-24	山茶碗	碗	東濃型	谷迫間2	－	7.7	(3.3)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	やや粗	良好	底部外面墨書「十」、籾殻痕	34	
262	C16	AC4	－	攪乱	133-7	山茶碗	小碗	東濃型	谷迫間2	10.2	4.6	3.7	回転ナデ、底部指圧痕	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	不良		34	
263	C16	AC3	－	攪乱	115-2	山茶碗	碗	東濃型	浅間窯下1	14.4	7.6	6.5	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕、貼付高台	密	良好	底部内面中央小突起有、内面漆付着、籾殻痕	34	15
264	C16	AC4	－	攪乱	141-1	山茶碗	小皿	東濃型	浅間窯下1～丸石3	10.9	5.1	2.1	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切	密	良好	平高台有	34	15

表25　土器観察表（11）

掲載番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	種別	器種	産地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整(内面)	調整(外面)	胎土	焼成	備考	挿図番号	図版番号
265	C16	AC3	－	攪乱	88-1	山茶碗	碗	東濃型	丸石3	(15.8)	(7.6)	5.4	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切後軽い指ナデ、貼付高台	密	良好	籾殻痕	34	
266	C16	AC3	－	攪乱	115-3	山茶碗	碗	東濃型	窯洞1	14.8	5.8	5.4	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	内面漆付着、粘土紐輪積痕、籾殻痕	34	15
267	C16	AC4	－	攪乱	134-1	常滑	甕	－	1a～5型式	－	(13.9)	(11.7)	ナデ	ヨコナデ、粗い指頭圧痕、底部砂目圧痕	密	良好	焼き締め陶器	34	
268	C16	AC4	－	攪乱	84-2	常滑	甕	－	1b～4型式	－	－	(11.4)	板ナデ	ナデ	密	良好	体部外面押印文有	34	
270	C18	－	SB1-SP1	a	956-1	須恵器	坏身Ｃ	猿投産	高蔵寺2	－	(11.0)	(1.6)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好		35	
271	C18	－	SB1-SP2	a	1108-2	須恵器	坏身Ｃ	猿投産	岩崎41	(14.7)	(9.7)	4.1	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好		35	
272	C18	－	SB1-SP4	b	1097-1	須恵器	坏蓋Ａ	猿投産	東山44	－	－	(1.5)	回転ナデ	回転ナデ	密	良好		35	
275	C18	－	SD2	c-d	1107-3	須恵器	高坏	猿投産	東山15	－	(9.8)	(3.4)	回転ナデ	回転ナデ	密	良好	胎土暗灰色を呈す	38	
278	C18	－	SD2	c-d	1130-1	土師器	平底甕	－	宇田Ⅰ	(16.3)	－	(8.0)	板ナデ、ヨコハケ、指押え	ナデ、ナナメハケ	やや粗	良好		38	
279	C18	－	SD2	c-d	1130-2	土師器	平底甕	－	宇田Ⅰ	(16.3)	－	(8.5)	板ナデ、ヨコハケ、指押え	ナデ、ナナメハケ	やや粗	良好		38	
280	C18	－	SD2	c-d	1130-5	土師器	く字甕	－	宇田Ⅰ	(17.8)	－	(3.1)	ヨコハケ、指押え	ヨコナデ、ハケ	やや粗	良好		38	
281	C18	－	SD2	a-b	1123-1	須恵器	高坏	猿投産	東山15	(13.8)	－	(5.4)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好		38	
282	C18	－	SD2	2	1133-1	須恵器	坏蓋Ａ	猿投産	東山44	(11.7)	－	4.3	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好		38	16
283	C18	－	SD2	a-b	1099-3	須恵器	坏蓋Ａ	猿投産	東山44	(11.7)	－	(3.7)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好		38	
284	C18	－	SD2	a	1119-1	須恵器	坏蓋Ａ	猿投産	東山44	(11.4)	－	3.8	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好		38	
285	C18	－	SD2	a-b	1099-2	須恵器	坏蓋Ａ	猿投産	蝮ヶ池	(13.0)	－	(3.4)	回転ナデ	回転ナデ	密	良好		38	
286	C18	－	SD2	a-b	1099-1	須恵器	坏身Ａ	猿投産	東山15	(10.0)	－	(3.8)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好		38	16
287	C18	AP4	－	Ⅲ	1039-1	土師器	パレス壺	－	廻間Ⅰ～Ⅱ	(23.5)	－	(5.0)	ナデ	タテハケ	やや粗	不良	内面凹線文３条有、内面赤彩僅かに残る	40	16
288	C18	AQ7	－	Ⅲ	1055-8	須恵器	坏蓋Ａ	猿投産	東山44	(12.5)	－	(3.0)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好		40	
289	C18	AQ6	－	Ⅲ	1049-3	須恵器	坏蓋Ｂ	猿投産	岩崎17	(10.2)	－	(1.6)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好		40	
290	C18	AQ6	－	Ⅲ	1069-14	須恵器	坏身Ｂ	猿投産	高蔵寺2	(13.8)	－	(3.6)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラ削り	密	良好	外面墨書「小」「器?」	40	19
291	C18	AP6	－	Ⅲ	909-1	須恵器	坏身Ｂか坏身Ｃ	猿投産	高蔵寺2～鳴海32	－	－	(2.3)	回転ナデ	回転ナデ	密	不良	底部外面墨書「口器」	40	19
292	C18	AQ6	－	Ⅲ	1069-10	須恵器	坏身Ｃ	猿投産	高蔵寺2～鳴海32	－	(8.8)	(2.6)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好		40	
293	C18	AP5	－	Ⅲ	1041-1	須恵器	坏身Ｃ	猿投産	高蔵寺2～岩崎25	－	(9.4)	(1.3)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り、底部回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好	転用硯時の使用痕有	40	16

表26　土器観察表（12）

掲載番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	種別	器種	産地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整(内面)	調整(外面)	胎土	焼成	備考	挿図番号	図版番号
294	C18	AP6	－	Ⅲ	898-1	須恵器	坏身C	猿投産	高蔵寺2～鳴海32	－	(9.3)	(0.9)	回転ナデ	底部回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好	底部外面墨書（釈読不能）、底部外面ヘラ描平行沈線２条有	40	19
295	C18	AP5	－	Ⅲ	1041-5	須恵器	平瓶	猿投産	高蔵寺2	－	(17.7)	(7.9)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好	内面随所空気膨張による凹凸有	40	
296	C18	AQ6	－	Ⅲ	1069-2	須恵器	長頸瓶	猿投産	鳴海32	(9.8)	－	(4.8)	回転ナデ	回転ナデ	密	良好		40	
297	C18	AP6	－	Ⅲ	906-1	須恵器	長頸瓶	猿投産	鳴海32	6.8	－	(7.7)	回転ナデ	回転ナデ	やや粗	良好		40	16
298	C18	AR5	－	Ⅲ	804-1	須恵器	坏身B	美濃須衛産	Ⅳ期-1～Ⅳ期-3	－	(6.7)	(3.6)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラ削り	密	不良		40	
299	C18	AP6	－	Ⅲ	988-1	須恵器	鉢	美濃須衛産	Ⅳ期-3	－	6.6	(2.0)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラ削り	密	良好	底部外面線刻「×」、調整粗雑	40	18
300	C18	AR7	－	Ⅲ	1159-1	山茶碗	碗	東濃型	谷迫間2	16.2	7.4	4.6	回転ナデ、底部静止ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕、貼付高台	やや粗	良好	底部内面摩耗、籾殻痕	40	
301	C18	AQ5	－	Ⅲ	878-1	山茶碗	碗	東濃型	丸石3	－	(5.8)	(4.5)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	籾殻痕	40	
302	C18	AP4	－	Ⅲ	808-1	山茶碗	碗	東濃型	明和1	－	4.7	(2.2)	回転ナデ、底部中央指圧痕	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕、貼付高台	密	良好	籾殻痕	40	
303	C18	AP5	－	Ⅲ	835-1	山茶碗	小皿	東濃型	大畑大洞4～大谷洞14	(8.0)	(6.0)	1.0	回転ナデ、底部指圧痕	回転ナデ、底部回転糸切	密	良好	底部外面墨書（釈読不能）	40	
304	C18	AP5	－	Ⅲ	892-1	山茶碗	碗	尾張型	第5型式	－	6.1	(2.4)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	やや粗	良好	籾殻痕	40	
305	C18	AP5	－	Ⅲ	835-2	山茶碗	片口鉢	尾張型	第10型式	(27.8)	－	(3.8)	回転ナデ	回転ナデ	やや粗	良好		40	
306	C18	AQ5	－	Ⅲ	879-1	古瀬戸	灰釉平碗	－	後Ⅳ期	－	(5.4)	(3.8)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラ削り	密	良好	内面全体灰釉施釉（光沢ある淡緑黄灰色）	40	
307	C19	－	SD3	a	1762-1	古瀬戸	直縁大皿	－	後Ⅲ期～後Ⅳ期	－	(15.5)	(5.0)	回転ナデ、底部中央静止ナデ	回転ヘラ削り、底部回転糸切	密	良好		41	
308	C19	－	SD3	c	1781-1	大窯製品	天目茶碗	－	第3段階	(11.3)	－	(3.1)	回転ナデ	回転ナデ	密	良好	内外面鉄釉施釉	41	
309	C19	－	SD3	e-f	2270-1	登窯製品	水指蓋	－	第1段階	11.4	－	2.4	回転ヘラ削り	回転ナデ	密	良好	外面ヘラ描沈線２条有、外面（上面）に錆釉施釉、その後灰流し	41	16
310	C19	－	SD3	b	1773-1	登窯製品	香炉	－	第1段階	(17.0)	－	(3.5)	回転ナデ	回転ナデ	やや粗	良好	体部外面飴釉施釉、口縁部内外面飴釉流し掛け、体部内面下半錆釉施釉	41	
311	C19	－	SD3	h-i	1903-1	須恵器	坏身C	美濃須衛産	Ⅳ期-3	－	(10.0)	(1.3)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好		41	
312	C19	－	SD3	f-g	1893-1	山茶碗	小皿	東濃型	大畑大洞4	7.7	5.2	1.7	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕	密	良好	底部内面摩耗	41	
313	C19	－	SD3	f-g	1898-2	登窯製品	柿釉灰流し碗	－	第1段階	(11.5)	－	(4.8)	回転ナデ	不詳	密	良好		41	16

表27　土器観察表（13）

掲載番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	種別	器種	産地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整(内面)	調整(外面)	胎土	焼成	備考	挿図番号	図版番号
314	C19	－	SD3	－	2319-2	大窯製品	志野丸皿	－	第4段階	(11.1)	(6.6)	2.3	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラ削り	密	良好	長石釉全面施釉	41	16
315	C19	－	SD3	－	2319-1	登窯製品	織部筒向付	－	第1段階	－	－	(6.3)	回転ナデ	回転ナデ	密	良好	鉄絵後長石釉施釉、その後銅緑釉流し掛け	41	16
316	C19	BQ8	SD4	e-f	2119-3	須恵器	坏蓋Ａ	猿投産	東山15	(12.0)	－	(3.1)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好		43	
317	C19	BS8	SD4	e-f	2143-2	須恵器	坏蓋Ｃ	猿投産	岩崎25	－	－	(2.4)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	不良	内面摩耗	43	
318	C19	BS8	SD4	e-f	2143-3	須恵器	坏身Ｃ	猿投産	岩崎41	－	(13.3)	(3.1)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好		43	
319	C19	BR8	SD4	e-f	2114-1	須恵器	坏身Ｃ	猿投産	岩崎25	－	(11.9)	(1.5)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好		43	
320	C19	BS8	SD4	e-f	2155-6	須恵器	坏身Ｃ	猿投産	岩崎25～鳴海32	－	(9.0)	(1.6)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好		43	
321	C19	BS8	SD4	e-f	2155-2	須恵器	盤	猿投産	岩崎25	－	－	(2.4)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り、底部回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好		43	
322	C19	BS8	SD4	e-f	2155-3	須恵器	鉢	猿投産	高蔵寺2	(16.2)	－	(6.8)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好		43	
323	C19	BR8	SD4	c-d	2275-1	須恵器	甕	猿投産	岩崎25	(18.3)	－	(5.1)	回転ナデ	回転ナデ、タタキ	密	不良		43	
324	C19	BR7	SD4	a-f	2183-1	須恵器	長頸瓶	猿投産	鳴海32～折戸10	－	(7.8)	(3.8)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り、底部回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好		43	
325	C19	BR7	SD4	e-f	2136-1	須恵器	坏身Ｂ	美濃須衛産	Ⅳ期-3	－	(6.1)	(1.8)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切	やや粗	不良	調整粗雑	43	
326	C19	BR8	SD4	e-f	2179-2	須恵器	坏身Ｃ	美濃須衛産	Ⅲ期-3	－	(11.3)	(3.5)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り、底部回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好	内面摩耗	43	
327	C19	BS8	SD4	a-b	1934-3	須恵器	坏身Ｃ	美濃須衛産	Ⅲ期-3	－	(11.3)	(1.4)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り、底部回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好		43	
328	C19	BS8	SD4	a-b	1934-7	須恵器	坏身Ｃ	美濃須衛産	Ⅲ期-3	－	(9.9)	(1.5)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好		43	
329	C19	BQ8	SD4	a-j	1972-1	須恵器	坏身Ｃ	美濃須衛産	Ⅳ期-3	－	(8.7)	(2.1)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り、底部回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好	内面摩耗	43	
330	C19	BS8	SD4	c-d	2436-1	灰釉陶器	碗	東濃産	大原2	12.4	6.4	4.1	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り、底部回転ヘラ削り後回転ナデ、貼付高台	密	良好	内外面口縁部から体部及び高台部釉薬刷毛掛け	43	
331	C19	BS8	SD4	e-f	2144-1	灰釉陶器	碗	東濃産	虎渓山1	－	(6.8)	(2.7)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切後軽いナデ、貼付高台	密	不良		43	
332	C19	BS7	SD4	a-b	1870-1	灰釉陶器	碗	東濃産	丸石2	－	(7.7)	(2.0)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好		43	
333	C19	BQ6	SD4	c-d	2198-1	灰釉陶器	碗	東濃産	西坂1	－	(6.6)	(3.0)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好		43	
334	C19	BP7-8	SD4	g-h	2084-2	山茶碗	小碗	東濃型	矢戸上野2	(12.0)	(5.4)	3.0	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好		43	
335	C19	BR8	SD4	e-f	2181-1	山茶碗	碗	東濃型	大洞東1	11.8	3.0	3.2	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	籾殻痕	43	16

表28　土器観察表（14）

掲載番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	種別	器種	産地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整(内面)	調整(外面)	胎土	焼成	備考	挿図番号	図版番号
336	C19	BS8	SD4	a-b	1936-1	山茶碗	碗	東濃型	大洞東1	(11.4)	(3.2)	3.6	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	籾殻痕	43	
337	C19	BQ6	SD4	c-d	2029-1	山茶碗	碗	東濃型	脇之島3	(11.8)	(5.3)	2.6	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕	密	良好		43	
338	C19	BR7	SD4	e-f	2136-2	山茶碗	碗	東濃型	生田2	(10.0)	(4.3)	2.9	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切	密	良好		43	
339	C19	BQ6	SD4	c-d	2199-1	山茶碗	碗	東濃型	生田2	(10.4)	(4.0)	2.4	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切	密	良好		43	
340	C19	BR7	SD4	e-f	2248-1	古瀬戸	折縁深皿	-	後Ⅱ期～後Ⅲ期	(33.0)	-	(4.9)	回転ナデ	回転ナデ	密	良好	内外面に灰釉施釉（光沢貫入あり、黄灰色呈す）	43	
341	C19	BS7	SD4	e-f	2089-1	古瀬戸	直縁大皿	-	後Ⅱ期	(31.2)	-	(3.3)	回転ナデ	回転ナデ	密	良好		43	
342	C19	BR7	SD4	a-f	2186-2	中国製磁器	白磁玉縁碗	-	A群	(16.9)	-	(2.3)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好		43	16
343	C19	BQ6	SD4	c-d	1862-1	中国製磁器	白磁碗	-	E群	(15.3)	-	(1.7)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好	内外面施釉	43	16
344	C19	BR8	SD4	e-f	2241-1	中国製磁器	青磁碗	龍泉窯系	D類	(14.6)	-	(5.3)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好	釉調やや空色を帯びる	43	16
345	C19	BQ8	SD4	a-j	1975-1	中国製磁器	青磁碗	同安窯系	B類	-	-	(2.4)	回転ナデ	施釉のため不詳	密	良好	内外面青磁釉施釉、内面片切り彫り櫛描花文有	43	16
346	C19	BS8	SD6	a-b	2408-6	土師器	加飾壺	-	廻間Ⅰ～Ⅱ	(15.0)	-	(1.5)	ナデ	ナデ	密	不良	全体に摩耗著しい	45	
347	C19	BS5	SD6	a-b	2408-2	土師器	甕	-	宇田Ⅱ～儀町	-	-	(3.5)	ヨコナデ	ナデ、指押え	粗	不良		45	
348	C19	BS8	SD6	c-d	2426-1	土師器	長胴甕	-	第2～3段階	(17.6)	-	(4.2)	ヨコハケ	タテハケ、指押え	粗	不良		45	
349	C19	BR8	SD6	a-b	2433-1	土師器	長胴甕	-	第2～3段階	(17.3)	-	(3.0)	ヨコハケ	ナデ、指押え	粗	不良		45	
350	C19	BR6	SD6	a-b	2244-1	須恵器	坏蓋B	猿投産	岩崎101	-	-	(2.4)	回転ナデ、指頭圧痕	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好		45	
351	C19	BS8	SD6	a-b	2409-3	須恵器	坏蓋C	猿投産	岩崎41	(14.6)	-	4.6	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好		45	
352	C19	BQ8	SD6	c-d	2424-1	須恵器	坏蓋C	猿投産	高蔵寺2～岩崎25	-	-	(1.9)	回転ナデ、静止ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	やや粗	良好		45	
353	C19	BS8	SD6	c-d	2427-9	須恵器	坏身A	猿投産	岩崎101～岩崎17	(9.2)	-	(3.0)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好		45	
354	C19	BS8	SD6	a-b	2409-5	須恵器	坏身C	猿投産	高蔵寺2	-	(14.2)	(2.7)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り、底部回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好		45	
355	C19	BS8	SD6	a-b	2409-8	須恵器	坏身C	猿投産	高蔵寺2～岩崎25	-	(14.6)	(2.9)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好		45	
356	C19	BS8	SD6	a-b	2375-1	須恵器	坏身C	猿投産	高蔵寺2～岩崎25	-	(12.3)	(2.4)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り、底部回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好		45	
357	C19	BR7	SD6	a-b	2297-2	須恵器	盤	猿投産	高蔵寺2～岩崎25	-	-	(1.8)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好	脚部外面ヘラ描沈線有	45	
358	C19	BS8	SD6	a-b	2409-1	須恵器	長頸瓶	猿投産	鳴海32	-	(8.4)	(5.1)	回転ナデ	回転ヘラ削り後回転ナデ、底部糸切、貼付高台	密	良好		45	
359	C19	BS8	SD6	a-b	2409-10	須恵器	甕	猿投産	岩崎41～高蔵寺2	(33.3)	-	(3.4)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好		45	
360	C19	BS8	SD6	c-d	2428-1	灰釉陶器	碗	東濃産	虎渓山1	(15.8)	(8.7)	5.0	回転ナデ	回転ナデ、静止ナデ、貼付高台	密	良好		45	

表29　土器観察表（15）

掲載番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	種別	器種	産地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整(内面)	調整(外面)	胎土	焼成	備考	挿図番号	図版番号
361	C19	BS8	SD6	a-b	2310-2	灰釉陶器	碗	東濃産	丸石2	(12.9)	(6.8)	3.9	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ナデ、貼付高台	密	良好		45	
362	C19	BQ8	SD6	c-d	2356-2	山茶碗	碗	尾張型	第5型式	-	(7.3)	(2.1)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	やや粗	良好	籾殻痕	45	
363	C19	BP7	SD6	a-b	2455-1	山茶碗	碗	東濃型	浅間窯下1	-	6.0	(2.5)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、藁状圧痕、貼付高台	密	良好	体部に粘土貼付による補修痕、籾殻痕	45	
364	C19	BR7	SD6	6-8	2726-1	山茶碗	碗	東濃型	窯洞1	-	(5.0)	(2.3)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕、貼付高台	密	良好	底部外面墨書「十」、籾殻痕	45	
365	C19	BQ8	SD6	c-d	2356-1	山茶碗	碗	東濃型	白土原1	-	(5.8)	(2.7)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕、爪痕、貼付高台	密	不良	底部外面墨書（釈読不能）、籾殻痕	45	
366	C19	BR7	SD6	6	2600-1	山茶碗	小皿	東濃型	明和1	8.2	4.6	1.7	回転ナデ、底部静止ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕	密	良好		45	17
367	C19	BP7	SD6	g-l	2548-1	山茶碗	碗	東濃型	大谷洞14	(14.6)	(4.8)	4.9	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕、貼付高台	密	良好	籾殻痕	45	
369	C19	-	SD7	k-n	2814-1	土師器	く字甕	-	松河戸Ⅰ	(19.0)	-	(2.3)	ナデ、ヨコハケ	ヨコナデ	粗	不良		47	
370	C19	-	SD7	5-6	2942-1	土師器	土師器皿	-	尾張型第6型式併行	(12.7)	7.2	2.8	回転ナデ、静止ナデ	回転ナデ、指押え	密	良好		47	
371	C19	-	SD7	k-n	2815-1	須恵器	坏蓋C	猿投産	高蔵寺2	(16.6)	-	3.5	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好		47	
372	C19	-	SD7	k-n	2829-23	須恵器	坏蓋C	猿投産	高蔵寺2～鳴海32	(11.7)	-	(1.7)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好		47	
373	C19	-	SD7	k-n	2841-3	須恵器	坏身C	猿投産	岩崎25	(13.8)	(10.5)	3.6	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り、底部回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好		47	
374	C19	-	SD7	k-n	2829-26	須恵器	坏身C	猿投産	鳴海32	-	(11.6)	(1.6)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り、底部回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好		47	
375	C19	-	SD7	g-j	2805-1	須恵器	鉢	猿投産	岩崎41～岩崎25	-	(17.0)	(1.6)	回転ナデ	回転ヘラ削り	密	良好		47	
376	C19	-	SD7	k-n	2829-41	須恵器	平瓶	猿投産	高蔵寺2～鳴海32	-	-	(2.0)	回転ナデ	回転ナデ	密	良好		47	
377	C19	-	SD7	k-n	2829-19	須恵器	甕	猿投産	岩崎17～岩崎41	(24.1)	-	(3.8)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好	外面ヘラ描平行沈線有	47	16
378	C19	-	SD7	k-n	2830-1	須恵器	長頸瓶	猿投産	鳴海32	(8.8)	-	(9.0)	回転ナデ	回転ナデ	密	良好		47	
379	C19	-	SD7	a-b	2709-1	須恵器	坏身B	美濃須衛産	Ⅳ期-1	(11.8)	(8.0)	3.4	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	やや粗	良好		47	
380	C19	-	SD7	k-n	2829-16	須恵器	太頸瓶	美濃須衛産	Ⅳ期-1～Ⅳ期-3	-	-	(4.6)	回転ナデ	回転ナデ	やや粗	良好		47	
381	C19	-	SD7	g-j	2806-1	灰釉陶器	小碗	東濃産	明和27	(9.7)	(4.9)	3.3	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好		47	
382	C19	-	SD7	k-n	2829-13	灰釉陶器	碗	東濃産	西坂1	-	(6.4)	(1.7)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切後回転ナデ、貼付高台	密	良好		47	
383	C19	-	SD7	k-n	2832-70	灰釉陶器	玉縁碗	東濃産	西坂1	(16.1)	-	(3.5)	回転ナデ	回転ナデ	密	不良	口縁外縁に幅1.2cmの縁帯を形成	47	
384	C19	-	SD7	k-n	2823-1	山茶碗	碗	尾張型	第4型式	-	7.8	(3.0)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	やや粗	良好		47	

表30　土器観察表（16）

掲載番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	種別	器種	産地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整(内面)	調整(外面)	胎土	焼成	備考	挿図番号	図版番号
385	C19	-	SD7	k-n	2832-13	山茶碗	碗	尾張型	第5型式	(15.9)	(7.5)	4.4	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	やや粗	良好	籾殻痕	47	
386	C19	-	SD7	k-n	2829-1	山茶碗	片口鉢	美濃須衛型	Ⅷ期	(26.4)	-	(9.0)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好		47	
387	C19	-	SD7	k-n	2843-1	山茶碗	碗	東濃型	矢戸上野2	-	(7.5)	(5.4)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	上位からの圧により高台潰れ台形状を呈す、籾殻痕	47	
388	C19	-	SD7	k-n	2781-6	山茶碗	碗	東濃型	谷迫間2	-	(8.6)	(3.0)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	不良	籾殻痕	47	
389	C19	-	SD7	k-n	2832-1	山茶碗	碗	東濃型	谷迫間2	-	7.8	(3.1)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	やや粗	良好		47	
390	C19	-	SD7	k-n	2822-1	山茶碗	碗	東濃型	谷迫間2	8.8	4.9	2.6	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	籾殻痕	47	
391	C19	-	SD7	k-n	2812-10	山茶碗	小碗	東濃型	谷迫間2	8.4	4.2	2.7	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	底部内面摩耗、籾殻痕	47	17
392	C19	-	SD7	g-j	2807-10	山茶碗	小碗	東濃型	谷迫間2	(9.4)	(5.1)	3.3	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	籾殻痕	47	
393	C19	-	SD7	k-n	2831-30	山茶碗	小碗	東濃型	谷迫間2	(9.3)	(5.5)	3.1	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切後回転ナデ、貼付高台	密	良好	籾殻痕	47	
394	C19	-	SD7	k-n	2827-5	山茶碗	小碗	東濃型	谷迫間2	8.9	4.7	2.4	回転ナデ	回転ナデ、底部糸切後回転ナデ、貼付高台	密	良好		47	
395	C19	-	SD7	k-n	2832-5	山茶碗	碗	東濃型	浅間窯下1	(16.1)	(6.6)	5.3	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕、貼付高台	密	不良		47	
396	C19	-	SD7	5-6	2945-3	山茶碗	碗	東濃型	浅間窯下1	15.0	7.0	5.1	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	籾殻痕	47	
397	C19	-	SD7	k-n	2781-4	山茶碗	玉縁碗	東濃型	浅間窯下1	(15.4)	-	5.7	回転ナデ	回転ナデ、貼付高台	密	良好	口縁外縁に幅1.3cmの縁帯形成、籾殻痕	47	17
398	C19	-	SD7	k-n	2812-13	山茶碗	碗	東濃型	丸石3	-	(6.1)	(3.3)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕、貼付高台	密	良好	籾殻痕	48	
399	C19	-	SD7	g-j	2807-5	山茶碗	碗	東濃型	丸石3	-	5.5	(4.6)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	籾殻痕	48	
400	C19	-	SD7	k-n	2812-14	山茶碗	碗	東濃型	丸石3	-	(5.9)	(3.6)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕、貼付高台	密	良好	籾殻痕	48	
401	C19	-	SD7	k-n	2820-1	山茶碗	碗	東濃型	丸石3	(15.3)	(6.3)	6.2	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	不良	籾殻痕	48	
402	C19	-	SD7	5-6	2945-10	山茶碗	小皿	東濃型	丸石3	(8.0)	(4.0)	2.0	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切	密	良好		48	
403	C19	-	SD7	k-n	2827-4	山茶碗	小皿	東濃型	丸石3	7.8	3.6	2.1	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切	密	良好	底部内面摩耗	48	16
404	C19	-	SD7	k-n	2827-10	山茶碗	小皿	東濃型	丸石3	(8.8)	(4.8)	2.0	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切	密	良好		48	
405	C19	-	SD7	5-6	2945-26	山茶碗	小皿	東濃型	丸石3	8.2	3.9	2.2	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切	密	良好		48	
406	C19	-	SD7	k-n	2781-3	山茶碗	碗	東濃型	窯洞1	-	5.2	(2.8)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕、貼付高台	密	良好	底部外面墨書「大」、籾殻痕	48	

表31　土器観察表（17）

掲載番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	種別	器種	産地等	分類等	口径（cm）	底径（cm）	器高（cm）	調整（内面）	調整（外面）	胎土	焼成	備考	挿図番号	図版番号
407	C19	－	SD7	k-n	2831-3	山茶碗	碗	東濃型	窯洞1	(14.0)	(5.8)	5.9	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕、貼付高台	密	良好	籾殻痕	48	
408	C19	－	SD7	k-n	2832-20	山茶碗	碗	東濃型	窯洞1	－	(6.0)	(3.8)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕、貼付高台	密	良好	籾殻痕	48	
409	C19	－	SD7	k-n	2781-11	山茶碗	碗	東濃型	窯洞1	13.8	6.0	5.0	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	内面口縁から体部摩耗、籾殻痕	48	
410	C19	－	SD7	g-j	2807-14	山茶碗	小皿	東濃型	窯洞1	8.0	4.1	1.8	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切	密	良好		48	17
411	C19	－	SD7	5-6	2945-1	山茶碗	小皿	東濃型	窯洞1	7.8	4.1	2.1	回転ナデ、底部指圧痕	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕	密	良好	底部外面墨書「十」、底部内面摩耗	48	19
412	C19	－	SD7	k-n	2797-1	山茶碗	碗	東濃型	白土原1	13.6	5.1	5.6	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	底部外面墨書（釈読不能）、籾殻痕	48	
413	C19	－	SD7	k-n	2812-86	山茶碗	碗	東濃型	白土原1	－	(5.6)	(1.8)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕、貼付高台	密	不良	底部外面墨書「品」、籾殻痕	48	
414	C19	－	SD7	k-n	2833-1	山茶碗	碗	東濃型	白土原1	－	(5.0)	(2.9)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	底部外面墨書（釈読不能）、籾殻痕	48	
415	C19	－	SD7	k-n	2812-11	山茶碗	碗	東濃型	白土原1	(13.4)	(5.6)	5.8	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	籾殻痕	48	
416	C19	－	SD7	g-j	2768-1	山茶碗	碗	東濃型	白土原1	14.4	6.0	5.0	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	籾殻痕	48	
417	C19	－	SD7	k-n	2812-1	山茶碗	碗	東濃型	白土原1～明和1	14.3	5.9	5.6	回転ナデ、底部指圧痕	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	内面摩耗、籾殻痕	48	17
418	C19	－	SD7	k-n	2781-2	山茶碗	碗	東濃型	明和1	(15.0)	5.3	5.6	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	籾殻痕	48	17
419	C19	－	SD7	g-j	2767-2	山茶碗	小皿	東濃型	明和1	7.6	4.4	1.4	回転ナデ、底部指圧痕	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕	密	良好		48	
420	C19	－	SD7	g-j	2750-3	山茶碗	小皿	東濃型	明和1	(8.3)	(4.6)	1.7	回転ナデ、底部指圧痕	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕	密	良好		48	
421	C19	－	SD7	k-n	2834-4	中国製磁器	白磁皿	－	A群	－	(3.8)	(2.0)	回転ナデ	回転ヘラ削り	密	良好		48	
422	C19	－	SD7	k-n	2813-6	常滑	甕	－	6a型式	(23.3)	－	(3.6)	回転ナデ	回転ナデ	やや粗	良好		48	
425	C19	－	SD7	11	2961-1	須恵器	高坏	猿投産	岩崎17～岩崎41	－	－	(2.7)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好		49	
426	C19	－	SD7	e-h	2906-2	須恵器	高坏	不明	岩崎17～岩崎41併行	(13.3)	－	(2.9)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り後軽い回転ナデ	密	良好	胎土暗い色調を呈す	49	
427	C19	－	SD7	9	2957-2	山茶碗	碗	東濃型	矢戸上野2	－	7.2	(4.7)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切後回転ナデ、貼付高台	密	良好	籾殻痕	49	
428	C19	－	SD7	a-d	2900-3	山茶碗	碗	東濃型	浅間窯下1	－	6.4	4.1	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	底部内面重ね焼き痕、籾殻痕	49	
429	C19	－	SD7	a-d	2905-1	山茶碗	小皿	東濃型	丸石3	9.0	4.4	2.0	回転ナデ、底部指圧痕	回転ナデ、底部回転糸切	密	良好		49	
430	C19	－	SD7	a-d	2900-1	山茶碗	碗	東濃型	窯洞1	14.4	5.2	5.2	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	底部外面墨書「十」、籾殻痕	49	

表32　土器観察表（18）

掲載番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	種別	器種	産地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整(内面)	調整(外面)	胎土	焼成	備考	挿図番号	図版番号
431	C19	-	SD7	e-h	2911-1	山茶碗	碗	東濃型	白土原1	14.7	6.3	5.2	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	籾殻痕	49	17
432	C19	-	SD7	e-h	2916-1	山茶碗	小壺	東濃型	白土原1	-	-	(3.0)	回転ナデ	回転ナデ	密	良好		49	
433	C19	-	SD7	e-h	2907-1	山茶碗	小皿	東濃型	明和1	7.8	4.6	1.5	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕	密	良好	底部内面摩耗	49	
434	C19	-	SD7	a-b	2854-1	須恵器	高坏	猿投産	岩崎101	(11.8)	-	(3.4)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好	外面ヘラ描沈線有	49	
435	C19	-	SD7	a-b	2848-1	山茶碗	碗	東濃型	浅間窯下1	-	6.0	(2.5)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕、貼付高台	密	良好	籾殻痕	49	
436	C19	-	SD7	e-f	2896-1	山茶碗	小皿	東濃型	窯洞1	8.0	3.9	1.4	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕	密	良好	底部内面摩耗	49	
437	C19	-	SD7	e-f	2896-2	山茶碗	小皿	東濃型	窯洞1	(8.0)	(3.5)	1.9	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切	密	良好	底部外面墨書（釈読不能）	49	
438	C19	-	SD7	a-b	2856-2	山茶碗	小皿	東濃型	白土原1	(8.4)	(5.2)	1.5	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切	密	良好		49	
439	C19	BP8	SD8	m-n	2630-1	須恵器	坏蓋B	猿投産	岩崎17	(9.8)	-	1.7	回転ナデ、指頭圧痕	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	不良		50	
440	C19	BS7	SD8	a-b	2626-1	須恵器	坏蓋C	猿投産	高蔵寺2	-	-	(2.5)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好		50	
441	C19	BS8	SD8	c-d	2644-1	須恵器	坏身B	猿投産	高蔵寺2	(11.2)	6.3	4.3	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラ切り	密	良好	胎土砂粒を若干含む	50	
442	C19	BS7	SD8	c-d	2640-1	須恵器	坏身C	猿投産	高蔵寺2～岩崎25	(14.0)	(11.3)	3.6	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り、底部回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好	胎土灰色を呈す	50	
443	C19	BQ8	SD8	c-d	2471-2	須恵器	長頸瓶	猿投産	折戸10	-	(9.3)	(4.4)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り、底部回転ヘラ削り後回転ナデ、貼付高台	密	良好		50	
444	C19	BQ8	SD8	g-h	2560-3	須恵器	甕	猿投産	高蔵寺2～鳴海32	(14.6)	-	(5.0)	回転ナデ	回転ナデ、平行タタキ	密	良好	胎土灰色を呈す	50	
445	C19	BQ8	SD8	m-n	1822-1	須恵器	壺	猿投産	高蔵寺2～岩崎25	-	(14.7)	(7.0)	静止ナデ、指押え	回転ナデ、指押え	密	良好		50	
446	C19	BQ8	SD8	g-h	2561-1	灰釉陶器	碗	東濃産	大原2	15.5	8.3	5.5	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り、底部回転ヘラ削り後回転ナデ、貼付高台	密	良好	三日月高台	50	17
447	C19	BT7	SD8	c-d	2647-1	灰釉陶器	段皿	東濃産	虎渓山1	(14.9)	7.9	2.2	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り、底部回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好		50	
448	C19	BQ8	SD8	g-h	2561-4	灰釉陶器	丸皿	東濃産	丸石2	(12.2)	(7.5)	2.5	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好		50	
449	C19	BQ7	SD8	m-n	2690-1	山茶碗	碗	尾張型	第5型式	-	7.0	(3.6)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕、貼付高台	やや粗	良好	籾殻痕	50	
450	C19	BQ8	SD8	c-d	2473-1	山茶碗	小碗	東濃型	谷迫間2	9.2	5.0	3.4	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	やや粗	良好	底部内面摩耗、籾殻痕	50	17
451	C19	BQ8	SD8	g-h	2524-1	山茶碗	碗	東濃型	谷迫間2	15.7	8.0	5.3	回転ナデ、底部静止ナデ	回転ナデ、底部回転糸切後軽いナデ、貼付高台	密	良好	籾殻痕	50	17
452	C19	BR7	SD8	c-d	2588-1	山茶碗	碗	東濃型	谷迫間2	-	7.9	(3.5)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	やや粗	良好	籾殻痕	50	

表33　土器観察表（19）

掲載番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	種別	器種	産地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整(内面)	調整(外面)	胎土	焼成	備考	挿図番号	図版番号
453	C19	BQ8	SD8	m-n	2665-1	山茶碗	碗	東濃型	谷迫間2	-	8.3	(3.2)	回転ナデ、底部中央静止ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕、貼付高台	やや粗	良好		50	
454	C19	BQ8	SD8	g-h	2562-8	山茶碗	碗	東濃型	谷迫間2	(16.3)	-	(4.0)	回転ナデ	回転ナデ	密	不良		50	
455	C19	BS8	SD8	c-d	2646-1	山茶碗	碗	東濃型	谷迫間2	-	7.6	(3.4)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切後軽い回転ナデ、貼付高台	密	良好	籾殻痕	50	
456	C19	BR7	SD8	c-d	2464-1	山茶碗	碗	東濃型	浅間窯下1	-	(7.0)	(2.4)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	籾殻痕	50	
457	C19	BQ8	SD8	e-f	2522-1	山茶碗	碗	東濃型	浅間窯下1	-	6.8	(2.4)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕、貼付高台	密	良好	籾殻痕	50	
458	C19	BR7	SD8	e-f	2662-2	山茶碗	小皿	東濃型	浅間窯下1	(9.3)	(5.1)	(3.1)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切	密	良好		50	
459	C19	BQ8	SD8	k-l	2615-1	山茶碗	碗	東濃型	丸石3	15.2	6.2	5.1	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	底部内面重ね焼き痕、籾殻痕	50	
460	C19	BR7	SD8	c-d	2558-1	山茶碗	碗	東濃型	丸石3	-	6.4	(5.6)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	籾殻痕	50	18
461	C19	BQ8	SD8	m-n	2638-1	山茶碗	碗	東濃型	丸石3	-	(6.0)	(3.6)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	籾殻痕	50	18
462	C19	BP8	SD8	c-d	2573-2	山茶碗	碗	東濃型	丸石3	(14.9)	(7.0)	5.8	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	籾殻痕	50	
463	C19	BP8	SD8	c-d	2573-1	山茶碗	碗	東濃型	窯洞1	15.1	6.8	5.9	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	籾殻痕	50	17
464	C19	BQ8	SD8	g-h	2523-1	山茶碗	碗	東濃型	窯洞1	(15.0)	5.6	5.9	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、爪痕、貼付高台	密	良好	籾殻痕	50	
465	C19	BP8	SD8	k-l	2610-1	山茶碗	碗	東濃型	窯洞1	(15.5)	(6.4)	5.9	回転ナデ	回転ナデ、貼付高台	密	良好	籾殻痕	50	
466	C19	BR7	SD8	c-d	2558-2	山茶碗	碗	東濃型	白土原1	-	(5.8)	(2.5)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕、貼付高台	密	良好	底部外面墨書「十」、籾殻痕	50	
467	C19	BR8	SD8	e-f	2925-1	山茶碗	碗	東濃型	大畑大洞4	-	(4.6)	(2.8)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕、貼付高台	密	良好	籾殻痕	50	18
468	C19	BS7	SD8	a-b	2629-1	古瀬戸	緑釉小皿	-	後Ⅰ期	(10.8)	(6.0)	2.3	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切	密	良好		50	
469	C19	-	SD9	e-f	2738-2	須恵器	坏身C	美濃須衛産	Ⅳ期-3	-	(9.2)	(1.1)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好	胎土淡灰色を呈す	51	
470	C19	-	SD9	3	2864-1	灰釉陶器	片口鉢	東濃産	西坂1	-	(13.3)	(7.3)	回転ナデ	回転ナデ、底部指押え、貼付高台	密	良好		51	
471	C19	-	SD9	3	2873-1	山茶碗	碗	尾張型	第4型式	-	7.1	(3.3)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	粗	良好	籾殻痕	51	18
472	C19	BQ7	SD9	c-d	2552-1	山茶碗	小碗	東濃型	谷迫間2	10.0	5.5	3.6	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	籾殻痕	51	18
473	C19	-	-	Ⅱ	2391-1	須恵器	無台碗	猿投産	岩崎25	(15.3)	-	(3.4)	回転ナデ	回転ナデ	密	良好		54	
474	C19	-	-	Ⅱ	2365-1	灰釉陶器	碗	東濃産	丸石2	-	(6.2)	(2.3)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切後回転ナデ、貼付高台	密	良好		54	
475	C19	-	-	Ⅱ	2073-1	山茶碗	碗	東濃型	谷迫間2	-	(7.9)	(2.4)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、藁状植物圧痕、貼付高台	やや粗	良好	破断面から体部外面高台にかけて墨汁垂下、籾殻痕	54	

表34　土器観察表（20）

掲載番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	種別	器種	産地等	分類等	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	調整(内面)	調整(外面)	胎土	焼成	備考	挿図番号	図版番号
476	C19	－	－	Ⅱ	2332-1	古瀬戸	擂鉢	－	後Ⅰ期～後Ⅲ期	－	10.8	(6.2)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り、底部回転糸切	密	良好	錆釉施釉、底部内面擂目なし	54	
477	C19	BS7	－	Ⅱ	1732-2	大窯製品	志野丸皿	－	第4段階	(9.8)	(5.7)	1.9	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好		54	
478	C19	BP-BQ8	－	トレンチ	1682-1	土師器	長胴甕	－	第1～2段階	(24.0)	－	(7.2)	ナデ、ヨコハケ	ナデ、ナナメハケ、指押え	やや粗	良好		54	
479	C19	BP6	－	トレンチ	1617-1	土師器	長胴甕	－	第2～3段階	(17.3)	－	(3.1)	ナデ、ヨコハケ、指押え	ナデ、タテハケ	粗	不良		54	
480	C19	BP6	－	トレンチ	1618-1	須恵器	壺	猿投産	東山11～東山44	－	－	(4.2)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	やや粗	良好		54	
481	C19	－	－	トレンチ	2851-2	灰釉陶器	碗	東濃産	光ヶ丘1	－	(6.7)	(2.2)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り、貼付高台	密	良好		54	
482	C19	－	－	トレンチ	2799-1	灰釉陶器	広口瓶	東濃産	光ヶ丘1	－	(13.5)	(2.7)	回転ナデ	回転ヘラ削り、底部指押え、貼付高台	密	良好		54	
483	C19	－	－	トレンチ	2851-1	灰釉陶器	碗	東濃産	西坂1	－	7.2	(2.5)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切後指押え、貼付高台	密	良好		54	
484	C19	BP-BQ8	－	トレンチ	1686-1	山茶碗	片口鉢	尾張型	第9～10型式	－	－	(6.8)	回転ナデ	静止ヘラ削り、高台部回転ナデ、貼付高台	粗	良好		54	
485	C19	BP-BQ7	－	トレンチ	1602-1	山茶碗	碗	東濃型	谷迫間2	－	7.0	(2.9)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕、貼付高台	密	良好	籾殻痕	54	
486	C19	BP-BQ8	－	トレンチ	1638-2	山茶碗	碗	東濃型	浅間窯下1	－	(7.0)	(1.3)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	底部外面墨書「一」、籾殻痕	54	
487	C19	BR7	－	トレンチ	2341-1	山茶碗	小皿	東濃型	浅間窯下1	8.9	4.9	2.7	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切	やや粗	良好	底部内面重ね焼き痕	54	
488	C19	BQ6	－	トレンチ	1642-1	山茶碗	碗	東濃型	窯洞1	－	(5.5)	(3.8)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕、貼付高台	密	良好	底部外面墨書「十」、籾殻痕	54	
489	C19	BP8	－	トレンチ	1625-1	山茶碗	碗	東濃型	大畑大洞4	－	(4.5)	(4.5)	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、板目状圧痕、貼付高台	密	良好	籾殻痕	54	
490	C19	BQ6	－	トレンチ	1643-5	古瀬戸	灰釉平碗	－	後Ⅳ期新	(14.7)	－	(4.8)	回転ナデ	回転ナデ、下半回転ヘラ削り後軽いナデ一部静止ヘラ削り	密	良好	胎土やや酸化	54	
491	C19	BQ6	－	トレンチ	1643-1	登窯製品	擂鉢	－	第2段階	－	11.4	(4.4)	回転ナデ	回転ヘラ削り	密	良好		54	
492	C19	BQ7	－	トレンチ	1675-1	登窯製品	碗	－	第3段階	(14.8)	6.0	5.8	回転ナデ	回転ナデ、底部回転ヘラ削り	密	不良	長石釉を底部外面を除き施す、内面見込みに呉須による「寿」	54	18
493	C19	BQ7	－	トレンチ	1675-2	登窯製品	染付皿	－	第3段階	(14.2)	－	(2.9)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削りか	密	不良	焼成が甘く呉須の発色が悪い、灰釉（透明釉）濁る	54	
494	C19	BQ6	－	トレンチ	1643-7	登窯製品	灰釉丸碗	－	第3段階	(10.4)	－	(3.6)	回転ナデ	回転ナデ、回転ヘラ削り	密	良好		54	
495	C19	BP8	－	攪乱	2703-2	山茶碗	小碗	東濃型	矢戸上野2	9.8	5.2	3.2	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切後軽いナデ、貼付高台	密	良好	籾殻痕	54	18
496	C19	BP8	－	攪乱	2703-1	山茶碗	碗	東濃型	谷迫間2	9.9	4.2	3.4	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	底部内面墨痕（釈読不能）、籾殻痕	54	
497	C19	BP8	－	攪乱	2703-6	山茶碗	小碗	東濃型	谷迫間2	8.0	(4.2)	2.7	回転ナデ	回転ナデ、底部回転糸切、貼付高台	密	良好	籾殻痕	54	

表35　木製品観察表

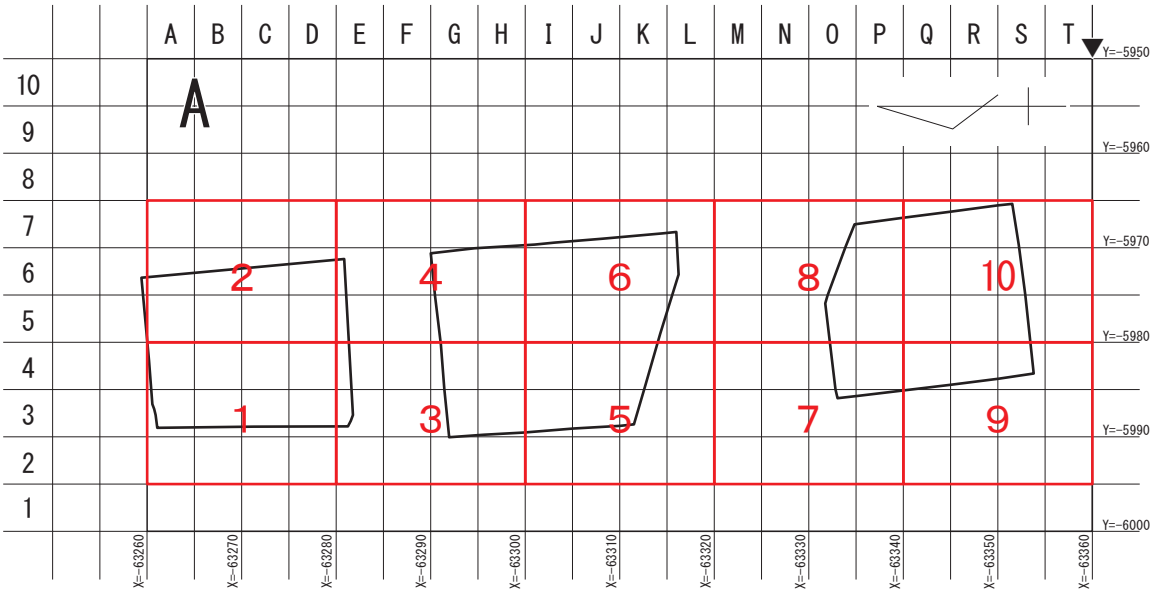
掲載番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	分類群	器種	器種細分	細分類	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	備考	木取り	樹種	挿図番号	図版番号
1	C16	－	SP2	1	585-1	建築部材	柱	柱根	B2b	(51.8)	10.8	12.5	上端部欠損、下部表面炭化	芯持材	マツ	14	22
132	C16	－	NR3	d-f	610-1	用途不明品	板状木製品	板材	－	(17.5)	2.0	1.1	上端部欠損、下端部芯を残して欠損	柾目	ヒノキ	23	23
136	C17	AI5	NR3	－	1472-1	雑具	火付け木	－	－	17.5	1.4	0.8	両端部炭化	柾目	ヒノキ	23	24
152	C17	－	NR5	5	1555-1	容器	曲物身	曲物底板	耳付楕円形	63.9	16.5	1.5		柾目	ヒノキ	26	20
153	C17	－	NR5	5	1596-1	建築部材	柱	柱材	B1	(262.0)	11.4	10.5	下端部欠損及び腐敗、上端ホゾ状加工部先端が炭化	芯持材	カヤ	26	21
154	C17	－	NR5	5	1554-1	用途不明品	板状木製品	板材	－	96.8	27.5	9.0		板目	アカガシ	26	23
155	C17	－	NR5	5	1559-1	用途不明品	板状木製品	板材	－	(17.6)	2.1	0.3		柾目	ヒノキ	26	23
156	C17	－	NR5	d-f	1504-1	祭祀具	斎串	－	－	(17.2)	1.9	0.8	上部欠損、下端部炭化	柾目	コウヤマキ	27	23
157	C17	－	NR5	d-f	1504-3	雑具	火付け木	－	－	28.3	1.1	1.1	下端部炭化	柾目	アスナロ	27	24
158	C17	－	NR5	d-f	1504-2	雑具	火付け木	－	－	(12.2)	1.6	1.0	上部欠損	柾目	イヌマキ	27	24
159	C17	－	NR5	j-l	1512-1	雑具	火付け木	－	－	(9.8)	1.2	1.0	下端部炭化、上部欠損	柾目	アスナロ	27	24
160	C17	－	NR5	5	1559-2	雑具	火付け木	－	－	15.3	1.0	0.8	両端部炭化、下部割れ有	柾目	アスナロ	27	24
161	C17	－	NR5	5	1559-3	雑具	火付け木	－	－	9.2	0.9	0.6	下端部炭化、上端部尖る	板目	イヌマキ	27	24
162	C17	－	NR5	a-i	1526-1	用途不明品	棒状木製品	棒状材	－	31.1	1.9	1.8	両端炭化、厚さ均一	柾目	アスナロ	27	23
170	C17	－	NR5	m-o	1551-1	建築部材	柱	柱材	B1	(130.2)	12.2	11.5	ホゾ加工有先端部が炭化	板目	ヒノキ	28	21
171	C17	－	NR5	p-r	1544-1	用途不明品	板状木製品	板材	－	(19.8)	9.7	6.8	溝状加工有	柾目	ヒノキ	28	24
172	C17	－	NR5	m-o	1548-1	用途不明品	板状木製品	板材	－	(75.7)	14.3	3.3	両端部欠損、一部炭化	柾目	ヒノキ	28	24
173	C17	－	NR5	m-o	1550-1	用途不明品	板状木製品	板材	－	(102.9)	11.7	4.3	両端部欠損、上方炭化	柾目	ヒノキ	28	24
174	C17	－	NR5	m-o	1552-1	建築部材	横架材	－	－	222.9	17.3	4.6	五平形の仕口を二つ有す	板目	ヒノキ	29	21
175	C17	－	NR5	m-o	1549-1	用途不明品	棒状木製品	棒状材	－	(84.3)	7.3	4.2	一部欠損	柾目	ヒノキ	29	24
176	C17	－	NR5	p-r	1544-2	用途不明品	棒状木製品	棒状材	－	(30.7)	3.9	2.8		板目	ヒノキ	29	23
177	C17	－	NR5	m-o	1534-1	用途不明品	棒状木製品	棒状材	－	(20.5)	4.4	2.6	端部欠損、厚さ均一	芯持材	アカガシ	29	23
220	C17	AJ5	－	Ⅲ	1354-1	用途不明品	板状木製品	板材	－	18.4	6.7	0.6		柾目	ヒノキ	32	23
221	C17	AJ5	－	Ⅲ	1331-1	容器	皿	漆器皿	－	底径(9.0)	－	高さ(1.5)	全面黒漆	ヨコ	ケヤキ	32	20
222	C17	AK5	－	Ⅲ	1192-1	装飾・装身具	下駄	連歯下駄	B1	19.2	(7.5)	1.9	台表前部指圧痕	柾目	ヒノキ	32	22
269	C16	AC4	－	攪乱	121-1	容器	椀	漆器椀	－	底径7.6	－	高さ(2.5)	黒漆内面底部及び外面剥落	ヨコ	ケヤキ	34	20
273	C18	－	SB1-SP1	1	1028-1	建築部材	柱	柱根	A2b	(40.3)	19.1	11.7		三分割材	カヤ	35	22
274	C18	－	SB1-SP3	1	1061-1	建築部材	柱	柱根	A2a	(21.0)	(14.2)	(8.2)		三分割材	カヤ	35	22
276	C18	－	SD2	a-b	1079-1	用途不明品	板状木製品	板材	－	13.4	5.1	1.2	端部に欠損が目立つ	柾目	ヒノキ	38	23
277	C18	－	SD2	a	1105-1	用途不明品	角柱状木製品	角材	－	(48.2)	19.2	9.7	表面炭化	柾目	カヤ	38	24
423	C19	－	SD7	k-n	2764-1	雑具	火付け木	－	－	(12.7)	1.0	0.7	上端部欠損、下端部2cm程度炭化	柾目	ヒノキ	48	24
424	C19	－	SD7	k-n	2764-2	用途不明品	板状木製品	板材	－	(9.6)	3.7	0.7	上部欠損	柾目	ヒノキ	48	23

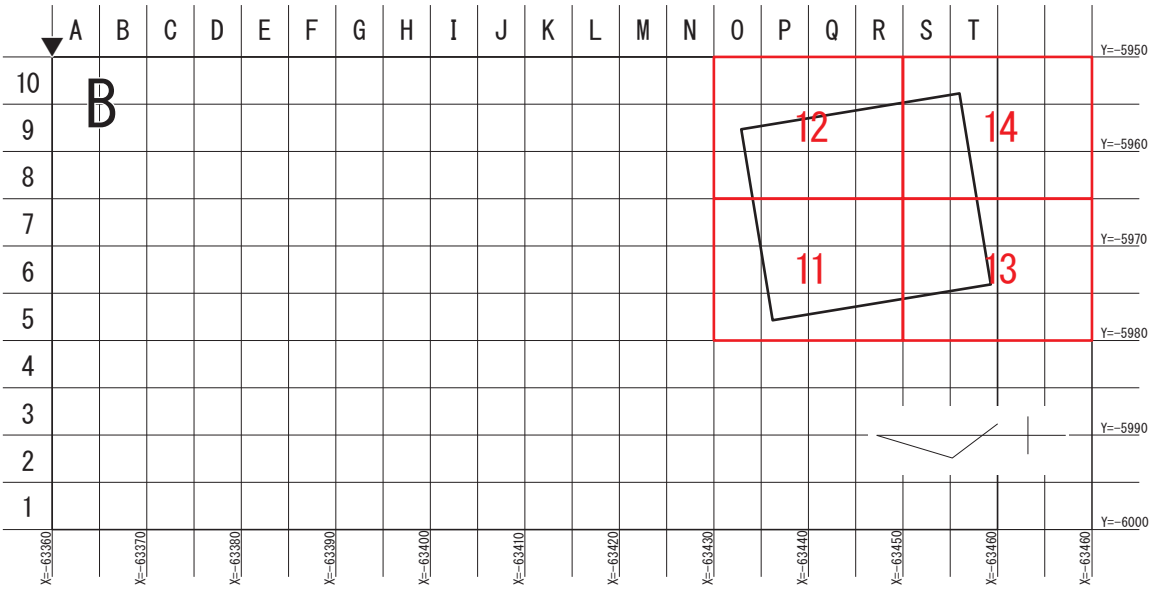
表36　石器・石製品観察表

掲載番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	質量(g)	材質	備考	挿図番号	図版番号
133	C16	－	NR3	g-i	573-1	砥石	22.5	10.1	9.8	2676.9	砂岩		23	
134	C16	AD5	NR3	j-l	580-1	剥片	5.5	4.6	1.8	41.2	チャート	原礫面・節理面残存	23	
178	C17	－	NR5	7	1560-1	剥片	4.7	2.1	1.4	10.7	チャート	礫面一部残存	29	
368	C19	BS7	SD6	a-b	2324-1	砥石	(11.2)	13.6	7.0	1266.8	砂岩	擦痕、被熱後割れ、炭化物付着	45	

表37　金属製品観察表

掲載番号	出土地点	グリッド	遺構名	層位	取上番号	器種	長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	質量(g)	材質	備考	挿図番号	図版番号
223	C17	AH5	－	Ⅲ	1293-1	鎹	4.5	2.3	0.4	4.5	鉄		32	





※大グリッドAとBは▼印で連続する

0　25m
(S=1/800)

図55　発掘区全域図　割付図

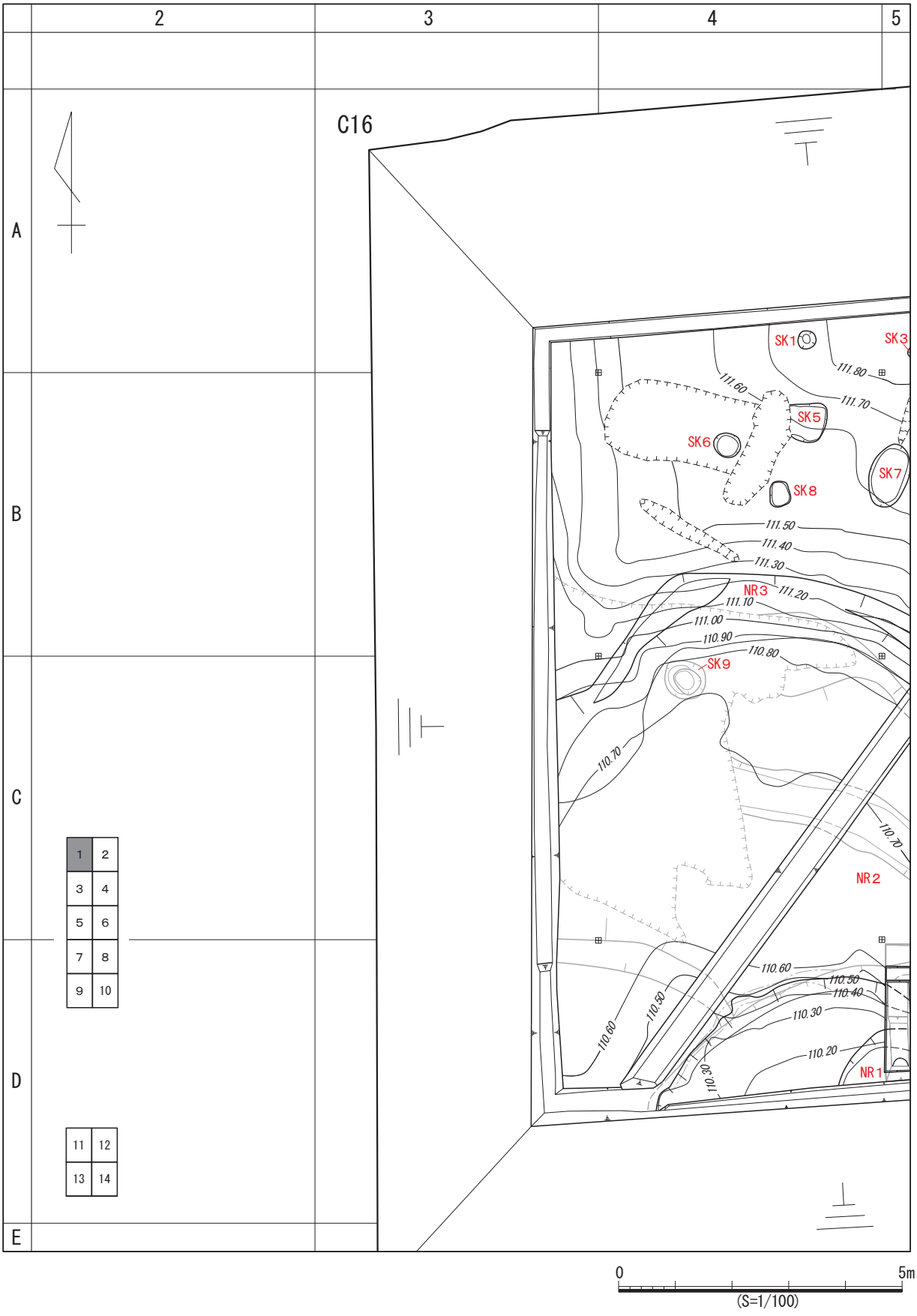


図56　発掘区全域図　分割図１

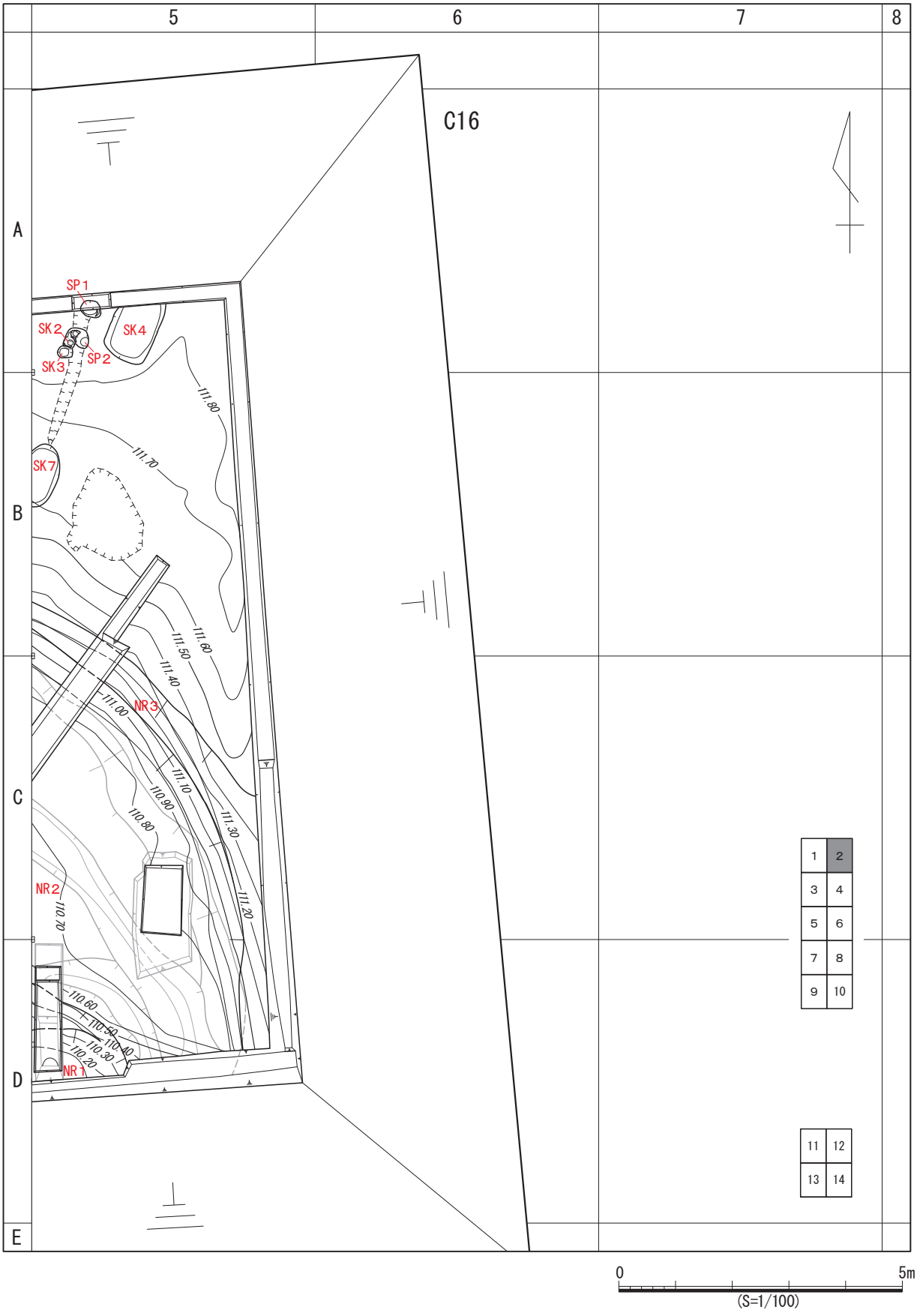


図57　発掘区全域図　分割図２

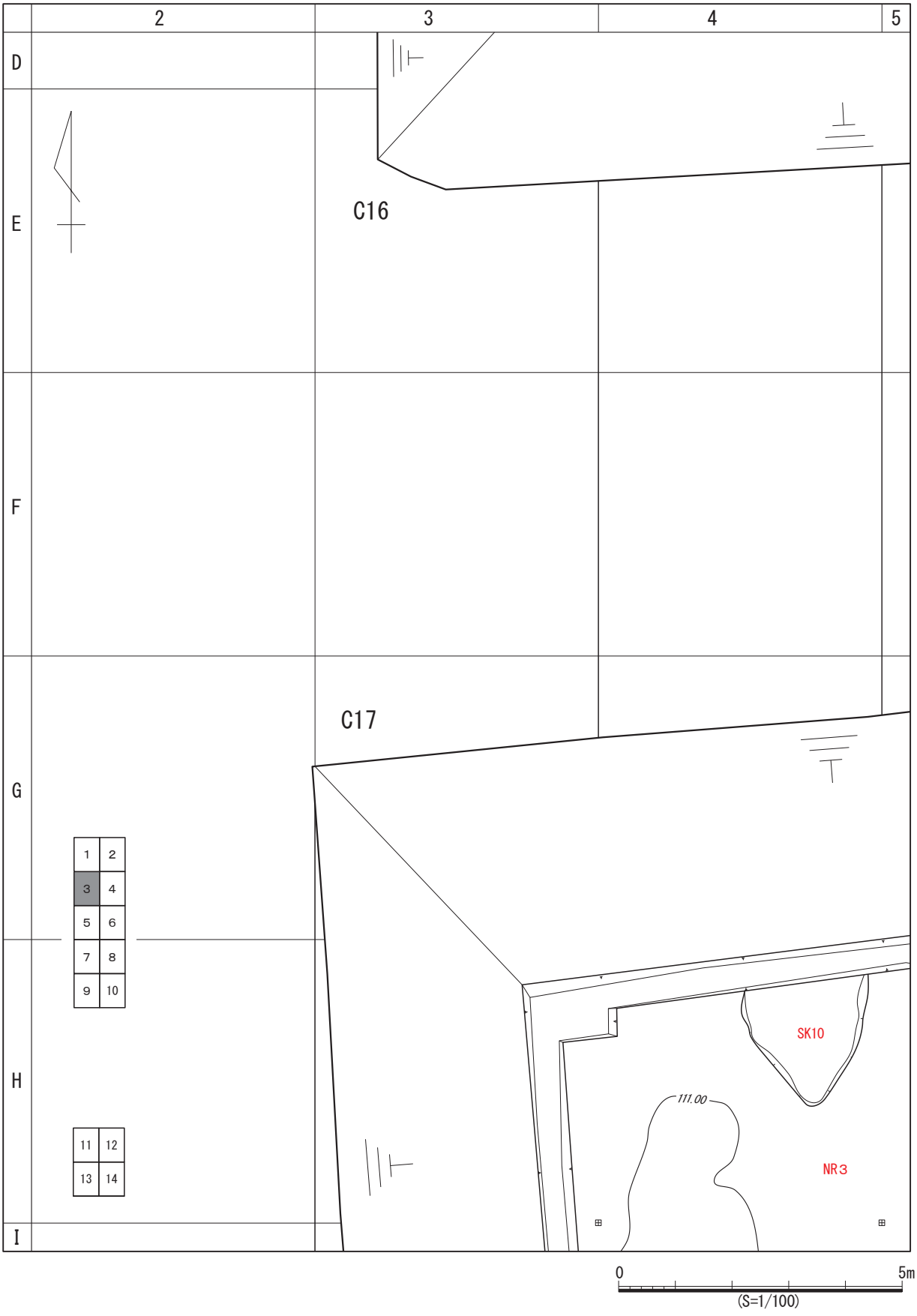


図58　発掘区全域図　分割図３

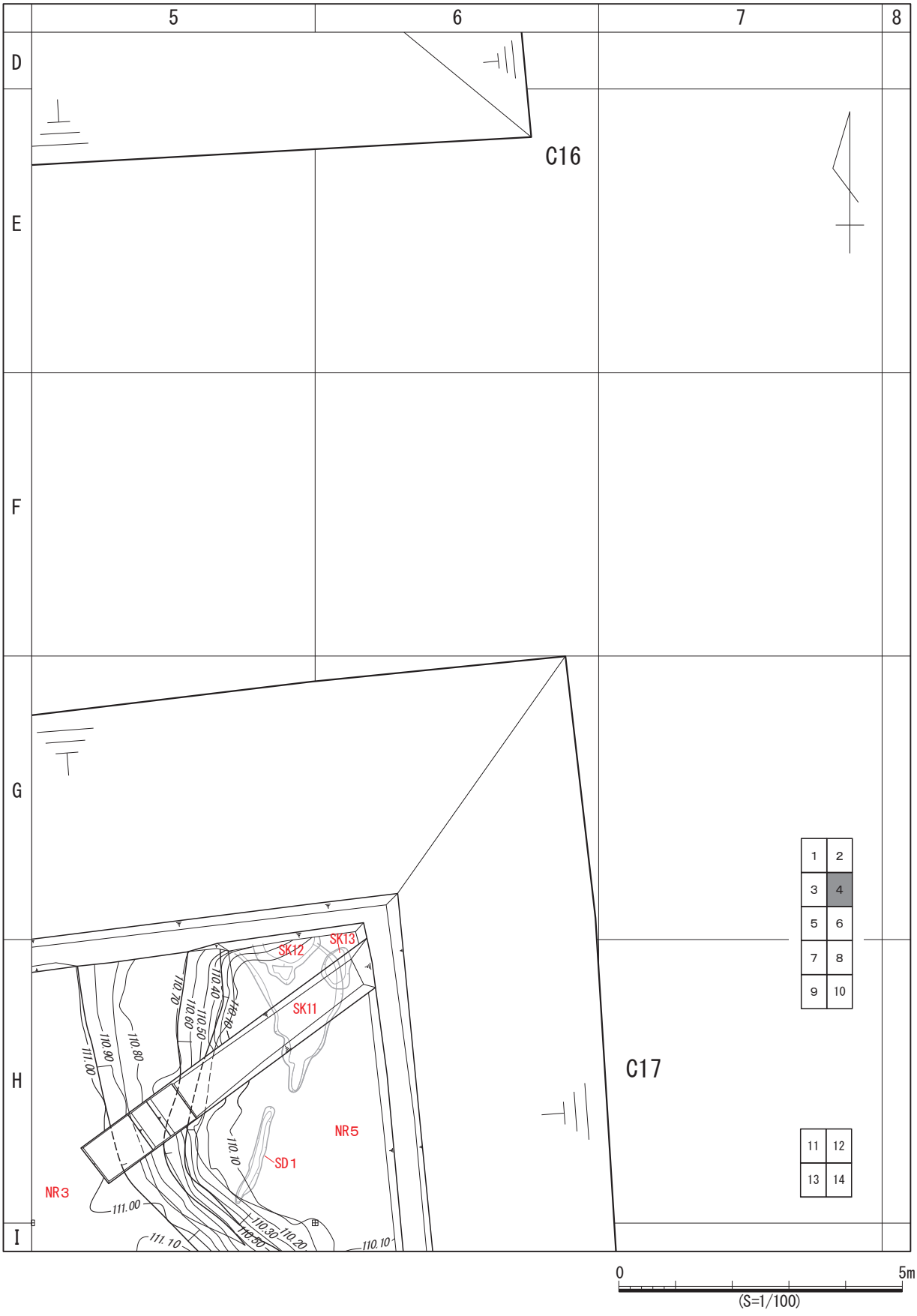


図59　発掘区全域図　分割図４

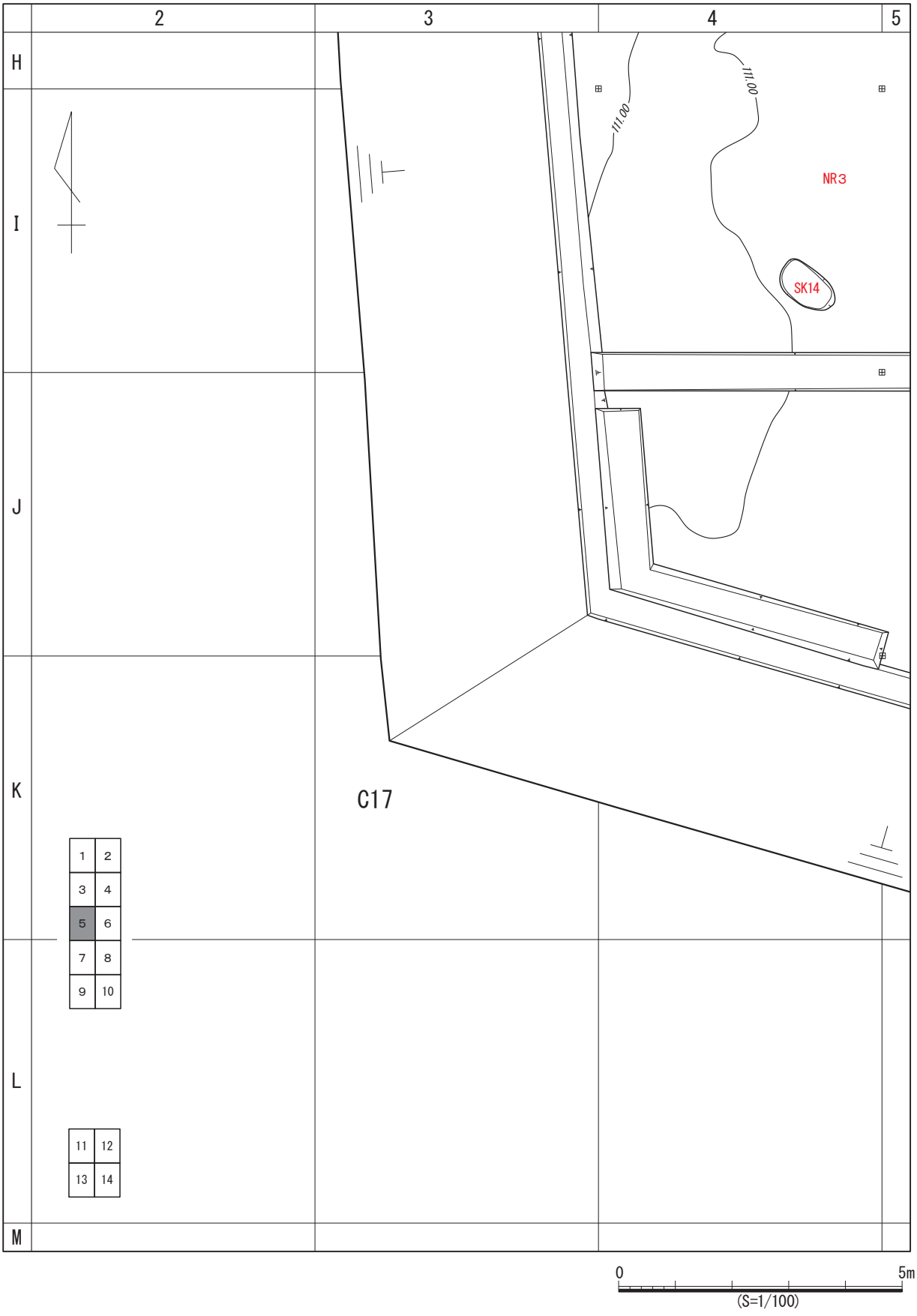


図60　発掘区全域図　分割図５

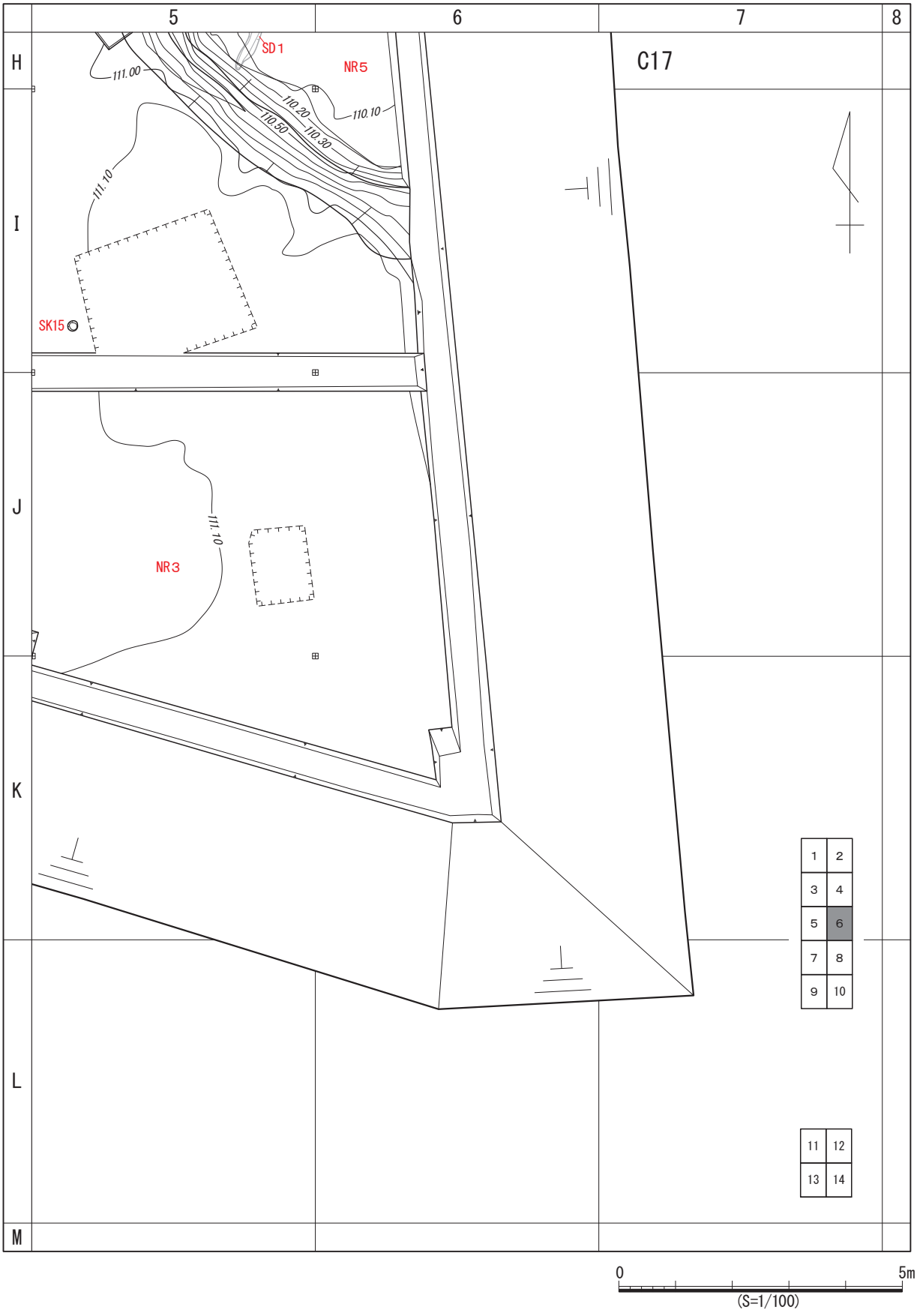


図61　発掘区全域図　分割図６

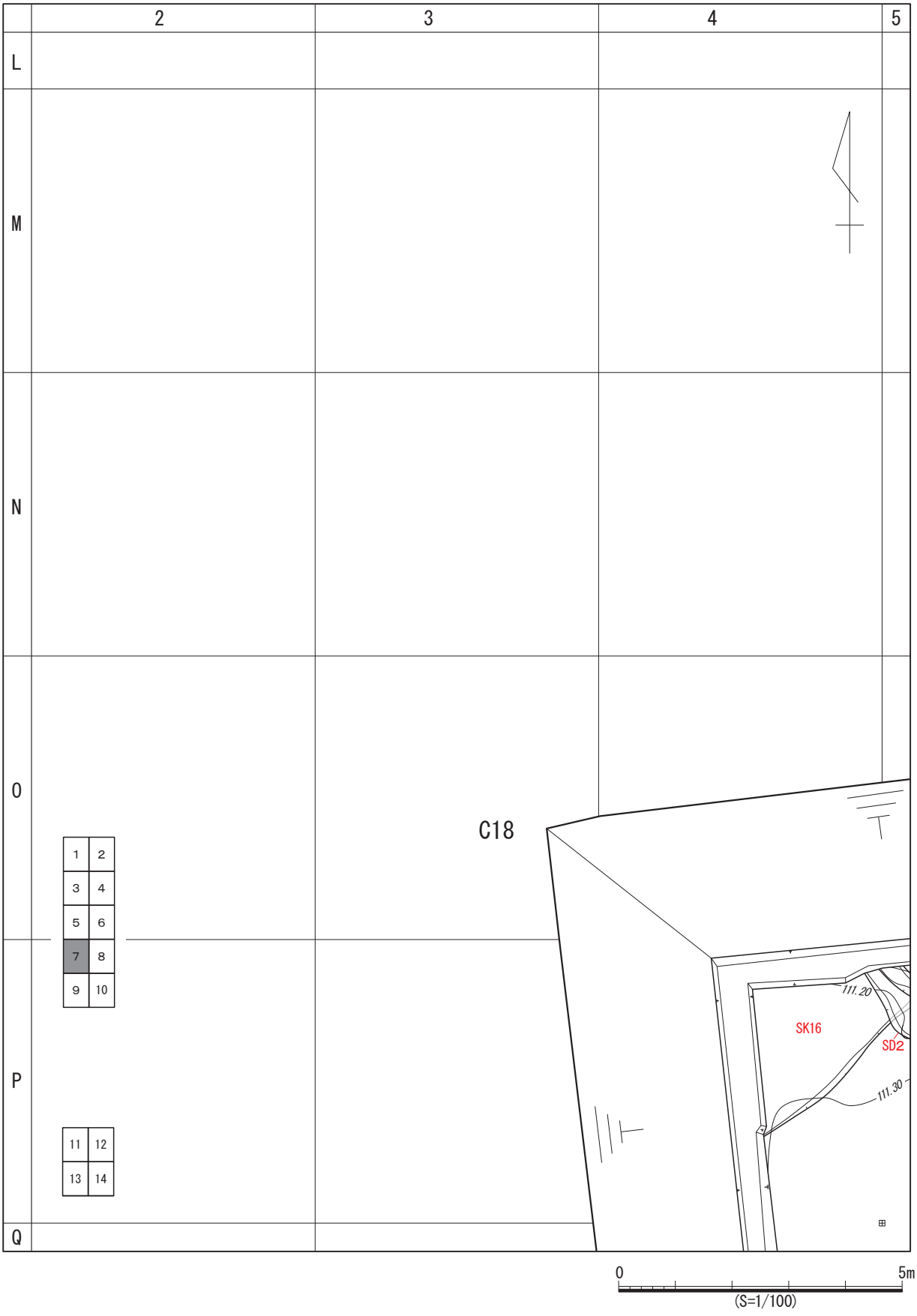


図62　発掘区全域図　分割図７

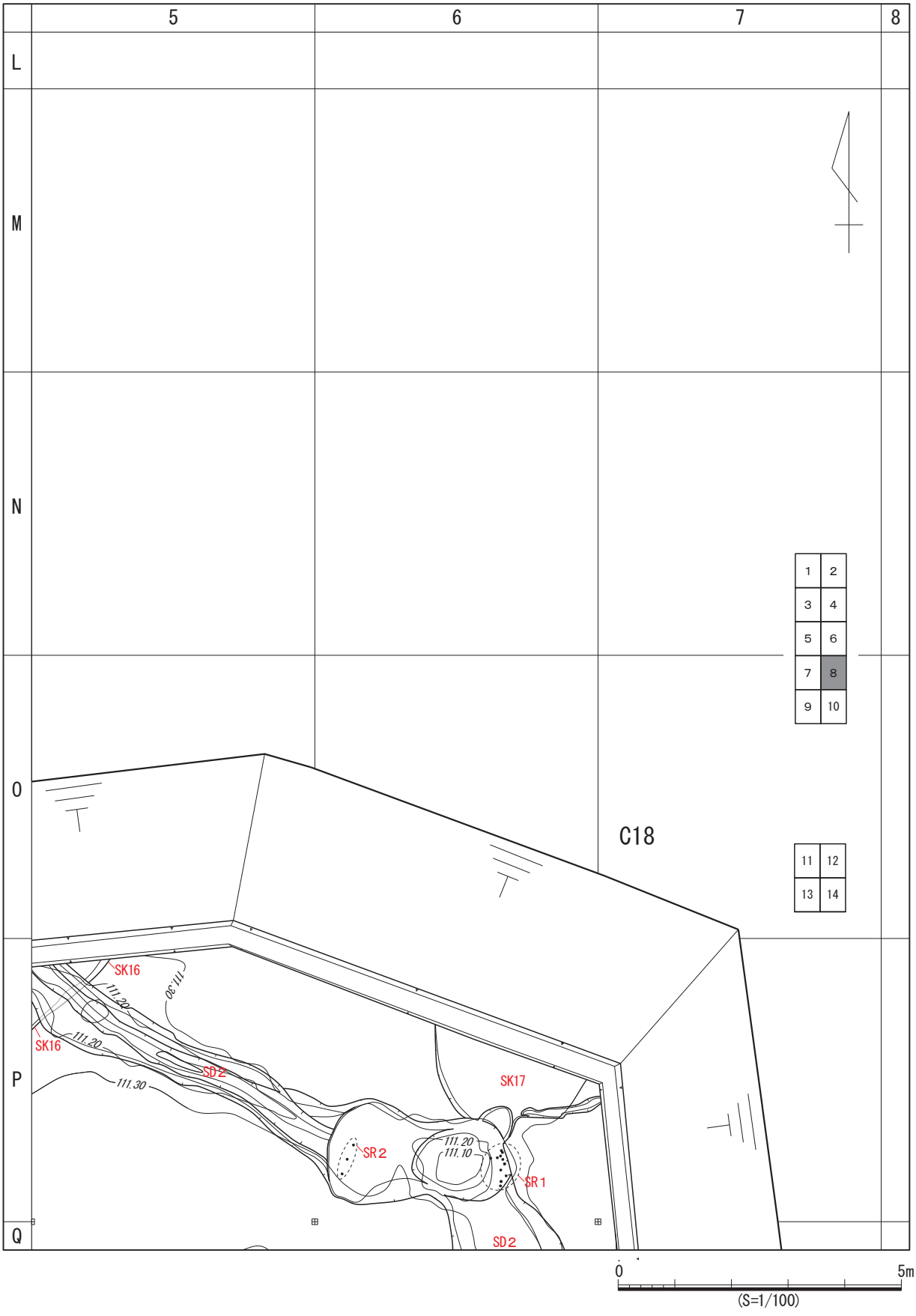


図63　発掘区全域図　分割図８

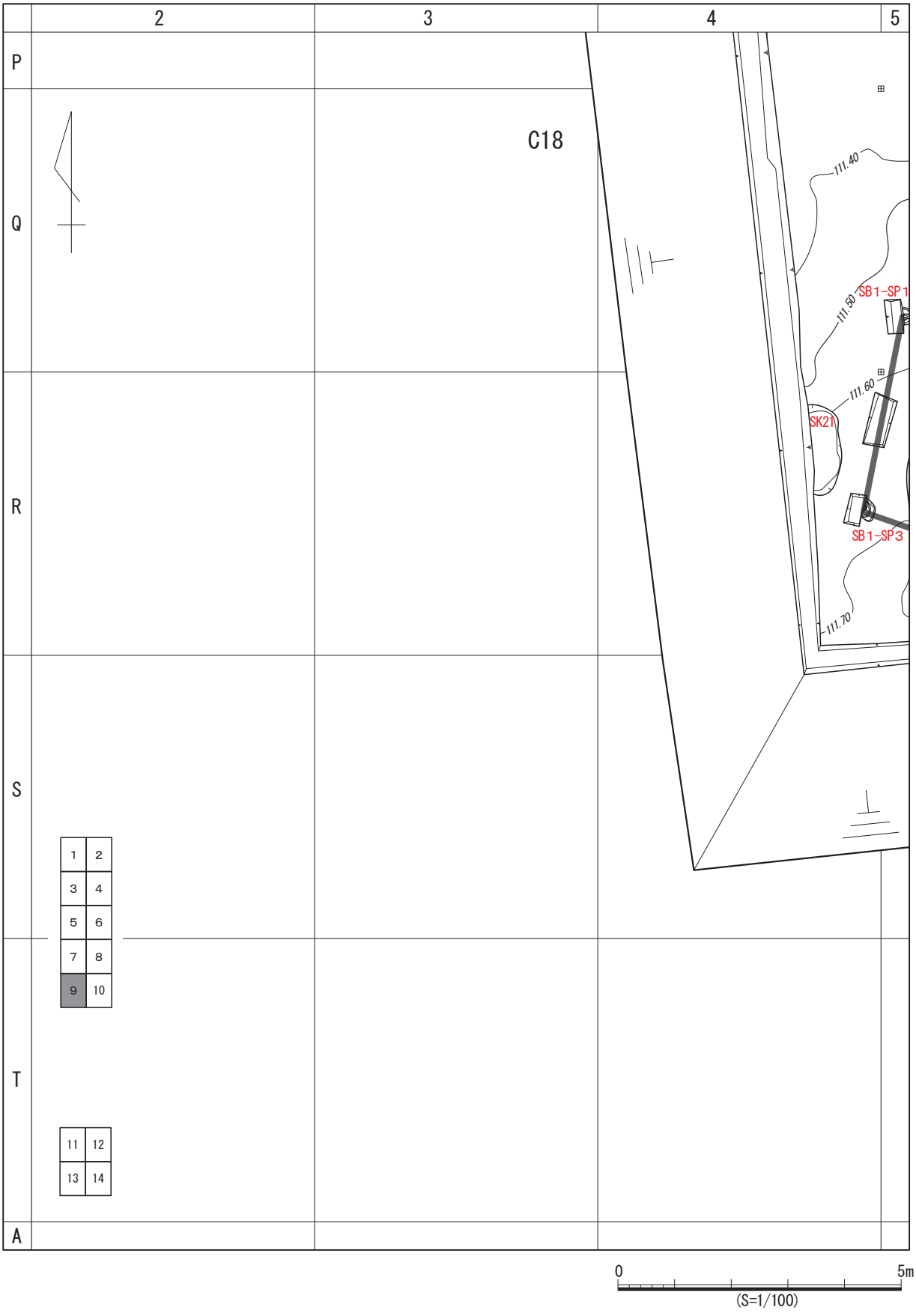


図64　発掘区全域図　分割図９

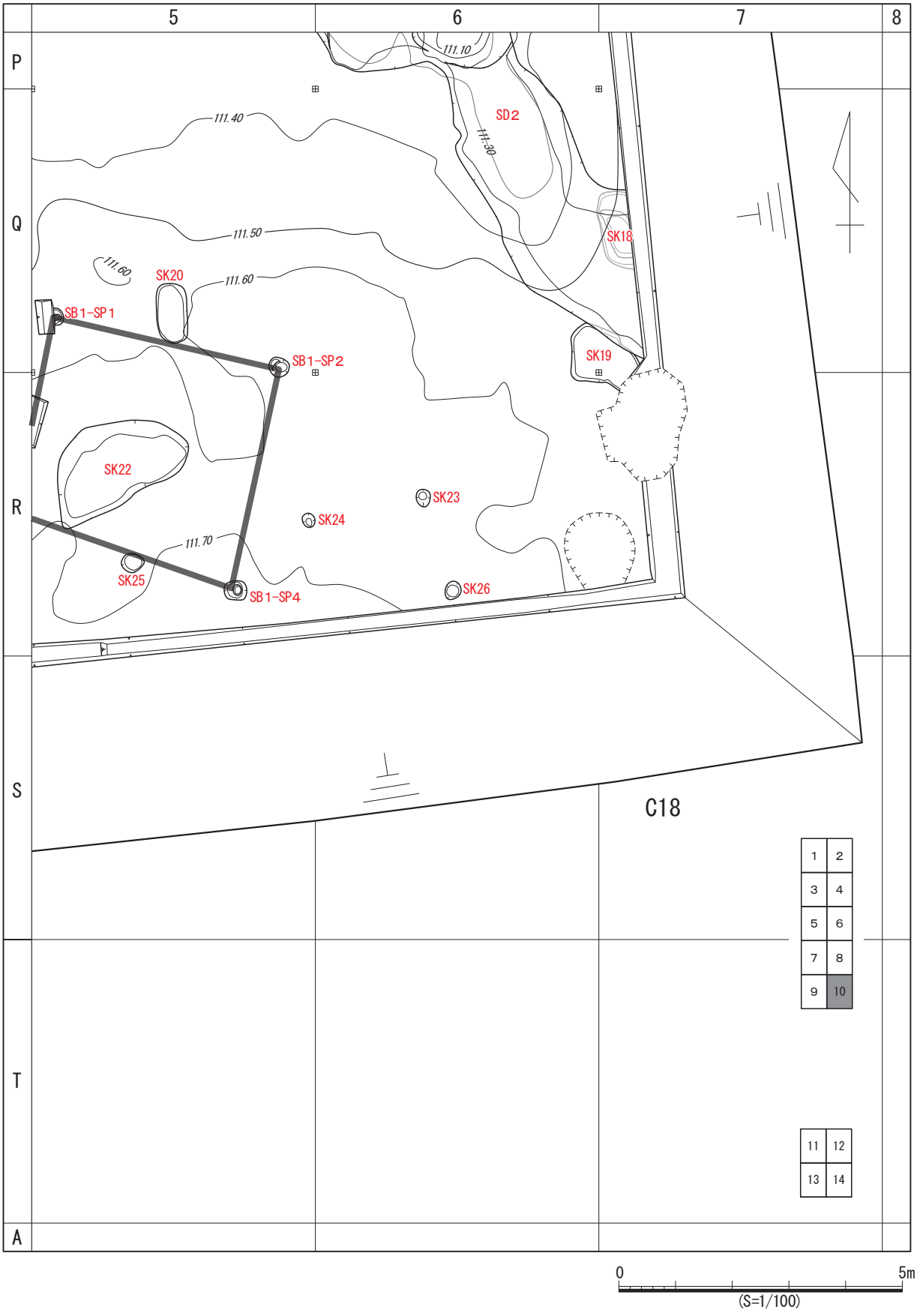


図65　発掘区全域図　分割図10

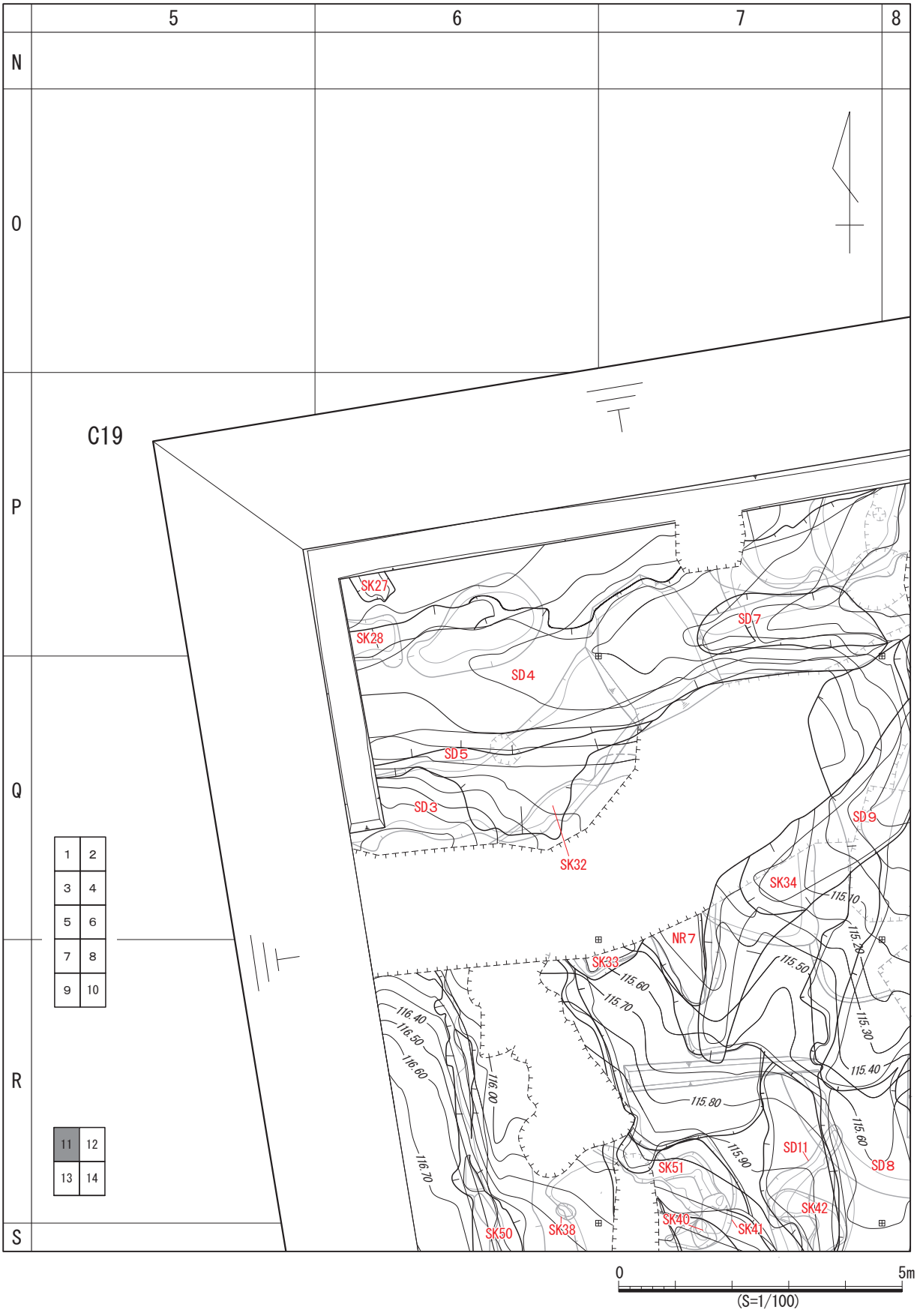


図66　発掘区全域図　分割図11

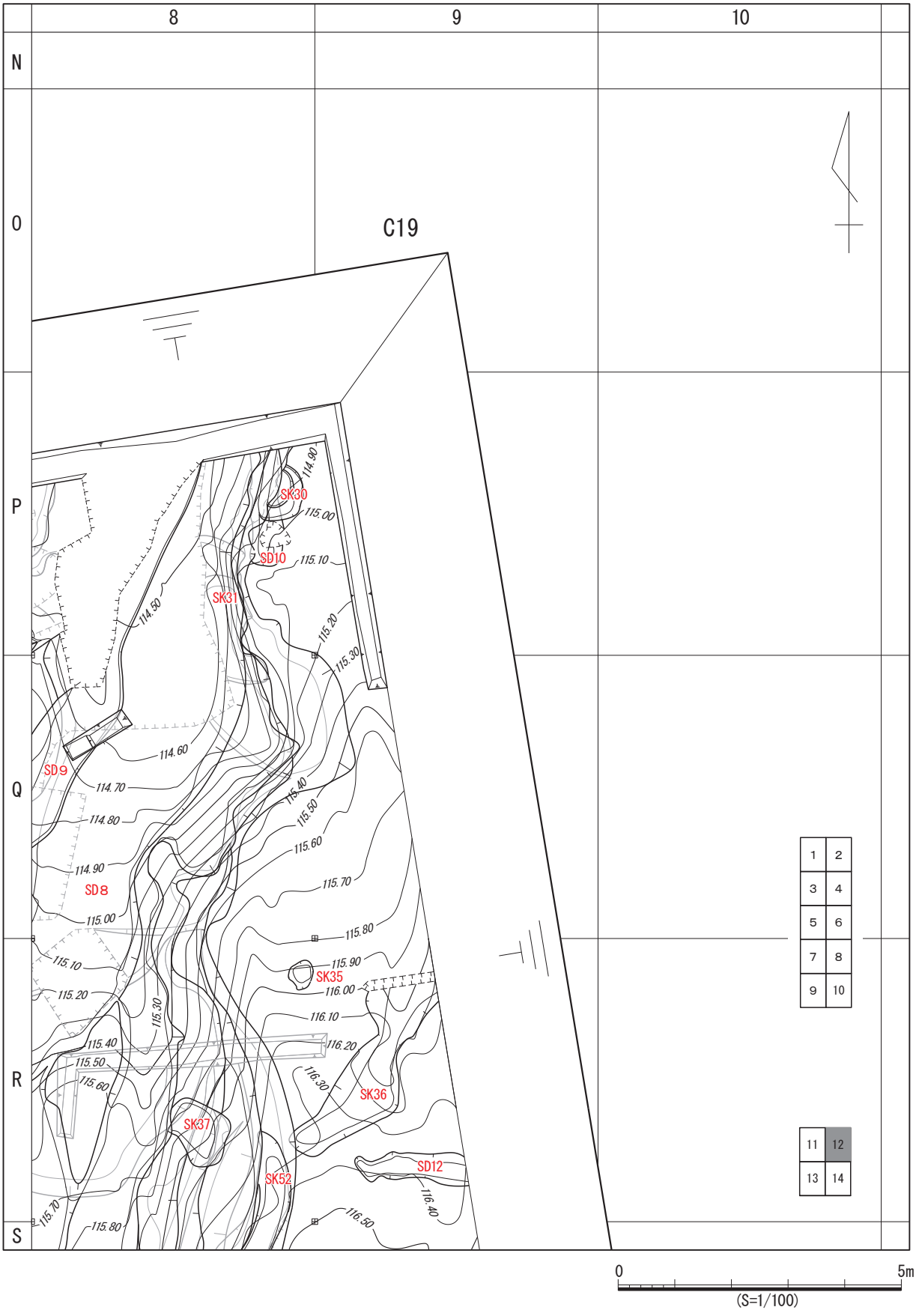


図67　発掘区全域図　分割図12

図68　発掘区全域図　分割図13

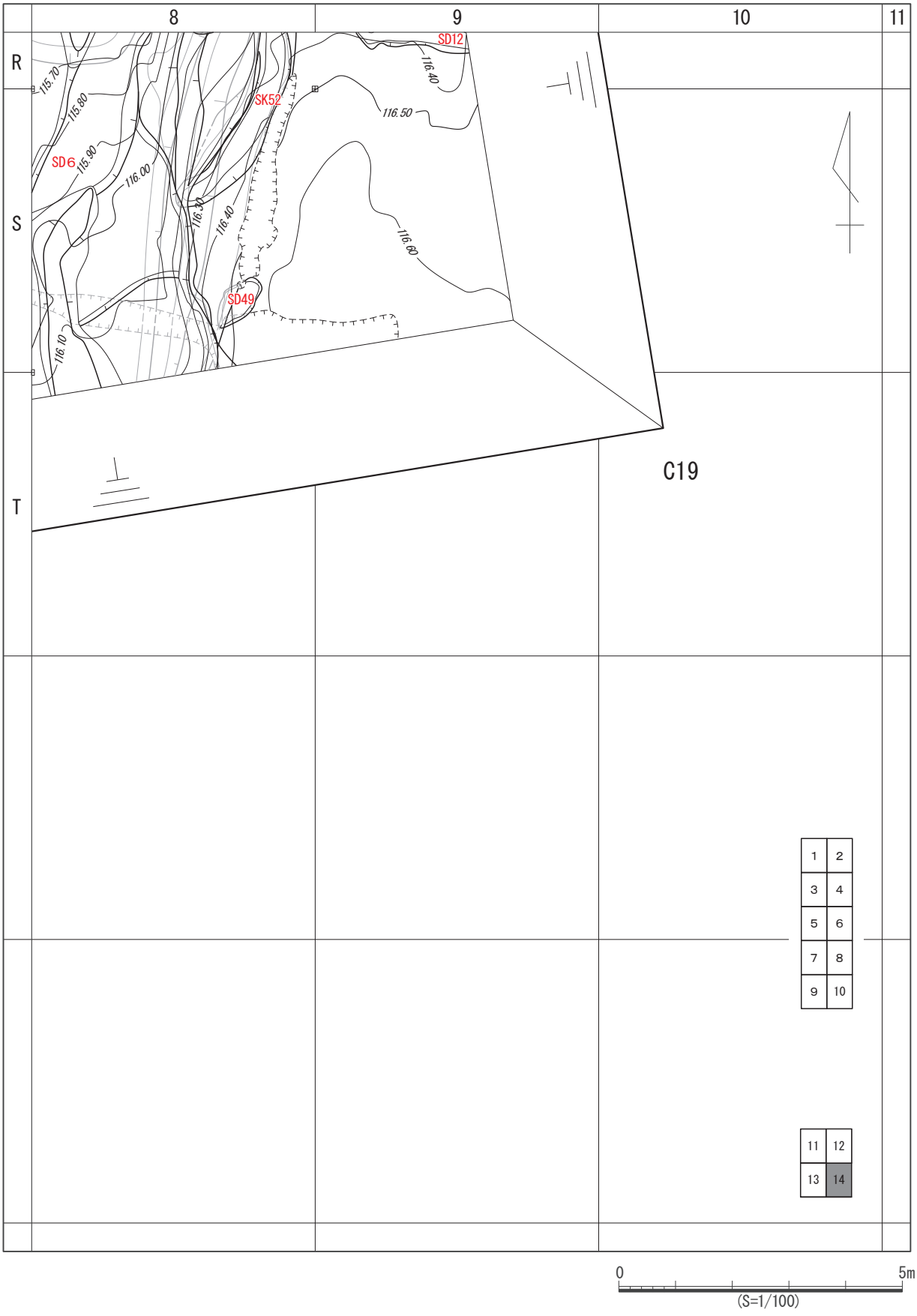


図69　発掘区全域図　分割図14

第４章　自然科学分析

第１節　分析の概要と成果

１　漆塗膜分析

分析の経緯　当遺跡では、漆塗りの木製品２点が出土した。これらの漆の塗装工程や下地材料を把握することで、漆器の質を明らかにし、使用者の階層や当遺跡の性格を考える一助とするために分析を実施した。

分析の結果と考察　分析の結果、いずれも炭粉漆下地に透明漆層が１層塗られる構造であることが判明した。当遺跡では比較的安価で量産型の漆器[1)]が使用されていたことが分かった。

２　木製品の樹種同定

分析の経緯　当遺跡では、木製品が多数出土した。その中から特に状態が良好な遺物 32 点を対象に、遺物の樹種を明らかにすることで、当地・当該期における木製品の樹種選択のあり方を検討するため、樹種同定を実施した。

分析の結果と考察　平成調査において実施した分析から、当遺跡の木製品樹種はヒノキが非常に多く、弥生時代から近現代に至るまで継続的に利用され続けていたという特徴が明らかとなった[2)]が、今回の分析においても同様の結果を得た。器種による樹種選択性についても、平成調査と同様の傾向が見られ、目的の製品に適した木材が選択されていたことが判明した。出土層位や周辺の出土遺物の様相から、分析対象は古代から中世の遺物と考えられるものがほとんどであるが、有用材であるヒノキなどの針葉樹材が当地周辺では容易に入手できたことから、当該時期に操業していた東濃地区の窯跡の燃料材樹種であるコナラやクヌギ[3)]は選択されなかったと考えられる。

表 38　柿田遺跡出土木製品の樹種同定結果

樹種＼器種		建築部材	漆製品	曲物底板	下駄	火付け木	斎串	用途不明品	合計
針葉樹	カヤ	3						1	4
	イヌマキ					2			2
	マツ	1							1
	コウヤマキ						1		1
	ヒノキ	2		1	1	2		10	16
	アスナロ					3		1	4
広葉樹	アカガシ							2	2
	ケヤキ		2						2
合計		6	2	1	1	7	1	14	32

注

１）四柳嘉章 1995「漆器」『概説中世の土器・陶磁器』、中世土器研究会

２）財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2005『柿田遺跡』（岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第 92 集）

３）２）と同じ

第２節　漆塗膜分析

１　はじめに

Ｃ16、17 地点の遺物包含層から出土した漆塗りの木製品（皿・椀）について、塗膜薄片を採取し、塗膜構造と材料について検討した。なお、分析は竹原弘展（株式会社パレオ・ラボ）が担当した。

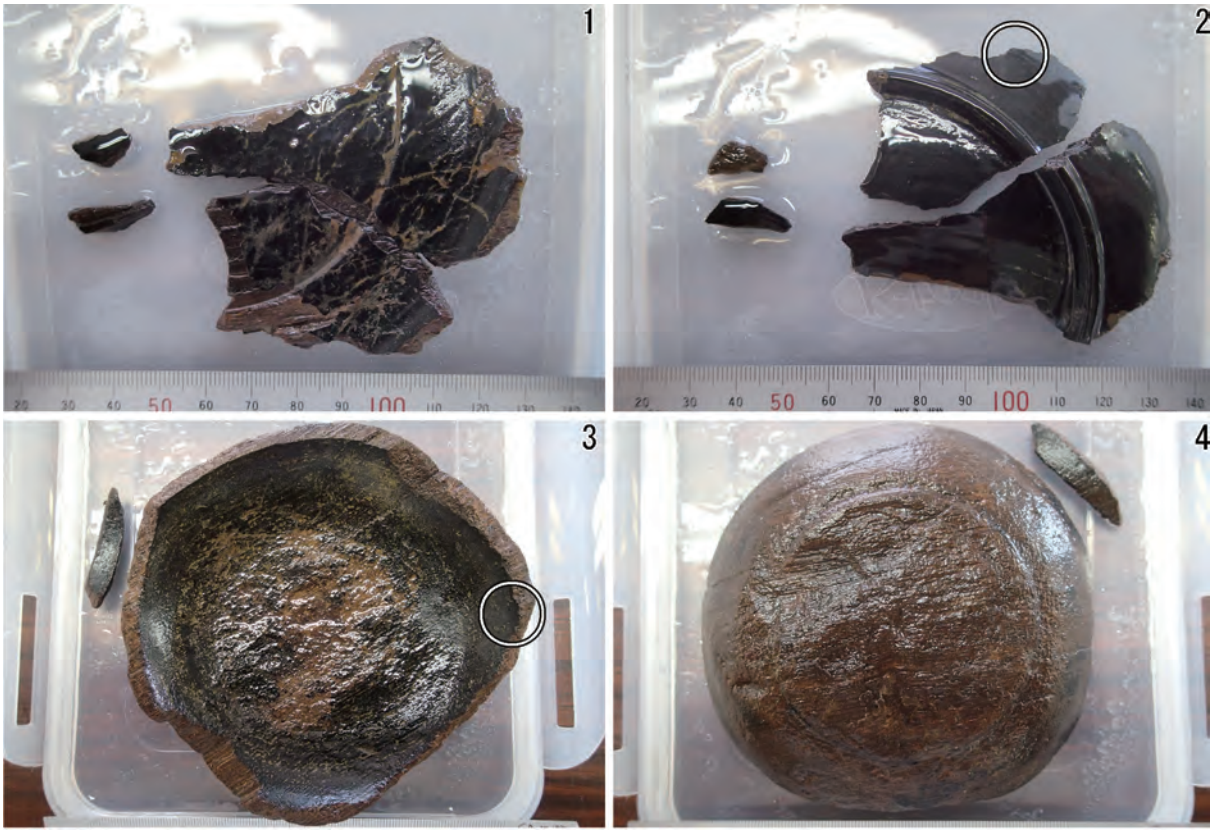
２　分析試料と方法

分析対象は、漆塗りの木製品２点である（表 39、写真７）。出土層位及び周辺の出土遺物の様相から、№１は 13 世紀後半～15 世紀、№２は 12 世紀後半～13 世紀前半の遺物とみられている。塗膜片をカミソリで少量採取し、分析試料とした。

分析は、漆成分を調べるために、黒色塗膜について赤外分光分析を行った。また、塗膜構造を調べるために、薄片を作製して光学顕微鏡と走査型電子顕微鏡による観察を行った。

表 39　分析対象一覧

No.	掲載番号	出土地点	出土層位	器種	寸法(cm) 長さ	幅	厚さ	特徴	採取位置	時期
1	221	C17	Ⅲ	皿	7	4	2	両面黒色	外面黒色部	13世紀後半～15世紀
2	269	C16	Ⅲ	椀	12	12	3	両面黒色	内面黒色部	12世紀後半～13世紀前半



１：分析№１内面　２：分析№１外面　３：分析№２内面　４：分析№2 外面

写真７　遺物写真と試料採取位置

赤外分光分析では、手術用メスを用いて薄く削り取った試料を、押し潰して厚さ１㎜程度に裁断した臭化カリウム(KBr)結晶板に挟み、油圧プレス器を用いて約７トンで加圧整形し、測定試料とした。分析装置は日本分光株式会社製フーリエ変換型顕微赤外分光光度計 FT/IR-410、IRT-30-16 を使用し、透過法により赤外吸収スペクトルを測定した。測定条件は、測定面積 100μｍ角、測定時間 200sec である。同定にあたっては、市販の生漆の赤外吸収スペクトルと比較・検討した。

塗膜観察用の薄片は、高透明エポキシ樹脂を使用して試料を包埋し、薄片作製機及び精密研磨フィルム（#1000）を用いて厚さ約 50μm 前後に仕上げ、まず走査型電子顕微鏡（日本電子株式会社製 JSM-5900LV）による反射電子像観察を行った。なお、赤色塗膜層及び無機質の下地層が確認された場合は、電子顕微鏡に付属するエネルギー分散型 X 線分析装置による定性・簡易定量分析を行っているが、今回の試料からは赤色塗膜層や無機質の下地層は観察されなかった。その後、再度精密研磨フィルム（#1000）を用いて厚さ約 20μm 前後に調整した後、生物顕微鏡を用いて塗膜構造の観察を行った。

３　分析結果と考察

写真８に、塗膜薄片の生物顕微鏡写真と、走査型電子顕微鏡反射電子像を示す。図 70 に、赤外吸収スペクトルを示す。図 70 の縦軸は透過率（%T）、横軸は波数（Wavenumber（cm^{-1}）；カイザー）である。各スペクトルはノーマライズしてあり、吸収スペクトルに示した数字は、生漆の赤外吸収位置を示す（表 40）。以下に塗膜の分析結果について述べる。各塗膜の特徴を表 41 にまとめた。

［分析№１（皿外面黒色塗膜）］

塗膜薄片では、木胎 a 層、炭粉と漆からなる下地 b 層、透明漆層 c 層が観察された（写真８－５、６）。赤分光分析では、炭化水素の吸収（吸収№１及び№２）が確認され、生漆を特徴づけるウルシオールの吸収（吸収№６～８）が明瞭に確認され、漆と同定された（表 40、図 70）。下地 b 層は、肉痩せのない黄褐色透明の層に黒色物が多く混ざるといった特徴が、後述の№２の柿渋を使用した下地と異なっており、炭粉と漆からなる下地と考えられる。

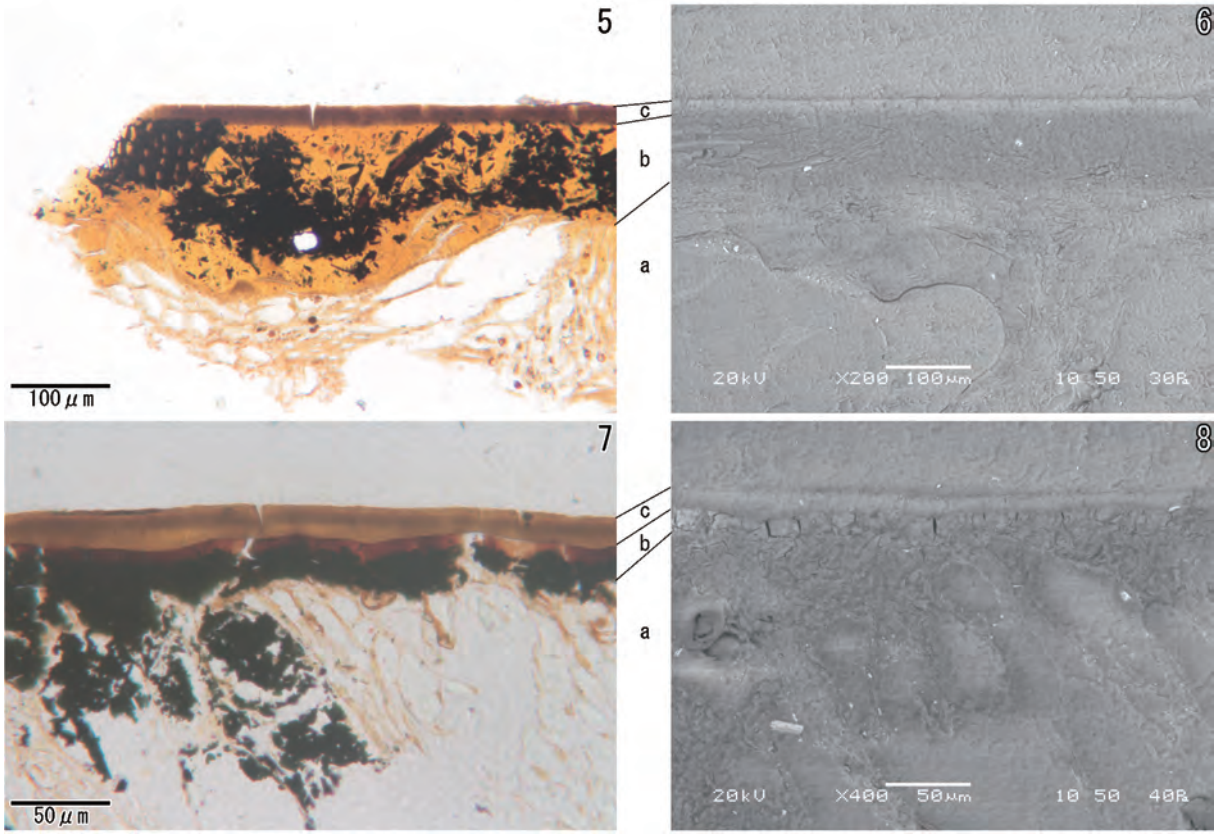
［分析№２（椀内面黒色塗膜）］

塗膜薄片では、木胎 a 層、炭粉と柿渋からなる下地 b 層、透明漆層 c 層が観察された（写真８－７、８）。赤分光分析では、炭化水素の吸収（吸収№１及び№２）が確認され、生漆を特徴づけるウルシオールの吸収（吸収№６～８）が明瞭に確認され、漆と同定された（図 70）。下地 b 層は、クラックの多く入った褐色透明の層に黒色物が多く混ざるといった特徴から、炭粉と柿渋からなる下地と考えられる。

柿田遺跡から出土した漆塗りの木製品２点について塗膜分析を行い、塗膜構造や材料について検討した。その結果、№１（1331）の皿は、炭粉漆下地に透明漆層が１層塗られる構造と考えられた。№２（121）の椀は、炭粉渋下地に透明漆層が１層塗られる構造と考えられた。

表 40　生漆の赤外吸収位置とその強度

吸収№	生漆		ウルシ成分
	位置	強度	
1	2925.48	28.5337	
2	2854.13	36.2174	
3	1710.55	42.0346	
4	1633.41	48.8327	
5	1454.06	47.1946	
6	1351.86	50.8030	ウルシオール
7	1270.86	46.3336	ウルシオール
8	1218.79	47.5362	ウルシオール
9	1087.66	53.8428	
10	727.03	75.3890	



５・７　断面生物顕微鏡写真（５：分析№１、７：分析№２）

６・８　断面反射電子像（６：分析№１、８：分析№２）

写真８　漆製品の塗膜構造と反射電子像

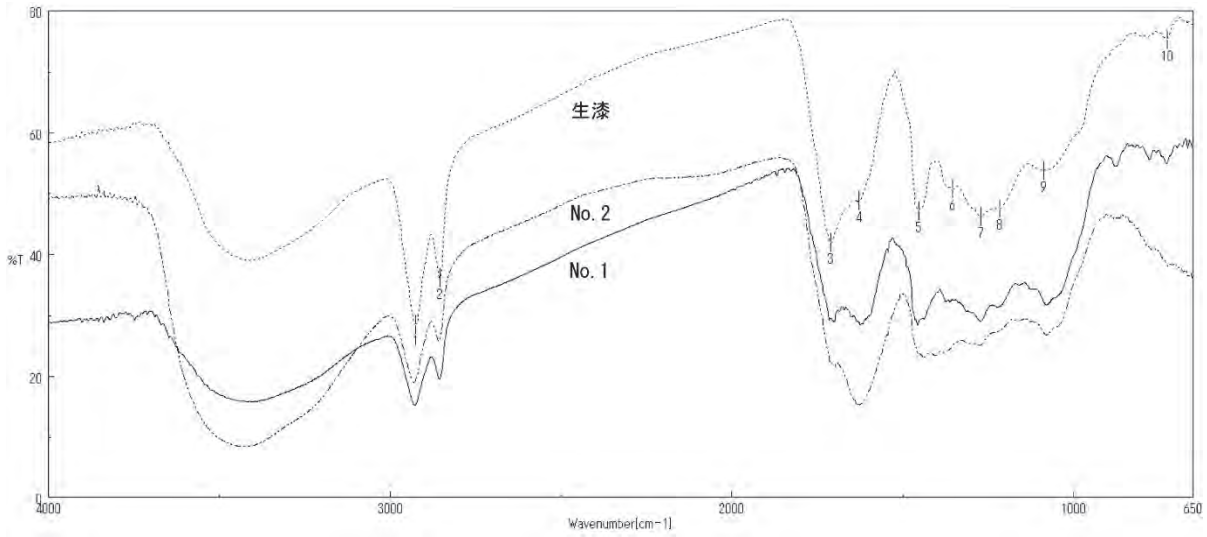


図 70　試料及び生漆の赤外吸収スペクトル
（実線：№１、二点鎖線：№２、点線：生漆、数字：生漆の赤外吸収位置）

表 41　塗膜分析結果

No.	器種	採取塗膜	下地	塗膜層	
1	皿	外面黒色塗膜	炭粉漆下地	1層	透明漆層
2	椀	内面黒色塗膜	炭粉渋下地	1層	透明漆層

第３節　木製品の樹種同定

１　はじめに

当遺跡から出土した木製品について、樹種同定を行った[1)]。分析は藤田秀臣（株式会社吉田生物研究所）が行った。

２　試料と方法

分析対象は、木製品 32 点である。剃刀で木口（横断面）、柾目（放射断面）、板目（接線断面）の各切片を採取し、永久プレパラートを作製した。遺物の状態により№17・26・28・29 は木口の採取ができなかった。なお、顕微鏡は Nikon DS-Fi1 を使用した。

３　分析の結果

樹種同定結果（針葉樹 6 種、広葉樹 2 種）の表（表 42）と顕微鏡写真（写真９～14）を示し、以下に各種の主な解剖学的特徴を記す。

（１）イチイ科カヤ属カヤ（Torreya nucifera Sieb. et Zucc.）（遺物№２・４・８・15）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。晩材部は狭く　年輪界は比較的不明瞭である。軸方向柔細胞を欠く。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で１分野に１～４個ある。仮道管の壁には対になった螺旋肥厚が存在する。板目では放射組織はすべて単列であった。カヤは本州（中・南部）、四国、九州に分布する。

（２）マキ科マキ属イヌマキ（Podocarpus macropyllus Sweet）（遺物№18・28）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はゆるやかであり、年輪界がやや不明瞭で均質な材である。樹脂細胞はほぼ平等に散在し数も多い。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で１分野に１～２個ある。短冊型をした樹脂細胞が早材部、晩材部の別なく軸方向に連続（ストランド）をなして存在する。板目では放射組織はすべて単列であった。イヌマキは本州（中・南部）、四国、九州、琉球に分布する。

（３）マツ科マツ属[二葉松類]（Pinus sp.）（遺物№１）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は急であった。大型の垂直樹脂道が細胞間隙としてみられる。柾目では放射組織の放射柔細胞の分野壁孔は窓型である。上下両端の放射仮道管内は内腔に向かって鋸歯状に著しくかつ不規則に突出している。板目では放射組織は単列で１～15 細胞高のものと、水平樹脂道を含んだ紡錘形のものがある。マツ属[二葉松類]はクロマツ、アカマツがあり、北海道南部、本州、四国、九州に分布する。

（４）コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ(Sciadopitys verticillata Sieb. et Zucc.)(遺物№16)

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行はやや緩やかで晩材部の幅は極めて狭い。柾目では放射組織の分野壁孔は小型の窓状で１分野に１～２個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。コウヤマキは本州(福島以南)、四国、九州(宮崎まで)に分布する。

（５）ヒノキ科ヒノキ属（Chamaecyparis sp.）（遺物№３・６・７・９・10・13・14・22～25・27・29～32）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行が急であった。樹脂細胞は晩材部に偏在している。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型で１分野に１～２個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。ヒノキ属はヒノキ、サワラがあり、本州(福島以南)、四国、九州に分布する。

（６）ヒノキ科アスナロ属（Thujopsis sp.）（遺物№17・19・20・26）

木口では仮道管を持ち、早材から晩材への移行は緩やかであった。樹脂細胞は晩材部に散在又は接線配列である。柾目では放射組織の分野壁孔はヒノキ型からややスギ型で１分野に２～４個ある。板目では放射組織はすべて単列であった。数珠状末端壁を持つ樹脂細胞がある。アスナロ属にはアスナロ（ヒバ、アテ）とヒノキアスナロ（ヒバ）があるが顕微鏡下では識別困難である。アスナロ属は本州、四国、九州に分布する。

（７）ブナ科コナラ属アカガシ亜属（Quercus subgen. CyclobalaNo.psis）（遺物№５・21）

放射孔材である。木口では年輪に関係なくまちまちな大きさの道管（～200μm）が放射方向に配列する。軸方向柔細胞は接線方向に１～３細胞幅の独立帯状柔細胞をつくっている。放射組織は単列放射組織と非常に列数の広い放射組織がある。柾目では道管は単穿孔と多数の壁孔を有する。放射組織はおおむね平伏細胞からなり、時々上下縁辺に方形細胞が見られる。道管放射組織間壁孔は大型で柵状の壁孔が存在する。板目では多数の単列放射組織と放射柔細胞の塊の間に道管以外の軸方向要素が挟まれている集合型と複合型の中間となる型の広放射組織が見られる。アカガシ亜属はイチイガシ、アカガシ、シラカシ等があり、本州（宮城、新潟以南)、四国、九州、琉球に分布する。

（８）ニレ科ケヤキ属ケヤキ（Zelkova serrata MakiNo.）（遺物№11・12）

環孔材である。木口ではおおむね円形で単独の大道管（～270μm）が１列で孔圏部を形成している。孔圏外では急に大きさを減じ、多角形の小道管が多数集まって円形、接線状あるいは斜線状の集団管孔を形成している。軸方向柔細胞は孔圏部では道管を鞘状に取り囲み、さらに接線方向に連続している（イニシアル柔組織)。放射組織は１～数列で多数の筋として見られる。柾目では大道管は単穿孔と側壁に交互壁孔を有する。小道管はさらに螺旋肥厚も持つ。放射組織は平伏細胞と上下縁辺の方形細胞からなり異性である。方形細胞はしばしば大型のものがある。板目では放射組織は少数の１～３列のものと大部分を占める６～７細胞列のほぼ大きさの一様な紡錘形放射組織がある。紡錘形放射組織の上下端の細胞は、他の部分に比べ大型である。ケヤキは本州、四国、九州に分布する。

４　考察

試料 32 点のうち、針葉樹材 28 点、広葉樹材４点であった。針葉樹材はイチイ科カヤの４点、マキ科のイヌマキ２点、マツ科のマツ属[二葉松類]１点、コウヤマキ科のコウヤマキ１点、ヒノキ科のヒノキ属 16 点、アスナロ属４点である。広葉樹材のうち常緑樹材はブナ科のアカガシ亜属２点、落葉樹材はニレ科のケヤキ２点である。

同定した遺物は建築材、祭祀具、火付け木、漆器、服飾具等が見られる。建築材ではカヤ、マツ属[二葉松類]とヒノキ属が使用されていた。祭祀具では割裂性が高いコウヤマキが使用されている。また、

火付け木では割裂性に加えて、油分が高いイヌマキ、ヒノキ属とアスナロ属が使用されていた。容器では曲物底板にはヒノキ属が、漆器には高級品に使用されることが多いケヤキが用いられていた。服飾具の下駄には加工が容易なヒノキ属が使用されていた。それぞれに使用されている樹種は用途にあわせて選択していることが確認できる。

注

１）記載にあたっては、以下の文献を参考にした。

伊東隆夫 1999「日本産広葉樹材の解剖学的記載Ⅰ～Ⅴ」、京都大学木質科学研究所

北村四郎･村田源 1979「原色日本植物図鑑木本編Ⅰ･Ⅱ」、保育社

島地謙･伊東隆夫 1988「日本の遺跡出土木製品総覧、雄山閣出版

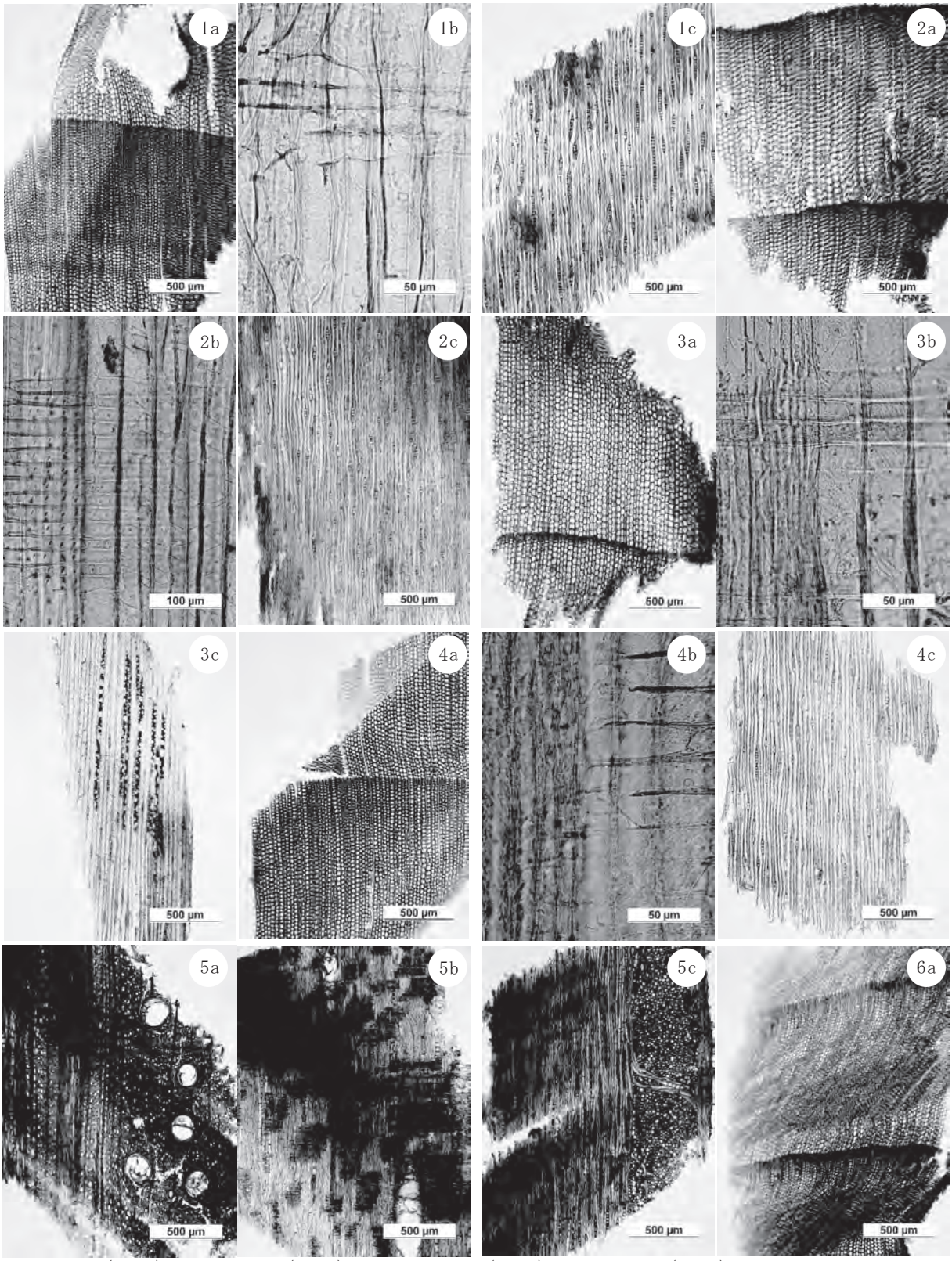
奈良国立文化財研究所 1985「奈良国立文化財研究所 史料第 27 冊 木器集成図録 近畿古代篇」

奈良国立文化財研究所 1993「奈良国立文化財研究所 史料第 36 冊 木器集成図録 近畿原始篇」

林昭三 1991「日本産木材顕微鏡写真集」、京都大学木質科学研究所

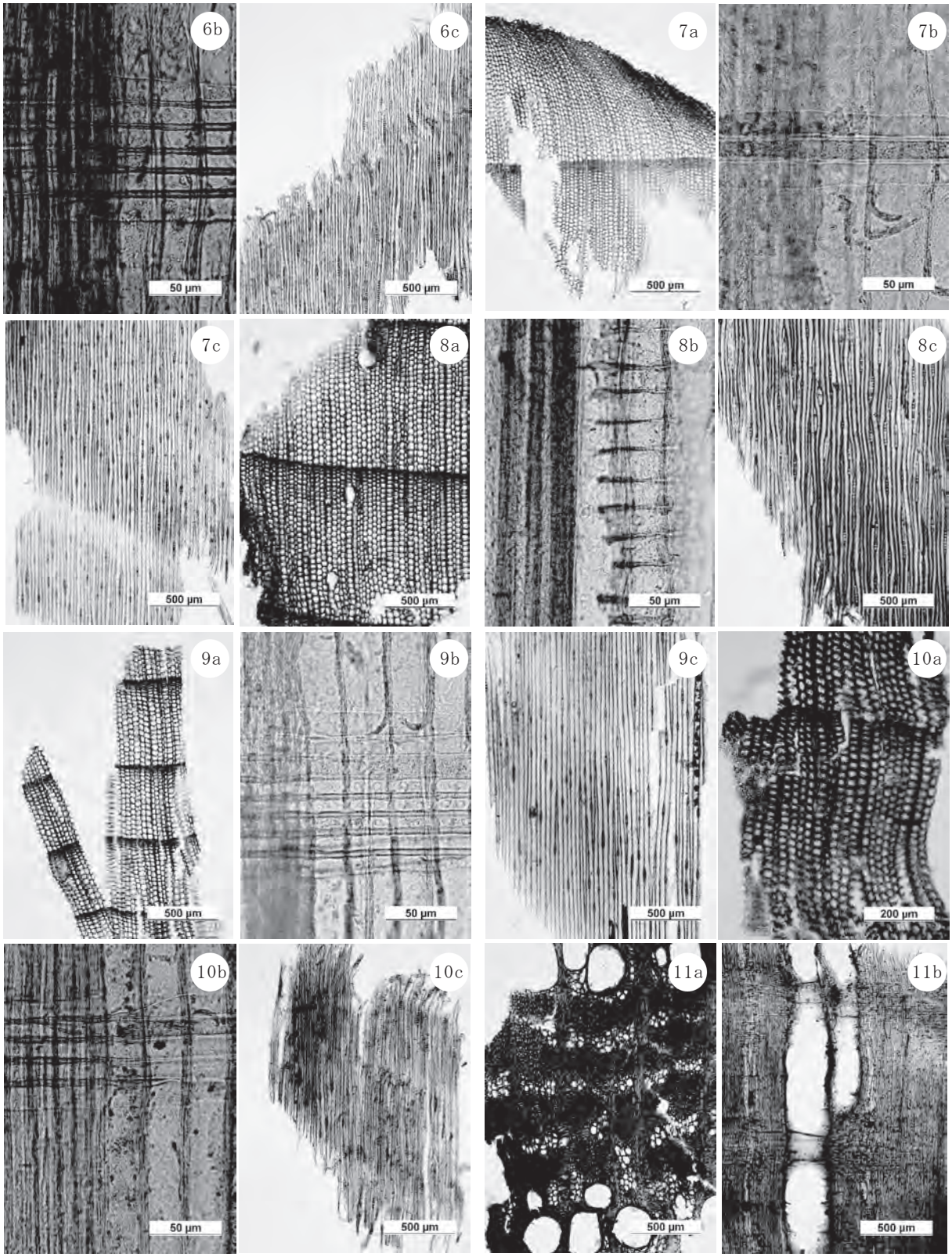
表 42　出土木製品の樹種同定結果一覧

No.	掲載番号	出土地点	出土遺構	出土層位	品名	樹種
1	1	C16	SP2	1	柱根	マツ科マツ属[二葉松類]
2	273	C18	SB1-SP1	1	柱根	イチイ科カヤ属カヤ
3	152	C17	NR5	5	曲物底板	ヒノキ科ヒノキ属
4	153	C17	NR5	5	柱材	イチイ科カヤ属カヤ
5	154	C17	NR5	5	板状木製品	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
6	170	C17	NR5	m-o	柱材	ヒノキ科ヒノキ属
7	174	C17	NR5	m-o	横架材	ヒノキ科ヒノキ属
8	274	C18	SB1-SP3	1	柱根	イチイ科カヤ属カヤ
9	176	C17	NR5	p-r	棒状木製品	ヒノキ科ヒノキ属
10	222	C17	-	Ⅲ	下駄	ヒノキ科ヒノキ属
11	221	C17	-	Ⅲ	漆器皿	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
12	269	C16	-	攪乱	漆器椀	ニレ科ケヤキ属ケヤキ
13	132	C16	NR3	d-f	板状木製品	ヒノキ科ヒノキ属
14	276	C18	SD2	a-b	板状木製品	ヒノキ科ヒノキ属
15	277	C18	SD2	a	角柱状木製品	イチイ科カヤ属カヤ
16	156	C17	NR5	d-f	斎串	コウヤマキ科コウヤマキ属コウヤマキ
17	157	C17	NR5	d-f	火付け木	ヒノキ科アスナロ属
18	158	C17	NR5	d-f	火付け木	マキ科マキ属イヌマキ
19	159	C17	NR5	j-l	火付け木	ヒノキ科アスナロ属
20	162	C17	NR5	a-i	棒状木製品	ヒノキ科アスナロ属
21	177	C17	NR5	m-o	棒状木製品	ブナ科コナラ属アカガシ亜属
22	171	C17	NR5	p-r	板状木製品	ヒノキ科ヒノキ属
23	172	C17	NR5	m-o	板状木製品	ヒノキ科ヒノキ属
24	175	C17	NR5	m-o	棒状木製品	ヒノキ科ヒノキ属
25	173	C17	NR5	m-o	板状木製品	ヒノキ科ヒノキ属
26	160	C17	NR5	5	火付け木	ヒノキ科アスナロ属
27	155	C17	NR5	5	板状木製品	ヒノキ科ヒノキ属
28	161	C17	NR5	5	火付け木	マキ科マキ属イヌマキ
29	423	C19	SD7	k-n	火付け木	ヒノキ科ヒノキ属
30	424	C19	SD7	k-n	板状木製品	ヒノキ科ヒノキ属
31	220	C17	-	Ⅲ	板状木製品	ヒノキ科ヒノキ属
32	136	C17	NR3	-	火付け木	ヒノキ科ヒノキ属



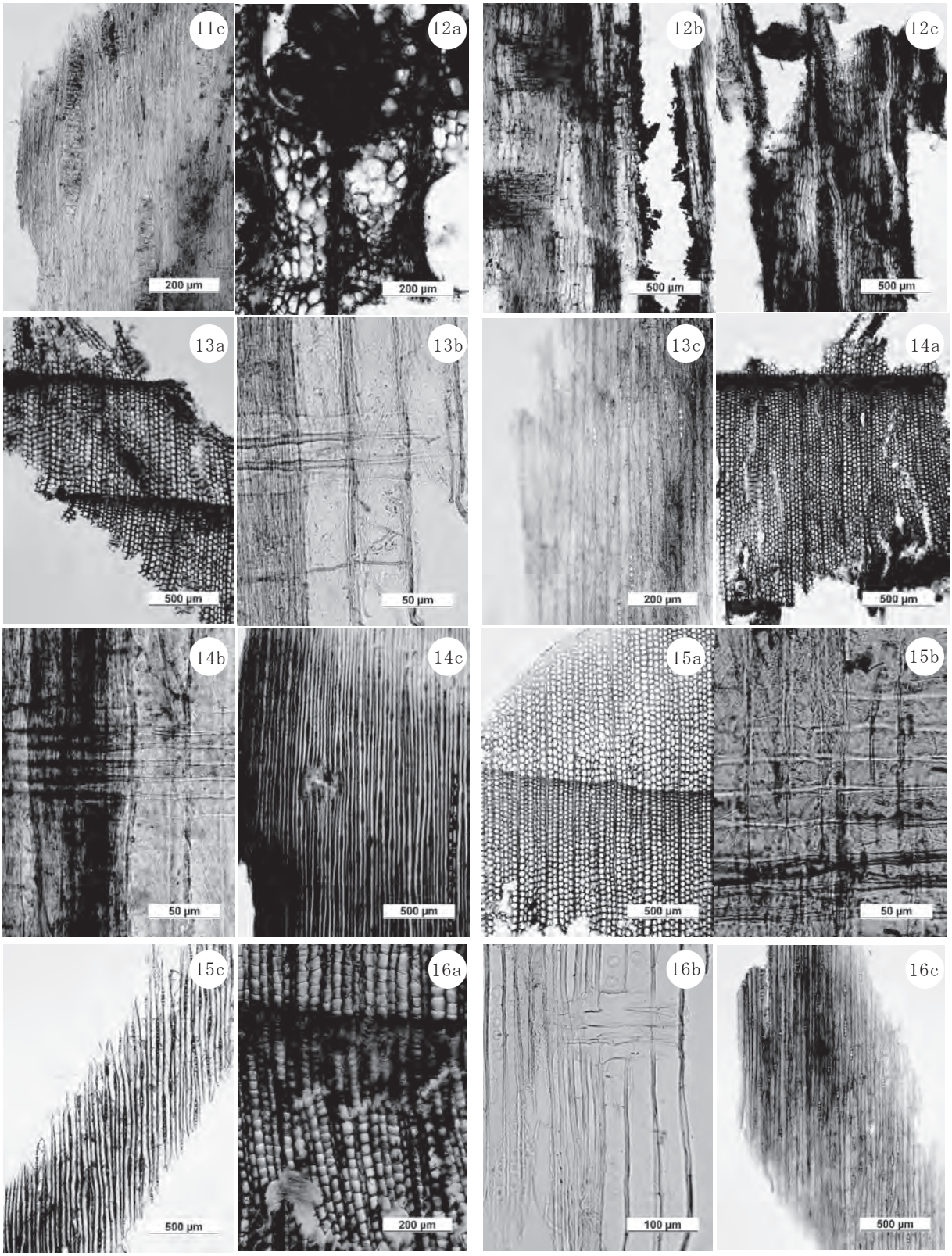
1a-1c. マツ(No. 1)、2a-2c. カヤ(No. 2)、3a-3c. ヒノキ(No. 3)、4a-4c. カヤ(No. 4)、
5a-5c. アカガシ(No. 5)、6a. ヒノキ(No. 6)
a：木口、b：柾目、c：板目

写真９　木製品の顕微鏡写真（１）



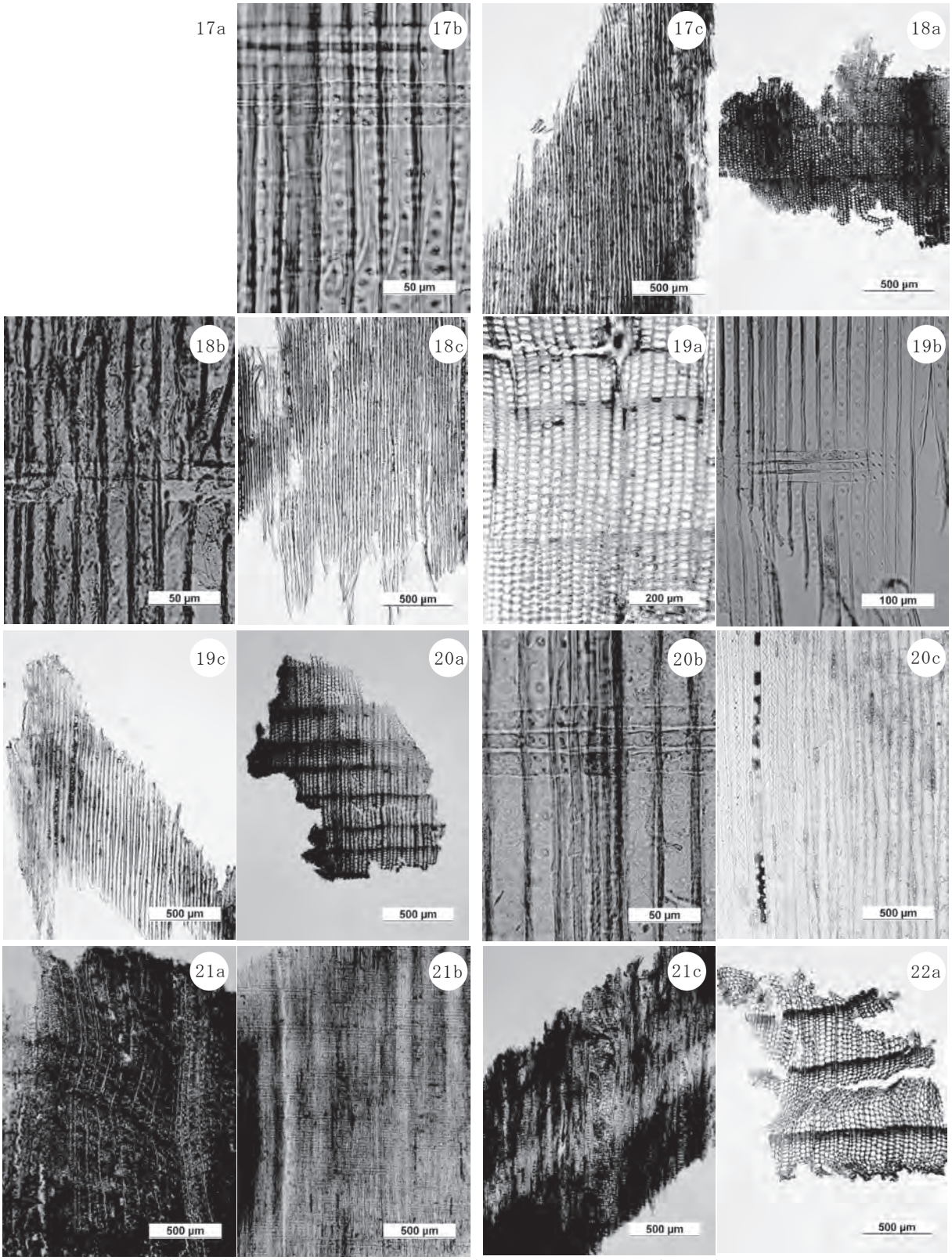
6b-6c. ヒノキ(No.6)、7a-7c. ヒノキ(No.7)、8a-8c. カヤ(No.8)、9a-9c. ヒノキ(No.9)、
10a-10c. ヒノキ(No.10)、11a-11b. ケヤキ(No.11)
a:木口、b:柾目、c:板目

写真 10　木製品の顕微鏡写真（２）



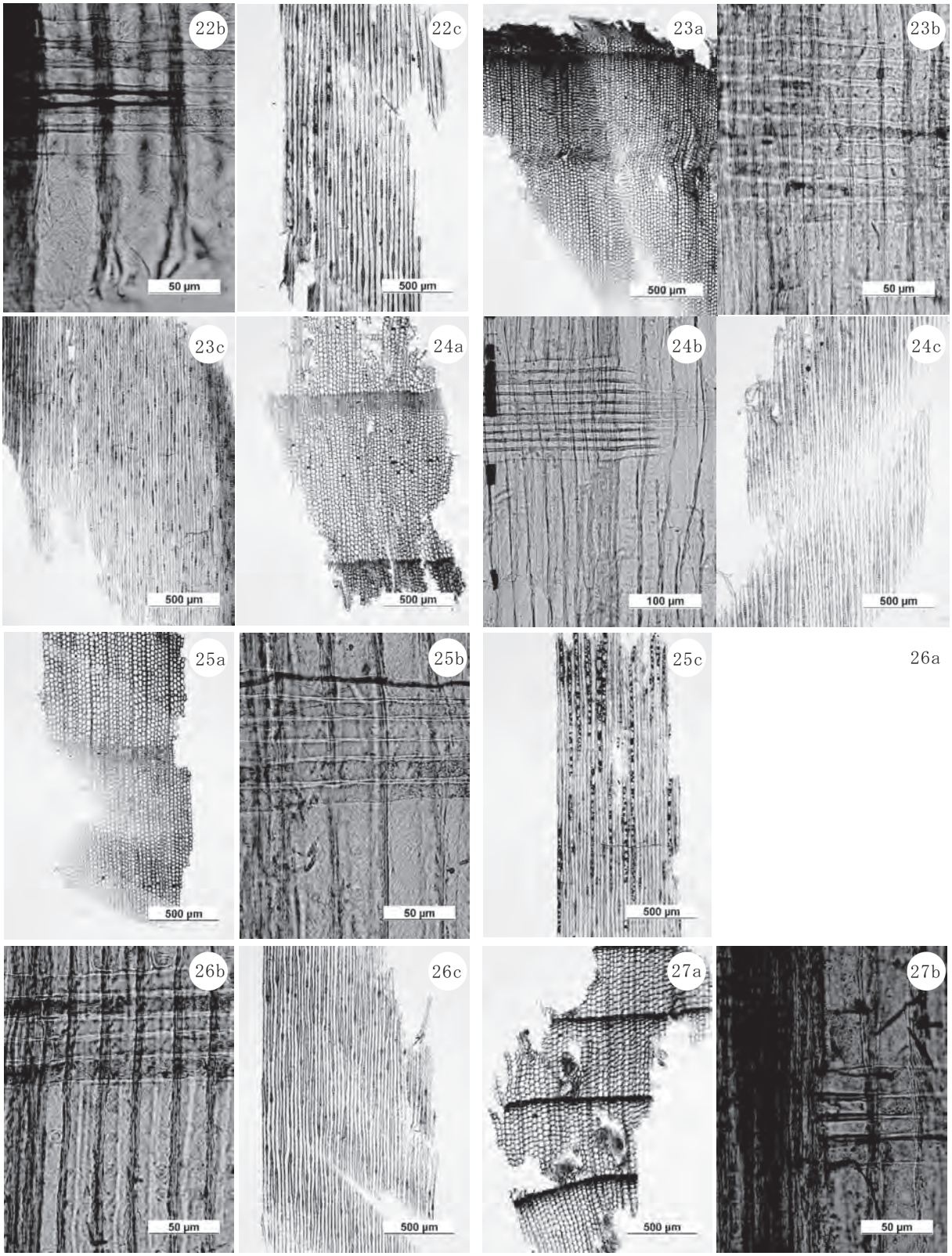
11c. ケヤキ(No. 11)、12a-12c. ケヤキ(No. 12)、13a-13c. ヒノキ(No. 13)、14a-14c. ヒノキ(No. 14)、
15a-15c. カヤ(No. 15)、16a-16c. コウヤマキ(No. 16)
a：木口、b：柾目、c：板目

写真 11　木製品の顕微鏡写真（３）



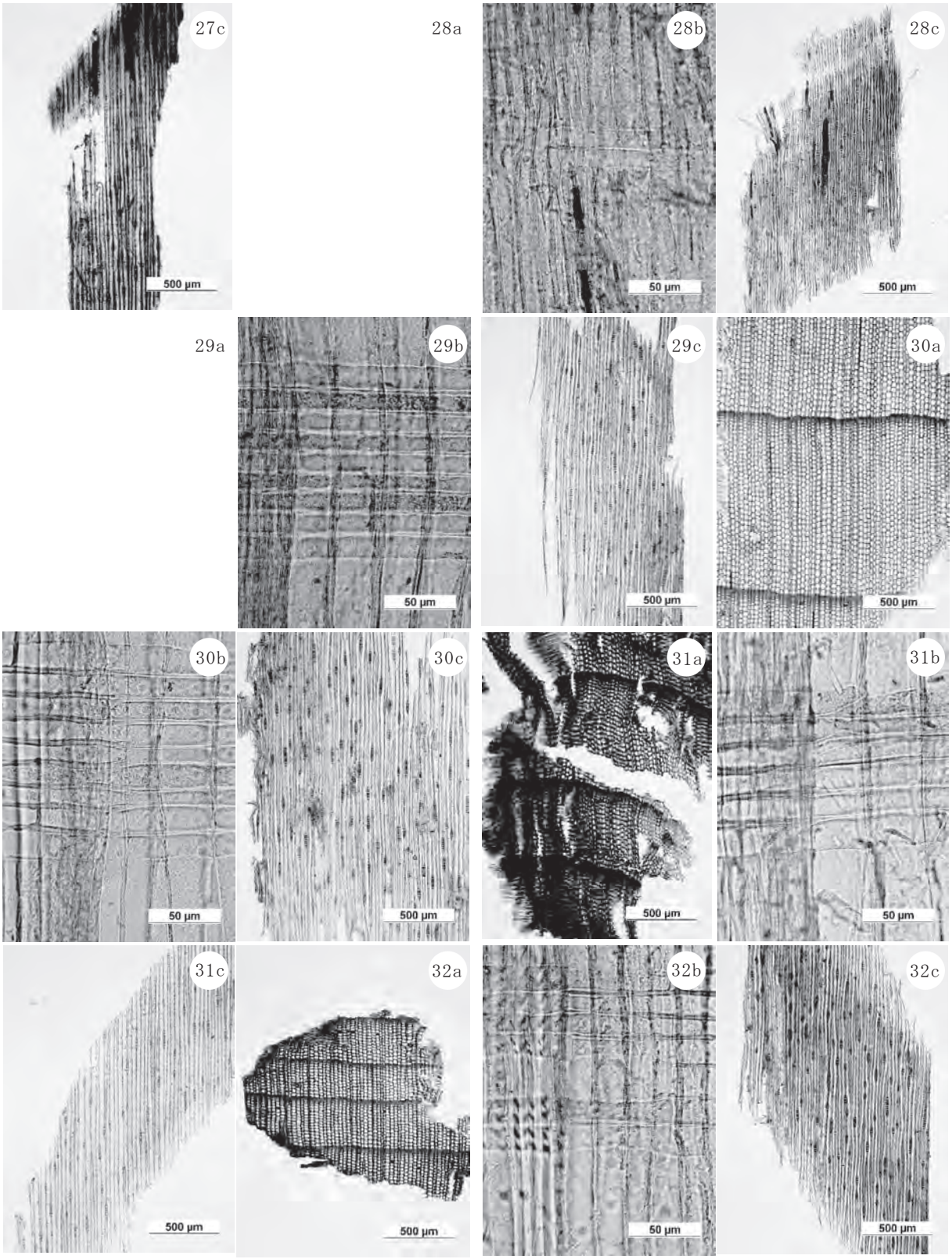
17a-17c. アスナロ(No. 17)、18a-18c. イヌマキ(No. 18)、19a-19. アスナロ(No. 19)、
20a-20c. アスナロ(No. 20)、21a-21c. アカガシ(No. 21)、22a. ヒノキ(No. 22)
a:木口、b:柾目、c:板目

写真 12　木製品の顕微鏡写真（４）



22b-22c. ヒノキ(No.22)、23a-23c. ヒノキ(No.23)、24a-24. ヒノキ(No.24)、
25a-25c. ヒノキ(No.25)、26a-26c. アスナロ(No.26)、27a-27b. ヒノキ(No.27)
a:木口、b:柾目、c:板目

写真 13　木製品の顕微鏡写真（５）



27c. ヒノキ(No. 27)、28a-28c. イヌマキ(No. 28)、29a-29. ヒノキ(No. 29)、
30a-30c. ヒノキ(No. 30)、31a-31c. ヒノキ(No. 31)、32a-32c. ヒノキ(No. 32)
a：木口、b：柾目、c：板目

写真 14　木製品の顕微鏡写真（６）

第５章　総括

第１節　文字資料について

平成調査では、文字資料を含む遺物が墨書土器を中心に929点出土し、当遺跡は文字資料をとおして古代及び中世の人々の営みを考察できる遺跡として注目されている。本節では、文字資料について平成調査の成果を踏まえて検討する。

今回の調査において出土した文字資料には、墨書・ヘラ書きがあり、記された媒体はいずれも土器である。墨書土器は32点確認した。墨書土器の種別は須恵器・灰釉陶器・山茶碗であり、時期は平成調査の時期区分（第３章第２節）におけるⅤ期（古代）からⅦ期（中世後期）である。ヘラ書き土器は１点確認した。ヘラ書き土器の種別は須恵器であり、時期はⅤ期である。ここでいうヘラ書きとは、土器の表面を削って文字を記す刻書のうち、焼成前に文字を施したものを指す。なお、ヘラ記号が施されたⅤ期に属する須恵器１点についても本節で取り扱う（表43）。

表43　出土文字資料時期別点数

時期	Ⅴ期			Ⅵ期		Ⅶ期		計
細分	1	2	3	1	2	1	2	
墨書土器		3	3	17	5	2	2	32
ヘラ書き土器		1						1
ヘラ記号		1						1
合計		5	3	17	5	2	2	34

１　Ⅴ期（古代）の文字資料

墨書土器（須恵器）　３点確認した。いずれもＣ18地点の遺物包含層（Ⅲ層）から出土した、Ⅴ－２期に属する猿投窯産の坏身である。墨書された部位は底部外面が２点、体部外面が１点である。年代は高蔵寺２号窯式期に属するものが１点、高蔵寺２号窯式期から鳴海32号窯式期に属するものが２点であり、すべて８世紀代である。290は高蔵寺２号窯式期の坏身Ｂ類で、体部外面に墨書が確認できる。１文字目が「小」と釈読でき、２文字目は上半部のみの残存であるが「器」と考えられる。291は高蔵寺２号窯式期から鳴海32号窯式期の坏身Ｂ類若しくはＣ類で、底部外面に墨書が確認できる。「器」と釈読でき、その上部にも文字の一部が確認できる。８世紀代の須恵器に「器」と墨書された土器の出土例は全国で13件と少ないが、このうち約半数の７件が井戸跡から出土している[1)]。また、平城京右京二条三坊六坪遺跡では、「器」と墨書された土器が、斎串若しくは土馬と供伴して出土した事例が２件報告されている（奈良市教育委員会1996）。このことから、「器」と墨書

表44　墨書須恵器等出土点数

産地等	時期	点数	文字等
猿投	高蔵寺2	2	「小器」1点、「大徳」1点
	高蔵寺2～鳴海32	2	「□器」1点、釈読不能1点
美濃須衛	Ⅳ期第3小期	1	「×」(ヘラ記号)1点
合計		5	

された土器は祭祀と関連する遺物である可能性がある。294は高蔵寺２号窯式期から鳴海32号窯式期の坏身Ｃ類で、底部外面に墨書が確認できる。墨書された内容は釈読できないが、「辶」若しくは「辶」と考えられる筆跡が確認できる。

なお、平成調査においてＣ９地点及びC10地点で７点確認された「田村」若しくはその略とされる「田寸」、可児市教育委員会による調査地点（馬乗洞地点）で28点確認された「垣田」、「石井」は今回の発掘区では確認できなかった。「田村」、「垣田」、「石井」は『倭名類聚抄』可児郡の郷名には見あたらないが、当時の地域名称と考えられている（可児市2007a）。

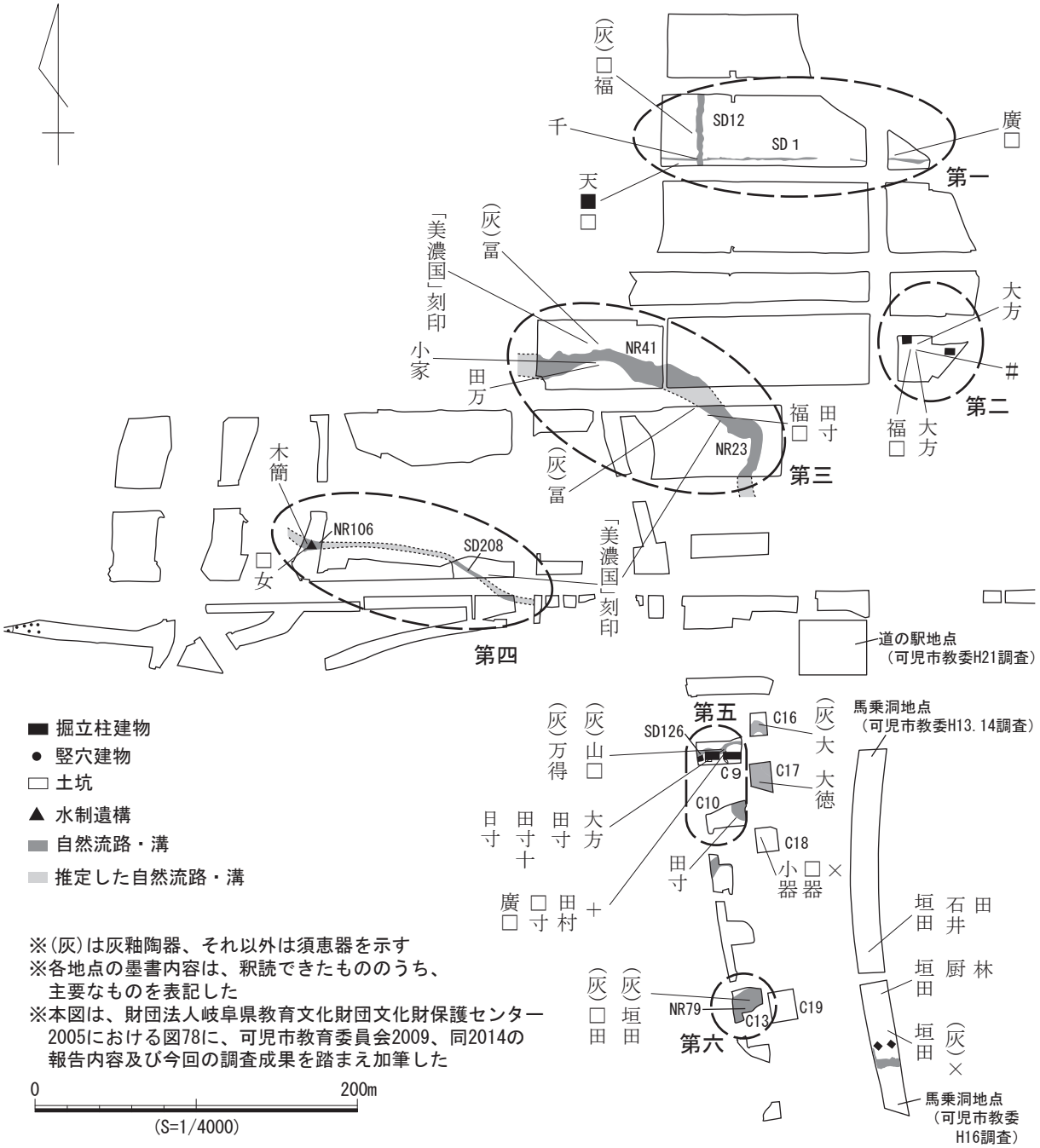


図71　Ⅴ期主要文字資料分布図

ヘラ書き土器（須恵器）　１点確認した。182はＣ17地点の遺物包含層（Ⅲ層）から出土した、猿投窯産高蔵寺２号窯式期の坏蓋Ｃ類である。年代は８世紀初頭から前葉である。内面に「大徳」と刻書される。「大徳」は吉祥句若しくは徳の高い僧の意と考えられる。福井県今市岩畑遺跡では、内面に「大徳」と墨書された８世紀代の坏蓋が出土している。「大徳」は白山を開山したと伝えられ、「越の大徳（こしのだいとこ）」と称された高僧、泰澄大師（682年～767年）を指すと解釈されている（福井県教育庁埋蔵文化財調査センター2008）。当遺跡周辺で「大徳」と称された高僧は特定できなかった。

ヘラ記号（須恵器）　１点確認した。299はＣ18地点の遺物包含層（Ⅲ層）から出土した、美濃須衛窯産Ⅳ期第３小期の鉢である。年代は８世紀後葉から末である。底部外面に「×」と線刻される。

墨書土器（灰釉陶器）　３点確認した。Ｃ16地点の遺物包含層（Ⅲ層）若しくは攪乱から出土し、いずれもＶ－３期に属する。器種は碗が２点、皿が１点である。墨書された部位はすべて底部外面である。いずれも東濃窯産丸石２号窯式期に属することから、年代はすべて11世紀前葉から中葉である。内容であるが、190は釈読不能、191は「□□〔珎ヵ〕」、242は「大」である。「珎」は珍の俗字であり、宝（寶）という意味があるとされ（平川2000）、良好な状態を表す「大」と同様に吉祥句と考えられる。平成調査においてＣ13地点NR79から出土した「垣田」は確認できなかった。

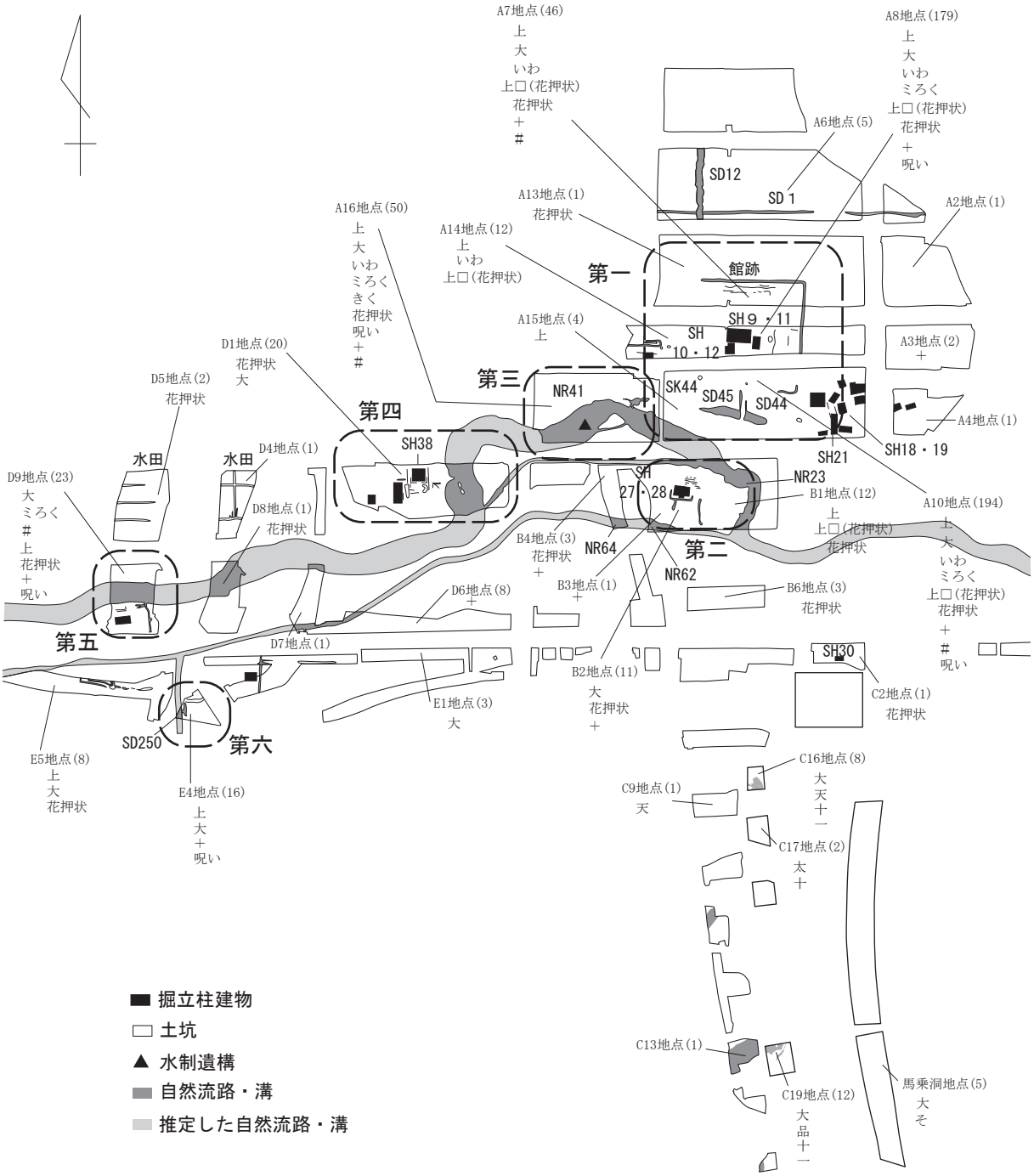
表45　墨書灰釉陶器出土点数

産地等	時期	点数	文字等
東濃	丸石2	3	「□□〔珎ヵ〕」1点、「大」1点、釈読不能1点
合計		3	

出土位置とまとめ　平成調査では、当該時期の文字資料を含む土器が特に多く出土した６箇所の「分布域」を報告している（財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2005）。このうち今回の発掘区は、第五分布域（Ｃ９地点・Ｃ10地点）及び第六分布域（Ｃ13地点）と可児市教育委員会による調査地点（馬乗洞地点）の間に位置する。しかし、文字資料を含む土器の出土数は少なく、地域名称を表すとされる「田村（田寸）」、「垣田」、「石井」は確認できなかった。検出した同時期の遺構は自然流路のみで、Ｃ９地点及び馬乗洞地点で確認された掘立柱建物群は確認できなかった。

２　Ⅵ・Ⅶ期（中世）の文字資料

墨書土器（山茶碗）　26点を確認した。Ⅵ－１期に属するものが最も多く（表43）、器種は碗が20点、小皿が６点である。墨書された部位はすべて底部外面である。第５型式に属する尾張型山茶碗２点を除く24点が東濃型山茶碗であり、属する窯式は表34に示すとおりである。平成調査では、浅間窯下１号窯式期から白土原１号窯式期（12世紀後葉～13世紀中葉）に属するものに度数分布が集中するという結果を得たが、今回の調査では谷迫間２号窯式期に属するものも多く出土している。墨書の内容であるが、釈読できたものは、「十」９点、「大」４点、「一」３点、「天」１点、「品」１点、「太」１点である。平成調査の墨書土器分類（財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2005）では、「大」、「天」、「品」、「太」はＩＡ１類（漢字一文字）、「十」、「一」はⅡＡ３類（漢数字状）に分類される。「大」は良好な状態を表す吉祥句と考えられる。また、「大」の表記が伊勢神宮の宮司家若しくは造営役人の特注品であることを示すとの見解もある（田口1978）。当遺跡周辺では、御嵩町内に伊勢神宮領小泉御厨が存在したと伝わる[2)]。「天」の意味するところは不明であるが、「天」字は文字の上部を底部上端に寄せて記されており、平成調査において２点確認されている「天」と釈読できる墨書土器と同様の特徴を呈する。「品」は多点記号「∴」と解釈されることもある[3)]が、筆跡の観察から「○」ではなく「口」が３つ書かれてい



※地点名のあとの（　）は点数を示す
※各地点の墨書内容は、釈読できたもののうち、主要なものを表記した
※本図は、財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2005における図83・84に、
　可児市教育委員会2009、同2014の報告内容及び今回の調査成果を踏まえ加筆した

図72　Ⅵ期各地点墨書点数及び主要墨書内容

ると判断し、漢字と解釈した。「太」は吉祥句と考えられる。「十」は「×」若しくは「＋」という記号、「一」は「｜」という記号であった可能性があるため、ⅡＡ３類（漢数字状）に分類している。

出土位置とまとめ　今回の調査において墨書山茶碗が出土した遺構及び層位を表47で示した。このうち、

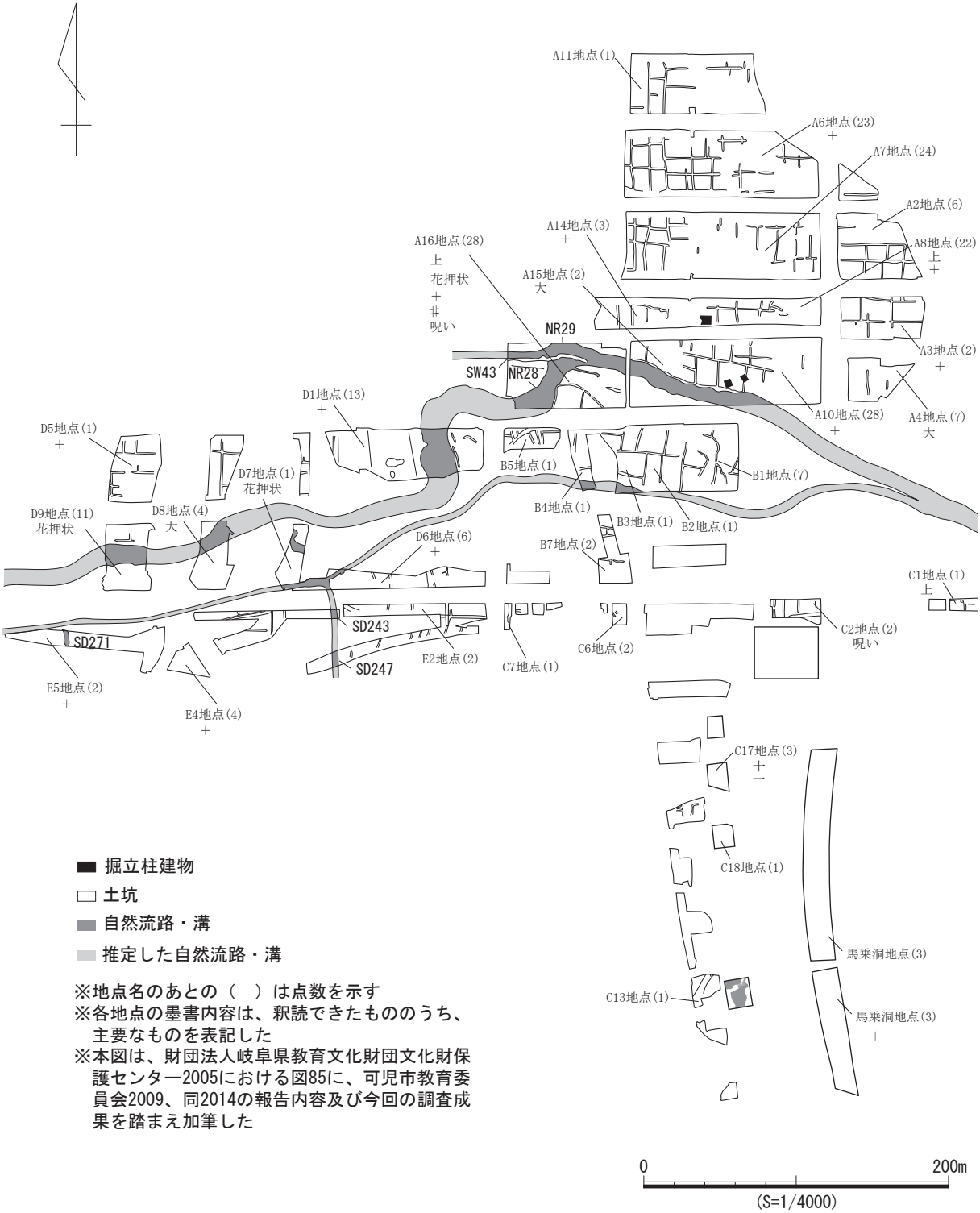


図73　Ⅶ期各地点墨書点数及び主要墨書内容

表46　墨書山茶碗出土点数

産地等	時期	点数	文字等
東濃型	矢戸上野2	0	
	谷迫間2	6	「十」2点、「大」1点、「天」1点、釈読不能2点
	浅間窯下1	3	「一」2点、「太」1点
	丸石3	0	
	窯洞1	6	「十」4点、「大」1点、釈読不能1点
	白土原1	5	「十」1点、「品」1点、釈読不能3点
	明和1	0	
	大畑大洞4～大谷洞14	2	「十」1点、釈読不能1点
	大洞東1	2	「十」1点、「一」1点
	脇之島3	0	
	生田2	0	
尾張型	第5型式	2	「大」2点
合計		26	

表47　墨書山茶碗出土遺構及び層位

地点	遺構・層位	時期	点数
C16	攪乱坑	Ⅵ-1	2
	Ⅱ		1
	Ⅲ		5
C17	Ⅲ	Ⅵ-1	2
		Ⅶ-1	1
		Ⅶ-2	2
C18	Ⅲ	Ⅶ-1	1
C19	トレンチ	Ⅵ-1	2
	SD6	Ⅵ-1	1
		Ⅵ-2	1
	SD7	Ⅵ-1	4
		Ⅵ-2	3
	SD8	Ⅵ-2	1
合計			26

Ｃ19地点ではSD６～SD８から墨書山茶碗が出土しているが、他は遺物包含層（Ⅲ層）等からの出土である。今回の調査に平成調査及び可児市教育委員会の調査成果を加え、柿田遺跡全体での墨書山茶碗の出土分布と主要遺構配置を図74・75に示した。墨書山茶碗の出土は、Ａ７・Ａ８・A10・Ｄ１地点のように、建物を中心とした遺構がある地点に集中する。今回の調査では、「十」や「大」など、平成調査で地点の区別なく出土した文字は確認できた。一方で、平成調査においては館跡周辺（第一分布域）で花押状の墨書や、当遺跡特有の文字群（「いわ」・「きく」・「みろく」）[4)]の記された墨書が集中して出土したが、館跡周辺（第一分布域）と離れている今回の調査地点（Ｃ16～Ｃ19地点）では確認できなかった。

注

1）「明治大学日本古代学研究所　全国墨書土器・刻書土器、文字瓦横断検索データベース」による。

2）可児郡御嵩町中の春日神社に保存されている中村荘の官宣旨（嘉禎４年（1238）、県重文）には、中村荘の東隣に伊勢神宮領小泉御厨が存在したことが記されており、小泉御厨は旧上之郷村及び旧御嵩町の東端付近が荘域とされている（御嵩町1992）。

3）岐阜市千畳敷遺跡から同様の墨書が確認できる東濃型山茶碗が出土しており、漢字「品」として報告されている（岐阜市教育委員会1990）。しかし、平成調査や顔戸南遺跡（財団法人岐阜県文化財保護センター2000）における出土事例を含め、その多くは多点記号「∴」として報告されている。

4）他遺跡からの出土例がなく、複数の字形が確認できることから、当遺跡特有の集団を標章する文字の可能性が指摘されている（財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2005）。

第２節　土地利用の変遷

本節では、今回の調査における検出遺構や出土遺物に見られる特徴に、平成調査の成果（財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2005）、可児市教育委員会による発掘調査の成果（可児市教育委員会2009、2014）を併せ、Ｃ地区を中心に土地利用の変遷を概観する。なお、時期区分は平成調査における時期区分（第３章第２節）に従う。また、各時期の主な遺構配置を図74～80に示した。

１　Ⅰ期（縄文時代）

今回の調査では、当該期の遺構・遺物は確認できなかった。平成調査でも当該期の遺構はほとんど確認されておらず、遺物は中期から晩期の縄文土器が76点出土したのみである。また、可児市教育委員会による調査でも、当該期の遺構・遺物は確認されていない。

２　Ⅱ期（弥生時代～古墳時代前期前半）（図74）

今回の調査では、Ｃ16地点及びＣ17地点で自然流路１条（NR３）を検出した。当該期に属する遺物は、

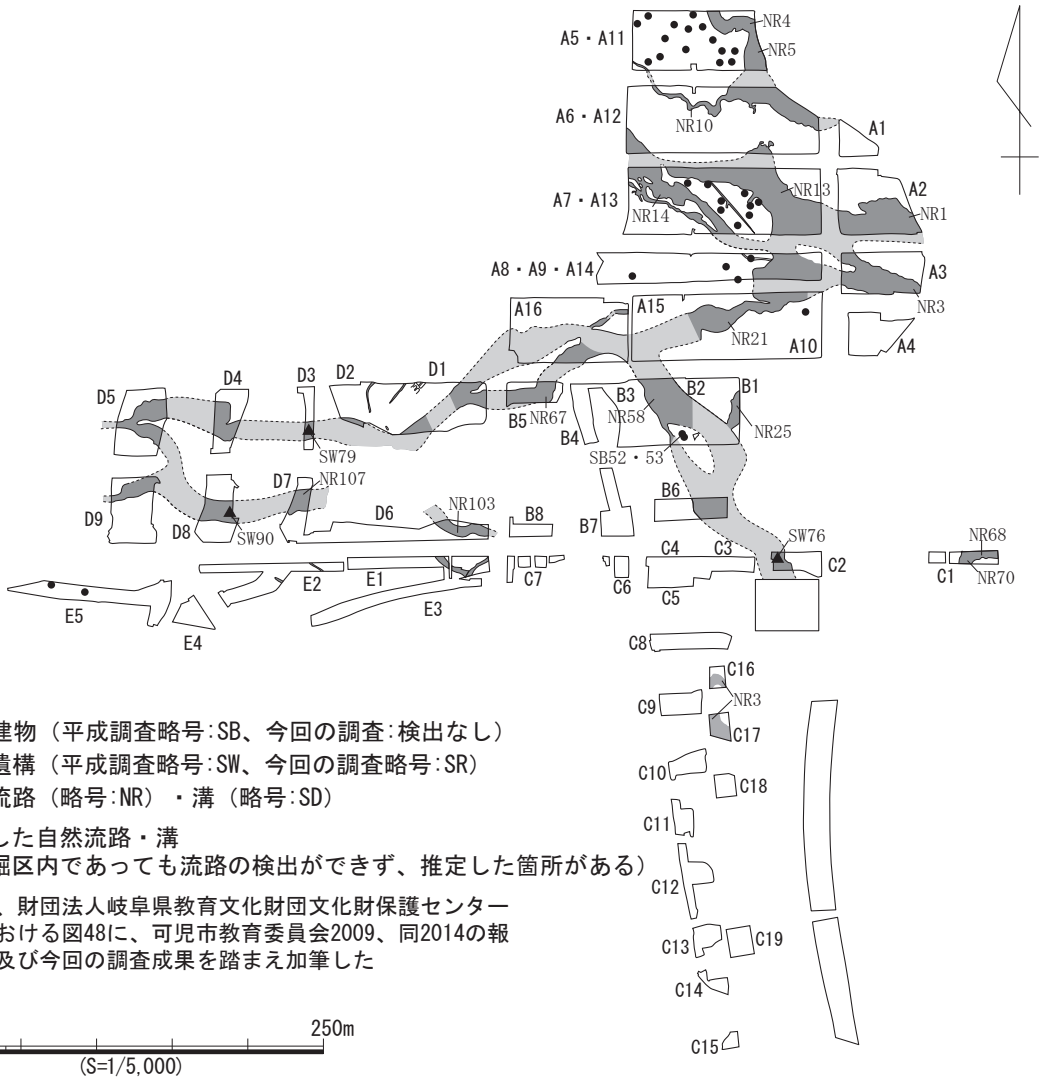


図74　Ⅱ期の主な遺構配置図

流路で流されたと考えられ、殆どが摩滅の激しい小片であった。このうち、廻間Ⅰ～Ⅱ式の弥生土器（287・346）２点が最も古く位置付けられる。また、NR３肩部（C16地点）において、廻間Ⅲ式の広口壺（掲載番号96、以下括弧内は掲載番号のみを記載）の破片がまとまって出土し、廻間Ⅲ式の小型壺（102）が完形に近い状態で逆位で出土した（第３章第５節、図19・20）。これらは廃棄時の原位置を保っていると考えられる。

平成調査では、Ａ地区において自然流路に囲まれた微高地上に弥生時代後期から古墳時代初頭に属する竪穴建物群（Ａ５・A11地点）と古墳時代前期前半に属する竪穴建物群（Ａ７・A13地点）が確認された他、Ａ・Ｂ・Ｄ地区を中心に竪穴建物、溝、自然流路、水制遺構などが検出された。Ｃ地区では、自然流路３条（NR68・70等）、水制遺構１基（SW76）が検出された。平成調査では、Ｃ地区における弥生土器の出土数は他地区と比べて少ないと報告されているが、Ｃ１地点で検出された自然流路（NR70）からは、美濃第Ⅳ様式（主に高蔵式併行）の壺（250～253）や美濃第Ⅴ様式（山中式併行）の高坏（254）などの弥生土器が出土している。

可児市教育委員会による調査では、当該期の遺構・遺物は確認されていない。

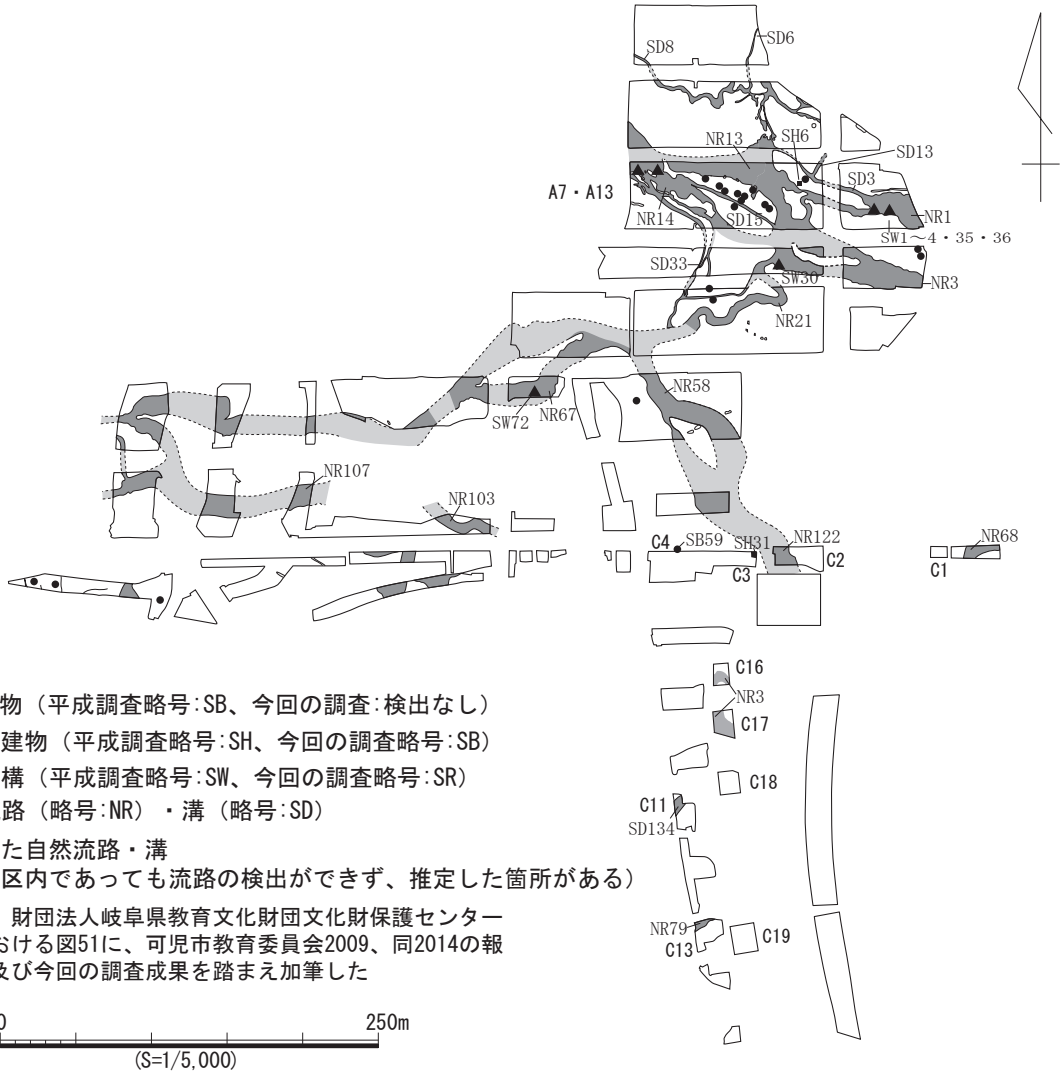


図75　Ⅲ期の主な遺構配置図

当遺跡における当該期の遺構は、主としてＡ地区を中心とする可児川により形成された沖積平野上（以下、「沖積平野上」という。）に集中し、この範囲が居住域と考えられるが、Ｃ地区においても流路に関わる遺物が確認できる。

３　Ⅲ期（古墳時代前期後半）（図75）

今回の調査では、Ｃ16地点及びＣ17地点で自然流路１条（NR３）を検出し、4,844点の土師器が出土した。平成調査では、竪穴建物群がＡ７・A13地点で確認された他、Ａ・Ｂ・Ｅ地区を中心に竪穴建物、掘立柱建物、溝、自然流路、水制遺構などが検出された。Ｃ地区では、竪穴建物１棟（SB59）、掘立柱建物１棟（SH31）、柱列跡１基、ピット５基、溝１条（SD134）、自然流路６条（NR68・79・122等）、土坑１基が検出された。このうち、NR79から5,406点の土師器が出土した。

可児市教育委員会による調査では、当該期の遺構は確認されていないと報告されている（可児市教育委員会2009）が、馬乗洞地点に土器埋設遺構が存在した可能性が高い。道の駅地点では、Ⅵ期の溝（SD３）から松河戸Ⅰ式から宇田Ⅰ式の土師器甕（22）の破片が出土した。馬乗洞地点では、平成14年度の調査において遺物包含層（⑥層）から松河戸Ⅱ式の土師器高坏の脚部（123）が、平成16年度の調査において松河戸Ⅰ式の土師器甕（202）が完形に近い状態で出土した。このうち、202は埋設された土器であることから、祭祀に関連する可能性が指摘されている（可児市教育委員会2009）。

当遺跡における当該期の遺構は、Ⅱ期と同様に主としてＡ地区を中心とする沖積平野上に集中し、この範囲が居住域の中心と考えられるが、Ｃ地区にも居住域が広がったと考えられる。

４　Ⅳ期（古墳時代後期）（図76）

今回の調査では、Ｃ18地点で溝１条（SD２）、Ｃ16地点及びＣ17地点で自然流路２条（NR３・５）、Ｃ18地点で水制遺構２基（SR１・２）、Ｃ18地点で土坑１基を検出した。水制遺構はいずれもSD２に伴う。

平成調査では、竪穴建物、掘立柱建物、水田跡、溝、自然流路、水制遺構などが検出された。Ｃ地区では、竪穴建物３棟（SB60・61等）、掘立柱建物１棟（SH32）、溝３条（SD132・134等）、自然流路４条（NR68・79等）、水制遺構１基（SW74）、土坑１基が検出された。このうち、NR79から2,239点、SD134から186点の須恵器が出土した。

可児市教育委員会による調査では、当該期の遺構は確認されていないが、道の駅地点で検出されたⅥ期の溝（SD３）から東山15号窯式期の猿投窯産須恵器高坏（23）が出土し、馬乗洞地点では、平成16年度の調査においてⅤ期の自然流路（NR１）から東山50号窯式期併行の土師器甕（206）が出土している。

なお、竪穴建物がＥ５地点、Ｃ８地点、Ｃ９地点などで１～数棟単位で確認されたことから、居住域は沖積平野上と浅間丘陵地の北側に展開する扇状地上（以下、「扇状地上」という。）に広がっていたと考えられる。また、Ⅱ期及びⅢ期のように竪穴建物が集中する様相が確認できないことから、当該期には居住域が散在する様相に変化したと考えられる。

５　Ⅴ期（古代）（図77）

今回の調査では、Ｃ18地点で掘立柱建物１棟（SB１）、Ｃ16地点及びＣ17地点で自然流路３条（NR２・３・５）を検出した。このうち、NR２から須恵器525点、灰釉陶器567点が出土した。また、Ⅵ～Ⅶ期の溝（SD７、Ｃ19地点）から須恵器405点、灰釉陶器351点、Ⅶ期の溝（SD８、Ｃ19地点）から須恵器310点、灰釉陶器139点が出土した。当該期の遺物は、岩崎17号窯式期から百代寺窯式期併行の猿投窯産及び美濃須衛窯産須恵器、光ヶ丘１号窯式期から西坂１号窯式期の東濃窯産灰釉陶器が確認できる。また、NR５（Ｃ17

地点）の３層埋土（粗砂、層厚５～10cm）から完形に近いミニチュアの美濃須衛窯産須恵器提瓶（147）が出土し、その周辺から須恵器甕や須恵器横瓶（145）の破片がまとまって出土した（図24、図版４）。これらは水辺の祭祀に関連する可能性がある。

平成調査では、Ｅ５地点で竪穴建物群が確認された他、竪穴建物、掘立柱建物、道路状遺構（SD１・12）、水田跡、溝、自然流路、水制遺構などが検出された。Ｃ地区では、掘立柱建物５棟（SH33～37）、ピット44基、溝６条（SD134等）、自然流路２条（NR79等）、土坑３基が検出された。このうち、掘立柱建物はＣ９地点に集中し、その下流にあたる溝（SD208、Ｄ６地点）や自然流路（NR106、Ｄ７地点）から木製祭祀具がまとまって出土していることから、Ｃ９地点周辺で祭祀が行われていた可能性が指摘されている（財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2005）。

可児市教育委員会による調査では、平成16年度の調査において、馬乗洞地点で掘立柱建物２棟（SH１・２）、自然流路２条（NR１等）が検出された。SH１・２はともに２×２間の建物で、NR１に隣接する場所に建てられていることから、利水に関連する施設であった可能性が指摘されている（可児市教育委員会2009）。当該期の遺物は、「垣田」と記されたⅣ期第３小期の美濃須衛窯産須恵器坏蓋（232）等の墨書土

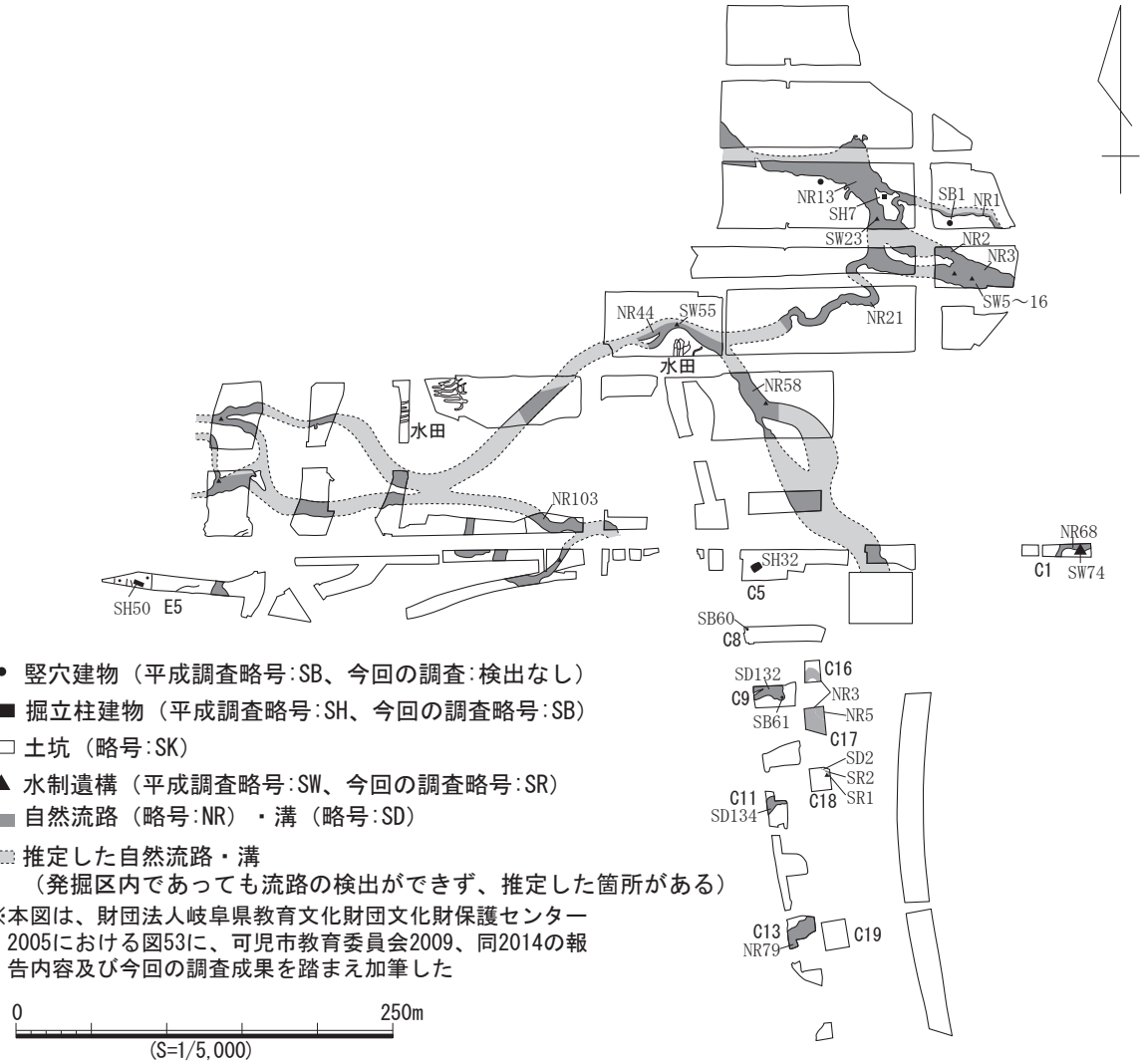


図76　Ⅳ期の主な遺構配置図

器を含む。道の駅地点では、当該期の遺構は確認されていないが、Ⅵ期の溝（SD３）から鳴海32号窯式期の猿投窯産須恵器無台坏（25）、折戸10号窯式期の猿投窯産須恵器盤（26）が出土している。

これらの状況から、沖積平野上は条里地割が施行され、水田地となり、居住域は沖積平野上からＥ５地点からＣ地区周辺の扇状地上に移ったと考えられる。

６　Ⅵ期（中世前期）（図78）

今回の調査では、Ｃ19地点で溝３条（SD７・９等）、Ｃ16地点及びＣ19地点で自然流路３条（NR１・２等）、Ｃ18地点及びＣ19地点で土坑７基を検出した。このうち、NR２から482点、SD７から2,310点の山茶碗が出土した。当該期の遺物は、矢戸上野２号窯式期から白土原１号窯式期の東濃型山茶碗が確認できる。

平成調査では、Ａ８地点で方格地割を有する掘立柱建物（SH９～12）が確認された他、掘立柱建物、道路状遺構（SD１・SD12）、水田跡、溝、自然流路、水制遺構、土坑などが検出された。掘立柱建物が集中する箇所は、Ａ４・10地点、Ａ８地点、A14地点、Ｂ２地点、Ｃ２地点、Ｄ１・２地点、Ｄ９地点、Ｅ２地点の８箇所確認できる。これらは、概ね条里地割の一坪に１箇所ずつである。出土遺物の様相から各建物間には階層差が存在しており、なかでもＡ８地点における掘立柱建物周辺からは、儀礼的な饗宴の器と

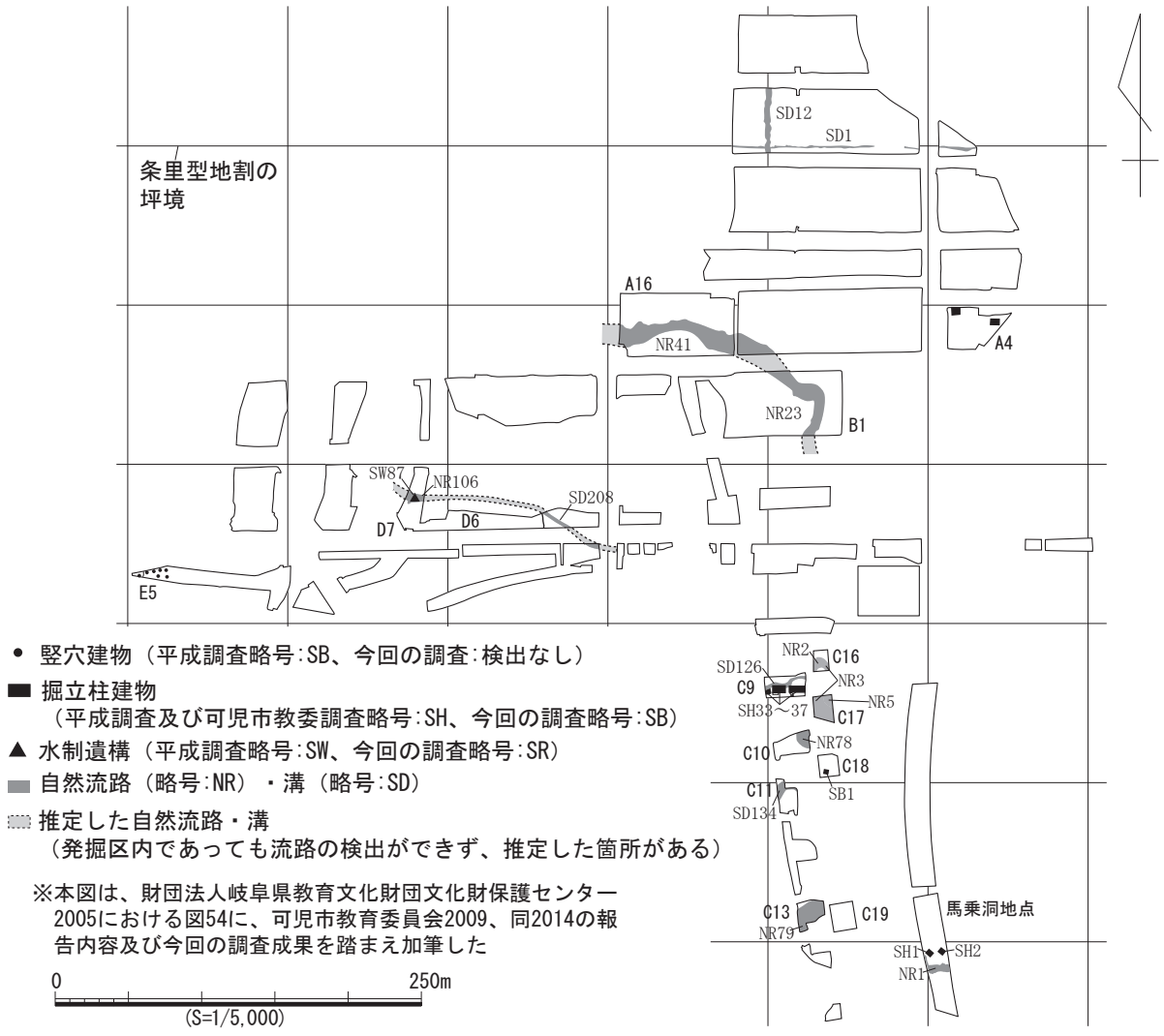


図77　Ⅴ期の主な遺構配置図

される土師器皿がまとまって出土したため、当遺跡においてその場が中心的な役割を果たしていた可能性が指摘されている（財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2005）。Ｃ地区では、掘立柱建物１棟（SH30）、ピット10基、土器集積１基、溝14条（SD134）、自然流路２条（NR79）、土坑１基が検出された。このうち、NR79から1,505点の山茶碗が出土した。

可児市教育委員会による調査では、道の駅地点で溝２条（SD１・３）が検出された。馬乗洞地点では、当該期のものと特定できる遺構は報告されていないが、当該期の東濃型山茶碗及び尾張型山茶碗が出土しており、底部外面に「大」と墨書された丸石３号窯式期の東濃型山茶碗（265）等の墨書山茶碗が含まれる。

これらの状況から、居住域は沖積平野上及びＥ２地点からＣ２地点周辺の扇状地上に条里地割に沿って散在して展開する。居住域のなかでＡ８地点における掘立柱建物周辺が中心的な役割を担っていたと考えられるが、Ｃ地区においても流路に関わる遺物が確認できる。

７　Ⅶ期（中世後期）（図79）

今回の調査では、Ｃ16地点で柱穴１基（SP２）、Ｃ19地点で溝９条（SD４・６・７・８等）、Ｃ19地点

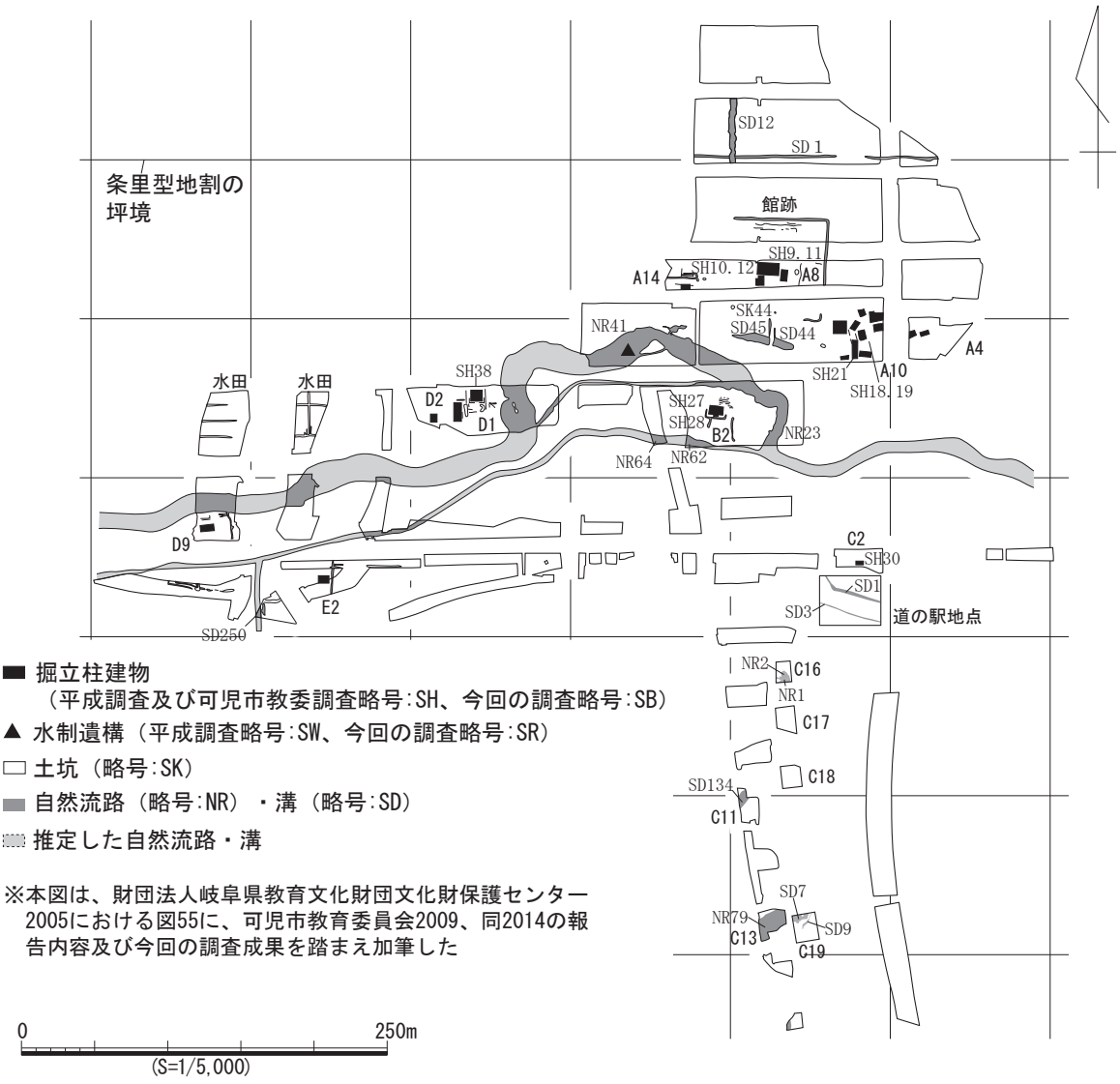


図78　Ⅵ期の主な遺構配置図

で自然流路１条、Ｃ18地点及びＣ19地点で土坑21基を検出した。このうち、SD４から656点、SD６から312点、SD７から2,310点、SD８から563点の山茶碗が出土した。SD４・６・７・８は、すべて地山（岩盤）を削って成形した痕跡が顕著に確認できる溝であり、溝幅を広げるようにして開削が繰り返されている。

平成調査では、掘立柱建物、水田跡、溝、自然流路、水制遺構などが検出された。水田跡は概ね15～16世紀に比定され、当遺跡のＢ６・Ｄ７・Ｄ８地点を除く沖積平野上のほぼ全面で検出されている。畦畔の方向は自然流路付近では自然流路の方向に規制され、それ以外では条里地割に規制されている。Ｃ地区では、畦畔22基、水田跡10基、溝11条、自然流路１条、土坑５基が検出された。

可児市教育委員会による調査では、道の駅地点で溝４条（SD１・２・４・５）が検出された。馬乗洞地点では、当該期の遺構は報告されていないが、当該期の山茶碗が出土しており、底部外面に「＋」と墨書された大畑大洞４号窯式期の東濃型山茶碗（263）等の墨書土器が含まれる。

これらの状況から、当遺跡の沖積平野上はほぼ全域が水田地化しており、Ｃ地区を含めた扇状地上は水田に水を供給するための水路等を整備した地域と考えられる。

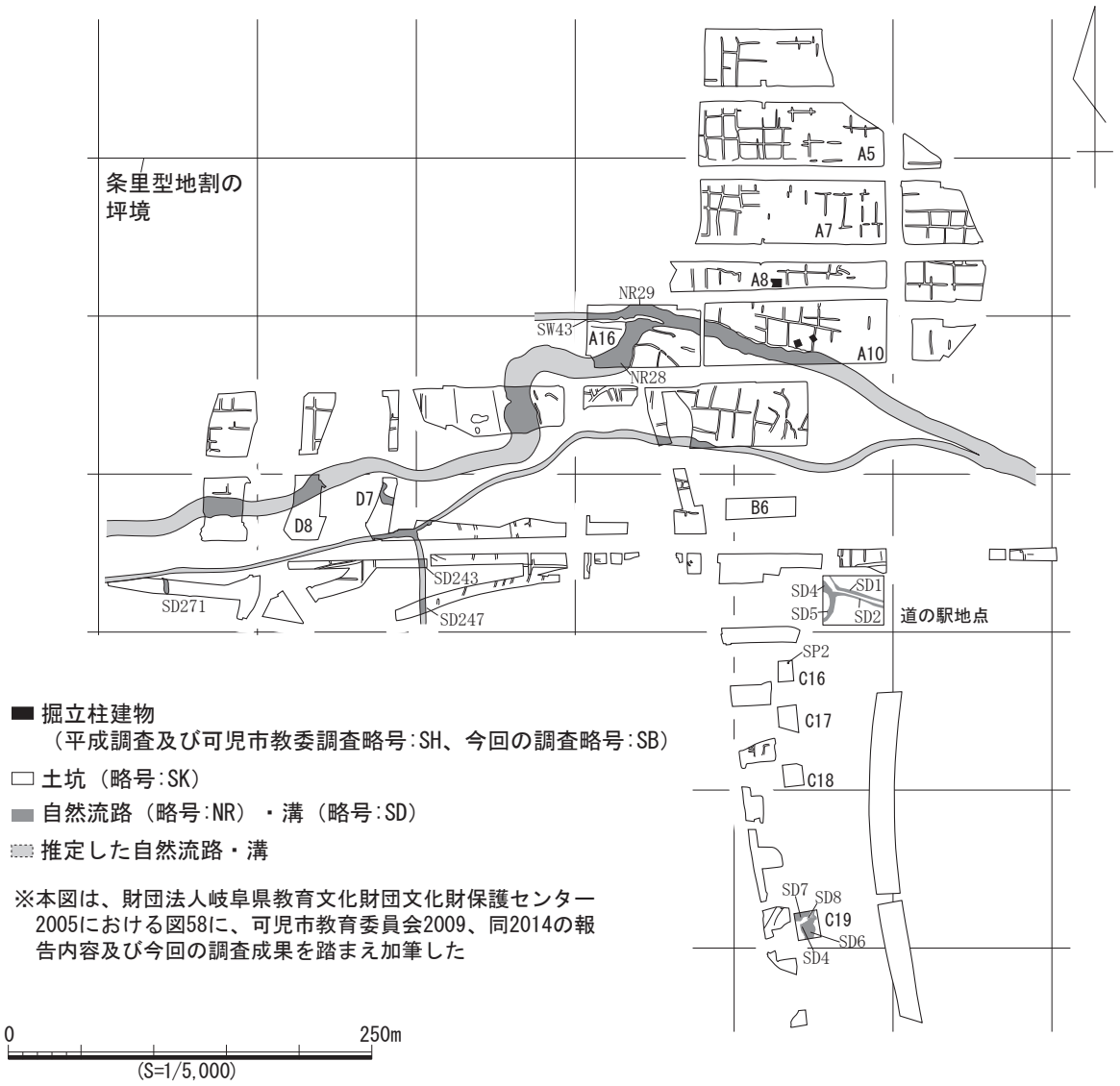


図79　Ⅶ期の主な遺構配置図

８　Ⅷ期（近世～近代）（図80）

今回の調査では、Ｃ19地点で溝１条（SD３）及び土坑５基を検出した。このうち、SD３は登窯第１段階併行に比定され、地山（岩盤）を削って成形した痕跡が顕著に確認でき、柿釉灰流し碗（313）などの登窯製品10点が出土した。

平成調査では、ピット、水田跡、溝、土坑などが検出された。このうち、水田跡は登窯第１段階から登窯第２段階併行に比定され、Ｂ１地点及びA16地点で検出されたが、水田は沖積平野上に広く展開していたと推測されている（財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2005）。溝はいずれも近代初頭に比定される。Ｃ地区では、ピット23基、溝３条、自然流路２条、土坑３基（SK149～151）が検出された。このうち、近現代の土坑（SK149～151）が報告されている。

可児市教育委員会による調査では、馬乗洞地点で溝２条（SD10・11）が検出された。SD10・11は登窯第２段階から登窯第３段階併行に比定され、内部に小石と礫で構成される石組を有する。

これらの状況から、Ⅶ期に引き続き、Ｃ地区を含めた扇状地上は沖積平野上に広がる水田に水を供給するための水路等を整備した地域と考えられ、このような土地利用の在り方は、現代にも引き継がれていると考えられる。

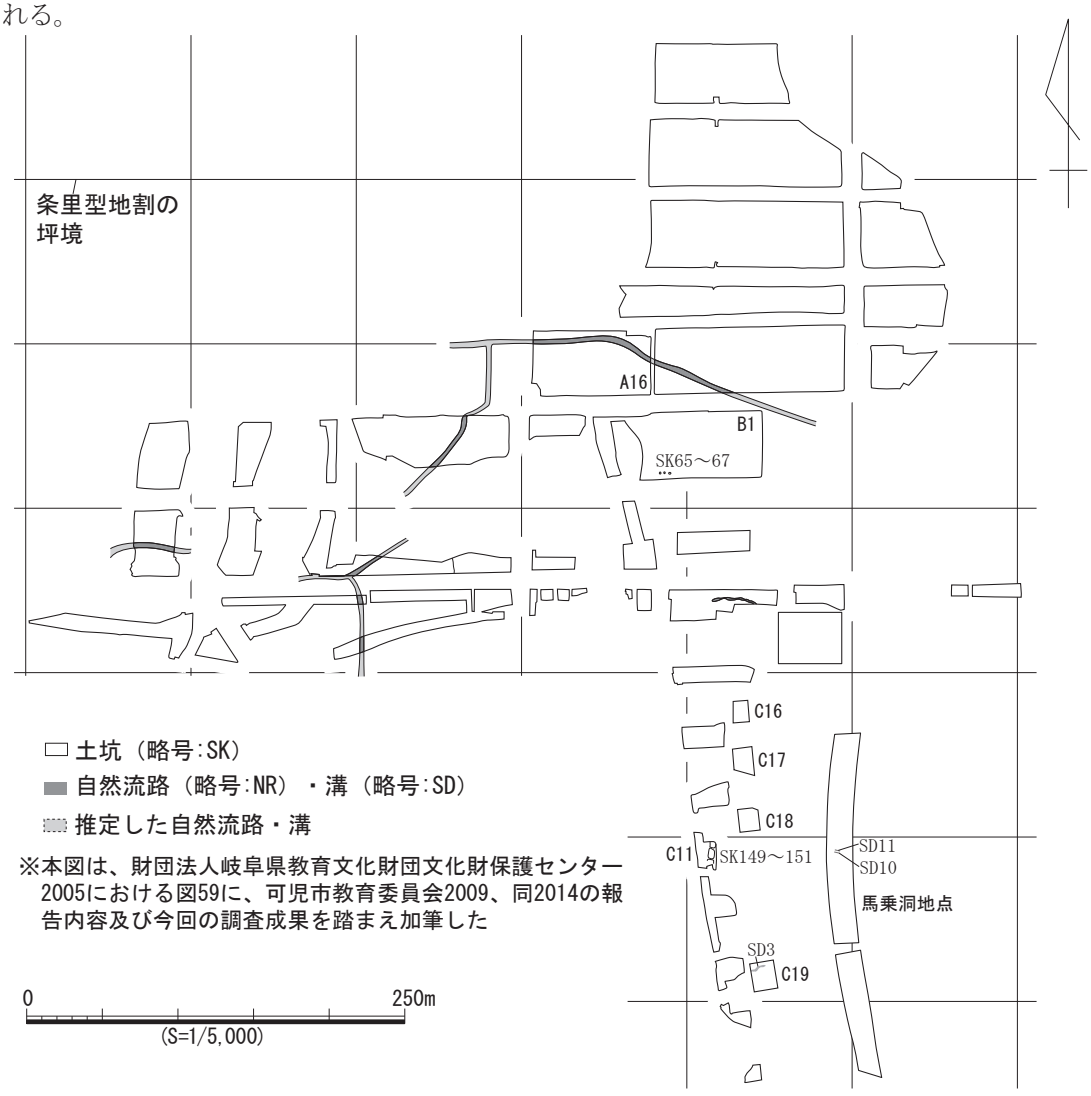


図80　Ⅷ期の主な遺構配置図

＜引用・参考文献＞

愛知県史編さん委員会2007『愛知県史　別編　窯業２　中世・近世　瀬戸系』、愛知県
愛知県史編さん委員会2010『愛知県史　資料編４　考古４　飛鳥～平安』、愛知県
愛知県史編さん委員会2012『愛知県史　別編　窯業３　中世・近世　常滑系』、愛知県
愛知県史編さん委員会2015『愛知県史　別編　窯業１　古代　猿投系』、愛知県
赤塚次郎・早野浩二2001「松河戸・宇田様式の再編」『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』第２号、愛知県埋蔵文化財センター
荒木志伸1999「墨書土器にみえる諸痕跡について」『お茶の水史学』43号、お茶の水女子大学文教育学部人文科学科比較歴史学コース読史会
上田秀夫1982「14～16世紀の青磁碗の分類について」『貿易陶磁研究』第２号、日本貿易陶磁研究会
内堀信雄・井川祥子1996「美濃における古代土師器煮炊具の様相」『鍋と甕そのデザイン』（第４回東海考古学フォーラム）、東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会
大阪府立近つ飛鳥博物館2006『年代のものさし　陶邑の須恵器』（大阪府立近つ飛鳥博物館図録40）
各務原市教育委員会1984『美濃須衛古窯跡群資料調査報告書』（各務原市資料調査報告書第４号）
可児市2007a『可児市史』第１巻（通史編　考古・文化財）
可児市2007b『可児市史』第２巻（通史編　古代・中世・近世）
可児市2007c『可児市史』第４巻（自然編）
可児市教育委員会1996『可児の地層と化石』（可児市の文化財第８集）
可児市教育委員会1997『美濃の焼き物と可児』（可児市の文化財第９集）
可児市教育委員会2006『可児市市内遺跡発掘調査報告書』（可児市埋文報告36）
可児市教育委員会2009『柿田遺跡馬乗洞地点』（可児市埋文報告42）
可児市教育委員会2014『柿田遺跡（道の駅地点）・ほうの木古窯跡』（可児市埋文報告45）
可児町1980『可児町史』（通史編）
可児光生2001「中世の墨書土器～岐阜県を中心に～」『文字の登場、そして広まり―古代中世の人と文字をめぐって―』、美濃加茂市民ミュージアム
北村和宏1996「尾張の「伊勢型鍋」」『鍋と甕そのデザイン』（第４回東海考古学フォーラム）、東海考古学フォーラム尾張大会実行委員会
北村和宏2001「古代「三河型甕」考」『愛知県埋蔵文化財センター研究紀要』第２号、愛知県埋蔵文化財センター
岐阜県教育委員会2003『岐阜県教育史』（通史編　古代・中世・近世）
岐阜県教育委員会・可児町教育委員会1973『可児町杉ヶ洞古墳発掘報告書』
岐阜県文化財保護センター2014『今渡遺跡』（岐阜県文化財保護センター調査報告書第130集）
岐阜市教育委員会1990『千畳敷－織田信長居館伝承地の発掘調査と史跡整備－』
久馬一剛・永塚鎮男編1987『土壌学と考古学』、博友社
工楽善通1991『水田の考古学』（UP考古学選書12）、東京大学出版会
公益財団法人愛知県教育・スポーツ振興財団愛知県埋蔵文化財センター2015『石座神社遺跡』第１分冊（愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第189集）
財団法人愛知県埋蔵文化財センター1990『廻間遺跡』（愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第10集）

財団法人愛知県埋蔵文化財センター1994『松河戸遺跡』（愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第48集）
財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2000『顔戸南遺跡』（岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第58集）
財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2003『金ヶ崎遺跡・青木横穴墓』（岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第78集）
財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2003『杉ヶ洞３・５号古墳　前山２号古墳』（岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第85集）
財団法人岐阜県教育文化財団文化財保護センター2005『柿田遺跡』（岐阜県教育文化財団文化財保護センター調査報告書第92集）
高島英之2000『古代出土文字資料の研究』
田口昭二1978「中世陶器と池田御厨」『美濃の古陶』、美濃古窯研究会
太宰府市教育委員会2000『大宰府条坊跡ＸＶ』陶磁器分類編（太宰府市の文化財第49集）
多治見市教育委員会1993『美濃窯の焼き物　特集　写真で見る美濃焼の歴史』（多治見の古窯第３号）
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所2010『出土建築部材における調査方法についての研究報告』
永井宏幸1995「奈良・平安時代の土師器甕について～大毛池田・沖遺跡出土資料を中心に～」『年報平成６年度』、財団法人愛知県埋蔵文化財センター
長瀬治義1994「柿田馬乗洞古窯の須恵器」『美濃の古陶』（美濃古窯研究会会報第７号）、美濃古窯研究会
奈良国立文化財研究所1985『木器集成図録　近畿古代編』（奈良国立文化財研究所史料第27冊）
奈良市教育委員会1995『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書』
奈良市教育委員会1996『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書』
奈良市教育委員会1997『奈良市埋蔵文化財調査概要報告書』
平川南2000『墨書土器の研究』
福井県教育庁埋蔵文化財調査センター2008『今市岩畑遺跡』（福井県埋蔵文化財調査報告第34集）
藤沢良祐1994「山茶碗研究の現状と課題」『三重県埋蔵文化財センター研究紀要』第３号、三重県埋蔵文化財センター
御嵩町1992『御嵩町史』（通史編）
森田勉1982「14～16世紀の白磁の型式分類と編年」『貿易陶磁研究』第２号、日本貿易陶磁研究会
山内伸浩2008「東農地域における灰釉陶器・山茶碗生産の一様相」『日本考古学協会2008年度愛知大会研究発表資料集』、日本考古学協会2008年度愛知県大会実行委員会
山本智子2018「中世美濃須衛窯編年の再検討」『文研会紀要』第29号、愛知学院大学大学院文学研究科文研会
若尾正成1988「美濃の白瓷と山茶碗」『岐阜史学』第81号、岐阜史学会
渡邉博人2008「美濃須衛窯について」『日本考古学協会2008年度愛知大会研究発表資料集』、日本考古学協会2008年度愛知県大会実行委員会

図版１　発掘区全景（１）

C16 地点発掘区全景（東から）

C17 地点発掘区全景（東から）

図版２　発掘区全景（２）

C18 地点発掘区全景（東から）

C19 地点発掘区全景（北東から）

NR２　完掘状況（南から）

NR１　土層断面（東から）

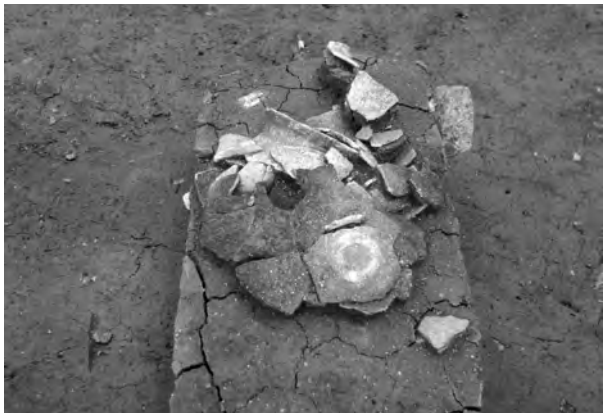
NR２　遺物出土状況（東から）

SP１　柱根出土状況（北西から）

SP２　柱根・根石出土状況（南西から）

図版４　C16 地点の遺構（２）、C17 地点の遺構（１）

NR３　遺物出土状況（北西から）



NR３　遺物出土状況（北から）

NR３　遺物出土状況（南東から）

漆器椀出土状況（北西から）

NR５　３層遺物出土状況（南から）

NR５　５層底面遺物出土状況（北から）

NR５　５層底面遺物出土状況（南東から）

NR５　完掘状況（西から）

NR５　８層遺物出土状況（西から）

下駄出土状況（南から）

図版６　C18 地点の遺構（１）

SB１　完掘状況（西から）

SB１－Ｐ１　柱根出土状況（西から）

SB１－Ｐ２　礎盤石出土状況（東から）

SB１－Ｐ３　柱根出土状況（西から）

SB１－Ｐ４　礎盤石出土状況（東から）

SD２　完掘状況（北西から）

SD２　土層断面（東から）

SD２　遺物出土状況（東から）

SR１　検出状況（南西から）

SR２　検出状況（南東から）

図版８　C18 地点の遺構（３）、C19 地点の遺構（１）

SK24　完掘状況（西から）

SK25　完掘状況（西から）

SD３　土層断面（東から）

SD４　土層断面（東から）

SD３　完掘状況（西から）

SD４　完掘状況（北から）

SD７　完掘状況（東から）

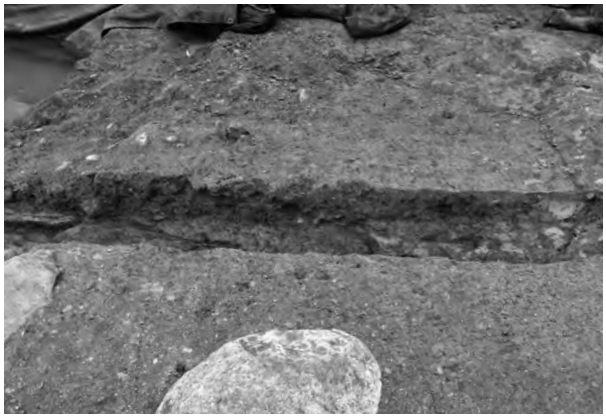
SD７　土層断面（西から）

SD８　完掘状況（北から）

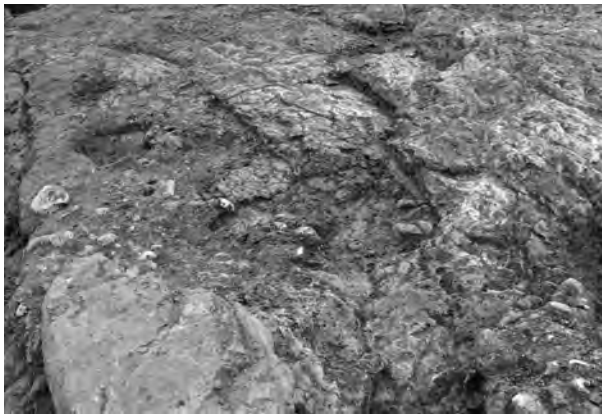
SD６・SD８　土層断面（南から）

図版 10　C19 地点の遺構（３）

SK50　完掘状況（南東から）



SK50　土層断面（北から）



SK51　完掘状況（西から）

SD９　完掘状況（南から）

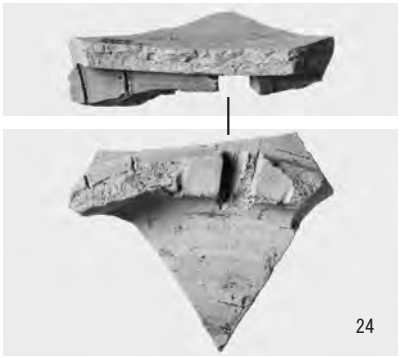
SD９　土層断面（南西から）

4

38

15

17


24

51

30

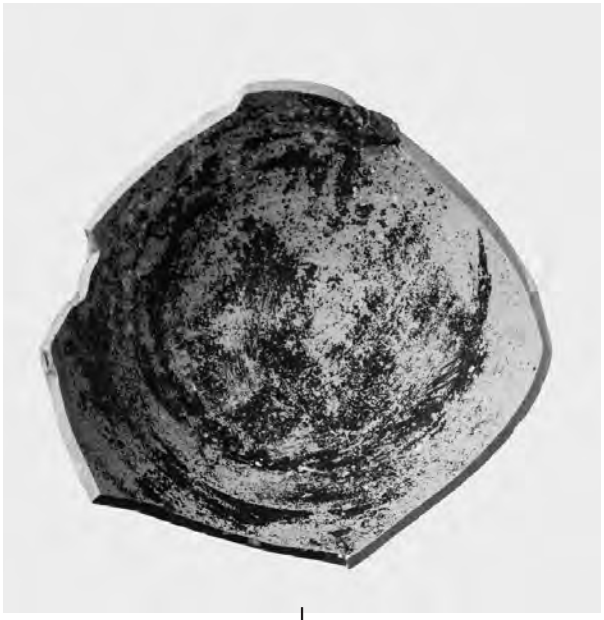
48

71

35

73

図版 12　出土遺物（２）



97

98

101

125

117

119

102

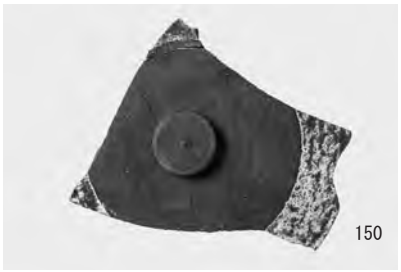
111

131

図版 14　出土遺物（４）

165

164


150

148

166

149

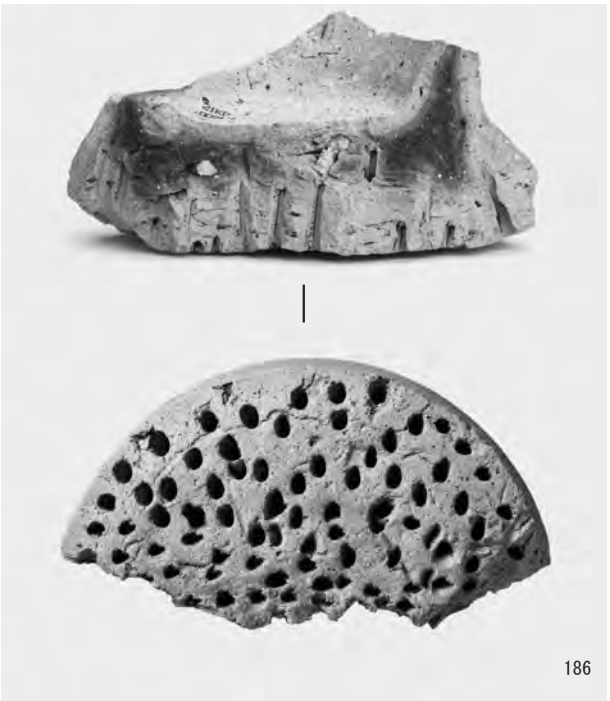
143

169

147

235

184


186

240

249

241

250

248

254

251

263

264

266

201

257

図版 16　出土遺物（６）

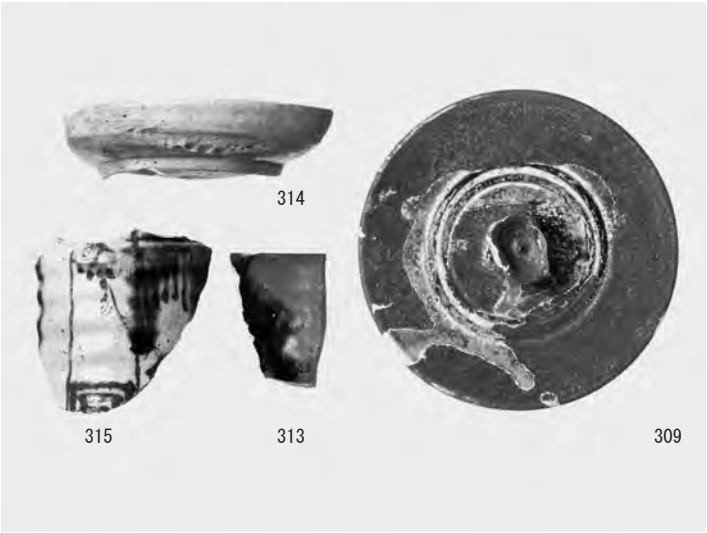
282

286

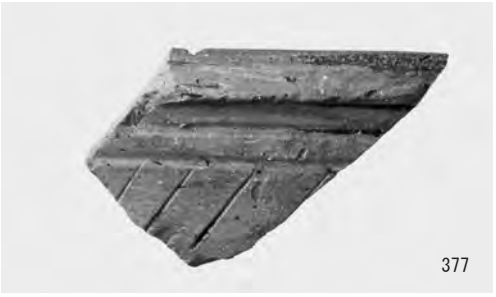
287

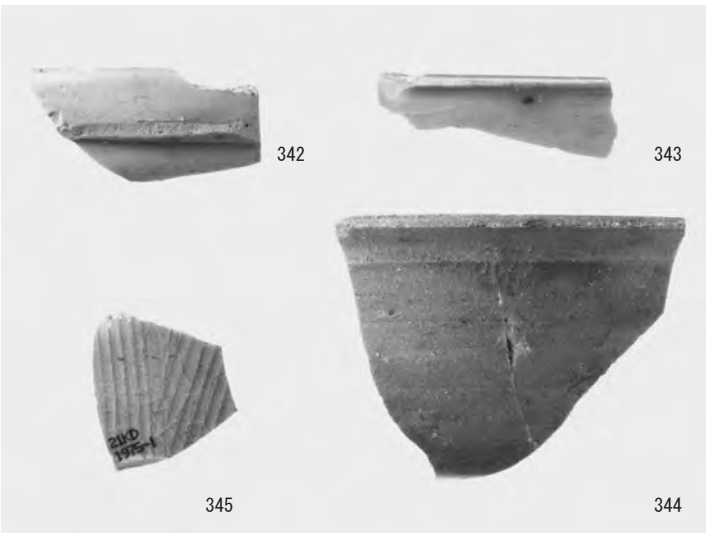
297

293


314
315
313
309

335


377


342
343
345
344

403

391

397

418

431

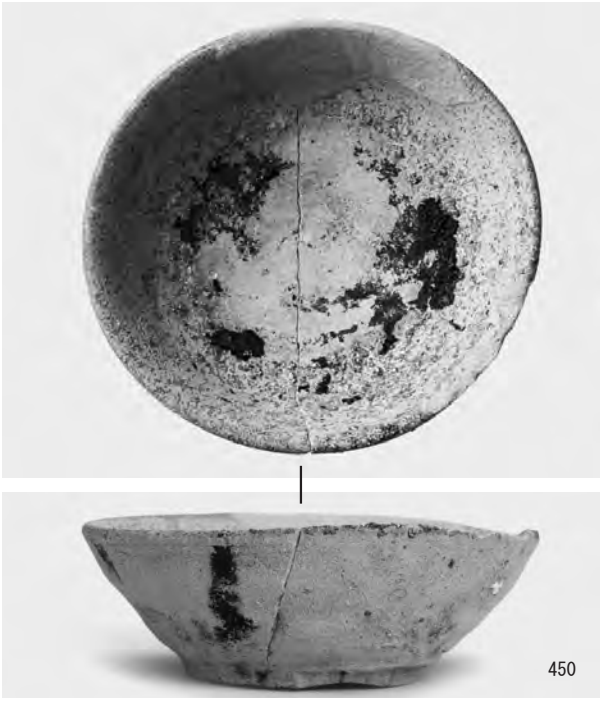
410

417

451

366

463



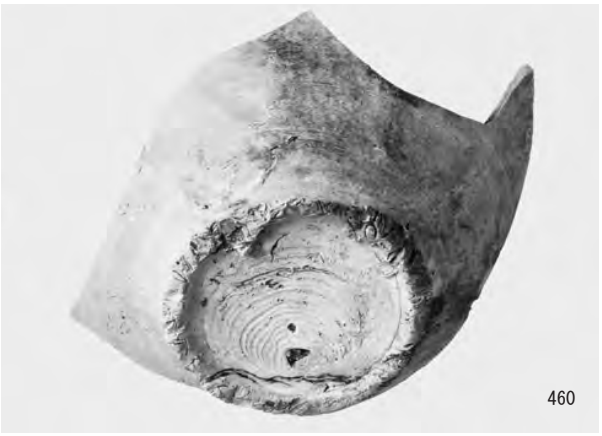
446

450

図版 18　出土遺物（８）

471

461


460

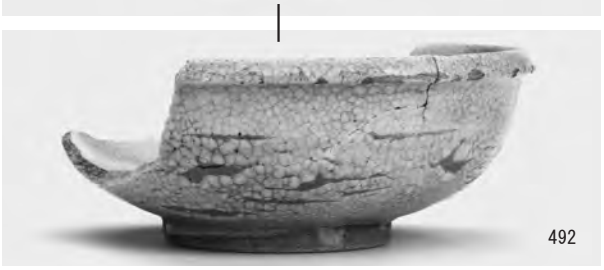
467

472

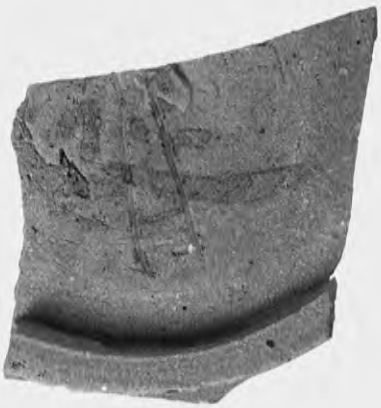
495

182

299


492

291


294

290

242

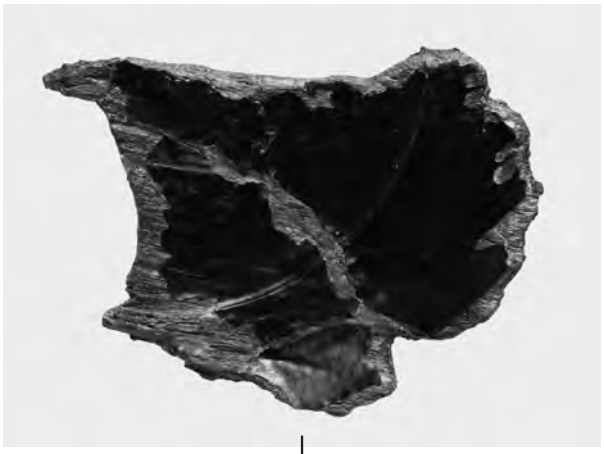
190

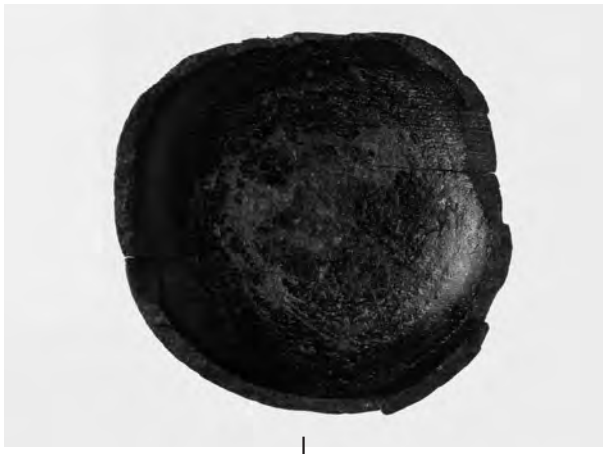
227

193

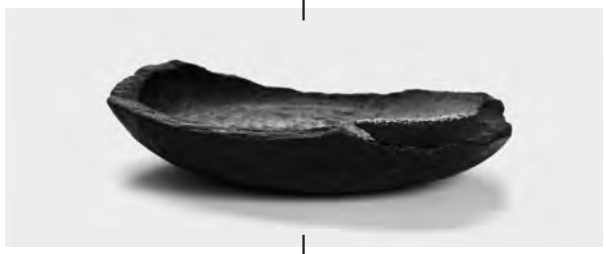
411

図版 20　出土遺物（10）



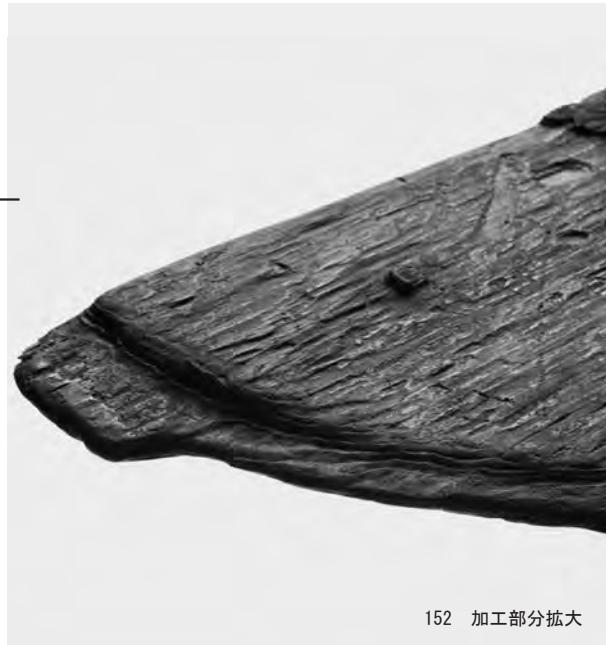


221

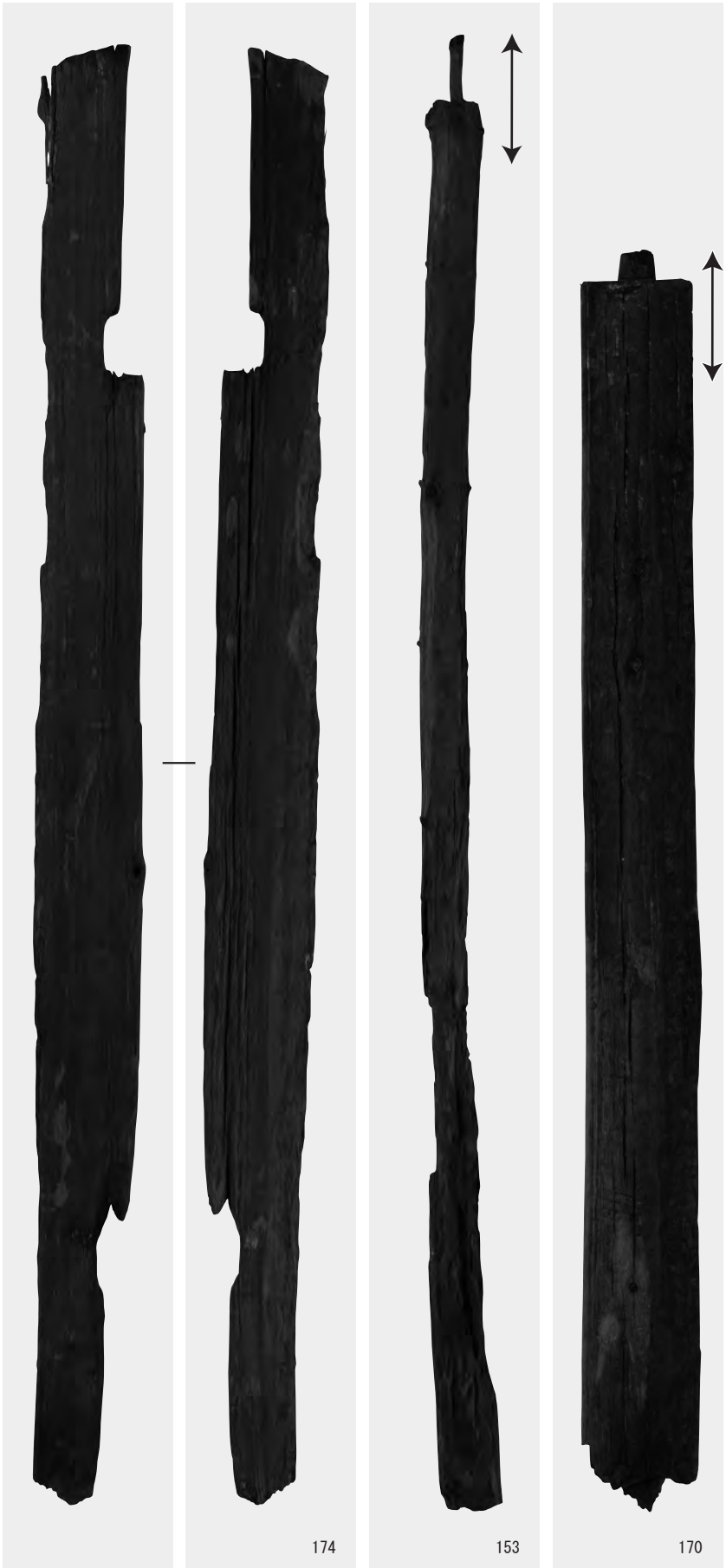


269

152



152　加工部分拡大



174

153

170

153 加工部分拡大

153 加工部分拡大

170 加工部分拡大

図版 22　出土遺物（12）

273

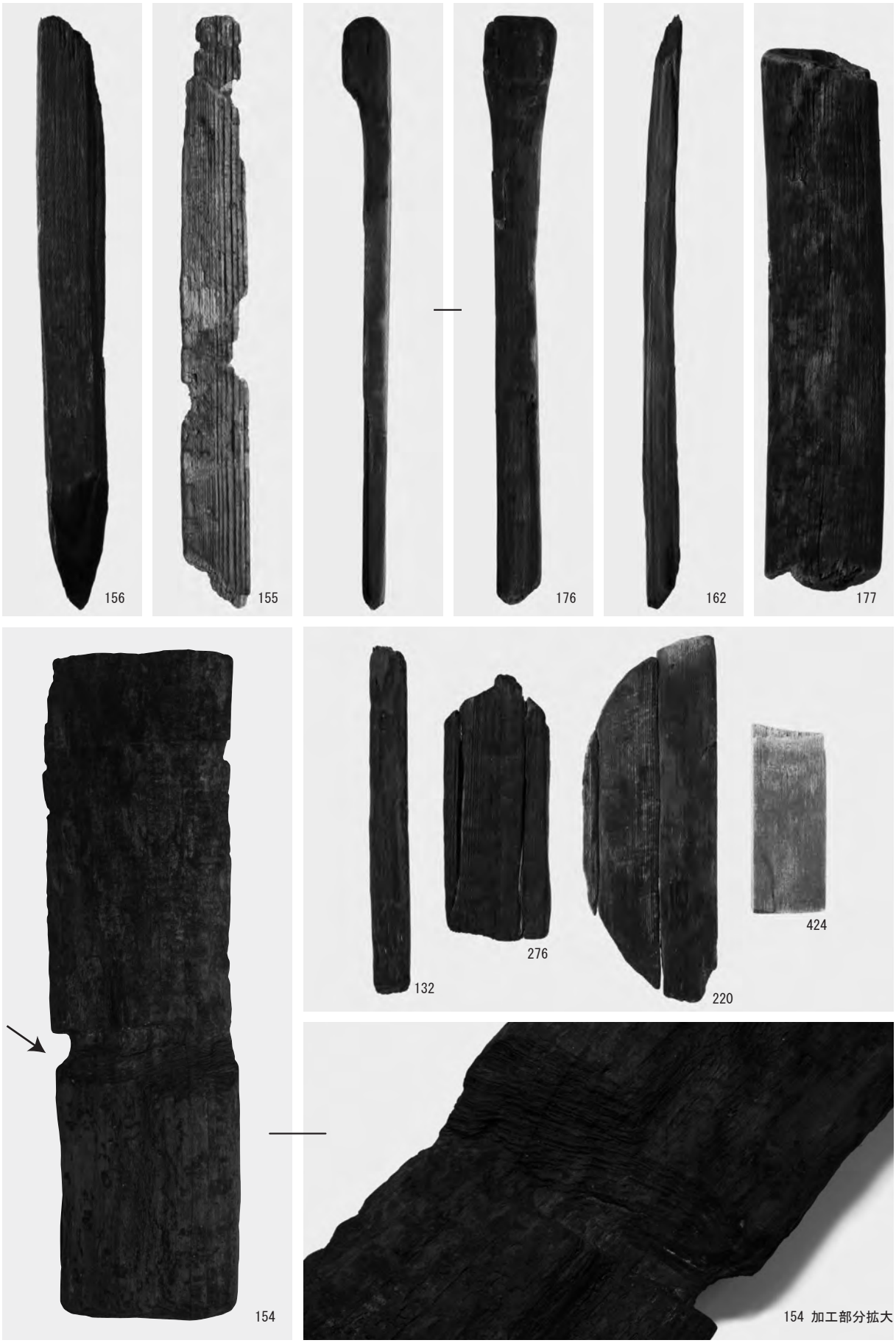
1

1 加工部分拡大

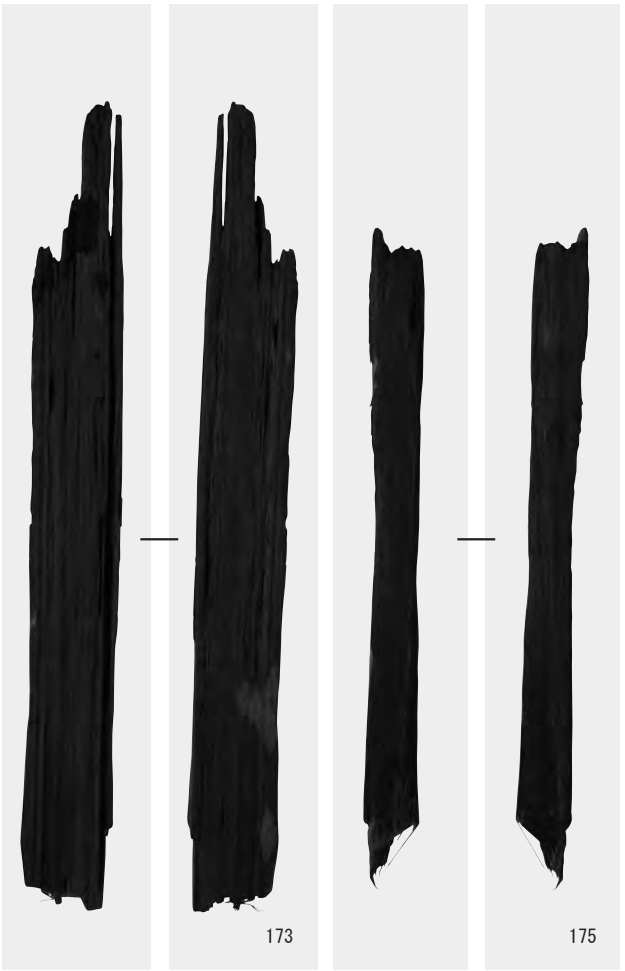
273 加工部分拡大

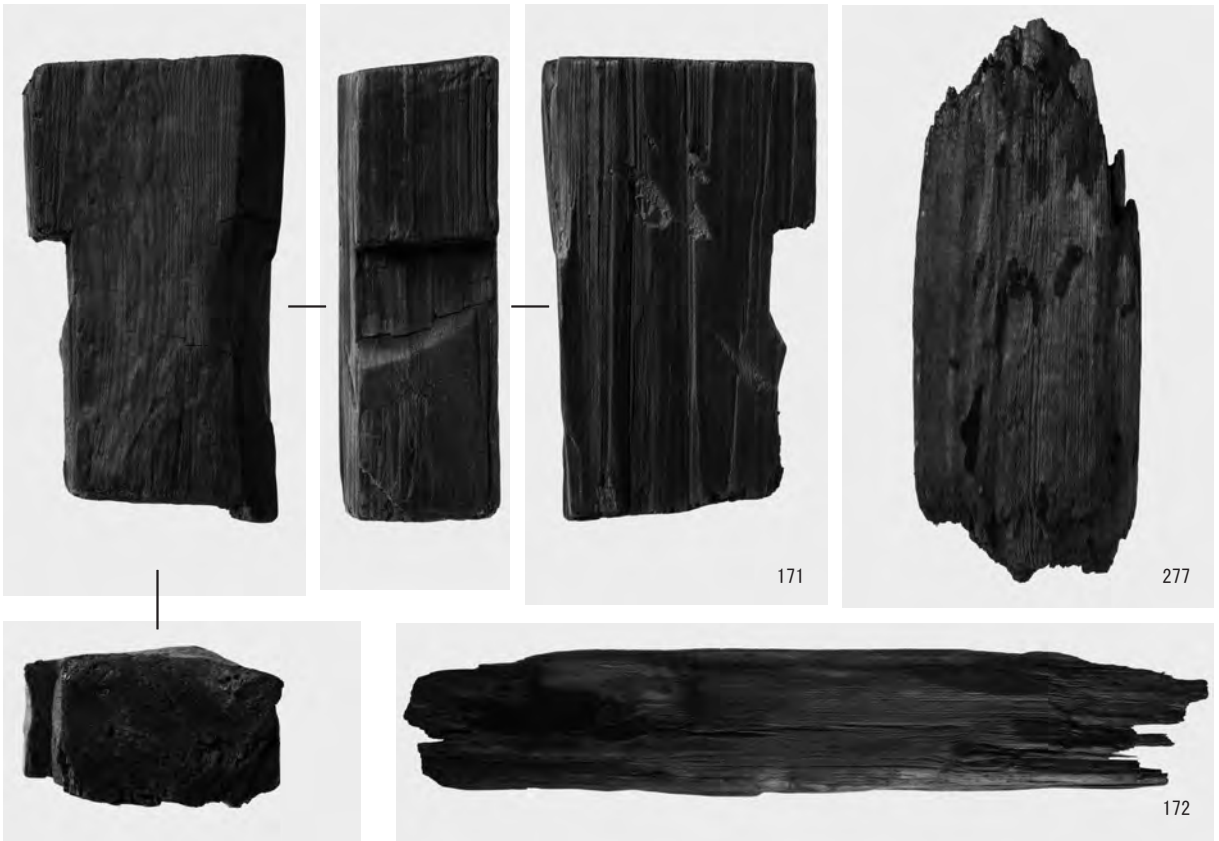
274

222


156
155
176
162
177
132
276
220
424
154
154 加工部分拡大

図版 24　出土遺物（14）





報　告　書　抄　録

ふりがな	かきだいせき２
書名	柿田遺跡Ⅱ
シリーズ名	岐阜県文化財保護センター調査報告書
シリーズ番号	第165集
編著者名	片桐由裕
編集機関	岐阜県文化財保護センター
所在地	〒502-0003　岐阜市三田洞東1-26-1　℡058-237-8550　FAX058-237-8551
発行年月日	2024年３月８日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	発掘期間	発掘面積 ㎡	発掘原因
柿田遺跡（かきだいせき）	岐阜県（ぎふけん） 可児市（かにし） 柿田（かきだ）	21214	08846	35° 25’ 45”	137° 06’ 02”	20210510 ～20211210	1,260.5	記録保存調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
柿田遺跡	集落跡 生産遺跡	縄文時代 弥生時代 古墳時代 古代 中世 近世	掘立柱建物　１棟 柱穴　２基 溝　13条 自然流路　５条 水制遺構　２基 土坑　50基	土師器　9,076点 須恵器　6,050点 灰釉陶器　2,872点 山茶碗　8,547点 中近世陶磁器　388点 土製品　４点 石器・石製品　19点 木製品　85点 金属製品　２点	弥生時代末から中世にかけての溝・自然流路、古墳時代の溝・水制遺構、古代の掘立柱建物を確認

要約

柿田遺跡は、可児川により形成された沖積平野上及び浅間丘陵地の北側に展開する扇状地上に位置する、縄文時代から近現代までの複合遺跡である。

今回の調査では、弥生時代末期から近世にかけての遺構や遺物を確認した。全ての発掘区で溝若しくは自然流路を確認した。このうち、C17 地点の自然流路からは、柱材、横架材、曲物底板等の大型木製品がまとまって出土した。また、完形に近いミニチュアの提瓶の周辺に、須恵器甕や横瓶の破片が散在する出土状況を確認した。C18 地点の溝からは、７世紀前葉の坏身や高坏等が出土し、護岸施設及び堰を確認した。

岐阜県文化財保護センター調査報告書　第165集

柿 田 遺 跡 Ⅱ

2024年３月８日

編集・発行　岐阜県文化財保護センター
岐阜市三田洞東1-26-1
印　　刷　株式会社もとすいんさつ